

令和2年度社会福祉推進事業

介護福祉士養成施設の教員の教育力向上に関する
調査研究事業 報告書

令和3年3月

公益社団法人 日本介護福祉士養成施設協会

I 調査研究の枠組み	1
1 本調査研究を取り巻く現状及び調査研究の目的	3
2 調査研究の内容	4
(1) 介護福祉士養成校における教育上の課題と求められる研修プログラムに関する調査	4
(2) 教育内容の充実及び教育力の向上を図るためのモデル研修及び効果検証の実施	5
(3) 研修プログラム（教材）の作成と活用の推進	6
3 調査研究体制	7
4 調査研究の流れ	8
5 本調査研究のまとめ	11
II 介護福祉士養成校における教育上の課題と求められる研修プログラムに関する調査	13
〔 A 養成校対象／結果のポイント 〕	15
1 調査の目的	17
2 調査の概要	17
3 回答のあった養成校の概要〔養成校票〕	18
(1) 養成校の基本情報	18
4 新規採用の教員に対する研修や講習について〔養成校票〕	20
(1) 新規採用者向けの研修や講習の実施と対象者	20
(2) 新規採用者に実施している研修や講習の内容	21
(3) 新規採用者に対する研修や講習の必要性	23
(4) 新規採用者に研修や講習が必要と考える理由、その内容	24
5 非常勤教員における介護教員講習会の受講について〔養成校票〕	28
(1) 非常勤教員への介護教員講習会受講の奨励について	28
(2) 非常勤教員における介護教員講習会受講の状況	29
(3) 非常勤教員の介護教員講習会受講の必要性	30
(4) 非常勤教員に介護教員講習会受講が必要と考える理由、その内容	31

6	教員の教育力向上への取組〔養成校票〕	35
(1)	教員の研修会等への参加状況	35
(2)	研修会等へ参加している教員の属性	37
(3)	研修会等へ参加している場合、業務として位置づけているもの	38
(4)	養成校における教育力向上に関する研修や講習、F Dの実施の有無	39
(5)	研修や講習の3年間の開催状況（実施している場合）	40
(6)	F Dの3年間の開催状況（実施している場合）	41
(7)	開催された研修や講習、F Dの具体的な内容等について（実施している場合）	42
(8)	教育力向上に向けた取組の必要性	49
(9)	教育力向上のために必要な研修や講習、F D	51
(10)	養成校における教育力向上の取組の課題	58
	〔 B 教員対象／結果のポイント 〕	62
1	回答者の概要〔教員票〕	64
(1)	回答者（教員）の基本情報	64
(2)	担当している介護福祉士養成課程の科目	68
2	介護福祉士養成校における教育について〔教員票〕	69
(1)	求められる介護福祉士像の理解度	69
(2)	領域の目的、教育内容のねらい、教育に含むべき事項の留意点の認知度	70
(3)	領域の目的、教育内容のねらい、教育に含むべき事項の留意点の授業への反映	71
(4)	介護福祉士養成課程における習得度評価基準の理解度	72
(5)	介護福祉士養成校で教育をしていく上での課題	73
3	研修や講習等への参加及び希望について〔教員票〕	80
(1)	研修や講習への受講・参加の状況	80
(2)	研修や講習、F D、学会、勉強会や研究会に参加を決める要因	85
(3)	他に受講を勧めたい内容、参考になった内容等	87
(4)	希望する、関心のある研修等の内容	90
(5)	希望する開催方法	95
4	介護教員講習会について〔教員票〕	97
(1)	学び直しや受講の必要性	97
(2)	新任者が修得しておく必要があると考える介護教員講習会の科目	100
(3)	介護教員講習会の内容の見直し・追加してほしい内容	103

(4) 介護教員講習会の見直しの必要性	113
(5) 専任教員以外への義務づけについての考え	114
(6) 介護教員講習会に対する意見	115
5 介護福祉士養成課程の教員及び教育を取り巻く状況について〔教員票〕	118
(1) 学びの機会・学び直しの機会の必要性	118
(2) 本調査に関連する事項について意見や要望	120

III 教育内容の充実及び教育力の向上を図るためのモデル研修及び効果検証の実施 …… 123

〔モデル研修及び効果検証の実施のポイント〕	125
1 モデル研修の目的	127
2 モデル研修の概要	127
3 モデル研修に関するプログラム作成と研修の実施	128
4 モデル研修プログラム内容	132
I 新カリキュラムに関すること	132
◆科目1 求められる介護福祉士像と新カリキュラム（主な対象：新任、非常勤）	132
◆科目2 介護福祉士養成課程における修得度評価基準（主な対象：専任）	134
◆科目3 カリキュラムツリー作成 ～学びの流れと科目間連携～（対象：全教員）	136
II 介護教員講習会の基礎分野に関すること	138
◆科目4 基礎：新たな視点（対象：全教員）	138
①地域における介護実践 ②チームケアを推進するためのマネジメント	138
◆科目5 専門基礎：教育方法の基礎_シラバスの意義及び授業計画（主な対象：新任、非常勤）	140
◆科目6 専門基礎：授業の評価方法_授業評価の基礎（主な対象：新任、非常勤）	142
III 介護教員講習会の専門分野に関すること	144
◆科目7 介護過程の展開方法A（主な対象：新任、非常勤）	144
◆科目8 介護過程の展開方法B（主な対象：専任）	146
◆科目9 介護のためのケーススタディ（主な対象：新任）	148
◆科目10 学生指導（主な対象：専任）	150
◆科目11 実習指導方法（主な対象：新任、非常勤）	152
IV 教育方法に関すること	154
◆科目12 アクティブラーニングを活用した授業展開（対象：全教員）	154
◆科目13 個人差に対応した授業展開【外国人留学生】（対象：全教員）	156

◆科目14 個人差に対応した授業展開【学習に課題を抱える学生】(対象：全教員)	158
◆科目15 ICTを用いた新たな授業方法(対象：全教員)	160
①生活支援技術を遠隔授業として行った成果と課題	160
②ICTを活用した、双方向性の授業展開－福祉系高等学校におけるICTの活用を例に－	160
◆科目16 「地域」を学ぶ授業の作り方(対象：全教員)	162
5 モデル研修受講者の意見(研修アンケート結果)	164
(1) 研修アンケートの概要	164
(2) 受講者の所属・職位・介護福祉士養成校の教員としての通算経験年数	164
(3) 受講した研修全体について	165
(4) 受講した科目への意見	165
(5) より詳しく知りたい内容や新たに加えてほしい内容等	166
(6) その他の意見	167

IV むすびにかえて ～本調査研究事業の総括と課題～ 169

1 介護福祉士養成教育の概観から	171
(1) 介護教員の現状	171
(2) 介護教員が介護学生にもたらすもの	171
2 総括と課題	172
(1) 介護教員講習会を受けていない教員の増加	172
(2) 専任教員として従事するも、介護教員講習会を受けてから更新がなされていない現状	172
(3) 本調査研究事業を通して浮彫りとなった課題、介護教員の強み	173

V 資料 175

1 調査票 養成校票	177
2 調査票 教員票	181

I 調査研究の枠組み

1 本調査研究を取り巻く現状及び調査研究の目的

介護福祉士養成を取り巻く現状を把握するにあたっては、大きく分けて3つのポイントを踏まえる必要がある。

1つは、介護福祉士養成施設（養成施設とは厚生労働大臣が指定する学校を意味する。以下、「養成校」と表記）卒業者にも国家試験の受験が義務づけられたことがあげられる。介護ニーズの多様化・高度化の進展に対応できる資質を担保し、社会的な信頼と評価を高める観点に基づき導入、実施がなされた。

2つ目に、外国人介護人材の受入れに係る内容である。①EPA（経済連携協定）：経済活動の連携強化を目的とした特例的な受入れ、②技能実習：日本から相手国への技能移転、③資格を取得した留学生への在留資格付与：専門的・技術的分野への外国人人材の受入れが進められ、養成校においては③にかかわる事項として外国人学生の受入れがすすめられている。

3つ目に、介護福祉士養成課程における教育内容の見直し、いわゆる新カリキュラムの導入がある。平成29年10月にとりまとめられた、社会保障審議会福祉部会福祉人材確保専門委員会の報告書「介護人材に求められる機能の明確化とキャリアパスの実現に向けて」を踏まえ、今後、求められる介護福祉士像に即した介護福祉士を養成する必要性が明示され、①チームマネジメント能力を養うための教育内容の拡充、②対象者の生活を地域で支えるための実践力の向上、③介護過程の実践力の向上、④認知症ケアの実践力の向上、⑤介護と医療の連携を踏まえた実践力の向上の観点から教育内容の見直しが行われた。平成31年度より、養成校においては順次、新カリキュラムに基づく教育が展開されている。

これらの状況に対応すべく、各養成校により多様な取り組みが実施されているものの、養成校の種類（専門学校、短期大学、四年制大学）、所属する教員属性（専任・非常勤／経験年数・担当科目等々）により、対峙している課題も多様である。養成校は、介護ニーズの多様化・高度化の進展に対応できる介護福祉士を養成する使命を有するという認識のもと、本調査研究では、養成校の介護教育内容の充実及び教育力向上を図ることを目的に、「介護教育内容の充実及び教育力向上を図るための取り組みの実態及び課題の把握」を行うとともに、実際に「モデル研修プログラム及び教材の作成」を行い、「試行的モデル研修」を実施した。

2 調査研究の内容

(1) 介護福祉士養成校における教育上の課題と求められる研修プログラムに関する調査

介護教育内容の充実及び教育力向上の観点から、弊会会員である養成校において実施している研修やFD等の実態と課題、教員が対峙している教育上の課題及び研修やFD等への要望等を把握するためのアンケート調査を実施した。

以下のとおり、【養成校対象】【教員対象】の2種の調査を実施した。

【養成校対象】

対 象	弊会会員の介護福祉士養成校 347 (全数)
回 収 数	194 (回収率 55.9%)
期 間	令和2年12月22日～令和3年1月15日
調査方法	郵送にて配布・郵送あるいはウェブフォームによる回答
調査内容	質問1 養成校の基本情報 質問2 新規採用者向けの研修や講習の実施 質問3 新規採用者に対する研修や講習の必要性 質問4 非常勤教員における介護教員講習会修了の扱い 質問5 非常勤教員への介護教員講習会の修了の必要性 質問6 教員の研修や講習等への参加状況 質問7 教員の教育力向上に関する研修や講習の実施 質問8 教員に対する教育力向上のための取組 質問9 教育力向上のための取組として必要な内容等 質問10 教員に対する教育力向上のための取組の課題

【教員対象】

対 象	養成校に所属する教員 (非常勤を含む)
回 収 数	652 人
期 間	令和2年12月22日～令和3年1月15日
調査方法	養成校より教員に回答を依頼、教員の抽出は養成校の任意とする 郵送あるいはウェブフォームによる回答
調査内容	質問1 回答者の基本情報 質問2 担当している介護福祉士養成課程の科目 質問3 求められる介護福祉士像の認知 質問4 介護福祉士養成課程の新カリキュラムの認知 質問5 「習得度評価基準」の認知 質問6 教育をしていく上で課題に感じていること 質問7 研修や講習、FD受講・参加状況 質問8 研修や講習等に参加を決める要因 質問9 希望する研修等 質問10 介護教員講習会の学び直し、受講の必要性 質問11 新任者が修得しておく必要がある内容 質問12 介護教員講習会について 質問13 介護教員講習会に対する意見 質問14 介護福祉士養成課程の教員の研修や講習 質問15 意見や要望

(2) 教育内容の充実及び教育力の向上を図るためのモデル研修及び効果検証の実施

(1) の結果を踏まえ、介護福祉士養成課程の教員に対するモデル研修プログラム（以下、Ⅰ～Ⅳの4分野、合計16科目）を作成し、モデル研修を実施した。なお、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、研修会はオンラインによる実施とし、令和3年3月3日～12日（22日まで延長）を公開期間とした。

また、研修会実施後には、受講者を対象としたアンケート調査を実施し、研修プログラムの効果検証を行った。

— モデル研修のプログラム —

【Ⅰ新カリキュラムに関すること】

- 1：求められる介護福祉士像と新カリキュラム
- 2：介護福祉士養成課程における修得度評価基準
- 3：カリキュラムツリー作成～学びの流れと科目間連携～

【Ⅱ介護教員講習会の基礎分野に関すること】

- 4：基礎：新たな視点
 - ① 地域における介護実践
 - ② チームケアを推進するためのマネジメント
- 5：専門基礎 教育方法の基礎 シラバスの意義及び授業計画
- 6：専門基礎 授業の評価方法 授業評価の基礎

【Ⅲ介護教員講習会の専門分野に関すること】

- 7：介護過程の展開方法A
- 8：介護過程の展開方法B
- 9：介護のためのケーススタディ
- 10：学生指導
- 11：実習指導方法

【Ⅳ教育方法に関すること】

- 12：アクティブラーニングを活用した授業展開
- 13：個人差に対応した授業展開【外国人留学生】
- 14：個人差に対応した授業展開【学習に課題を抱える学生】
- 15：ICTを用いた新たな授業方法
 - ① 生活支援技術を遠隔授業として行った成果と課題
 - ② ICTを活用した、双方向性の授業展開－福祉系高等学校におけるICTの活用を例に－
- 16：「地域」を学ぶ授業の作り方

(3) 研修プログラム（教材）の作成と活用の推進

本調査研究の成果物である以下の研修プログラム及び教材については、令和3年度以降の公開及び活用を推進する。

【研修教材_パワーポイントスライド集】

- ・モデル研修で作成した全科目のパワーポイントをまとめたスライド集を印刷製本し、関係者に配布する。

【モデル研修の動画映像の公開】

- ・モデル研修で作成した各科目の動画映像は、介護福祉士養成にかかわる教育機関の教員及び関係者が研修やOJT、自主的な学びの機会等において活用できるように、視聴等を可能とする。

3 調査研究体制

当該事業を行うために、有識者や介護福祉士養成教育の実践者等による検討委員会を設置した。検討委員会は、介護福祉士養成校の教員、職能団体、事業者団体等を構成員とし、本研究について検討を行った。

また、当該事業を機能的に展開するために作業部会を設置した。

【検討委員会委員（50音順・敬称略）】

氏名	所属
安達 眞理子	公益社団法人日本介護福祉士会
大山 知子	公益社団法人全国老人福祉施設協議会
川井 太加子	桃山学院大学
白井 幸久	群馬医療福祉大学短期大学部
○野田 由佳里	聖隷クリストファー大学
福田 有希恵	全国福祉高等学校長会
山野 雅弘	公益社団法人全国老人保健施設協会
渡邊 忠	リリーこども&スポーツ専門学校
オブザーバー	
伊藤 優子	厚生労働省社会・援護局福祉基盤課福祉人材確保対策室

【作業部会委員（50音順・敬称略）】

氏名	所属
新口 春美	金城大学
石岡 周平	町田福祉保育専門学校
井上 善行	日本赤十字秋田短期大学
上田 剛	河原医療福祉専門学校
荏原 順子	目白大学
川井 太加子	桃山学院大学
木村 あい	神戸女子大学
白井 幸久	群馬医療福祉大学短期大学部
津田 理恵子	神戸女子大学
中山 見知子	群馬県立伊勢崎興陽高等学校
野田 由佳里	聖隷クリストファー大学
平野 啓介	旭川大学短期大学部
本間 美幸	北翔大学
溝部 佳子	別府溝部学園短期大学
吉岡 俊昭	トリニティカレッジ広島医療福祉専門学校
オブザーバー	
伊藤 優子	厚生労働省社会・援護局福祉基盤課福祉人材確保対策室

4 調査研究の流れ

【検討委員会】

<p>第1回 令和3年1月21日(木) 16:00~17:00</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護福祉士養成施設の教員の教育力向上に関する調査研究事業 について ・アンケート調査の実施について ・モデル研修の実施について
<p>第2回 令和3年3月24日(水) 10:00~12:00</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護福祉士養成施設の教員の教育力向上に関する調査研究事業の進捗について ・研修ツール(成果物)の作成について ・報告書(成果物)の作成について

【作業部会】

チームⅠ 新カリキュラムに 関すること	チームⅡ 介護教員講習会の基 礎分野に関すること	チームⅢ 介護教員講習会の専 門分野に関すること	チームⅣ 教育方法に関する こと
事前打合せ	令和2年10月15日(木) 10:30~		
第1回作業部会	令和2年10月26日(月) 9:00~ ・本調査研究の目的 ・具体的な実施内容 ・チームづくり ・スケジュール		
事前打合せ	令和2年11月19日(木) 11:30~		
第1回リーダー会議	令和2年11月26日(木) 18:00~ ・プログラムの全体像 ・スケジュール		
第2回リーダー会議	令和2年12月8日(火) 18:00~ ・プログラムの全体像 ・資料作成(パワーポイント)について		
			チームⅣ会議 令和2年12月15日 (火) 10:00~ 具体的内容について
チームⅠ会議 令和2年12月16日 (水) 9:00~ 具体的内容について			
	チームⅡ会議 令和2年12月16日 (水) 17:30~ 具体的内容について		
		チームⅢ会議 令和2年12月22日 (火) 15:00~ 具体的内容について	

チームⅠ 新カリキュラムに 関すること	チームⅡ 介護教員講習会の基 礎分野に関すること	チームⅢ 介護教員講習会の専 門分野に関すること	チームⅣ 教育方法に関する こと
第3回リーダー会議 令和2年12月22日(火) 18:00～ ・プログラムの全体像 ・資料作成(パワーポイント)について			
		チームⅢ会議 令和3年1月13日 (水) 11:00～ パワーポイントについて	
	チームⅡ会議 令和3年1月13日 (水) 17:00～ パワーポイントについて		
チームⅠ会議 令和3年1月14日 (木) 18:00～ パワーポイントについて			
			チームⅣ会議 令和3年1月15日 (金) 17:00～ パワーポイントについて
			チームⅣ会議 令和3年1月29日 (金) 18:00～ パワーポイントについて
第2回作業部会 令和3年2月1日(月) 10:00～ ・パワーポイントについて ・撮影映像について ・スケジュール			
		チームⅢ会議 令和3年2月3日 (水) 18:00～ 撮影映像について	
チームⅠ会議 令和3年2月4日 (木) 18:00～ 撮影映像について			
	チームⅡ会議 令和3年2月5日 (金) 14:00～ 撮影映像について		
			チームⅣ会議 令和3年2月6日 (土) 14:00～ 撮影映像について
		チームⅢ会議 令和3年2月8日 (月) 18:00～ 撮影映像について	
チームⅠ会議 令和3年2月14日 (日) 13:00～ 撮影映像について			

チームⅠ 新カリキュラムに 関すること	チームⅡ 介護教員講習会の基 礎分野に関すること	チームⅢ 介護教員講習会の専 門分野に関すること	チームⅣ 教育方法に関する こと
		チームⅢ会議 令和3年2月19日 (金) 18:00～ 撮影映像について	
		チームⅢ会議 令和3年2月24日 (水) 18:00～ 撮影映像について	
	チームⅡ会議 令和3年2月24日 (水) 19:00～ 撮影映像について		
チームⅠ会議 令和3年2月25日 (木) 17:00～ 撮影映像について			
第3回作業部会 令和3年3月13日(土) 14:00～ ・成果物の作成について			
第4回作業部会 令和3年3月29日(月) 18:00～ ・成果物の公開について			
第5回作業部会 令和3年3月30日(火) 18:00～ ・成果物の公開について			

5 本調査研究のまとめ

【介護福祉士養成校における教育上の課題と求められる研修プログラムに関する調査】

この調査は、①養成校及び②養成校に所属する教員を対象とする 2 つにより構成されている。

①は 194 養成校から回答があり、回収率は 55.9%、45 都道府県の養成校から回答が得られ、本テーマに対する関心の高さがうかがえた。本調査では、以下の実態と課題が明らかになった。

- ・新規採用者向け研修や講習を実施している養成校は 46.4%であるが、必要性を感じている養成校は 81.0%であり、実態と要望に乖離があった。
- ・過去 3 年間において、教員の教育力向上に向けた研修や講習、FDを実施していない養成校が 50.0%を占め、専門学校において実施していない割合が高い。また、専任を対象としている割合が 9 割台であり、「非常勤」を対象に含んでいる割合は 2~3 割台に留まっていることも明らかになった。
- ・採用時、専任教員について、それぞれ研修や講習の充実が必要であるという意見が 9 割以上を占めているが、非常勤教員については必要という意見が 6 割強と相対的に低い。
- ・養成校側からみた教育力向上に関する課題の自由記載では、教員に研修や自己研鑽をする時間的余裕がないという意見が最も多くあげられたことを明示しておきたい。これは学校種別に関係なくあげられている課題である。次いで、専門性を高める研修ができていない(専門学校に多い)、教員の連携や教育方法等の共有が必要である(短大や大学に多い)、多様化する学生に対する指導(専門学校に多い)、外部の研修会等への参加が難しい(専門学校に多い)、研修に参加する費用等のサポート体制不足(専門学校に多い)などが上位にあげられた。

②は養成校に所属する教員を対象とした調査であり、回答教員数は 652 人、男女比は 3:7、年齢は 40~50 代が 67.5%を占める結果となった。本調査研究の 1 つに非常勤や新任教員の教育力向上という課題があるが、調査の回答者における非常勤教員の割合は低く、また経験年数は相対的に長い教員の回答が多い結果となった。本調査では、以下の実態と課題が明らかになった。

- ・求められる介護福祉士像の理解度について、「理解し、意識して養成教育にあたっている」割合は非常勤教員において 4 割弱に留まっている。
- ・領域の目的・教育内容のねらい・教育に含むべき事項の留意点の認知度等について、「いずれも知らない」割合が、非常勤教員においては 2 割程度いることが明らかになった。
- ・教員が教育上の課題と感じている上位は、他の科目との教育内容の連携、個人差に対応した授業の展開(外国人留学生対応を含む)、個別の指導等(生活指導、カウンセリング等)を必要とする学生への対応、新たな資料や教材の開発、介護実習との連携である。所属先別に差異が大きいのは、個人差に対応した授業の展開(外国人留学生対応を含む)及び個別の指導等(生活指導、カウンセリング等)を必要とする学生への対応であり、これらは専門学校において課題としてあげられている割合が高い。
- ・研修や講習への受講・参加に共通することは、所属先別による違いが明確であり、大学>短大>専門学校の傾向がみられる。介護関連団体の全国大会・研修等、日本介護福祉教育学会や日本介護福祉学会等などはその差が顕著であり、専門学校教員の参加は低位である。
- ・教員が希望する研修や講習等は、留学生への対応、授業展開、多様化する学生への対応、遠

隔授業やオンデマンド授業、介護過程、実習、アクティブラーニング、学生の学力格差への対応などが上位にあげられた内容である。

- ・介護教員講習会の専門基礎分野の教育評価のほか、専門分野である介護福祉学、介護教育方法、学生指導・カウンセリング、実習指導方法、介護過程の展開方法に対しては、学び直しや受講の必要性をあげる意見が高かった。学び直しや受講の必要性への要望が最も高かったのは介護過程の展開方法である。
- ・介護教員講習会の見直しが「とても必要」「必要」と考えている割合は合計して48.4%であり、大学において割合が高くみられた。見直しが必要と考える介護教員講習会の科目の上位は介護過程の展開方法、学生指導・カウンセリングである。
- ・養成校からの回答では、非常勤教員の介護教員講習会受講は『必要』が40.7%であったが、教員側の回答では47.1%が必要と回答している。
- ・教員が研修や講習、FDの必要性が高いと考えているのは、採用時>専任教員>非常勤教員となっている。同じ質問を養成校にも行っているが、養成校側は専任教員、教員自身は採用時の研修や講習等が重要と考えている結果となっている。また、両調査ともに非常勤教員に対する必要性は相対的に低くなっているが、非常勤教員自身の回答をみると「とても必要」と考えている割合が高いことがわかった。

本調査研究の1つに非常勤や新任教員の教育力向上という課題があったが、調査の回答者における非常勤教員の割合は低く、非常勤教員の声を十分に反映できた結果とは言い難い。非常勤教員の回答につながる調査の方法や時期の工夫が必要であった。

一方で、教員が求める教育力向上に向けた研修や講習等の内容が明らかになったこと、短大や大学に比べて、専門学校では教育力向上に向けた研修や講習等の必要性が認識されつつもそれに対する取り組みが十分ではないこと等が明らかになったと言える。

【教育内容の充実及び教育力の向上を図るためのモデル研修及び効果検証の実施】

前述の調査結果等を踏まえて、「Ⅰ 新カリキュラムに関すること」、「Ⅱ 介護教員講習会の基礎分野に関すること」、「Ⅲ 介護教員講習会の専門分野に関すること」、「Ⅳ 教育方法に関すること」に分けて16科目のモデル研修プログラム及び教材の作成に取り組んだ。

また、「モデル研修プログラム及び教材の作成」をもとに、介護福祉士養成課程の「教育内容の充実及び教員の教育力向上を図るためのモデル研修」を公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会の会員養成施設の教員を対象に、オンデマンドで実施した。参加登録をした教員は209名に達し、一定数の興味・関心をもっていただいたのではないかと推察される。

研修視聴者のアンケートからは、継続的な実施の希望、新人等の教育に活用したいという肯定的意見とともに、16科目に及ぶことから視聴に一定の期間確保が必要であるという課題があげられた。作業部会においても、養成校及び教員に研修実施の周知が不十分であることが指摘されており、実施期間等には課題があったことは否めない。また、本プログラムはあくまでも試行的な視点で作成したモデル研修であり、同時に、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点からオンデマンド開催という前提が設けられていた。今後は養成校及び養成校教員等のニーズを踏まえつつ、本研修をさらに充実し活用を図ることが望まれる。

**II 介護福祉士養成校における教育上の課題
と求められる研修プログラムに関する調査**

〔 A養成校対象／結果のポイント 〕

※以下では短期大学を「短大」、四年制大学を「大学」と表記している。

※文頭の【 】は参照ページを示している。

（1）回答養成校は 194 校

【18 頁】194 の養成校から回答があり、回収率は 55.9%であった。内訳は専門学校 131 校、短大 34 校、大学 28 校、その他（大学別科）1 校である。

都道府県別では、45 都道府県の養成校から回答が得られた。

（2）新規採用者向け研修等を実施している養成校は 46.4%→81.0%が必要と回答

【20 頁～】現状：新規採用者向けの研修や講習を実施している養成校は 46.4%、実施していない養成校が 56.2%であり、養成校種別による大きな違いはみられなかった。

実施している場合、専任教員を対象としている割合が 98.8%であり、非常勤教員を対象に含んでいる養成校は 21.0%となった。非常勤を対象に実施している割合は、大学>短大>専門学校という結果となっている。

【21 頁～】実施している内容は、新規採用という背景から、法人の方針や教育理念、社会規範やコンプライアンスなどの要素を踏まえた内容が多く、授業等の具体的対応方策などの内容は多くはなかった。

【23 頁～】必要性：新規採用者を対象とした研修や講習の必要性への回答は、とても必要 32.0%、必要 49.0%であり、81.0%の養成校が必要と回答している。実施している養成校が 46.4%であるので、実際の実施状況より必要と考えている養成校の割合が高い結果となっている。学校種別では、専門学校において必要と考えている割合が高くみられた。

【24 頁～】必要と考える理由は、「教育の質の充実（向上）、統一のため」「教員経験がない、不足している」「養成校の教育理念など共有する」「教員の資質向上や教育者としての心構え

を知る」「介護現場と養成校の違いを理解するため」などの理由が上位である。教員の経験不足、教員の資質向上や教育者としての心構え、介護現場と養成校の違いを理解するなどの理由は、専門学校に多い回答となっている。

【26 頁～】新規採用者の研修等で必要な内容については、「教授方法、授業展開、シラバス、評価方法の統一について」「多様化する学生への対応（留学生・学力差など）」「カリキュラム内容」など、授業の展開に役立つ内容への要望が上位となっている。

（3）非常勤教員の介護教員講習会受講は「あまり必要ではない」が 46.9%

【28 頁～】非常勤教員には介護教員講習会の修了や一部の科目の受講は奨励していないという回答が 79.9%で最も高くなっている。また、「介護教員講習会を修了している非常勤教員がいる」養成校は 49.0%、「介護教員講習会を修了・一部の科目を受講している非常勤教員はいない」は 34.5%などとなっている。

【30 頁～】非常勤教員の介護教員講習会受講は、あまり必要ではない 46.9%、必要ではない 9.3%であるなど、必要ではないという意見が合わせて過半数を占めた。一方で、修了が必要は 9.8%、一部の科目受講が必要は 30.9%であり、必要という意見は 40.7%である。必要と考える理由としては、「教育の質の充実（向上）、統一のため」「介護福祉教育の目的的理解や共有のため」という意見が多く、必要と考える割合は大学>短大>専門学校となっている。

(4) 所属教員の研修等参加は、養成校種別による差が大きい

【35 頁～】日本介護福祉士養成施設協会／全国教職員研修会及びブロック教員研修会：これらは、「毎年（毎回）参加」の割合が 42.3%で最も高く、「参加したことがない／わからない」は 1 割以下にとどまっている。本調査対象が同協会の会員校を対象としていること、これらを出張扱い等業務として対応している養成校が 8 割を超えていることなどから、参加割合が高位になっていると考えられる。全国教職員研修会への参加割合は大学、ブロック教員研修会は短大の参加割合が高い。

介護関連団体の全国大会・研修等及び日本介護福祉教育学会や日本介護福祉学会：これらは参加したことがない割合が 2 割を超えており、全国教職員研修会及びブロック教員研修会に比べると参加の割合は低い。日本介護福祉教育学会や日本介護福祉学会への参加は大学や短大の参加に比べて、専門学校は低位である。

【37 頁～】参加している教員：上記への参加はいずれも教務主任や専任教員の参加割合が高く、非常勤教員の参加は 5%台、或いはそれ以下と極めて低い状況である。

(5) 教育力向上に向けた研修や講習、FDを実施していない養成校が 50.0%

【39 頁～】過去 3 年間に於いて、教員の教育力向上に向けた研修や講習、FDを実施していない養成校が 50.0%を占めている。実施していない割合は専門学校 54.2%、短大 44.1%、大学 35.7%であり、専門学校において実施していない割合が高い。

また、研修や講習、FDは、専任を対象としている割合が 9 割台であり、「非常勤」を対象としている割合は 2～3 割台に留まっている。

【42 頁～】実施している場合の具体的内容は、247 件あげられた。専門学校、短期大学、四年制に共通してあがってきたキーワードは、授業の方法、学生対応などがある。専門

学校や短期大学は個別対応、四年制はシラバス、成績、評価などの教育方法に関するキーワードがあがってきている。

(6) 研修や講習、FDの必要性は、専任教員＞採用時＞非常勤教員の順に高い

【49 頁～】採用時、非常勤教員、専任教員について、それぞれ研修や講習の充実が必要であるかをたずねたところ、「とても必要と思う」「必要と思う」を合わせた割合が高かったのは専任教員 (35.1%+56.2%=91.3%)、続いて採用時 (30.4%+59.8%=90.2%)、必要と思う割合が最も低かったのは非常勤教員 (9.3%+54.6%=63.9%) となっている。

いずれにおいても大学や短大に比べて、専門学校において必要と思う割合が高い結果となっている。

【51 頁～】具体的にどのような内容が必要かについては、採用時、非常勤教員、専任教員のいずれにおいても「教育方法や授業展開」が第 1 位である。また、「学生指導、学生との接し方」も共通して上位にあげられた内容である。

採用時や非常勤教員は「介護福祉士養成教育の意義、目的」、カリキュラム内容や到達目標の理解、「学生指導、学生との接し方」、専任教員は「新しい情報」などが上位となっている。

(7) 養成校側からみた教育の課題

【58 頁～】養成校側からみた教育力向上に関する課題の自由記載では、教員に研修や自己研鑽をする時間的余裕がないという意見が最も多くあげられた。これは学校種別に関係なくあげられている課題である。次いで、専門性を高める研修ができていない(専門学校に多い)、教員の連携や教育方法等の共有が必要である(短大や大学に多い)、多様化する学生に対する指導(専門学校に多い)、外部の研修会等への参加が難しい(専門学校に多い)、研修に参加する費用等のサポート体制不足(専門学校に多い)などが上位にあげられた。

1 調査の目的

介護教育内容の充実及び教育力向上の観点から、弊社会員である養成校において実施している研修やFD等の実態と課題、教員が対峙している教育上の課題及び研修やFD等への要望等を把握する。介護福祉士養成課程の教員に対するモデル研修プログラムを作成するための基礎資料とする。

2 調査の概要

	A 養成校対象	B 教員対象
対 象	・ 弊会会員の介護福祉士養成校 ・ 347 (全数)	・ 養成校に所属する教員 (非常勤を含む)
回 収 数	・ 194 (回収率 55.9%)	・ 652 人
期 間	令和2年12月22日～令和3年1月15日	
調 査 方 法	・ 郵送にて配布 ・ 郵送あるいはウェブフォームによる回答	・ 養成校より教員に回答を依頼、教員の抽出は養成校の任意とする ・ ウェブフォームによる回答
回 答 者	介護福祉士養成課程の教務主任	・ 介護福祉士養成課程の教員 (非常勤を含む)

3 回答のあった養成校の概要〔養成校票〕

(1) 養成校の基本情報

養成校	質問1. 養成校の基本情報についてお聞かせください。
-----	----------------------------

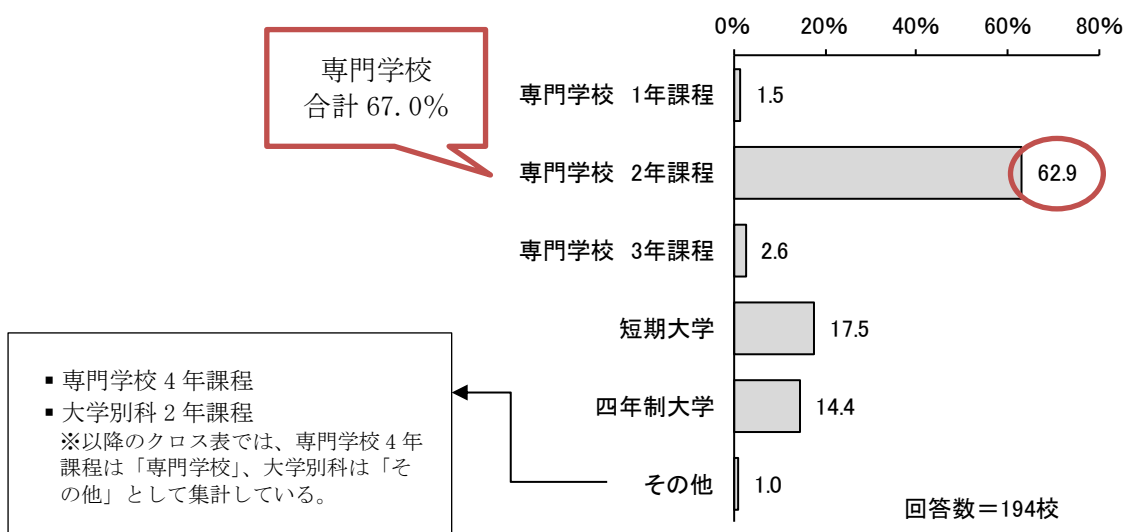
①. 回答のあった養成校（194校）の都道府県・学校種別

図表1 回答のあった養成校（194校）の都道府県

	回答数	%		回答数	%		回答数	%
北海道	13	6.7	石川県	3	1.5	岡山県	12	6.2
青森県	5	2.6	福井県	1	0.5	広島県	6	3.1
岩手県	3	1.5	山梨県	1	0.5	山口県	3	1.5
宮城県	4	2.1	長野県	2	1.0	徳島県	1	0.5
秋田県	1	0.5	岐阜県	1	0.5	香川県	4	2.1
山形県	2	1.0	静岡県	7	3.6	愛媛県	2	1.0
福島県	5	2.6	愛知県	10	5.2	高知県	4	2.1
茨城県	6	3.1	三重県	3	1.5	福岡県	9	4.6
栃木県	4	2.1	滋賀県	2	1.0	佐賀県	1	0.5
群馬県	4	2.1	京都府	4	2.1	長崎県	3	1.5
埼玉県	3	1.5	大阪府	11	5.7	熊本県	2	1.0
千葉県	1	0.5	兵庫県	4	2.1	大分県	2	1.0
東京都	11	5.7	奈良県	1	0.5	宮崎県	5	2.6
神奈川県	6	3.1	和歌山県	0	0.0	鹿児島県	4	2.1
新潟県	10	5.2	鳥取県	1	0.5	沖縄県	4	2.1
富山県	0	0.0	島根県	3	1.5	合計	194	100.0

※単位：養成校

図表2 回答のあった養成校（194校）の学校種別



※自由記載は、原則として原文のとおり全てを掲載している。

②. 回答のあった養成校（194校）における介護福祉士養成課程の教員数

図表3 回答のあった養成校（194校）における介護福祉士養成課程の教員数

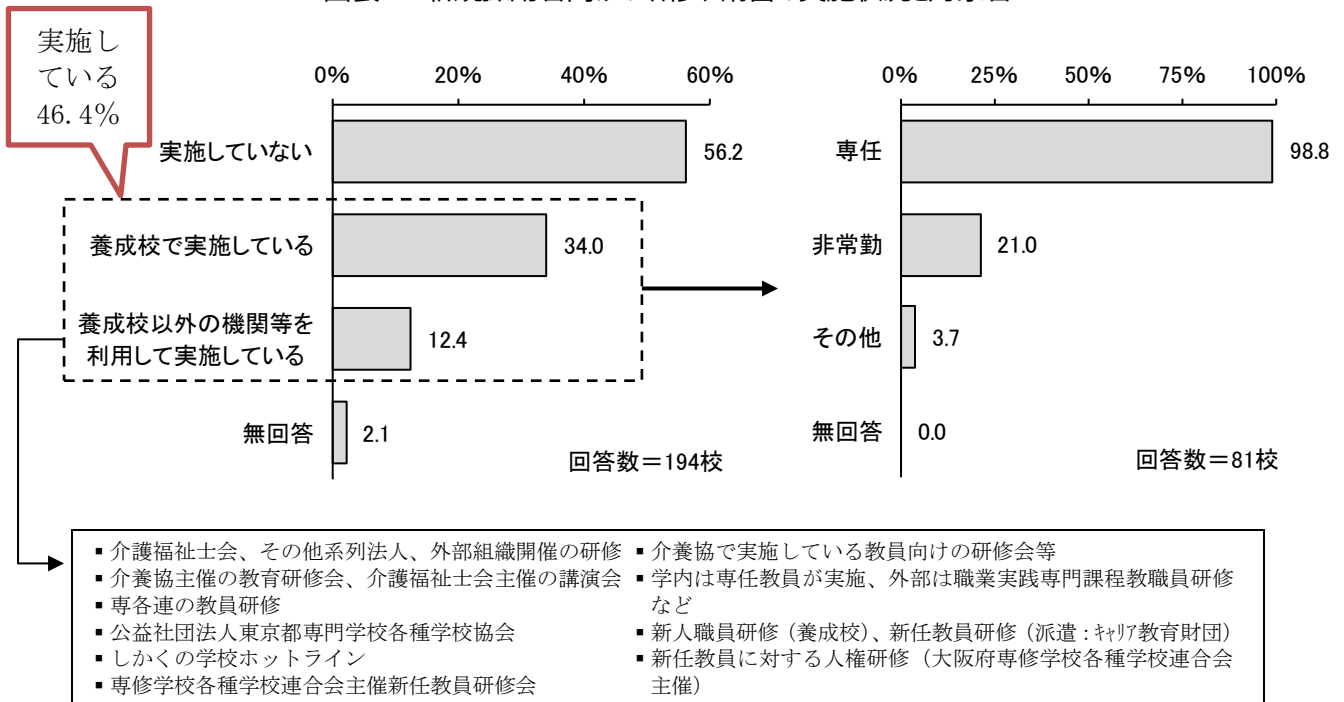
	専門学校 (n=131)	短期大学 (n=34)	四年制大学 (n=28)
専任 合計	514 人	162 人	152 人
1校あたりの平均	4.0 人	4.9 人	5.4 人
1校あたりの最大	9 人	10 人	18 人
1校あたりの最少	2 人	3 人	3 人
非常勤 合計	1,527 人	373 人	233 人
1校あたりの平均	12.1 人	11.0 人	9.3 人
1校あたりの最大	45 人	27 人	35 人
1校あたりの最少	0 人	1 人	3 人
教員 合計	2,034 人	535 人	360 人
1校あたりの平均	15.8 人	15.7 人	13.8 人
1校あたりの最大	48 人	37 人	39 人

4 新規採用の教員に対する研修や講習について〔養成校票〕

(1) 新規採用者向けの研修や講習の実施と対象者

養成校	<p>質問2. 貴校では、新たに採用した教員に、新規採用者向けの研修や講習を実施していますか。新規採用がない場合は、こうした仕組みがあるかどうかについて、回答してください。（あてはまるものすべてに○）</p> <p>(1) 対象となる人はだれですか。対象者すべてに○をしてください。</p>
------------	---

図表4 新規採用者向けの研修や講習の実施状況と対象者



※自由記載は、原則として原文のとおり全てを掲載している。

図表5 新規採用者向けの研修や講習の実施状況と対象者

		新規採用者向けの研修や講習の実施の有無					新規採用者向けの研修や講習の対象者			
		合計(校)	実施していない	養成校で実施している	養成校以外の機関等を利用して実施している	無回答	合計(校)	専任	非常勤	その他
全体		194	56.2	34.0	12.4	2.1	81	98.8	21.0	3.7
学校種別	専門学校	131	55.7	32.8	14.5	3.1	54	98.1	16.7	5.6
	短期大学	34	58.8	35.3	8.8	0.0	14	100.0	21.4	0.0
	四年制大学	28	57.1	35.7	7.1	0.0	12	100.0	41.7	0.0
	その他	1	0.0	100.0	0.0	0.0	1	100.0	0.0	0.0

※新規採用者向けの研修や講習の対象者の「無回答」は省略している。網掛けは「全体」を上回る値、単位は%。

(2) 新規採用者に実施している研修や講習の内容

養成校

(2) どのような内容の研修や講習を実施していますか。

※自由記載は、原則として原文のとおり全てを掲載している。

【専門学校】

◆法人の方針等

- 教育理念、教育方針、専門学校の役割、介護福祉士養成やカリキュラム等の説明、教育とは、教員とは、学生指導、就職指導、学生対応、授業のメモの取り方の説明等を2日間の研修として実施している。
- 学園の建学の精神・沿革・経営理念・教育理念などのガイダンス。
- 学園の理念、学園の特長、学園の教室説明、機器の操作、心肺蘇生、AED講習、新任アドバイザー対象学生相談に関する意見交換会。
- 法人の新人研修を受講、その後、学校でオリエンテーション等実施。
- 法人として実施している新人研修（挨拶、電話対応、講義法、校訓、諸規則など）。介護福祉科の専任者には教員講習修了。
- 学園方針の浸透や、求められる介護福祉士像の理解、魅力ある授業作り、生徒指導の方法など。
- 経営と教育、理念、専修学校とは、学校運営方針等。
- 養成校および、学校法人諸機関の教育、事業の理念およびシステムの概要説明、学校法人の庶務事項の説明。

◆基本的対応や姿勢

- セキュリティ。模擬講義等。学生指導。教務。ビジネスマナー。
- ビジネスマナー、働き方改革、一般職向け研修会、地域包括ケアシステム、地域街づくり、感染症対策、認知症、高次脳機能障害、リスクマネジメント。
- ビジネスマナー研修（自立した社会人として、コミュニケーション能力について）。仕事の段取り（優先順位のつけ方、時間配分、PDCAサイクルについて）。
- 学内において、理事長・校長が新任教職員（専任）その他の教職員に対して本学の理念や教育方針、専門学校の歴史や今後の課題に対してレクチャーを行う。
- 養成課程の理解、養成校の役割、実践教育の基礎知識など。
- 授業展開や学校のルール、介護福祉士養成の目的などをプログラム化。
- 学則、シラバスの説明、職員として遵守内容、言葉遣い、マナーなど。
- 倫理、ハラスメント、就業規則。
- 学校・学生の状況・進路の傾向、領域の考え方、授業・実習指導等。

◆授業等に関する具体的対応

- 教授法について校長からの講義、模擬授業・公開授業実施後、観覧教員からの助言・改善案の提示。
- 教授法や学生との関わり方など教員としての基本的姿勢等について。
- 講師の心構え、授業の進行方法、授業計画の作成方法など。
- 模擬授業など。
- 活用機関のカリキュラム、研修内容。
- 生徒指導や授業の教授方法についての講習。
- 留学生への分かり易い授業の在り方、今どきの学生への指導方法、メンタル面での支援。
- アクティブラーニング研修、7つの習慣研修、挨拶・コミュニケーション研修。
- カウンセリング、コミュニケーション。
- 教職員として教壇に立つにあたり、必要な人権感覚を養う。

◆その他

- グループ内での新人研修。
- 新人教員研修。
- グループ内新任教員研修、介護教員講習会。
- 新入職員研修として組織の成り立ちや教育に関するもの。
- 「新人教員研修会」を学園本部にて実施。
- 学園職員としての資質の向上に向けた研修会。
- 学校全体研修。
- 講義・演習による研修。

- 講義式。
- 学生対応に関すること。授業研究を通して。
- 全国大会やブロック大会などの研修会に参加。
- 3日間の集中講義と年6回の授業検討会。
- 採用した際、教員歴を加味して判断している（専修学校、各種学校協会の新任、准教員、研修会）。
- 授業内部（教員）、外部（実習施設）に対して模擬授業を見てもらい、どのように授業を行ったらよいか考える。
- 専門学校を対象とした研修を定期的に年2回実施。外部講師の方を中心に講師を招いての講義研修とグループディスカッション型のテーマ学習の2部構成で実施。

【短期大学】

- 教育課程に関する内容の研修。
- 本学園の沿革と現状。建学の精神、教育理念について。本学園組織と就業について。授業およびカリキュラムについて。学生指導について。
- 学内教員に授業を公開し、その後授業内容について研究会をひらく。
- 研究倫理、シラバス作成、オンデマンド授業、会議の開催についてなど多様な研修がある。
- 大学組織について、授業について、学生対応についてなど。
- 授業の取組み方や人権研修等ハラスメントに対する研修。
- 本学独自のカリキュラム等についてのオリエンテーション。
- 授業受講。
- 大学の教職員による講義。
- FD、SD研修の受講等、実施。

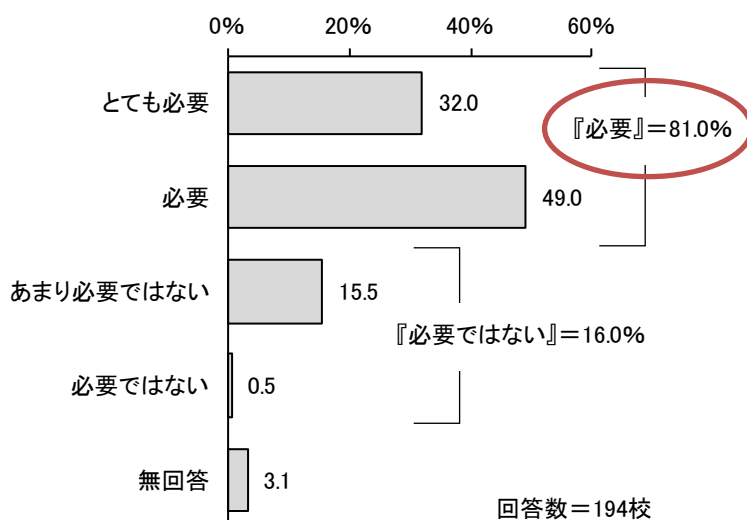
【四年制大学】

- 新任教員としての心得。新任支援制度。本学の組織。研究支援等。学生状況、配慮を必要とする学生への理解、対応。学生募集、入試制度等。研究関連状況。
- カリキュラム・教育に含むべき事項・実習との関連。
- カリキュラム内容、教育の目標について。
- 学務、教務、庶務に関すること。本学の介護福祉コースの現状。学生の様子等。
- 本学の教育目的、カリキュラム、実習の組み立てと内容にかかわること。
- 効果的なフィードバックについて。
- 教えるべき内容等について事前に説明している。

(3) 新規採用者に対する研修や講習の必要性

養成校	質問3. 新たに採用した教員に対する研修や講習の必要性を感じますか。 (1つに○)
-----	--

図表6 新規採用者に対する研修や講習の必要性



※『必要』=「とても必要」+「必要」

※『必要ではない』=「あまり必要ではない」+「必要ではない」

図表7 新規採用者に対する研修や講習の必要性

		合計 (校)	とても必要	必要	あまり必要ではない	必要ではない	無回答	『必要』	『必要ではない』
全体		194	32.0	49.0	15.5	0.5	3.1	81.0	16.0
学校種別	専門学校	131	35.1	51.1	9.9	0.0	3.8	86.2	9.9
	短期大学	34	20.6	47.1	29.4	2.9	0.0	67.7	32.3
	四年制大学	28	28.6	42.9	25.0	0.0	3.6	71.5	25.0
	その他	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0

※網掛けは「全体」を上回る値、単位は%。

(4) 新規採用者に研修や講習が必要と考える理由、その内容

養成校

(1) そのように考える理由、どのような内容が必要かをお教えてください。

①. 新規採用者に研修や講習が必要と考える理由

図表8 新規採用者に研修や講習が必要と考える理由 (全体)

分類	件数
1. 教育の質の充実(向上)、統一のため	44件
2. 教員経験がない、不足している	24件
3. 養成校の教育理念など共有する	21件
4. 教員の資質向上や教育者としての心構えを知る	15件
5. 介護現場と養成校の違いを理解するため	13件
6. 介護福祉教育に対する理解を深める	11件
7. 多様化する学生への対応が必要	10件
8. モチベーション維持、早期離職の予防	5件
9. 教授方法、授業展開がわからない	5件
10. 連携をする力を得るため	4件
11. その他	5件
合計	157件

図表9 新規採用者に研修や講習が必要と考える理由

分類	件数	具体的な記載内容(抜粋、原文のとおり記載)
1. 教育の質の充実(向上)、統一のため	44	<ul style="list-style-type: none"> ● 授業、教材研究の仕方もレベルもまちまちであるため、教育の質をあげるためには必要不可欠であると考えられる(専門学校2年課程) ● 教員が同じ方向を向き、指導内容に差異がないようにすべき(専門学校2年課程) ● 教科間の連携と、教育内容の重複を避けるため(短期大学) ● 授業展開方法、学生への統一した指導内容の維持(専門学校2年課程) ● 大学全体の研修だけでなく、1年課程であるので、科目間の連携や保育士課程からの体系的なカリキュラムを理解する必要がある(短期大学)
2. 教員経験がない、不足している	24	<ul style="list-style-type: none"> ● 教員の経験のないものを対象に指導力をあげる必要がある(専門学校2年課程) ● 採用した教員で現場経験5年だけの教員や、介護教員講習会に参加していない教員は授業案、シラバスの作り方も理解していない(専門学校2年課程) ● 教員研修が終わるまでは知識がないため(専門学校2年課程) ● 病院、施設などで働いていた人が教員となることが多く、学生への指導を行ったことがないため(専門学校2年課程)
3. 養成校の教育理念など共有する	21	<ul style="list-style-type: none"> ● 学校・学科の理念を共有し、統一した指導が必要なため(専門学校2年課程) ● 何もなくて本学の方針に沿った教員育成は無理(四年制大学) ● 学校の歴史や教育方針の理解度の違いによって、学生指導のあり方にも差が出るから(専門学校1年課程) ● 専門職を養成する上で、教育に関する方向性や規律など、統一した理念の共有が必要不可欠であるため(専門学校2年課程)

分類	件数	具体的な記載内容（抜粋、原文のとおり記載）
4. 教員の資質向上や教育者としての心構えを知る	15	<ul style="list-style-type: none"> ● 教員講習会プラス、実際に対学生のなかでどうあることが必要なのか自己知覚につなげることが必要（専門学校2年課程） ● 自覚、使命感、倫理観を高める。教育の体系化を理解するため、自己流ではなく基本的な教授法を構築するため（専門学校2年課程） ● 経験を通しての不安を解消させ自信を持って授業に臨めるようにするため（専門学校2年課程） ● 教育者としての基本的な心がまえ、教授方法など、介護教員講習会だけでは少ないと感じるため（専門学校2年課程）
5. 介護現場と養成校の違いを理解するため	13	<ul style="list-style-type: none"> ● 現場実践は大切であるが、教育の本質である「教える」、一人ひとりの学生にどう対処していけば良いか、現場職員とギャップに悩むケースが生じているため（専門学校2年課程） ● 現場職員（介護職）から教育の世界に入るために“教員をする”ということがどのような事であるかを理解してもらう必要がある（専門学校2年課程） ● 介護の現場経験を生かして教員になるが、教育・研究者として教育の場に入るにあたり、研修は必要であるため（短期大学） ● 福祉現場で勤務することと、資格を持たない人への教育をすることは全く違う（四年制大学）
6. 介護福祉教育に対する理解を深める	11	<ul style="list-style-type: none"> ● 介護教育について理解しておいてもらいたい（短期大学） ● 現行カリキュラムと介護業界の情勢について共通認識をもつ（四年制大学）
7. 多様化する学生への対応が必要	10	<ul style="list-style-type: none"> ● 学生は発達障害を有する者、離職者訓練生（30代～60代と年齢層が幅広い）、外国人など多岐にわたるため（専門学校2年課程） ● 学生のほとんどが多様な国籍による留学生となっているため（専門学校3年課程） ● 年齢や国籍など、様々な学生がいるので、今まで以上に学生との関わり方や授業の進め方、板書やプリントの作り方について説明や指導が必要だから（専門学校2年課程） ● 留学生と日本の学生の授業の理解度が異なるため、留学生が理解できる内容と共に日本人学生が納得できるための情報の共有化が必要（専門学校2年課程）
8. モチベーション維持、早期離職の予防	5	<ul style="list-style-type: none"> ● 分からない部分が多く、ついていけず退職することもあるため（専門学校2年課程） ● 教員として初めての職場であれば、様々な不安や悩みなども生じるため、研修などを通して共有する場が必要（四年制大学）
9. 教授方法、授業展開がわからない	5	<ul style="list-style-type: none"> ● 教授方法と学生指導の両面からの支援（教育）が必要だと思うため（専門学校2年課程） ● 自分が教員として学生に指導しているが、これで良いのかと不安に思うことがあった（教育方法、授業準備等）（専門学校3年課程） ● 教授方法や国家試験合格のための指導方法を理解しておく必要があるため。学生指導を適切に行うため（専門学校2年課程）
10. 連携をする力を得るため	4	<ul style="list-style-type: none"> ● 学生や職員間の連携、チームでの仕事実施のため（専門学校2年課程） ● 新採用であっても、一人で実習巡回指導に行く必要があるため（四年制大学） ● 専門職養成に必要な知識はもちろん、学内だけでの授業にとどまらず実習や地域との関連が必要となるため。また、各領域とうまく連携して授業を展開することが求められる等の理由から必要となる（専門学校2年課程）
11. その他	5	<ul style="list-style-type: none"> ● 教員の意識高揚のため（短期大学） ● 繰り返し学ぶことが必要だと考える（専門学校2年課程）
合計	157	

②. 新規採用者に必要な研修や講習の内容

図表 1 0 新規採用者に必要な研修や講習の内容（全体）

分類	件数
1. 教授方法、授業展開、シラバス、評価方法の統一について	53 件
2. 多様化する学生への対応（留学生・学力差など）	29 件
3. カリキュラム内容	20 件
4. 養成校の教育理念や学校運営などを共有する	18 件
5. 学生指導について	18 件
6. 教員としての心構え、倫理観	15 件
7. 介護福祉教育に対する理解、介護福祉士像	11 件
8. 実習指導等	11 件
9. 教育学等	9 件
10. 模擬授業、教育実習	9 件
11. ビジネスマナー、ハラスメント等の社会常識	5 件
12. 現場の経験を活かす方法	3 件
13. その他	9 件
合 計	210 件

図表 1 1 新規採用者に必要な研修や講習の内容

分類	件数	具体的な記載内容（抜粋、原文のとおり記載）
1. 教授方法、授業展開、シラバス、評価方法の統一について	53	<ul style="list-style-type: none"> ● 自分が担当する科目の位置づけ、教育目標、授業展開法（教授法）、学生の理解を深めるための工夫などの実例を知る（専門学校 2 年課程） ● スライドやルビ、小テスト、理解度チェック（専門学校 2 年課程） ● 教育や評価の方法など、教育に関する基本的な内容（四年制大学） ● 教科ごとの伝えるポイント、効果的なシラバス作成、授業展開方法（専門学校 2 年課程） ● 生徒に何を伝えるか、どの基準で指導するのか（専門学校 2 年課程）
2. 多様化する学生への対応（留学生・学力差など）	29	<ul style="list-style-type: none"> ● 発達障害を持つ学生の学習支援、生活支援方法、授業の展開方法（専門学校 2 年課程） ● 留学生もいる中、学生対応の在り方について自ら考え試行錯誤、創意工夫を求められる（専門学校 2 年課程） ● 特性のある学生への対応など（短期大学） ● 日本人学生に対する専門知識の教授というイメージでは立ち行かない場面が多々あるため、留学生に対するコミュニケーションの取り方、文化・価値観・生活などの内容について教授にあたって、まず理解が必要と考えられます（専門学校 3 年課程）
3. カリキュラム内容	20	<ul style="list-style-type: none"> ● カリキュラムマップなどをもとに、各学年毎の教育達成目標など科目単位でなく段階的・トータルの教育にむけた方向性の理解を深める（四年制大学） ● 担当科目の位置づけ、学生の卒業時点での到達状況（四年制大学） ● 介護教育内容・介護実習関連科目の位置づけ・科目の順序性（四年制大学）
4. 養成校の教育理念や学校運営などを共有する	18	<ul style="list-style-type: none"> ● 学校が育てたい介護福祉士像の共有（専門学校 2 年課程）

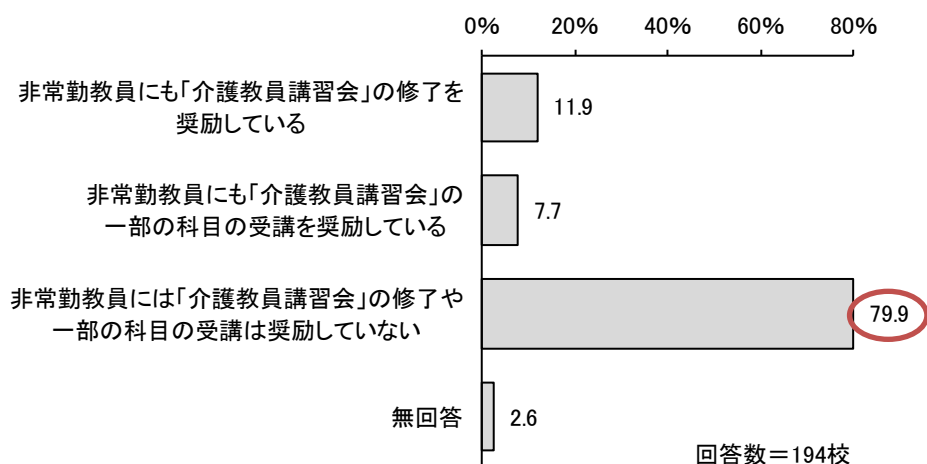
分類	件数	具体的な記載内容（抜粋、原文のとおり記載）
		<ul style="list-style-type: none"> ● 教員講習会を終了している前提で一般的な内容は理解しているため本学独自の考え方や取り組みについて十分に理解をうながす必要がある（短期大学） ● 経営方針、理念、就業規則など（専門学校2年課程）
5. 学生指導について	18	<ul style="list-style-type: none"> ● 学生指導、社会人教育（専門学校2年課程） ● 個々の学生、現在の学生への指導など（専門学校2年課程）
6. 教員としての心構え、倫理観	15	<ul style="list-style-type: none"> ● 教育とは倫理観、人間関係の調整力、コーチング力、指導スキル向上、感性などが必要になると考える（専門学校2年課程） ● 特に初めて教壇に立つ者としての心構え、学生との距離感など（専門学校3年課程）
7. 介護福祉教育に対する理解、介護福祉士像	11	<ul style="list-style-type: none"> ● 求められる介護福祉士像と具体的な内容（短期大学） ● 介護福祉士養成の目的や基本的授業（専門学校2年課程） ● 質の高い介護福祉士を養成するための根本として、教育・介護福祉教育の研修が必要であるとする（四年制大学）
8. 実習指導等	11	<ul style="list-style-type: none"> ● 新採用教員の経歴にもよるが、実習における学生指導に関する内容が必要かと考える（四年制大学） ● 近隣施設、実習施設の特徴など（専門学校2年課程）
9. 教育学等	9	<ul style="list-style-type: none"> ● 教育学、教育方法、教育心理、教育評価、介護教育方法（専門学校2年課程）
10. 模擬授業、教育実習	9	<ul style="list-style-type: none"> ● 授業の構成。時間内でいかに効率良く学生に分かりやすい授業ができるかは、客観的に見てもらうことで気づき、改善することができる（専門学校2年課程） ● 実践と経験と振り返り（専門学校2年課程）
11. ビジネスマナー、ハラスメント等の社会常識	5	<ul style="list-style-type: none"> ● ハラスメント（専門学校2年課程） ● 最低限の社会常識、マナー、言葉遣い、人権感覚（専門学校2年課程）
12. 現場の経験を活かす方法	3	<ul style="list-style-type: none"> ● 現場経験がいきてくるような教育に対する研修（専門学校2年課程） ● 福祉現場と専門知識のリンクした内容（専門学校2年課程）
13. その他	9	<ul style="list-style-type: none"> ● ICT活用の方法（短期大学） ● 多くの養成校の具体的な取り組み等（専門学校2年課程） ● コミュニケーション能力、優しさ（専門学校2年課程） ● 関係法令、通知に関する内容（短期大学） ● 研究上のルール（四年制大学） ● 最新の介護業界の内容（専門学校2年課程）
合計	210	

5 非常勤教員における介護教員講習会の受講について〔養成校票〕

(1) 非常勤教員への介護教員講習会受講の奨励について

養成校	<p>質問4. 貴校の非常勤教員における「介護教員講習会」修了（一部の科目の受講）の扱いについてお教えてください。</p> <p>(1) 非常勤教員にも「介護教員講習会」の修了、一部の科目の受講を奨励していますか。（あてはまるものすべてに○）</p>
-----	---

図表 1 2 非常勤教員への介護教員講習会受講の奨励について



図表 1 3 非常勤教員への介護教員講習会受講の奨励について

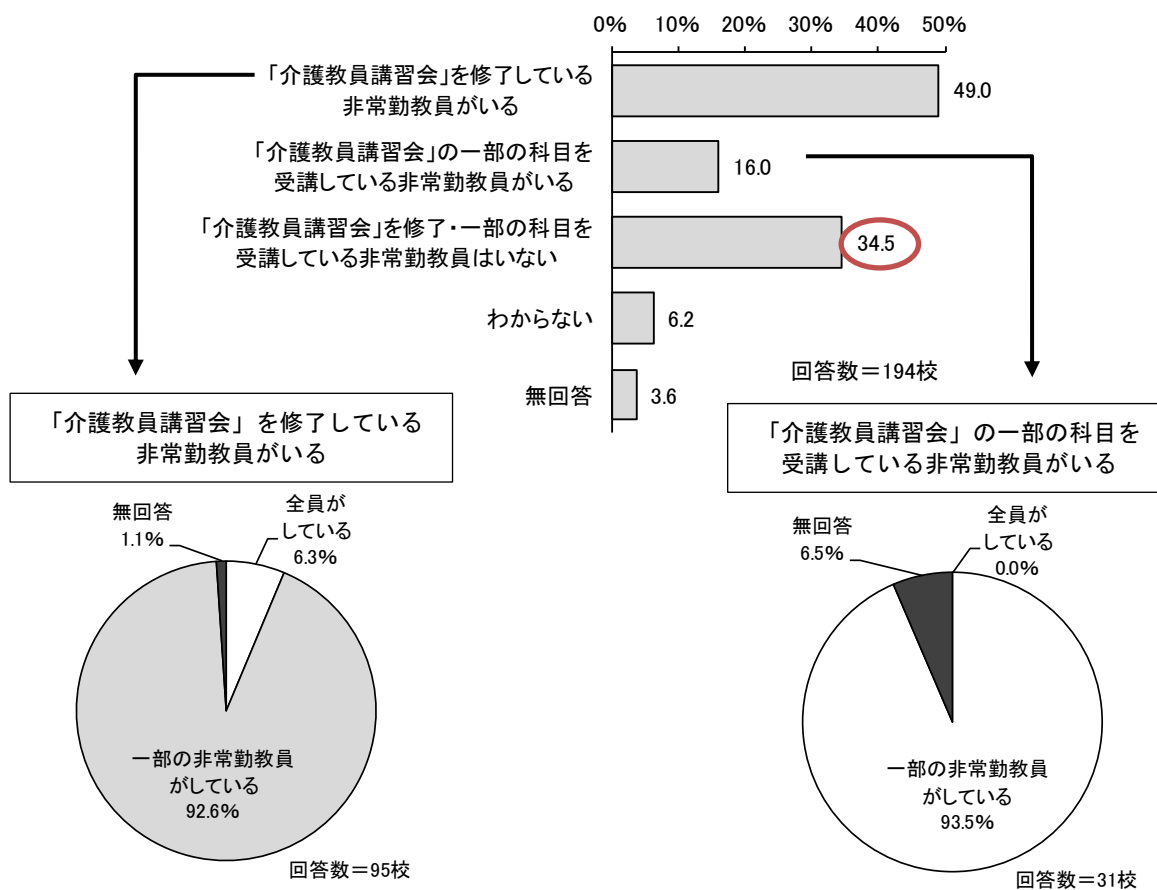
		合計 (校)	非常勤教員にも「介護教員講習会」の修了を奨励している	非常勤教員にも「介護教員講習会」の一部の科目の受講を奨励している	非常勤教員には「介護教員講習会」の修了や一部の科目の受講は奨励していない	無回答
全体		194	11.9	7.7	79.9	2.6
学校種別	専門学校	131	12.2	6.9	80.2	3.1
	短期大学	34	8.8	11.8	79.4	2.9
	四年制大学	28	14.3	7.1	78.6	0.0
	その他	1	0.0	0.0	100.0	0.0

※網掛けは「全体」を上回る値、単位は%。

(2) 非常勤教員における介護教員講習会受講の状況

養成校	(2) 貴校の非常勤教員における「介護教員講習会」修了者の状況はいかがですか。(あてはまるものすべてに○)
-----	---

図表 1 4 非常勤教員における介護教員講習会受講の状況



図表 1 5 非常勤教員における介護教員講習会受講の状況

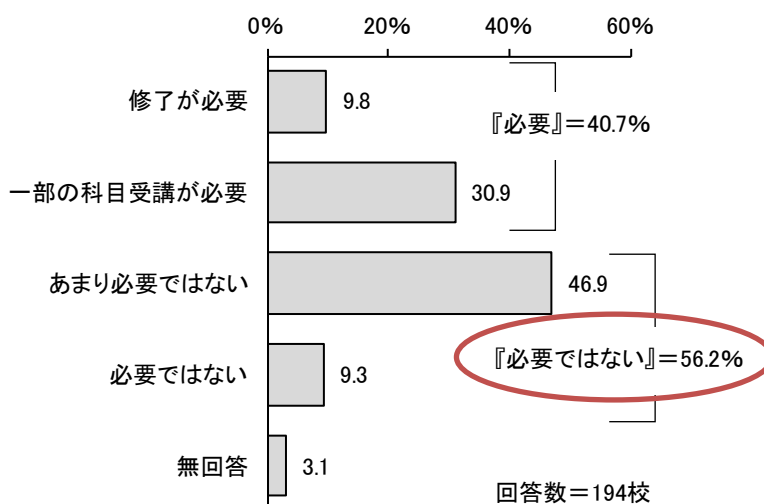
		合計(校)	「介護教員講習会」を修了している非常勤教員がいる	「介護教員講習会」の一部の科目を受講している非常勤教員がいる	「介護教員講習会」を修了・一部の科目を受講している非常勤教員はいない	わからない	無回答
全体		194	49.0	16.0	34.5	6.2	3.6
学校種別	専門学校	131	48.9	16.8	35.9	6.1	3.1
	短期大学	34	47.1	14.7	35.3	5.9	2.9
	四年制大学	28	50.0	14.3	28.6	7.1	7.1
	その他	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0

※網掛けは「全体」を上回る値、単位は%。

(3) 非常勤教員の介護教員講習会受講の必要性

養成校	質問5. 非常勤教員にも介護教員講習会の修了や一部の科目受講が必要だと思いますか。(1つに○)
-----	---

図表 1 6 非常勤教員の介護教員講習会受講の必要性



※『必要』=「修了が必要」+「一部の科目受講が必要」

※『必要ではない』=「あまり必要ではない」+「必要ではない」

図表 1 7 非常勤教員の介護教員講習会受講の必要性

		合計(校)	修了が必要	一部の科目受講が必要	あまり必要ではない	必要ではない	無回答	『必要』	『必要ではない』
全体		194	9.8	30.9	46.9	9.3	3.1	40.7	56.2
学校種別	専門学校	131	9.9	26.7	51.9	7.6	3.8	36.6	59.5
	短期大学	34	11.8	32.4	38.2	17.6	0.0	44.2	55.8
	四年制大学	28	7.1	46.4	35.7	7.1	3.6	53.5	42.8
	その他	1	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0

※網掛けは「全体」を上回る値、単位は%。

(4) 非常勤教員に介護教員講習会受講が必要と考える理由、その内容

養成校

(1) そのように考える理由、どのような内容(科目)が必要かをお教えてください。

①. 非常勤教員に介護教員講習会受講が必要と考える理由

図表18 非常勤教員に介護教員講習会受講が必要と考える理由(全体)

分類	件数
1. 教育の質の充実(向上)、統一のため	31件
2. 介護福祉教育の目的の理解や共有のため	23件
3. 介護現場と養成校の違いを理解するため	5件
4. 教員経験がない、不足している	4件
5. 学生を理解するため	4件
6. 専任教員育成、欠員対策	3件
7. その他	4件
合計	74件

図表19 非常勤教員に介護教員講習会受講が必要と考える理由

分類	件数	具体的な記載内容(抜粋、原文のとおり記載)
1. 教育の質の充実(向上)、統一のため	31	<ul style="list-style-type: none"> ● 介護教員講習会を受講しないことを前提として、非常勤であっても専任と同様に教育、指導に当たってもらいたいため(専門学校2年課程) ● 教育内容を一定に保つため(専門学校2年課程) ● 学生のあり方、教育のあり方、専門性のあり方は常に変容しているから(専門学校1年課程) ● 教員の質が上がらなければ学生の質も向上しないと考えるため(専門学校2年課程) ● 授業の内容については、専門性が高い。しかし、授業運営、授業評価方法については不安があるため(専門学校2年課程) ● 他領域を専門とする場合に、介護福祉士養成に引き付けて教育する必要があると思うため(その他)
2. 介護福祉教育の目的の理解や共有のため	23	<ul style="list-style-type: none"> ● “求められる介護福祉士像”を理解し、指導を統一した理念で行うため(専門学校2年課程) ● 介護教育全体の把握(専門学校2年課程) ● 本学科の非常勤講師は、各々専門分野での授業の受け持ちであるが、「介護」がなんであるかの基本を知って教授してもらいたい(専門学校2年課程) ● 介護福祉士の専門性について再確認してもらうため(四年制大学) ● 介護福祉士を養成するため、介護福祉士教育の根本的となる介護福祉、教育の方法を理解して頂いた上での教育が必要であると考え(四年制大学)
3. 介護現場と養成校の違いを理解するため	5	<ul style="list-style-type: none"> ● 現場教育と学生教育の違いを学ぶため(短期大学) ● 専門的知識・技術を持った現場の講師の先生数名に来ていただいておりますが、介護教育方法他、評価についての科目が必要だと思います(専門学校2年課程) ● 介護福祉養成と、他の対人援助職養成の違いを理解するため(四年制大学)

分類	件数	具体的な記載内容（抜粋、原文のとおり記載）
4. 教員経験がない、不足している	4	<ul style="list-style-type: none"> ● 教えることに慣れていないことや、介護の基本的な知識を持って教えてほしいから（専門学校2年課程） ● 教員経験のない非常勤教員が実習現場に巡回指導に入る場合、学生へのかかわり方、学内学習と実習での体験をつなぐこと等に不安があると考え（四年制大学） ● 長い現場経験があったとしても講師経験ゼロの講師の場合、いかに学生にわかりやすく伝えるかなどを学ぶ（知る）機会がない（専門学校2年課程）
5. 学生を理解するため	4	<ul style="list-style-type: none"> ● 多様な学生がいるため（専門学校2年課程） ● 授業科目により、学生の学びを共有することが、学生の理解を深めることに役立つと思うから（短期大学）
6. 専任教員育成、欠員対策	3	<ul style="list-style-type: none"> ● 専任教員の欠員が生じた場合等の対策になる（専門学校2年課程） ● 学生に対する指導が熱心な人や学生からの信頼がある人には、機会があれば専任教員として働いてもらいたい（専門学校2年課程）
7. その他	4	<ul style="list-style-type: none"> ● 修了が望ましいと考えるが実際は困難（専門学校2年課程） ● 現状を知っておきたいから。教育内容と受講生の反応、現場からの声など（短期大学）
合計	74	

②. 非常勤教員に必要な介護教員講習会の内容

図表 2 0 非常勤教員に必要な介護教員講習会の内容（全体）

分類	件数
1. 教授方法、授業展開、シラバス、評価方法の統一	17 件
2. 各種科目について	15 件
3. 介護福祉教育に対する理解、介護福祉士像	9 件
4. カリキュラム内容	7 件
5. 学生指導について	6 件
6. 教育学等	5 件
7. 養成校の教育理念や学校運営など	3 件
8. 実習指導等	3 件
9. その他	5 件
合 計	70 件

図表 2 1 非常勤教員に必要な介護教員講習会の内容

分類	件数	具体的な記載内容（抜粋、原文のとおり記載）
1. 教授方法、授業展開、シラバス、評価方法の統一	17	<ul style="list-style-type: none"> ● 教育とは、指導方法、シラバスの構築、教員（指導者）の責務等（専門学校 2 年課程） ● 領域の目的、ねらい、教育に含む事項の留意点の各科目のすり合わせ（専門学校 2 年課程） ● 授業運営、授業評価方法などの内容（専門学校 2 年課程） ● 担当科目で教えるべき必須事項、指導の技法（四年制大学） ● 担当科目を国家試験の内容に合わせていただく必要がある（四年制大学）
2. 各種科目について	15	<ul style="list-style-type: none"> ● アセスメントの根拠（四年制大学） ● 担当科目の講習（専門学校 2 年課程） ● 人間の尊厳と自立。介護の基本（専門学校 2 年課程） ● 介護科目全てに関して（短期大学） ● もしするならば、介護過程。これは介護福祉士養成のなかでも重要であり、最終的に全ての科目が介護過程の展開に結びつかなくてはならないため（専門学校 2 年課程） ● 専門基礎分野と専門分野の全て（短期大学）
3. 介護福祉教育に対する理解、介護福祉士像	9	<ul style="list-style-type: none"> ● 介護福祉学、介護福祉教育方法等の理解があればよいのではないかと考える（四年制大学） ● 学問として「介護」を学ぶよう、「介護職」の視点を持った内容（専門学校 3 年課程）
4. カリキュラム内容	7	<ul style="list-style-type: none"> ● 指導内容について（短期大学） ● 新カリキュラムにおいて新たに加わった内容、強化される内容について（短期大学） ● 担当科目の位置づけ（四年制大学）
5. 学生指導について	6	<ul style="list-style-type: none"> ● 学生の特徴にあわせた指導方法・留意点（短期大学）
6. 教育学等	5	<ul style="list-style-type: none"> ● 教育方法、教育学、教育心理、教育評価（実習指導方法、介護過程など、その科目を教授するなら該当の内容も）（専門学校 2 年課程） ● 教育に関する基本的な知識（専門学校 2 年課程）

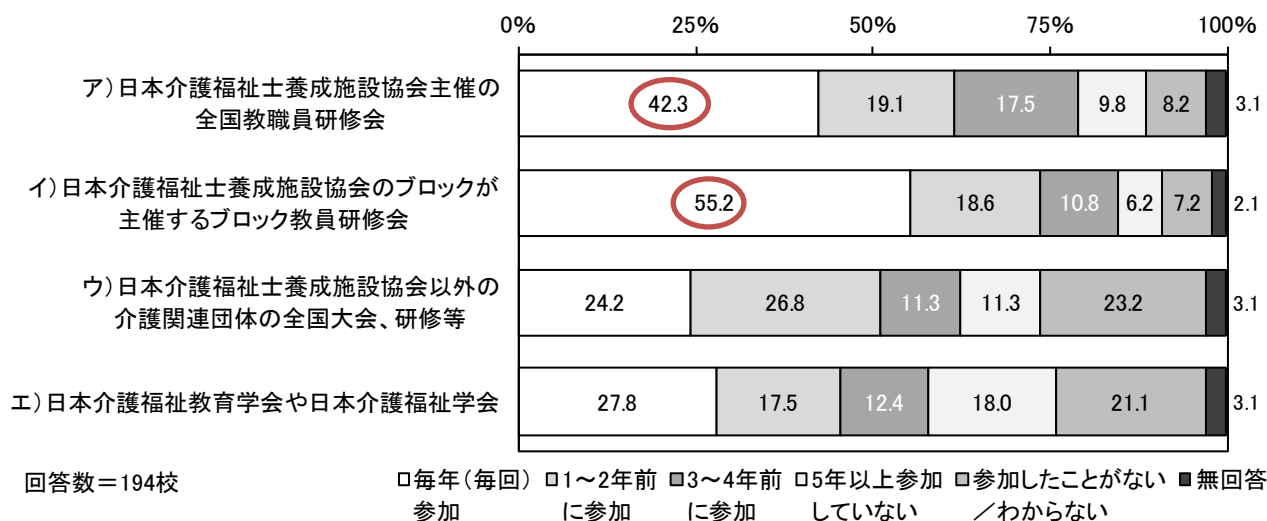
分類	件数	具体的な記載内容（抜粋、原文のとおり記載）
7. 養成校の教育理念や学校運営など	3	<ul style="list-style-type: none"> ● 介護福祉養成校の考え方、本学のアドミッションポリシー、求められる像等（四年制大学） ● 学務、教務、庶務に関すること。本学の介護福祉コースの現状。学生の様子等（四年制大学）
8. 実習指導等	3	<ul style="list-style-type: none"> ● 介護実習の仕組みの理解（短期大学）
9. その他	5	<ul style="list-style-type: none"> ● 非常勤だからという理由で変える必要はない。皆同じの方が良い（専門学校2年課程） ● 最新の介護業界について、分野別に研修が必要（専門学校2年課程） ● 初めて介護福祉士養成に携わる方にもわかりやすい研修会（専門学校2年課程） ● 養成校での事例をもとに考えた内容（専門学校2年課程）
合計	70	

6 教員の教育力向上への取組〔養成校票〕

(1) 教員の研修会等への参加状況

養成校	質問6. 貴校の教員は、以下に参加していますか。(ア～エそれぞれ1つに○)
-----	---------------------------------------

図表2-2 教員の研修会等への参加状況



図表2-3 教員の研修会等への参加状況

		ア) 日本介護福祉士養成施設協会主催の全国教職員研修会						
		合計(校)	毎年(毎回)参加	1~2年前に参加	3~4年前に参加	5年以上参加していない	参加したことがない/わからない	無回答
全体		194	42.3	19.1	17.5	9.8	8.2	3.1
学校種別	専門学校	131	34.4	19.8	19.8	11.5	9.9	4.6
	短期大学	34	58.8	17.6	14.7	5.9	2.9	0.0
	四年制大学	28	60.7	17.9	10.7	7.1	3.6	0.0
	その他	1	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0

※網掛けは「全体」を上回る値、単位は%。

		イ) 日本介護福祉士養成施設協会のブロックが主催するブロック教員研修会						
		合計(校)	毎年(毎回)参加	1~2年前に参加	3~4年前に参加	5年以上参加していない	参加したことがない/わからない	無回答
全体		194	55.2	18.6	10.8	6.2	7.2	2.1
学校種別	専門学校	131	51.1	19.1	13.0	7.6	6.1	3.1
	短期大学	34	70.6	14.7	5.9	2.9	5.9	0.0
	四年制大学	28	57.1	21.4	7.1	3.6	10.7	0.0
	その他	1	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0

※網掛けは「全体」を上回る値、単位は%。

		ウ) 日本介護福祉士養成施設協会以外の介護関連団体の全国大会、研修等						
		合計 (校)	毎年 (毎回) 参加	1~2年前に 参加	3~4年前に 参加	5年以上 参加して いない	参加した ことがない ／わからない	無回答
全 体		194	24.2	26.8	11.3	11.3	23.2	3.1
学校 種別	専門学校	131	16.0	26.7	13.7	13.0	26.7	3.8
	短期大学	34	35.3	29.4	5.9	5.9	20.6	2.9
	四年制大学	28	50.0	25.0	7.1	10.7	7.1	0.0
	その他	1	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0

※網掛けは「全体」を上回る値、単位は%。

		エ) 日本介護福祉教育学会や日本介護福祉学会						
		合計 (校)	毎年 (毎回) 参加	1~2年前に 参加	3~4年前に 参加	5年以上 参加して いない	参加した ことがない ／わからない	無回答
全 体		194	27.8	17.5	12.4	18.0	21.1	3.1
学校 種別	専門学校	131	13.7	16.8	14.5	23.7	27.5	3.8
	短期大学	34	52.9	17.6	8.8	5.9	11.8	2.9
	四年制大学	28	64.3	21.4	7.1	7.1	0.0	0.0
	その他	1	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0

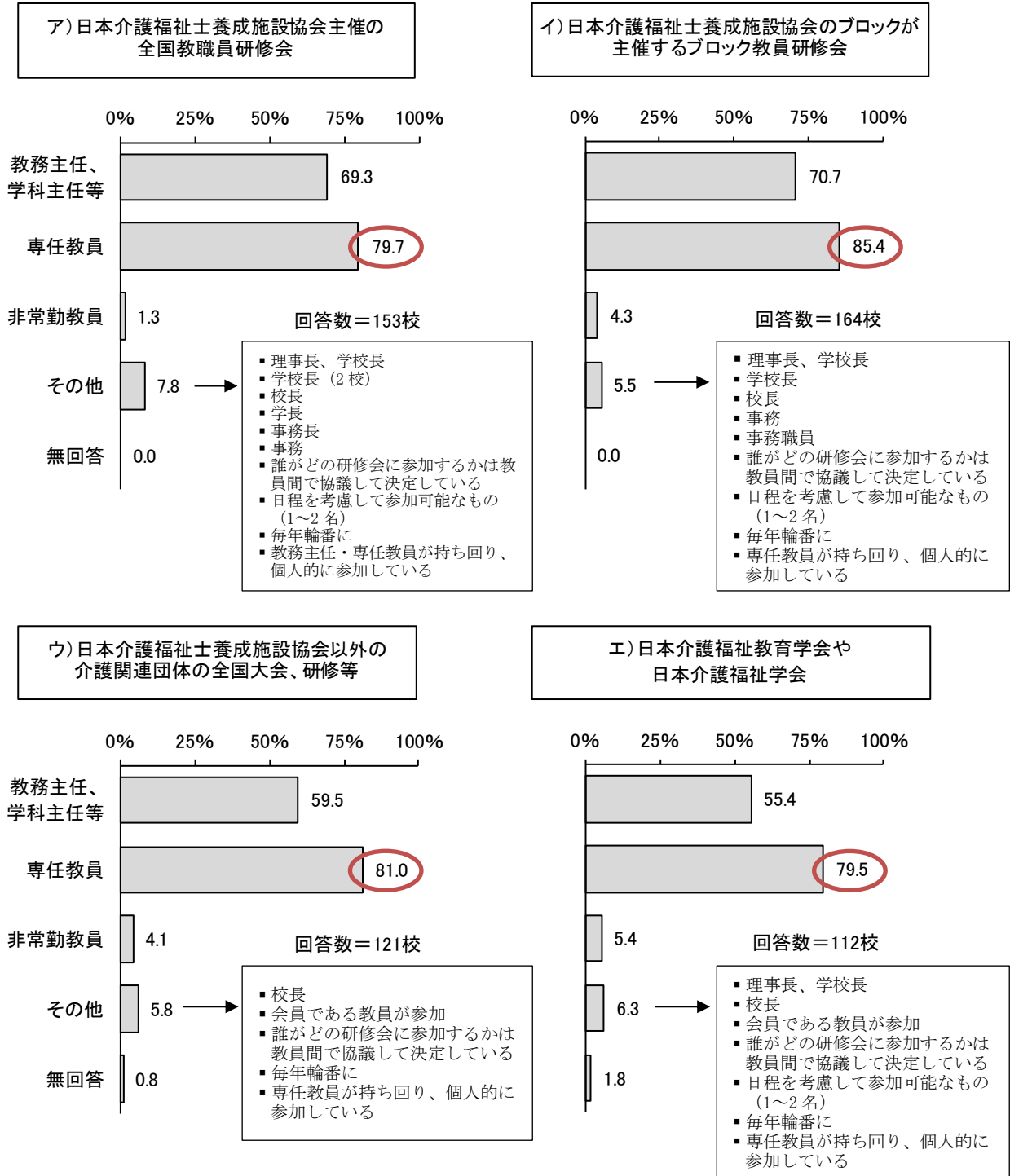
※網掛けは「全体」を上回る値、単位は%。

(2) 研修会等へ参加している教員の属性

養成校 (1) 参加している(いた)場合、どなたが参加されていますか。ア～エそれぞれについて、あてはまる番号すべてに○をしてください。

※自由記載は、原則として原文のとおり全てを掲載している。

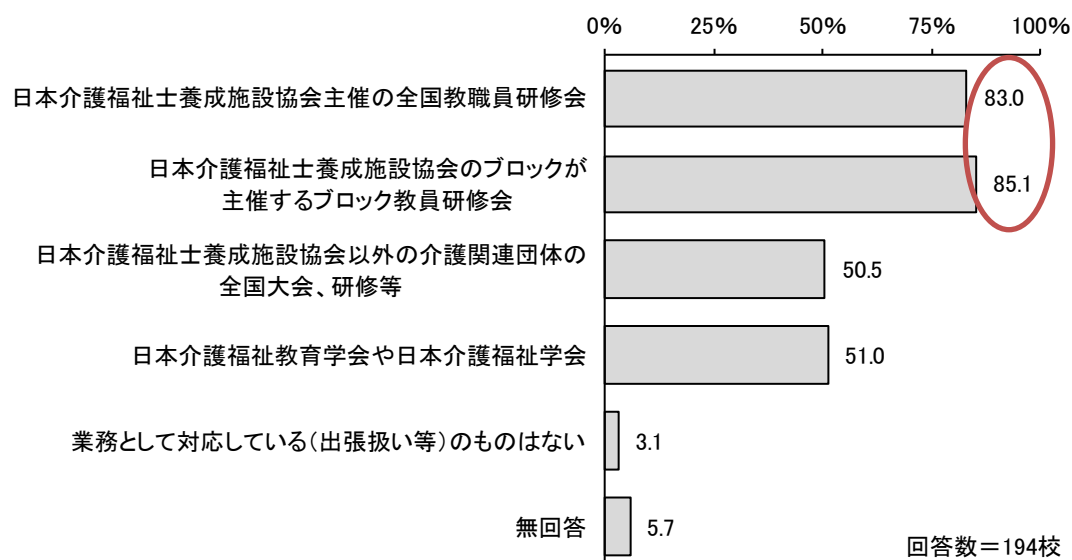
図表 2 4 研修会等へ参加している教員の属性



(3) 研修会等へ参加している場合、業務として位置づけているもの

養成校 (2) 参加している(いた)場合、業務として対応している(出張扱い等)ものに○をしてください。

図表 2 5 研修会等へ参加している場合、業務として位置づけているもの



図表 2 6 研修会への参加している場合、業務として位置づけているもの

学校種別	合計(校)	日本介護福祉士養成施設協会主催の全国教職員研修会	日本介護福祉士養成施設協会のブロックが主催するブロック教員研修会	日本介護福祉士養成施設協会以外の介護関連団体の全国大会、研修等	日本介護福祉士養成施設協会以外の介護関連団体の全国大会、研修等	日本介護福祉教育学会や日本介護福祉学会	業務として対応している(出張扱い等)のものはない	無回答
		83.0	85.1	50.5	51.0	3.1	5.7	
全体	194	83.0	85.1	50.5	51.0	3.1	5.7	
専門学校	131	78.6	84.0	45.8	46.6	3.8	6.9	
短期大学	34	88.2	88.2	64.7	58.8	2.9	2.9	
四年制大学	28	100.0	89.3	57.1	64.3	0.0	0.0	
その他	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	

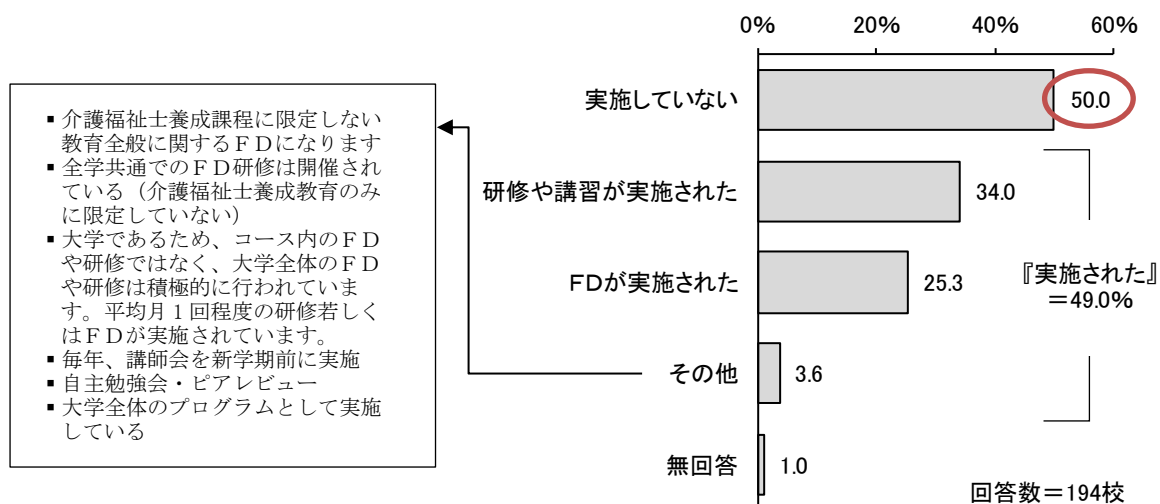
※網掛けは「全体」を上回る値、単位は%。

(4) 養成校における教育力向上に関する研修や講習、F Dの実施の有無

養成校

質問7. 貴校においては、過去3年間において、介護福祉士養成課程の教員の教育力向上に関する研修や講習、F Dが実施されましたか。
あてはまるものすべてに○をしてください。

図表2 7 養成校における教育力向上に関する研修や講習、F Dの実施の有無



※『実施された』=100-「実施していない」+「無回答」

※自由記載は、原則として原文のとおり全てを掲載している。

図表2 8 養成校における教育力向上に関する研修や講習、F Dの実施の有無

		合計 (校)	実施していない	研修や講習が実施された	F Dが実施された	その他	無回答	『実施された』
全体		194	50.0	34.0	25.3	3.6	1.0	49.0
学校種別	専門学校	131	54.2	39.7	13.7	0.8	0.8	45.0
	短期大学	34	44.1	17.6	47.1	5.9	0.0	55.9
	四年制大学	28	35.7	28.6	53.6	14.3	3.6	60.7
	その他	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

※網掛けは「全体」を上回る値、単位は%。

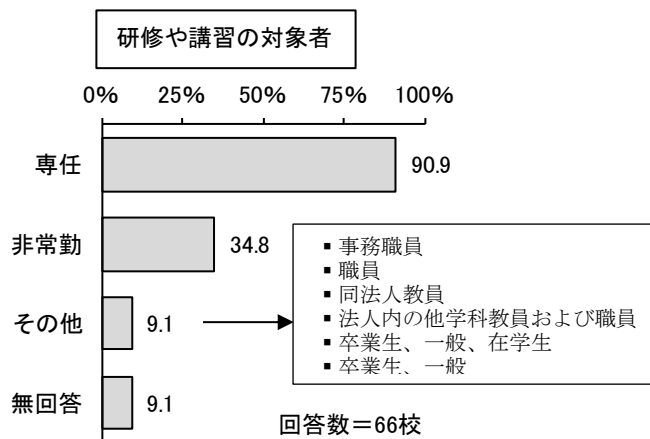
(5) 研修や講習の3年間の開催状況（実施している場合）

養成校

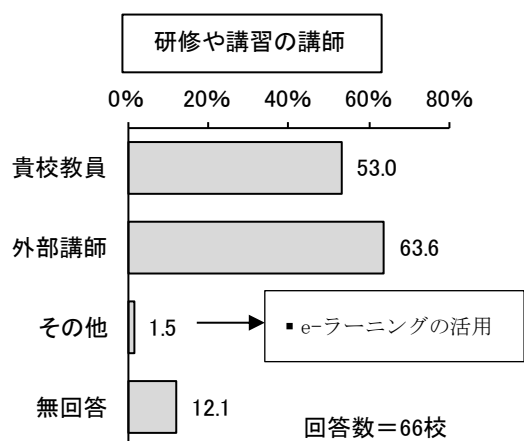
(1) 研修や講習の3年間の開催状況をお教えてください。

図表29 研修や講習の3年間の開催状況（実施している場合）

研修や講習の開催回数(回)			
	平均	最大	最小
全体	4.8	70	1
専門学校	4.8	70	1
短期大学	4.8	9	3
四年制大学	6.2	15	3



※自由記載は、原則として原文のとおり全てを掲載している。



研修や講習の参加状況(人)			
	平均	最大	最小
全体	82.3	100	30
専門学校	81.3	100	30
短期大学	85.0	100	60
四年制大学	85.6	100	30

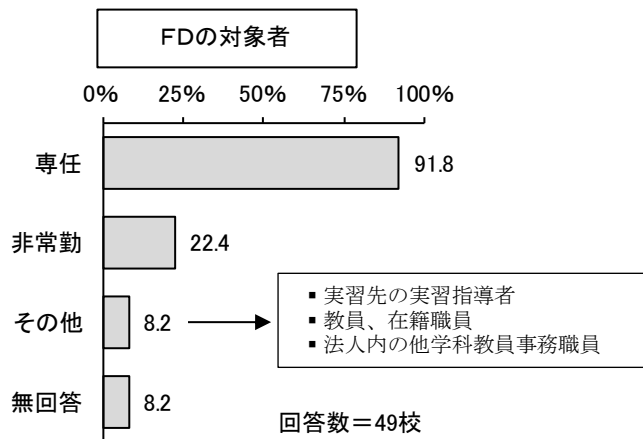
※自由記載は、原則として原文のとおり全てを掲載している。

(6) F Dの3年間の開催状況（実施している場合）

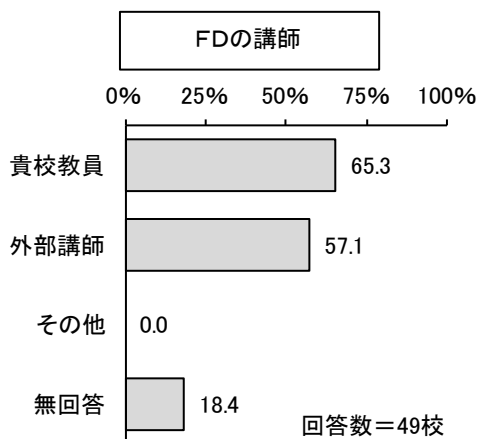
養成校 (2) F Dの3年間の開催状況をお教えてください。

図表30 F Dの3年間の開催状況（実施している場合）

F Dの開催回数(回)			
	平均	最大	最小
全体	7.5	38	1
専門学校	5.0	10	1
短期大学	9.7	38	2
四年制大学	8.3	32	3



※自由記載は、原則として原文のとおり全てを掲載している。

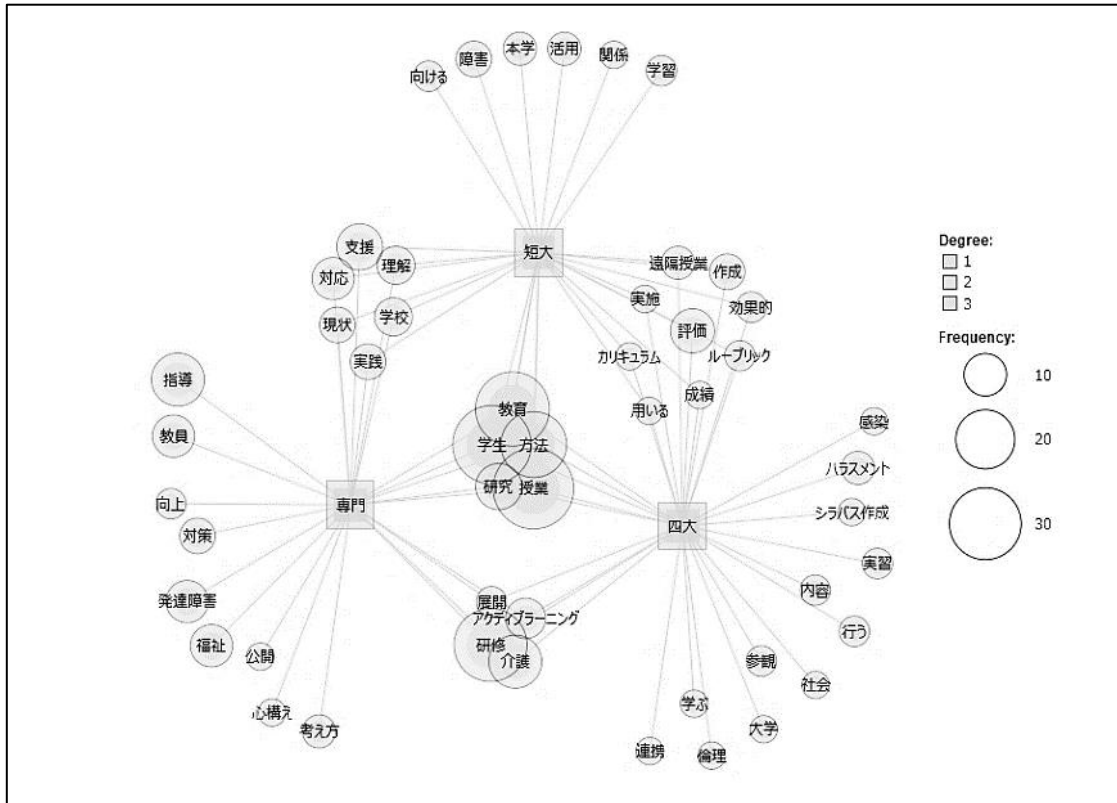


F Dの参加状況(人)			
	平均	最大	最小
全体	90.8	100	50
専門学校	91.2	100	50
短期大学	90.5	100	66
四年制大学	90.6	100	50

(7) 開催された研修や講習、F Dの具体的な内容等について（実施している場合）

養成校 ■ 開催された研修や講習、F Dの具体的な内容等について、5つお教えてください。

図表 3 1 開催された研修や講習、F Dの具体的な内容等のキーワード構造（実施している場合）



図表 3 2 開催された研修や講習、F Dの具体的な内容等について（実施している場合）

No.	所属	内容	講師	種類	対象者
1	専門	資質・能力を育てる新しい教育の考え方	内部	研修	専
2	専門	職業教育・質の保障と向上（基礎・実践）	内部	研修	専
3	専門	学生支援①	外部	研修	専, 非
4	専門	学生支援②	外部	研修	専, 非
5	専門	学生に対する考え方、接し方	外部	F D	専
6	専門	学生のレディネスと教授方法	外部	F D	専
7	専門	動機づけ理論、やる気の起きない学生に対してのアプローチ	外部	F D	専
8	専門	養成校（4校）の介護教員と、施設指導者が集まり、実習指導について研修を行った	-	研修	専
9	専門	公開授業	内部	研修	専
10	専門	シラバス作成の研修	内・外部	研修	専
11	専門	ルーブリック評価の方法	内・外部	研修	専
12	専門	授業計画、指導案	外部	研修	専
13	専門	アクティブラーニング講座	外部	研修	専, 非
14	専門	インターネット配信授業のための研修	内部	研修	専
15	専門	ライブ配信研修	外部	研修	専
16	専門	国家試験対策の方法、復習の仕方、授業（補習）の組み立て方法	内部	F D	専

No.	所属	内容	講師	種類	対象者
17	専門	授業の方法。展開について、グループワークの進め方、効果的な資料の作成方法、主体的な学習	内部	F D	専
18	専門	Zoom 研修	外部	研修	専
19	専門	学生への対応方法について理解し、今後の学生指導に活かす～発達障害の疑いのある学生への対応について～	内部	研修	専
20	専門	講演「今どきの学生を理解する」	外部	研修	専
21	専門	国家試験の傾向と対策	内部	他	専, 非, 新
22	専門	最近の学生の傾向と対策	内部	他	専, 非, 新
23	専門	本校の考えや方針	内部	他	専, 非, 新
24	専門	F Dと呼べるか微妙であるが、生活支援技術のアシスタント(助手)を少しずつ若返りさせたく、卒業生の中で現役で仕事をしている人、数名を授業外に、まず研修(心構え、助手の仕事とは)を行い、次に演習のアシスタントとして、そして正式な助手として年に数回出講してもらっている	内部	F D	新
25	専門	介護総合演習の授業に介護福祉科専任教員が全員入り、その時々授業に合わせて講義を行う教員は変わるが、毎回終了後に教員間での評価、振り返りを行い次につなげている	内部	F D	専
26	専門	校長、学校法人理事長等内部の講師が、学校の理念、YMCAの職員としての心構え、教育者に期待すること等を、ご自身の経験をもとにお話しいただく。YMCA理解、帰属意識を高めることを目的としている	内部	研修	専, 他
27	専門	アンガーマネジメント&アサーション	外部	研修	専
28	専門	障害者福祉の法制度と支援	外部	研修	専
29	専門	認知症医療とケアのトピックス	外部	研修	専
30	専門	認知症ケア	外部	研修	専
31	専門	発達障害と支援	外部	研修	専
32	専門	2020年より大学入試が変わるので、高校現場での教育現場について学んだ	外部	F D	専, 非, 新, 他
33	専門	科学研究費のコンプライアンス研修	内部	研修	専, 非, 新
34	専門	大学生の行動を引き出す授業づくりをテーマとして実践事例を紹介して頂きながら説明を受けた	外部	F D	専, 非, 新, 他
35	専門	アクティブラーニングに関する研修	内・外部	研修	専
36	専門	介護業界キャリア選択	-	-	-
37	専門	キネステティック(支援技術)	内部	研修	専
38	専門	産官学の連携	内・外部	研修	専, 非, 新, 他
39	専門	リカレント救済	内・外部	-	-
40	専門	キネステティック(支援技術)	内部	研修	専
41	専門	キャリア選択	内・外部	研修	専, 非, 他
42	専門	産官学の連携	内・外部	研修	専, 非, 他
43	専門	リカレント救済	内・外部	研修	専, 非, 新, 他
44	専門	相手に伝わる話し方	外部	研修	専
45	専門	業務管理について	内部	研修	専
46	専門	留学生の指導についての現状と今後の課題	内部	研修	専
47	専門	介護過程の展開方法(指導法)	内部	研修	専
48	専門	全国教職員研修会	外部	研修	専
49	専門	東北ブロック教員研修会	外部	研修	専
50	専門	日本介護福祉教育学会	外部	研修	専
51	専門	法人本部の研修(主任研修)	内部	研修	専
52	専門	障害平等研修	外部	-	-
53	専門	新型コロナウイルス感染と対策、ウイルスの特徴、感染現状、学院内のリスクと対策方法	内部	-	専, 他
54	専門	ストレスと問題解決力、ストレスに耐え問題を解決していく力をどのようにつけていくか	内部	-	-
55	専門	チーム医療、他職種合同講義	内部	-	専

No.	所属	内容	講師	種類	対象者
56	専門	ノーリフトケアの考え方を実践につなげるためには	外部	-	専
57	専門	「職業実践専門課程における職業教育のあり方」関係事業所の所長、実習指導者等より、求める人材像や学校での指導について意見を頂き、教育法の見直しを図る	外部	研修	専, 新
58	専門	授業公開、自身の学科、他学科の模擬授業を実施する	内部	研修	専, 新
59	専門	アクティブラーニング研修	外部	研修	専, 新
60	専門	学習障害や発達障害の学生への指導、関わり方について学ぶ	外部	研修	専
61	専門	学生募集のあり方と新たな工夫についてのグループワーク	内部	研修	他
62	専門	コミュニケーションスキルの向上に役立つ方法論の学習	外部	研修	専, 新
63	専門	豊後の歴史や言葉の語源から見えてくる文化的理解の考察を学ぶ研修	外部	研修	専, 新
64	専門	学生対応について	内部	研修	専
65	専門	授業展開について	内部	研修	専
66	専門	Google クラスルームの活用方法	外部	研修	専
67	専門	アクティビティサービスマニュアル研修	外部	研修	専
68	専門	心の健康づくり講座	外部	研修	専
69	専門	精神面の弱い学生への指導	外部	研修	専
70	専門	発達障害の特徴及び対応方法	外部	研修	専
71	専門	自分の特性を知りより良い教育につなげるには	外部	研修	-
72	専門	対応困難事例にどう立ち向かうか	外部	研修	専
73	専門	対人関係を苦手とする学生への対応	外部	研修	専
74	専門	オンラインシステムを活用した授業方法	外部	研修	専
75	専門	青年期における学生指導	外部	F D	専
76	専門	模擬授業	内部	-	-
77	専門	ベトナム現地への視察研修	外部	研修	専
78	専門	中国現地への視察研修	外部	研修	専
79	専門	指導力向上研修	内部	研修	専
80	専門	資質・能力を育てる新しい教育の考え方	内部	研修	専
81	専門	学生への教育・指導方法、各教員の授業の展開・取り組み、留学生への指導など	内部	研修	専
82	専門	教員研修会	内部	研修	なし
83	専門	公開授業	内部	-	-
84	専門	SNSに関する内容、教育方法の内容など	内部	研修	専
85	専門	介護ロボット体験、外国人介護職員の現状理解、最新福祉用具体験	外部	研修	非
86	専門	K Y T 危険予知訓練	内部	研修	-
87	専門	SWOT学校分析	内部	研修	専
88	専門	日本語教育能力向上の研修	外部	研修	なし
89	専門	学校全体としての教育指針や教育計画の周知徹底	内部	研修	専
90	専門	ハラスメント防止のための研修会	-	研修	専
91	専門	情報セキュリティー、e-ラーニング講習	-	研修	専
92	専門	授業研究	内部	F D	専
93	専門	教員としての心構え、研究授業、参観授業	内部	F D	新
94	専門	学生指導	内部	研修	専
95	専門	教育環境	内部	研修	専
96	専門	教育評価	内部	研修	専
97	専門	参観授業	内部	研修	専
98	専門	授業方法	内部	研修	専
99	専門	Itss セミナー	外部	研修	専
100	専門	キャラバン・メイト養成研修	外部	研修	専

No.	所属	内容	講師	種類	対象者
101	専門	パワーアップ研修キャリア形成編	外部	研修	専
102	専門	職員研修会	外部	研修	専
103	専門	地域における福祉教育推進研修会	外部	研修	専
104	専門	コーチングメッセージのスキル	内部	研修	なし
105	専門	レジリエンスの育て方	内部	F D	専
106	専門	研究倫理	内部	研修	なし
107	専門	P D C Aサイクル研修	外部	F D	他
108	専門	教員としての心構え	内部	研修	他
109	専門	アクティブラーニング	外部	F D	専
110	専門	アンガーマネジメント	外部	研修	専
111	専門	青年期のこころの不調と対処法	内部	研修	専
112	専門	退学防止	外部	研修	専
113	専門	伝える伝わる話しかた	外部	研修	専
114	専門	発達障害の理解や指導について	内部	研修	なし
115	専門	〔これから社会に求められる人材〕 コーピングとレジリエンス	内部	研修	専
116	専門	〔よりよい仕事・授業を追究〕 学生のよりよいところを見つけ情報を共有する	内部	研修	専
117	専門	〔教育の原点〕 「ほめる」ことが教育の原点である	内部	研修	専
118	専門	〔将来のために目指すこと〕 行動や結果に注目せずにプロセスに注目する	内部	研修	専
119	専門	〔発達障害〕 発達障害は、病気ではなく「特性」である	内部	研修	専
120	専門	介護過程	内部	研修	非
121	専門	介護現場の I O T	外部	研修	非
122	専門	学生との関わり方	外部	研修	非
123	専門	自己肯定スキル	外部	研修	非
124	専門	発達障害者・児とのかかわり	外部	研修	非
125	専門	学生確保につながる学校運営の改善について	外部	研修	専
126	専門	身の回りの細菌学	外部	研修	他
127	専門	脳科学入門	外部	研修	他
128	専門	カリキュラムについて	内部	-	-
129	専門	ワールドカフェ	内部	-	-
130	専門	授業の教授法	内部	-	-
131	専門	カラーセラピー	外部	研修	専
132	専門	学生対応	内部	研修	専
133	専門	実習事例検討	内部	研修	専
134	専門	公開授業研究会	外部	研修	専
135	専門	シラバスの組み立て方について	内部	-	専
136	専門	学生指導・カウンセリングについて	内部	-	専
137	専門	実習指導者との連携方法について	内部	-	専
138	専門	リモート授業について	内部	-	-
139	専門	介護福祉士養成の目的と学生の現状	-	-	-
140	専門	発達障害について	外部	研修	非
141	短大	支援が必要な学生に対する対応について	内部	研修	専, 非, 新
142	短大	授業アンケート結果からみえる課題について	内部	F D	専, 非, 新
143	短大	成績評価ルーブリックについて	内部	F D	専, 非, 新
144	短大	着任一年目の教員から見る、本学学生の実態と課題について	内部	F D	専, 非, 新
145	短大	本学の成績分布の現状と問題点	内部	研修	専, 非, 新
146	短大	カウンセリング技法（ソリューションフォーカストアプローチ）	外部	F D	専
147	短大	学習成果をどのように測定、可視化するか、カリキュラム・アセスメント作成ワークショップ	外部	F D	専

No.	所属	内容	講師	種類	対象者
148	短大	ポートフォリオの活用	内部	F D	専
149	短大	ライト・アクティブラーニング「橋本メソッド」疑似体験、シャトルカードを用いたアクティブラーニングの手法	外部	F D	専
150	短大	ルーブリックの効果的な活用方法	外部	F D	専
151	短大	「ティーチングポートフォリオ」の作成について	内部	F D	専, 非, 新
152	短大	コロナ渦における本学の遠隔授業の成果検証	内部	研修	専, 非
153	短大	新学部「医療技術学部」紹介及び、情報に関する情報共有、広報活動に向けて	内部	研修	専, 非
154	短大	新型コロナウイルス感染症対策に向けた取り組み	内部	研修	専, 非
155	短大	有用性のある掲示板の活用について	内部	研修	専, 非
156	短大	遠隔授業方法について	内部	F D	専, 他
157	短大	ハラスメントについて	外部	F D	専, 他
158	短大	インクルーシブ教育について	内部	F D	専, 非
159	短大	遠隔授業の方法について	外部	F D	専, 非
160	短大	Zoom の使い方	外部	F D	専, 非
161	短大	I C T教育入門	内部	F D	専
162	短大	学修成果に関する評価、研究倫理	内部	F D	専
163	短大	障害学生の理解と対応	外部	F D	専
164	短大	新型コロナウイルスにかからないために	-	F D	専
165	短大	短期大学を取り巻く現状とそれらへの対応	内部	F D	専
166	短大	教育の充実に向けて～シラバスの書き方に反映させよう～	内部	F D	専, 非
167	短大	教育評価の基本的考え方と基礎的事項	内部	F D	専, 非
168	短大	高校現場の今～高校訪問をするにあたって～	内部	F D	専, 非
169	短大	高等学校を知る	内部	F D	専, 非
170	短大	ドイツの介護福祉の現状と日本の超高齢化社会を考える	外部	F D	専, 非
171	短大	大学や短大を取り巻く状況について	内部	研修	専, 他
172	短大	当該年度の総括、学内 I T環境の促進について	内部	研修	専, 他
173	短大	本学建学の精神・四魂について	内部	研修	専, 他
174	短大	本学における高大接続入試や入試改革について	内部	研修	専, 他
175	短大	本学の建学の精神について（実践）	内部	研修	専, 他
176	短大	安心して暮らせる地域を考える～人生の最終段階に寄り添う支援とは～	内・外部	研修	なし
177	短大	北九州市愛のネットワーク事業について	外部	研修	専
178	短大	発達障害を持つ人への支援	-	F D	専
179	短大	ポータルサイトと I C T活用	外部	F D	専
180	短大	臨床宗教師と緩和ケア病棟におけるボランティアについて	外部	研修	専
181	短大	授業参観	内部	F D	専
182	短大	救護法	外部	研修	専
183	短大	協同学習、自己点検・評価相互交流会（授業力向上）	外部	研修	専
184	短大	建学の精神を踏まえた教育実践（ワールドカフェ）	内部	F D	専
185	短大	構成的グループエンカウンター（演習）	内部	研修	専
186	短大	授業研究協議会	内部	F D	専
187	短大	遠隔授業における I C T活用教育	外部	F D	専
188	短大	実習における合理的配慮	外部	F D	専
189	短大	障害のある学生の理解と支援	外部	研修	専
190	短大	アセスメント・ポリシーを踏まえた成績評価の実施について	内部	F D	専
191	短大	ティーチングポートフォリオの作成・評価とメンターの役割	外部	F D	専
192	短大	より効果的な教育を実施するためのシラバスの作成方法	内部	F D	専
193	短大	障害学生の合理的配慮について	内部	F D	専

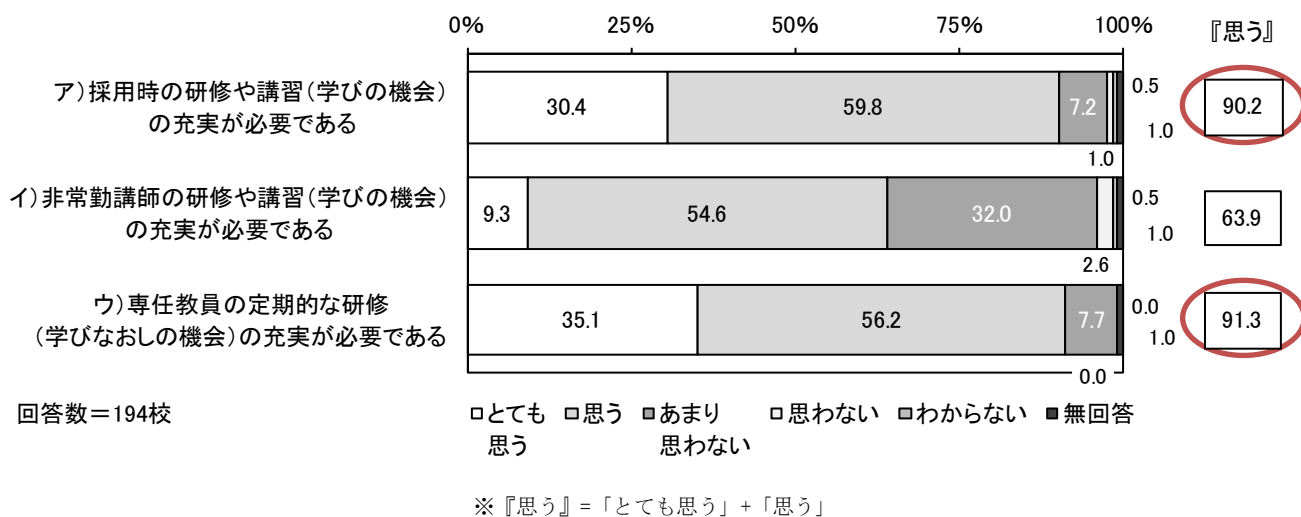
No.	所属	内容	講師	種類	対象者
194	短大	統計学の基本	外部	F D	専
195	短大	オンライン授業	内部	F D	専
196	短大	学校運営（カリキュラム等）	外部	F D	専
197	短大	学務（教務）関係	内部	F D	専
198	短大	シラバス作成について	内部	F D	専
199	短大	プレゼンテーションブラッシュアップ研修・対人関係の心理学的スキル・ビジネス心理学など	外部	F D	新
200	短大	教職協働と学生参画によるFD、SD-ベスト、クラス制定に向けて-FD、SDの意義・教職協働、学生参画でFD、SD、これからのFD、SD	外部	F D	専
201	短大	講義に使えるプレゼンテーション・プレゼンの種類と目的・授業内容の示し方	内部	F D	専
202	短大	双方向授業研修会：ICT端末を使用した双方向型授業の実現に向けて－クリッカーを用いた授業運営について－・双方向型授業とは・クリッカーの使い方など	内部	F D	専
203	四大	担当科目の相互参観（社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士、各実習報告会を含む）	内部	F D	専
204	四大	介護学専攻における就職指導について	外部	F D	専
205	四大	介護学専攻の3ポリシー（DP、CP、AP）について	内部	F D	専
206	四大	介護実習を経た後の実習教育の振り返り	内部	F D	専
207	四大	現行カリキュラムの整理と教育内容「強み」について検討	内部	F D	専
208	四大	パワーハラスメント、アカデミックハラスメント、研究倫理	内部	F D	専
209	四大	研究者のための行動範囲規範教育プログラム	外部	F D	専, 非
210	四大	シラバス作成研修	内部	F D	専, 非
211	四大	大学におけるアクティブラーニング	外部	F D	専, 新
212	四大	予測困難な時代を生き抜く人材～私たちはこんなDCU卒業生と一緒に働きたい～	内部	F D	専, 非
213	四大	コンプライアンスなど	外部	研修	専
214	四大	月1回の会議の後に、その時々に必要な教育内容、方法など実施	内部	F D	専
215	四大	ハラスメント毎年1回	外部	F D	-
216	四大	メンタルヘルス	-	F D	-
217	四大	研究倫理毎年1回	外部	研修	-
218	四大	効果的な教授法	内部	F D	-
219	四大	e-ラーニング	内部	F D	専
220	四大	ICT活用	外部	研修	専
221	四大	アクティブラーニング	内部	研修	専
222	四大	ループリック作成	外部	F D	専
223	四大	効果的な授業方法	内部	F D	専
224	四大	teamsを用いた学生とのコミュニケーション	内部	研修	専
225	四大	アクティブ・ラーニングについて	外部	F D	専
226	四大	ユニバーサル・パスポートを用いた遠隔授業、組み立てと実践報告	内部	研修	専
227	四大	障がい学生支援について	内部	F D	専
228	四大	人権と差別	外部	研修	専
229	四大	ピアレビュー	内部	他	専
230	四大	授業改善	内部	他	専
231	四大	障害のある学生への配慮	外部	研修	専
232	四大	合理的配慮	外部	研修	専
233	四大	シラバス作成	外部	研修	専
234	四大	禅の学び	外部	研修	専
235	四大	ループリックをどのように作成、活用するか～考え方、方法、新展開～	外部	F D	専
236	四大	国際的研究活動や最新の研究方法に関する講演会	内部	研修	専

No.	所属	内容	講師	種類	対象者
237	四大	新大学基準と第3期認証評価で求める内部質保証のあり方	外部	FD	専
238	四大	遠隔授業のとりくみについて	内部	FD	専
239	四大	学生の多様化とDP	内部	FD	専
240	四大	社会貢献、地域連携活動	内部	FD	専
241	四大	多様化する学生がいる中でどのように教育改革を行うか	外部	FD	専
242	四大	適性な成績評価について	内部	FD	専
243	四大	COVID-19と日常生活での感染対策	外部	FD	なし
244	四大	アクティブラーニングの仕組みと仕掛け	外部	研修	専
245	四大	ハラスメント研修会	外部	研修	専
246	四大	リカレント教育	内部	FD	専
247	四大	相互授業参観	内部	-	専

(8) 教育力向上に向けた取組の必要性

養成校	質問8. 貴校における介護福祉士養成課程の教員に対する教育力向上のための取組に関し、ア～ウそれぞれについて、あてはまる番号に○をしてください。
------------	--

図表 3 3 教育力向上に向けた取組の必要性



図表 3 4 教育力向上に向けた取組の必要性

		ア) 採用時の研修や講習（学びの機会）の充実が必要である							
		合計(校)	とても思う	思う	あまり思わない	思わない	わからない	無回答	『思う』
全体		194	30.4	59.8	7.2	1.0	0.5	1.0	90.2
学校種別	専門学校	131	34.4	59.5	4.6	0.8	0.0	0.8	93.9
	短期大学	34	20.6	58.8	20.6	0.0	0.0	0.0	79.4
	四年制大学	28	21.4	64.3	3.6	3.6	3.6	3.6	85.7
	その他	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

※網掛けは「全体」を上回る値、単位は%。

		イ) 非常勤講師の研修や講習（学びの機会）の充実が必要である							
		合計 (校)	とても 思う	思う	あまり 思わない	思わない	わからない	無回答	『思う』
全 体		194	9.3	54.6	32.0	2.6	0.5	1.0	63.9
学校 種別	専門学校	131	8.4	60.3	29.0	1.5	0.0	0.8	68.7
	短期大学	34	8.8	41.2	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0
	四年制大学	28	10.7	46.4	25.0	10.7	3.6	3.6	57.1
	その他	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

※網掛けは「全体」を上回る値、単位は%。

		ウ) 専任教員の定期的な研修（学びなおしの機会）の充実が必要である							
		合計 (校)	とても 思う	思う	あまり 思わない	思わない	わからない	無回答	『思う』
全 体		194	35.1	56.2	7.7	0.0	0.0	1.0	91.3
学校 種別	専門学校	131	38.2	55.7	5.3	0.0	0.0	0.8	93.9
	短期大学	34	26.5	61.8	11.8	0.0	0.0	0.0	88.3
	四年制大学	28	28.6	53.6	14.3	0.0	0.0	3.6	82.2
	その他	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

※網掛けは「全体」を上回る値、単位は%。

(9) 教育力向上のために必要な研修や講習、F D

養成校	質問9. 介護福祉士養成課程の教員に対する教育力向上のための取組として、具体的にどのようなテーマ、内容とする研修や講習、F Dが必要とお考えですか。
-----	--

①. 採用時_教育力向上のために必要な研修や講習、F D

図表35 採用時_教育力向上のために必要な研修や講習、F D (全体)

分類	件数
1. 教育方法や授業展開	50件
2. 学生指導、学生との接し方	26件
3. 介護福祉士養成教育の意義、目的	20件
4. 教員としての心構え、倫理観	18件
5. カリキュラム内容の理解	17件
6. 実習指導について	10件
7. 多様化する学生(留学生、発達障害等)への対応	9件
8. 評価方法	7件
9. 学校運営、職務に関すること(情報管理等)	6件
10. 養成校の教育理念などの共有	5件
11. ビジスマナー、ハラスメント等の社会規範	5件
12. 教育学等	5件
13. 介護過程の展開について	5件
14. オンライン授業について	3件
15. 介護現場と養成校の違いを理解する内容	2件
16. その他	17件
合 計	205件

図表36 採用時_教育力向上のために必要な研修や講習、F D

分類	件数	具体的な記載内容(抜粋、原文のとおり記載)
1. 教育方法や授業展開	50	<ul style="list-style-type: none"> ● 授業展開方法、効果的なグループワーク、授業資料の作成、効果的なパワーポイントの作成の仕方(専門学校2年課程) ● 授業をよりよくしていく力を伸ばす(短期大学) ● 新カリキュラム対応の教授方法(短期大学) ● 介護教育の動向、介護教育方法(カリキュラムマップ、シラバス、到達目標、授業内容、評価など)(短期大学) ● 教育方法と技術講習(専門学校2年課程) ● 授業における話し方や話の進め方など基本的なこと(専門学校2年課程)
2. 学生指導、学生との接し方	26	<ul style="list-style-type: none"> ● 学生とのコミュニケーション(その他) ● 学生の特性を踏まえた上での指導方法(専門学校2年課程) ● 生徒指導・集団指導方法、学習・教科指導方法(専門学校2年課程)

分類	件数	具体的な記載内容（抜粋、原文のとおり記載）
3. 介護福祉士養成教育の意義、目的	20	<ul style="list-style-type: none"> ● 介護福祉士養成の社会的要請を含む歴史と背景（専門学校2年課程） ● 養成課程の歴史や現状など、大枠を分かり易く理解できる研修を踏まえ、新任教員の意見交換と交流ができる研修が必要である（専門学校3年課程） ● 養成学校が養成すべき介護福祉士像の理解（四年制大学）
4. 教員としての心構え、倫理観	17	<ul style="list-style-type: none"> ● 教育とは何か、教員の役割（専門学校2年課程） ● 教員としての心構え（専門学校2年課程） ● 教授する立場としての教育者の意味づけを学ぶことが必要（短期大学）
5. カリキュラム内容の理解	17	<ul style="list-style-type: none"> ● 養成課程の内容（目的、ポイント、ねらい、具体的内容）について知ってもらう講習が必要（専門学校2年課程） ● 新任の場合はカリキュラム全体の理解（短期大学） ● 担当領域、関連領域、本校の独自科目に関すること（専門学校2年課程）
6. 実習指導について	10	<ul style="list-style-type: none"> ● 介護実習の検証を改善する力を身につける（短期大学） ● 実習施設の特徴など（専門学校2年課程） ● 本学の実習体系や実習先の理解（四年制大学）
7. 多様化する学生(留学生、発達障害等)への対応	9	<ul style="list-style-type: none"> ● 学生対応、学生多様化による授業の進め方、教育の仕方、評価の仕方等（専門学校2年課程） ● 留学生を含む学生への対応方法（専門学校2年課程） ● 障害やグレーゾーン学生の対応（専門学校2年課程）
8. 評価方法	7	<ul style="list-style-type: none"> ● 評価の方法について（四年制大学）
9. 学校運営、職務に関すること(情報管理等)	6	<ul style="list-style-type: none"> ● 学校法人としての組織のあり方（専門学校2年課程） ● 職務分掌の内容（短期大学）
10. 養成校の教育理念などの共有	5	<ul style="list-style-type: none"> ● 大学の理念や方針を教育目標と合わせ理解し、共有していく認識が必要（四年制大学） ● 本学が目指す介護福祉士像、教授法（四年制大学）
11. ビジネスマナー、ハラスメント等の社会規範	5	<ul style="list-style-type: none"> ● 社会人としての一般的な研修（専門学校2年課程） ● ハラスメント問題。あらゆるリスクマネジメント（専門学校2年課程）
12. 教育学等	5	<ul style="list-style-type: none"> ● 教育学など教員としての資質向上に関する内容（短期大学） ● 倫理（短期大学）
13. 介護過程の展開について	5	<ul style="list-style-type: none"> ● 生活支援に求められる介護過程、介護の本質について（四年制大学）
14. オンライン授業について	3	<ul style="list-style-type: none"> ● ウェブ授業等の対応（四年制大学）
15. 介護現場と養成校の違いを理解する内容	2	<ul style="list-style-type: none"> ● 介護施設と教育機関における方針の違いについて理解を深める講習等（短期大学）
16. その他	16	<ul style="list-style-type: none"> ● 介護教員講習会の内容をコンパクトにした研修（専門学校2年課程） ● 教員講習会以外では学ぶ機会を設けにくいと、県内で実施される研修会に参加してもらう。学会等へ参加して情報交換をすることで、他校教員の取り組みから自主的に学ぶことが良いかと考えます（専門学校2年課程） ● 新任者向け研修をブロック単位で考えてみてはどうか（学校単独ではOJTがやっとならぬか）（専門学校2年課程） ● 介護教員講習会や新任教員講習会は非常に有効（専門学校2年課程） ● 各地域福祉の実情がわかる研修（専門学校2年課程） ● 学生指導上、補強すべきことが生じた場合、その課題解決に生きる内容を検討した方がよいと考えている（短期大学） ● 新任教員への職場適応研修（専門学校2年課程） ● 分野別に最新の介護業界について（専門学校2年課程）
合計	205	

②. 非常勤講師__教育力向上のために必要な研修や講習、F D

図表 3 7 非常勤講師__教育力向上のために必要な研修や講習、F D (全体)

分類	件数
1. 教育方法や授業展開	31 件
2. 介護福祉士養成教育の現状、意義、目的	15 件
3. カリキュラムや到達目標の理解	13 件
4. 学生指導、学生との接し方	11 件
5. 多様化する学生(留学生、発達障害等)への対応	10 件
6. 評価方法	8 件
7. 必要ない	7 件
8. 教員としての心構え、倫理観	4 件
9. 養成校の教育理念などの共有	4 件
10. 実習指導について	4 件
11. オンライン授業について	4 件
12. 介護現場について	4 件
13. 介護過程の展開について	4 件
14. ハラスメント	2 件
15. その他	7 件
合 計	128 件

図表 3 8 非常勤講師__教育力向上のために必要な研修や講習、F D

分類	件数	具体的な記載内容(抜粋、原文のとおり記載)
1. 教育方法や授業展開	31	<ul style="list-style-type: none"> ● 授業研究や教材研究(専門学校2年課程) ● 資料が「見えにくい」、「分かりにくい」と学生が訴えてくることがある。資料作成が苦手な講師に対して実施すると効果的だと思う(専門学校2年課程) ● 本校の介護福祉士を目指す学生の学力、理解度に応じた教授法の例(専門学校2年課程) ● 授業展開の方法、分野別研修(専門学校2年課程) ● 授業方法・試験問題作成の仕方など(専門学校2年課程)
2. 介護福祉士養成教育の現状、意義、目的	15	<ul style="list-style-type: none"> ● 介護を取り巻く情勢について(専門学校2年課程) ● 介護福祉士教育の「ねらい」を理解していただくような内容(専門学校2年課程) ● 厚労省から示されている教育に含むべき事項などの周知(専門学校2年課程) ● 養成校のしくみ(法令根拠)(専門学校2年課程)
3. カリキュラムや到達目標の理解	13	<ul style="list-style-type: none"> ● 担当科目の到達目標等を含む理解を深める研修(四年制大学) ● 各担当科目における新カリキュラム内容の見直しと連携、新カリキュラムによる5つの教育内容の見直しの内容(専門学校2年課程) ● カリキュラム全体の枠組や目的を踏まえ、自らが担当する科目の位置づけを理解できる研修が必要である(専門学校3年課程) ● 新カリキュラムに移行するにあたり、変更点や力を入れて指導していただきたい内容を伝える研修が良いと思います(短期大学)

分類	件数	具体的な記載内容（抜粋、原文のとおり記載）
4. 学生指導、学生との接し方	11	<ul style="list-style-type: none"> ● 学生との関わり方、支援方法（短期大学） ● 学生意欲の喚起（その他） ● 学生理解、指導方法（専門学校2年課程）
5. 多様化する学生（留学生、発達障害等）への対応	10	<ul style="list-style-type: none"> ● 外国人留学生への教育方法（専門学校2年課程） ● 自習困難学生の自習支援方法、発達障害のある学生の学習支援（専門学校2年課程） ● 留学生への効果的な伝え方（専門学校3年課程）
6. 評価方法	8	<ul style="list-style-type: none"> ● 各科目と学生の各段階別到達状況との関連（四年制大学） ● 成績評価について（短期大学）
7. 必要ない	7	<ul style="list-style-type: none"> ● 非常勤講師にあたっては、現場で実習生や職員を監督する立場にある方々で、専門性の高い講師陣ばかりなのであまり必要と思えない（専門学校2年課程） ● 本学プログラムでは資格等に特化した独自のプログラムを担当しており、現時点で特別な研修は検討していない（短期大学） ● 専任教員の資質向上のため研修会の実施は必要だが非常勤講師に関しては、基本、専門領域における分野に関し、学生の知識力向上を目的にしているため、非常勤講師の介護教員研修会は不要と考える（専門学校2年課程）
8. 教員としての心構え、倫理観	4	<ul style="list-style-type: none"> ● 介護3領域の理解（短期大学） ● 教育力向上ではないかもしれませんが、本人の性格、資質、考え方について（専門学校2年課程） ● 心構え、現場と教育（学校）の違い（短期大学）
9. 養成校の教育理念などの共有	4	<ul style="list-style-type: none"> ● 学校の教育方針などの特徴や理念。養成課程の中で、何をねらいとする科目を担当してほしいのかを、できるだけ具体的に伝える（専門学校2年課程） ● 専任教員と教育内容、学生指導などの情報共有や連携について（専門学校2年課程）
10. 実習指導について	4	<ul style="list-style-type: none"> ● 学生の学習プロセスを実習受け入れ先に説明できるレベルの知識（四年制大学）
11. オンライン授業について	4	<ul style="list-style-type: none"> ● オンライン授業および手法（短期大学） ● SNS、Zoomの活用（専門学校2年課程）
12. 介護現場について	4	<ul style="list-style-type: none"> ● 介護の現場、介護に必要な知識（専門学校2年課程） ● 介護現場で必要とされる人材について（専門学校2年課程） ● 介護施設の現状理解（人材・福祉用具・施設の役割）（専門学校2年課程）
13. 介護過程の展開について	4	<ul style="list-style-type: none"> ● 介護過程の展開（専門学校2年課程）
14. ハラスメント	2	<ul style="list-style-type: none"> ● ハラスメント（専門学校2年課程）
15. その他	7	<ul style="list-style-type: none"> ● 本学校や元勤務校での教育実績や福祉施設などでの実務経験に応じた担当科目への取り組みに役立つもの（四年制大学）
合計	128	

③. 専任教員__教育力向上のために必要な研修や講習、F D

図表 3 9 専任教員__教育力向上のために必要な研修や講習、F D (全体)

分類	件数
1. 教育方法や授業展開	34 件
2. その他教育力向上のための取組	22 件
3. 学生指導、学生との接し方	20 件
4. 多様化する学生(留学生、発達障害等)への対応	17 件
5. 新しい情報について	15 件
6. 実習指導について	10 件
7. 介護現場の状況把握	10 件
8. 介護過程の展開について	9 件
9. 評価方法	7 件
10. カリキュラム内容の理解	6 件
11. 介護協など外部の研修や他校の取組を学ぶ	6 件
12. オンライン授業、ICT 等の活用	4 件
13. 教育学等	4 件
14. 教員としての心構え、倫理観	3 件
15. 科目間の連携	3 件
16. 国家試験対策	3 件
17. 学び直し	3 件
18. その他	17 件
合 計	193 件

図表 4 0 専任教員__教育力向上のために必要な研修や講習、F D

分類	件数	具体的な記載内容 (抜粋、原文のとおり記載)
1. 教育方法や授業展開	31	<ul style="list-style-type: none"> ● カリキュラム変更時、教育内容の見直しにおけるシラバス作成について (短期大学) ● 教授法について、科目ごとの連携の取り方、多様な学生に対する指導方法、教材について (専門学校 2 年課程) ● 具体的な授業の展開方法、実際の授業の見学とその振り返り、対策 (専門学校 2 年課程) ● 授業方法・試験問題作成の仕方など (専門学校 2 年課程) ● 授業方法についての検討会 (四年制大学)
2. 学生指導、学生との接し方	20	<ul style="list-style-type: none"> ● 学生に対する対応、指導方法・ストレスマネジメント (専門学校 2 年課程) ● 学生指導に必要な内容(カウンセリングやトラブルの対応など) (専門学校 2 年課程)
3. その他教育力向上のための取組	20	<ul style="list-style-type: none"> ● 授業の相互見学と意見交換 (専門学校 2 年課程) ● 専門的スキルの向上につながる研修。求められる介護福祉士像につながる研修 (専門学校 2 年課程) ● 年 2 回、職業教育実践、不定期に外部より、自己主導的学習への移行をテーマに実施 (専門学校 2 年課程)

分類	件数	具体的な記載内容（抜粋、原文のとおり記載）
		<ul style="list-style-type: none"> ● 教育上のPDCAサイクル（学生の授業評価を土台とした教育方法の改善策などについて）に関する理解（短期大学） ● 教育力を高めるため事例などを用いた研修会（専門学校2年課程） ● 模擬授業などで、自分自身の授業の評価があるといい。現在は、授業評価で自己分析を行っている（専門学校2年課程）
4. 多様化する学生（留学生、発達障害等）への対応	17	<ul style="list-style-type: none"> ● 意欲の低い学生への対応方法（短期大学） ● 今外国人留学生が増えてきているため、様々な実践報告会があると良いように思えます（全国大会等との調整でカバーが可能かもしれませんが）（専門学校2年課程） ● 留学生への指導方法、様々な学生への支援方法、授業の工夫の取り組み（短期大学） ● 発達障害やグレーゾーンの学生への指導（専門学校2年課程）
5. 新しい情報について	15	<ul style="list-style-type: none"> ● 新しい教育方法、倫理学、話題の講師による学びの機会、実践している教育現場の見学学習（短期大学） ● 関連分野における先端的な知識・技能の習得ができる研修（専門学校3年課程） ● 最新の技術を学ぶ研修。現場を意識した授業について（専門学校2年課程） ● 社会情勢の変化に伴う介護福祉養成の変化、目標とすること。特にカリキュラム改正時の研修（専門学校2年課程） ● 新介護福祉士養成教育課程に対応した教育内容や方法に関する講習や研修（四年制大学） ● 新カリキュラムに移行するにあたり、他科目間での共通理解が必要と思うため、そのような研修が良いかと思えます（短期大学） ● 最新の介護現場の取り組みや介護保険制度等の変更点の研修など（専門学校2年課程）
6. 実習指導について	10	<ul style="list-style-type: none"> ● 実践指導法及び実習書式等の研修や意見交換（専門学校2年課程） ● ノーリフティングについて、実習指導について（短期大学） ● 介護実習の展開（実習指導者との連携方法）（専門学校2年課程）
7. 介護現場の状況把握	10	<ul style="list-style-type: none"> ● 介護現場や在宅現場を常に把握できる研修（短期大学） ● 現場の状況を知る上でも、現場（施設）との連携を深める研修等（専門学校2年課程） ● 今後の介護業界についての意見交換（専門学校2年課程） ● 介護現場の実情（介護技術）（専門学校2年課程） ● 実践現場における体験研修（専門学校2年課程）
8. 介護過程の展開について	9	<ul style="list-style-type: none"> ● 介護過程等の専門的な内容に関するもの（その他） ● 生活支援に求められる介護過程について（四年制大学）
9. 評価方法	7	<ul style="list-style-type: none"> ● ルーブリック評価等（短期大学） ● 教育評価（四年制大学）
10. カリキュラム内容の理解	6	<ul style="list-style-type: none"> ● カリキュラムに対する理解を深められるもの（専門学校2年課程） ● カリキュラムの見直し時にその内容について（専門学校2年課程）
11. 介養協など外部の研修や他校の取組を学ぶ	6	<ul style="list-style-type: none"> ● 介養協研修に参加（専門学校2年課程） ● 現状の力量としては外部研修に頼らざるを得ない。研修費等の確保が難しい状況ですが、学会や研修会に参加して、他校の取り組み方や他教員から学ぶことがよいと考えています（専門学校2年課程） ● 全国の養成施設の現状や学生の国試合格率等の最新の情報を知る機会、他校が実践している教育の取り組み（専門学校2年課程）
12. オンライン授業、ICT等の活用	4	<ul style="list-style-type: none"> ● オンライン授業および手法といった再学習（または新たな手法・技術の学び直し）（短期大学）
13. 教育学等	4	<ul style="list-style-type: none"> ● 教育学概論。専任教員の論文発表聴講の機会がある（専門学校2年課程） ● 質の高い介護福祉士を養成するための教学マネジメント（新任教員、中堅教員、主任教員等の階層別の研修）（四年制大学）

分類	件数	具体的な記載内容（抜粋、原文のとおり記載）
14. 教員としての心構え、倫理観	3	<ul style="list-style-type: none"> ● 介護福祉士をベースとしない有資格者（看護師、PT、OT等）の教員に対する福祉援助職の価値、倫理、教育。倫理的思考に関する基礎教育（専門学校2年課程） ● 教員相互の教育観等について話し合う（短期大学）
15. 科目間の連携	3	<ul style="list-style-type: none"> ● 教育内容の見直し、連携の必要性（四年制大学） ● 科目間連携を促進する教育方法（カリキュラムマップ・カリキュラムツリーの作成など）（四年制大学）
16. 国家試験対策	3	<ul style="list-style-type: none"> ● 国家試験合格に向けての策略・分析方法の研修（専門学校2年課程）
17. 学び直し	3	<ul style="list-style-type: none"> ● それぞれの科目に対しての学び直し、またカリキュラムに合わせた研修（専門学校2年課程） ● 教員講習会内容の学びなおし（最新の知見）など（短期大学）
18. その他	14	<ul style="list-style-type: none"> ● 必要性を感じるが余裕がない（専門学校2年課程） ● 現状で十分だと考えています（四年制大学） ● 専任教員らは、各人教育・研究に日々努めており、学生からの授業評価や他教員の授業参観等の機会を通じて自己点検を細かく行っている。よって、教育力向上のため、且つ定期的な研修会などは必要ないと考えている（短期大学）
合計	193	

(10) 養成校における教育力向上の取組の課題

養成校	質問10. 貴校における介護福祉士養成課程の教員に対する教育力向上のための取組（研修や講習、FD）について、課題と感じていることをお聞かせください。
-----	--

図表4-1 養成校における教育力向上の取組の課題（全体）

分類	件数
1. 時間や余裕がない	37件
2. 専門性を高める研修が不十分	8件
3. 教員の連携や教育方法等の共有が必要	8件
4. 多様化する学生に対する指導	7件
5. 研修会等への参加が難しい	7件
6. 費用など学校のサポート体制が不足	7件
7. 講師の確保など開催に課題がある	5件
8. 学生数の減少	4件
9. 教員の確保が困難	4件
10. 教育方法の見直しが必要	4件
11. 教員の資質の問題	3件
12. 個人的な取り組みとなっている	3件
13. 授業方法のスキルアップ	2件
14. 介護現場を知る研修が必要	2件
15. マンネリ化	2件
16. 研修体制がない	2件
17. モチベーションの維持	2件
18. 教員の評価、目標管理	2件
19. その他	10件
合 計	119件

図表 4 2 養成校における教育力向上の取組の課題

分類	件数	具体的な記載内容（抜粋、原文のとおり記載）
1. 時間や余裕がない	37	<ul style="list-style-type: none"> ● 学生の対応や業務に追われており、自分を高める取り組みができていない。余裕がないので考えることができない状況である（専門学校2年課程） ● 教員のマンパワーにより、新人教育への充実がない。雑務、事務作業及び、合理的配慮（発達障害）が必要な学生の対応、留学生の語学力向上のための個別指導等に時間を要している（専門学校2年課程） ● 業務が多忙。最小限の人材で対応。ゆとりがない（専門学校2年課程） ● 研修等、教育力向上のための取り組みを増やしたい思いはあるが、日々の業務が多く、時間に追われているのが現状。オンラインやDVDなど、受講しやすい研修があれば活用したい（専門学校2年課程） ● 教育力向上に関する参加意欲が高いものの、学生指導（とりわけコロナ禍対応も加わり）十分な研修時間を割く余裕がないことです（短期大学） ● 雑用におわれ、集中して自己研鑽に取り組む時間が取れないこと（四年制大学） ● 多様な学生指導に翻弄されていることや、担当科目などの本来業務が多くて教員が疲弊をしていること（四年制大学）
2. 専門性を高める研修が不十分	8	<ul style="list-style-type: none"> ● 国家試験対策に多くの時間を割き、本来の介護教育である尊厳や自立支援についての内容が不足しているのではないかと思う（専門学校2年課程） ● タイムリーな必要性に応じた研修に傾いてしまう。系統的な内容をいかに創り上げるかが課題（短期大学） ● 多様な学科の集まりであるため、各々の学科の状況に応じた研修の機会が少ない（専門学校2年課程） ● 大学の教員としての全体的なものは受けているが、介護福祉士養成課程等に特化したものはないため課題と感じている（四年制大学） ● 文部科学大臣認可の職業実践専門課程でも必須要件になっているが、教育力向上のための研修と共に個々の教員の専門性を高めるための研修がバランス良く行われる必要がある（専門学校3年課程）
3. 教員の連携や教育方法等の共有が必要	8	<ul style="list-style-type: none"> ● 教員が個別に研修や講習に参加しているので、その内容を共有していくこと（短期大学） ● 教員による学生対応に差が出ないようにする。科目相互の教育内容と教授法についてなど（短期大学） ● 教員全員が教科の連携をとるために話し合う機会（専門学校2年課程） ● 大学のため、各教員の判断に委ねられている内容が多く、なかなか一貫性が取りにくい（四年制大学）
4. 多様化する学生に対する指導	7	<ul style="list-style-type: none"> ● 外国人留学生、高校を卒業したばかりの学生、社会人経験のある学生の学級運営と、専門的知識を学ばせる教育方法についての効果的な方法（専門学校2年課程） ● 教育方法等についてはもちろんのこと、社会人が多くなった今、学生指導についての研修等（専門学校2年課程） ● 出身国多様な留学生への効果的な教育技法。教育ツール活用を共有し、組織的協働を高めること（専門学校2年課程）
5. 研修会等への参加が難しい	7	<ul style="list-style-type: none"> ● 兼務講師が多いため、研修参加率が悪い（専門学校2年課程） ● 距離、時間の問題があり、県外で開催される研修会や講習会に参加する機会が少ない（専門学校3年課程） ● 現在コロナ禍であり、他県等へ行き研修を受けることが難しい状況にあり、オンライン研修もなかなかハードルが高いと感じている（短期大学） ● 参加できない方への対応、コロナ禍での対応（専門学校2年課程） ● 平日は授業があるため、外部研修に参加することが難しい。教員の学びの機会を増やすことが課題である（専門学校2年課程）
6. 費用など学校のサポート体制が不足	7	<ul style="list-style-type: none"> ● ぎりぎりの人数であり学生数も厳しく、出張・研修にかかる予算確保が難しい（行きたくても行けない）（専門学校2年課程） ● 研究のサポート体制が不十分で、個人の時間を削ることが多い。費用面でも、個人の裁量で研修や講習を決定できない（専門学校2年課程）

分類	件数	具体的な記載内容（抜粋、原文のとおり記載）
		<ul style="list-style-type: none"> ● 値段が高いことで、学校側から研修に参加させてもらえないこと（専門学校2年課程） ● 定期開催が滞っている。離島ゆえ派遣研修（特に県外）にコストがかかるため研修機会を確保できない。非常勤講師への研修機会が確保できていない（専門学校2年課程）
7. 講師の確保など開催に課題がある	5	<ul style="list-style-type: none"> ● カリキュラム充実に向けた教育方法や教材研究を学会として実施しているが、外部講師等の依頼がなかなかできない。県内養成校4校で持ち回りの教育研修も、日程調整をするが参加率が悪い現状がある（専門学校2年課程） ● 取り組みに対してのハードルの高さ（専門学校2年課程） ● 普通の業務の中で定期的に教育力向上を行うのは難しいと思われるので、介養協等で積極的に研修等（リモートで）を行っていただけるとありがたいです（専門学校2年課程）
8. 学生数の減少	4	<ul style="list-style-type: none"> ● 学生が集まらない、職業の人気の低下（専門学校2年課程） ● 学生数が少ないため手厚いこまごまとした授業はできるが、多人数のなかで、もまれる訓練ができていない（四年制大学）
9. 教員の確保が困難	4	<ul style="list-style-type: none"> ● 新任教員の教育係となれる教員を確保できるだけの人的余裕がない（専門学校2年課程） ● 人員不足のため、満足に授業準備ができておらず、研修に取り組む余裕がない（専門学校2年課程）
10. 教育方法の見直しが必要	4	<ul style="list-style-type: none"> ● 教育内容の関連性や教授方法の見直し（四年制大学） ● 本学の場合は介護福祉教員としての経験年数も長く、教育への取り組み、学生対応へのスキルは各教員が身につけ、主体的に教育活動、研究活動を実施している。今後の課題としては、質の高い介護福祉士を養成するための体系的な教育方法の再検討と、各教員が教学マネジメントに磨きをかけることが課題と考えている（四年制大学）
11. 教員の資質の問題	3	<ul style="list-style-type: none"> ● 学生の資質と教員が求める資質の差が大きい。その差を埋める努力をする教員とそうでない教員とで学生の対応に差が生じることで、教育方法に差が生じる（専門学校2年課程）
12. 個人的な取り組みとなっている	3	<ul style="list-style-type: none"> ● 個人の研究や課題の解決で終了している（短期大学） ● 持ちコマが多く、個人的な取り組みに任されている点（四年制大学） ● 日常業務で塞がってしまっているという印象。「教育力向上」というテーマは各々に任されている感じがする（専門学校1年課程）
13. 授業方法のスキルアップ	2	<ul style="list-style-type: none"> ● 介護福祉士がベースの講師陣の授業スキルアップ。看護師ベースの経験者に比べ、授業の完成度やパワーポイント等の教材づくりにおいても基礎的な力が不足していると感じる（専門学校2年課程）
14. 介護現場を知る研修が必要	2	<ul style="list-style-type: none"> ● 教員の退職がないと新採用の機会がない。各教員の資質向上のためには研修会の機会は重要である。また、福祉現場から長い期間離れているので、現場の現状把握に努めることが課題である。現場と連携し、実践につなげられる教育を心掛ける必要がある（専門学校2年課程） ● 介護現場における実践的な研修や講習が課題であると感じる（四年制大学）
15. マンネリ化	2	<ul style="list-style-type: none"> ● 現場経験が少ない教員の授業のマンネリ化（専門学校2年課程） ● 長年勤務している教員ばかりで、組織がマンネリ化している（専門学校2年課程）
16. 研修体制がない	2	<ul style="list-style-type: none"> ● 本学における研修体制の組織がないので、体制作りから始めてみたい（短期大学） ● 研修方法が確立していない、指導教員がはっきりしていない（専門学校2年課程）
17. モチベーションの維持	2	<ul style="list-style-type: none"> ● モチベーションの維持（専門学校2年課程）

分類	件数	具体的な記載内容（抜粋、原文のとおり記載）
		<ul style="list-style-type: none"> ● 教育力を測定するものがなく、授業展開や学生との関わりに工夫を行っても、教員の自信につながらないことがある。教員の教育が結果（学生の成績や態度）に現れていても、教員に実感がわかず自信が持てない場合に、どのような心理的支援を行うか悩むことがある（専門学校2年課程）
18. 教員の評価、目標管理	2	<ul style="list-style-type: none"> ● SWOT、BSCを活用し目標管理を行う（専門学校2年課程） ● 教員が教員を評価することは行っているが、頻度を増やしたり、評価項目をさらに考慮することで教育の質は向上しうるのではないかと考える（専門学校2年課程）
19. その他	10	<ul style="list-style-type: none"> ● 研修の種類（専門学校2年課程） ● 受講後の効果ははっきりしない（効果を報告する機会がない）（短期大学） ● 授業によって国家試験関連科目の得点向上が難しい点（専門学校2年課程） ● 日常の業務に追われてしまっていることで、研修の時間を取りにくくなっている。その中でも、今年はオンラインでの授業を行ったことで授業の工夫の仕方に苦慮したところがあったため、オンラインでの教育法などが課題と考える（専門学校2年課程）
合計	119	

〔 B 教員対象／結果のポイント 〕

※以下では短期大学を「短大」、四年制大学を「大学」と表記している。
※文頭の【 】は参照ページを示している。

(1) 回答教員数は 652 人

【64 頁～】本調査の回答教員数は 652 人である。男女比は 3 : 7、年齢は 40～50 代が 67.5%を占めている。

所属先別では、専門学校教員 64.8%、短大 17.3%、大学 16.4%である。

職位は、専任講師 66.4%、准教授 8.6%、教授 7.2%、非常勤講師 6.7%、助教 5.1%

【66 頁】介護福祉士養成校の教員経験年数は 0～2 年未満 7.2%、2～5 年未満 15.3%、5～10 年未満 24.5%、10～15 年未満 17.6%、15 年以上 33.9%である。

本調査研究の 1 つに非常勤や新任教員の教育力向上という課題があるが、調査の回答者における非常勤教員の割合は低く、また経験年数は相対的に長い教員の回答が多い結果となった。

(2) 求められる介護福祉士像の理解度など、非常勤教員は他に比べて理解の割合が低い

【69 頁】求められる介護福祉士像の理解度：「理解し、意識して養成教育にあたっている」は 60.0%、「知っており、ある程度理解している」は 34.7%である。理解度は、教員経験年数が長いほど理解をしている傾向にある。非常勤教員は他に比べて理解の割合は低い結果となった。

【70 頁】領域の目的、教育内容のねらい、教育に含むべき事項の留意点の認知度：領域の目的は 84.2%、教育内容のねらいは 78.7%、教育に含むべき事項の留意点は 70.2%が知っているという回答し、いずれも知らない割合は 2.8%である。非常勤教員はいずれも知らない割合が 18.2%であり、認知が相対的には低い状況にある。経験年数が長いほど、認知の割合が高くなる傾向にある。

【72 頁】介護福祉士養成課程における習得度評価基準の理解度：「理解し、意識して養成教育

にあたっている」は 28.4%、「知っており、ある程度理解している」は 42.5%、これらを合わせた理解をしている割合は 70.9%である。教授、准教授、助教、専任教員は理解している割合が 7 割を超えているが、非常勤教員は 54.5%と低い。

(3) 教育上の課題は所属先による差がみられる

【73 頁～】教員が課題と感じている上位は、他の科目との教育内容の連携 61.7%、個人差に対応した授業の展開(外国人留学生対応を含む)57.7%、個別の指導等(生活指導、カウンセリング等)を必要とする学生への対応 57.8%、新たな資料や教材の開発 45.1%、介護実習との連携 43.4%である。

“新カリキュラムに対応した授業”や“授業の展開方法”、“介護実習との連携”は専門学校 > 短大 > 大学の傾向で課題と感じている割合が高い。反対に、他の科目との教育内容の連携は大学 > 短大 > 専門学校の傾向で課題と感じている割合が高い状況となっている。

所属先別に差異が大きいのは、個人差に対応した授業の展開(外国人留学生対応を含む)及び個別の指導等(生活指導、カウンセリング等)を必要とする学生への対応であり、これらは専門学校において課題としてあげられている割合が高い。

(4) 教育力向上への取り組みは、相対的に専門学校教員の参加割合が低い

【80 頁～】養成校で実施されている研修・講習・FD、自主的な勉強会や研究会については、毎年(毎回)参加している割合が最も高い一方で、日本介護福祉士養成施設協会主催の全国教職員研修会、同協会ブロック主催のブロック教員研修会、同協会以外の介護関連団体の全国大会・研修等、日本介護福祉教育

学会や日本介護福祉学会等は全て、参加したことがない（開催されていない）が高い割合であり、外部機関での受講割合は高くない結果となっている。

研修や講習への受講・参加に共通することは、所属先別による違いが明確であり、大学＞短大＞専門学校の傾向がみられる。同協会以外の介護関連団体の全国大会・研修等、日本介護福祉教育学会や日本介護福祉学会等などはその差が顕著であり、専門学校教員の参加は低位である。

（５）教員が希望する研修や講習等は、学生対応と授業方法に関する内容

【90 頁～】留学生への対応、授業展開、多様化する学生への対応、遠隔授業やオンデマンド授業、介護過程、実習、アクティブラーニング、学生の学力格差への対応などが上位にあげられた内容である。

（６）介護教員講習会の専門分野について、学び直し等の必要性を感じている教員が多い

【97 頁～】専門基礎分野の教育評価のほか、専門分野である介護福祉学、介護教育方法、学生指導・カウンセリング、実習指導方法、介護過程の展開方法に対する学び直しや受講の必要性をあげる意見が高かった。

「とても必要」の割合が最も高かったのは介護過程の展開方法、「とても必要」と「必要」を合わせた割合が最も高かったのは教育方法と学生指導・カウンセリングである。

（７）介護教員講習会の専門基礎分野、専門分野の学びは、新任者に「とても必要」

【100 頁～】新任者が修得しておく必要があると考える介護教員講習会の科目は、専門基礎分野、専門分野について、科目全てにおいて「とても必要」の割合が最も高かった。

（８）48.4%が介護教員講習会の見直しを希望

【113 頁～】見直しが「とても必要」「必要」と考えている割合は合計して 48.4%であり、大学において割合が高くみられた。

【103 頁～】見直しが必要と考える介護教員講習会の科目の上位は介護過程の展開方法、学生指導・カウンセリングである。

【109 頁～】また、新カリキュラムに対応した講習会の内容、講師や会場による講習内容の差をなくす、継続的な研修や更新制の導入をしてほしい、受講場所が少ない、オンラインでの講習会希望などの意見もあげられている。

（９）介護教員講習会の専任教員以外への義務づけは、とても必要 10.4%、必要 36.7%

【114 頁～】養成校からの回答では、非常勤教員の介護教員講習会受講は『必要』が 40.7%であったが（30 頁）、教員の回答では、とても必要 10.4%、必要 36.7%であり、合せて 47.1%が必要と回答している。

（10）教員が研修や講習、FDの必要性が高いと考えているのは、採用時＞専任教員＞非常勤教員

【118 頁～】採用時、非常勤教員、専任教員について、それぞれ研修や講習の充実が必要であるかをたずねたところ、「とても必要と思う」「必要と思う」を合わせた割合が高かったのは採用時（35.9%+47.1%=83.0%）、続いて専任教員（36.5%+46.0%=82.5%）、必要と思う割合が最も低かったのは非常勤教員（18.7%+47.7%=66.4%）となっている。

同じ質問を養成校への調査でも行っているが（49 頁）、養成校側は専任教員、教員自身は採用時の研修や講習等が重要と考えている結果となっている。また、両調査ともに非常勤教員に対する必要性は相対的に低くなっているが、非常勤教員自身の回答をみると「とても必要」と考えている割合が高いことがわかった。

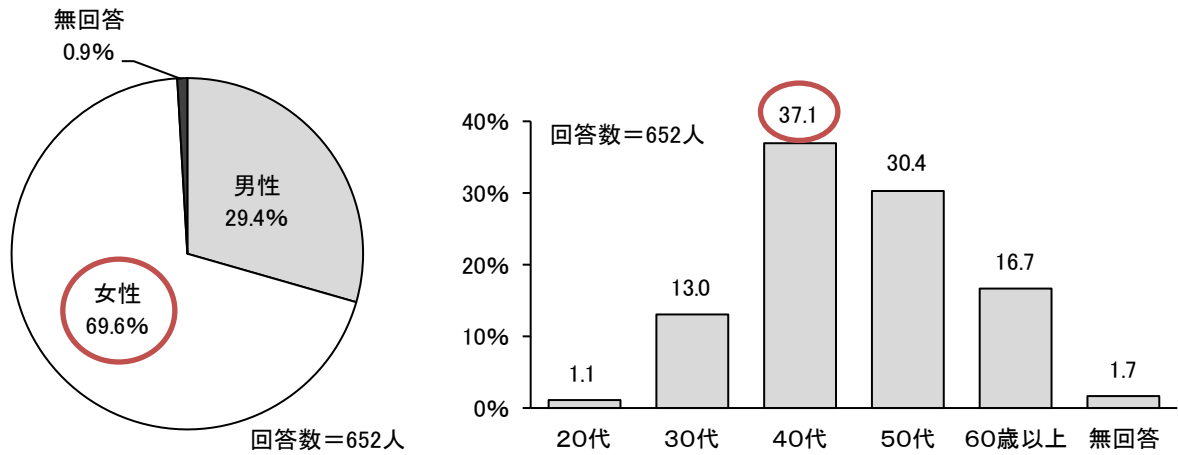
1 回答者の概要〔教員票〕

(1) 回答者（教員）の基本情報

教員 質問1. 回答者である、あなたの基本情報についてお聞かせください。

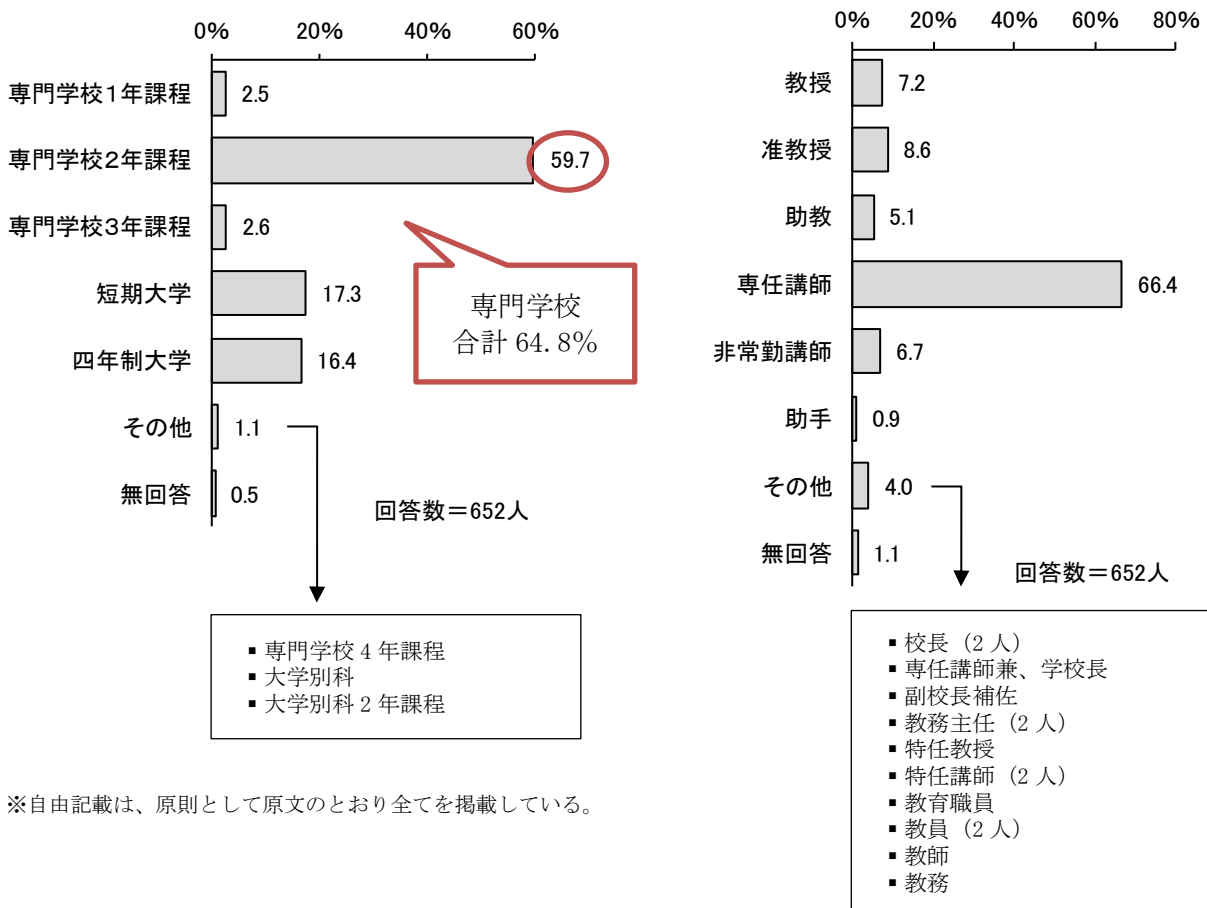
①. 性別と年齢

図表 4 3 性別と年齢



②. 調査の回答を依頼された所属先と職位

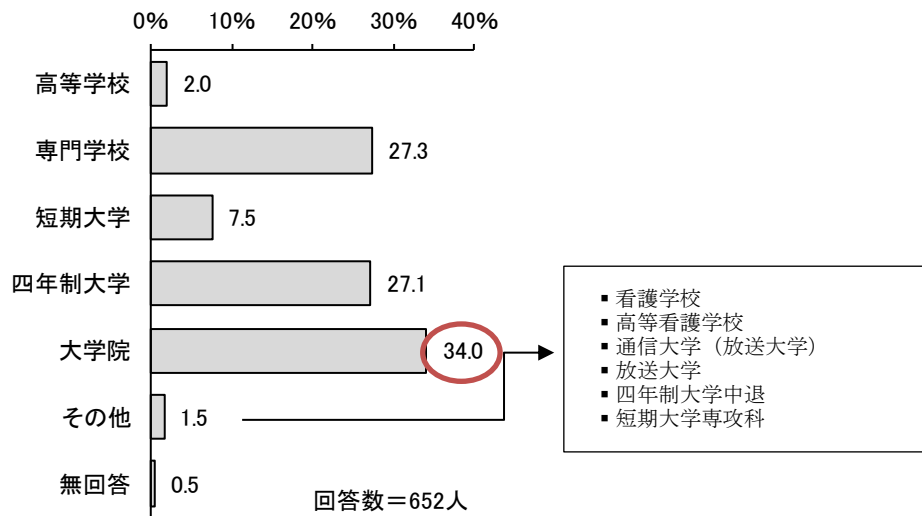
図表 4 4 調査の回答を依頼された所属先と職位



※自由記載は、原則として原文のとおり全てを掲載している。

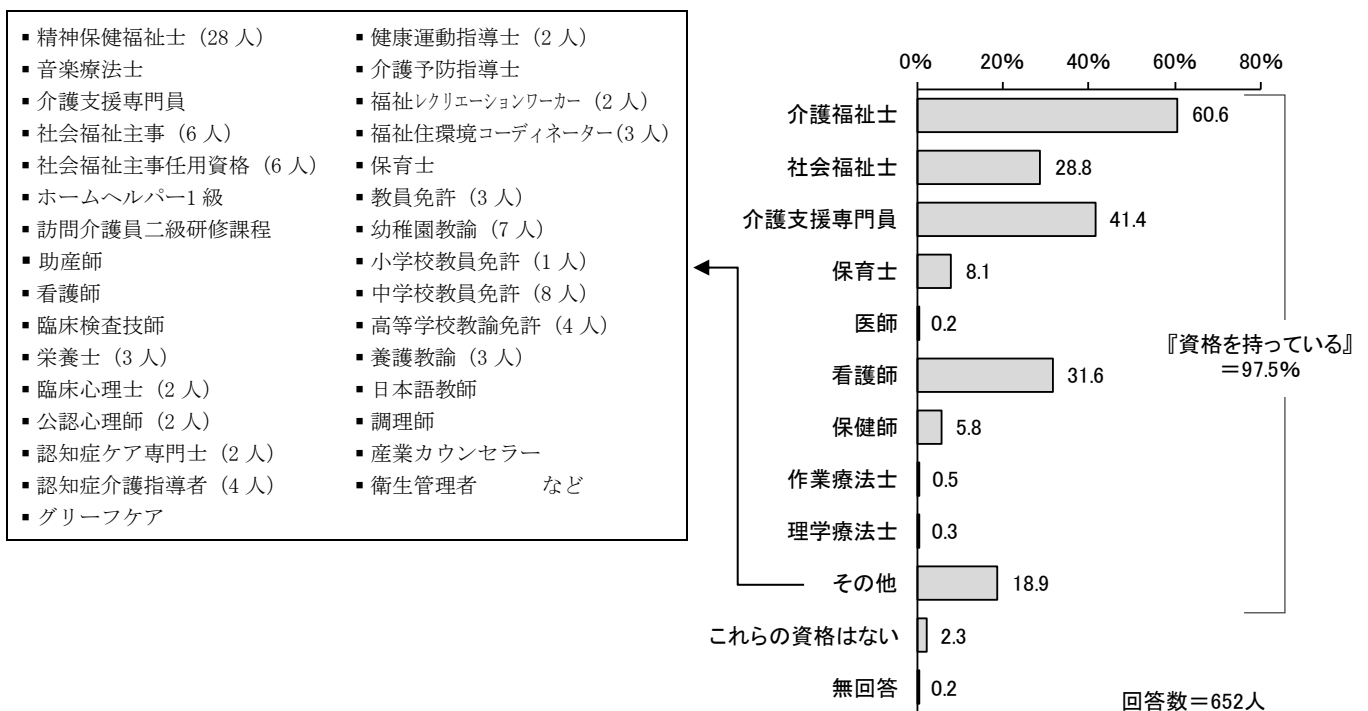
③. 最終学歴

図表 4 5 最終学歴



④. 資格の有無

図表 4 6 資格の有無 (複数回答)

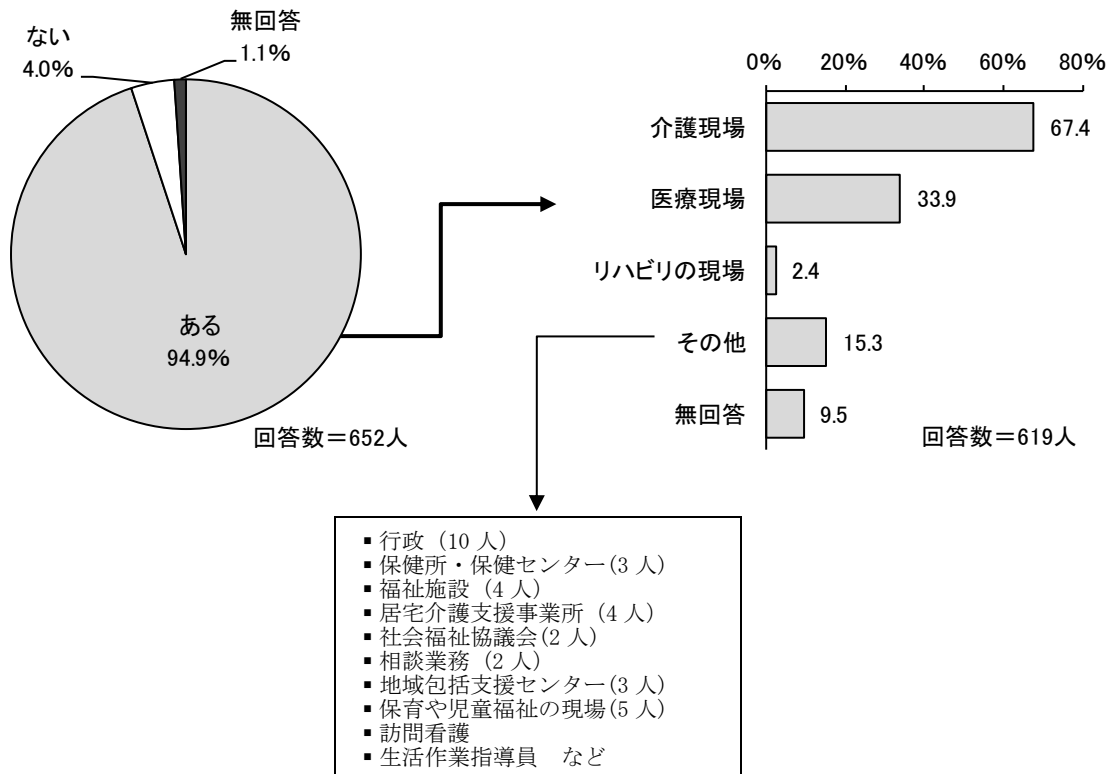


※『資格を持っている』=100-「これらの資格はない」-「無回答」

※自由記載は、同様の内容をまとめて掲載している。

⑤. 資格を活かした現場での経験

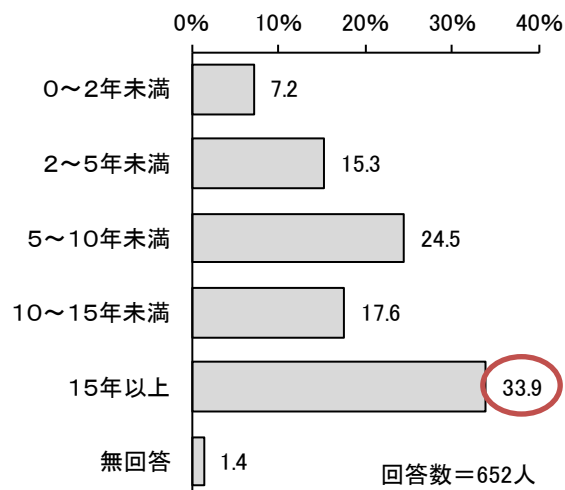
図表 4 7 資格を活かした現場での経験



※自由記載は、同様の内容をまとめて掲載している。

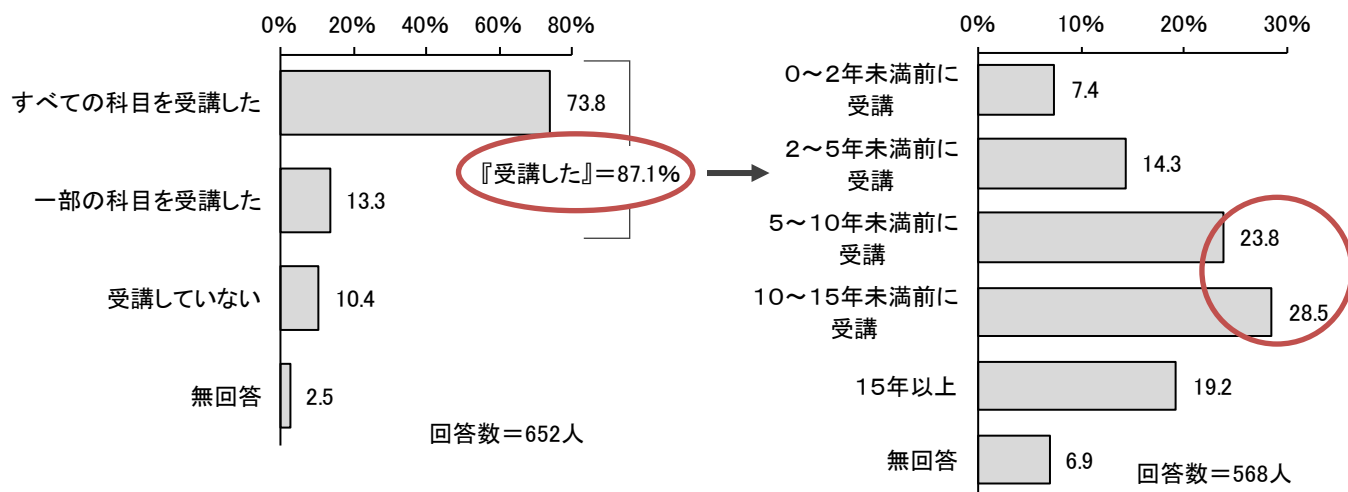
⑥. 介護福祉士養成校の教員としての経験年数

図表 4 8 介護福祉士養成校の教員としての経験年数



⑦. 介護教員講習会修了状況と受講時期

図表 4 9 介護教員講習会修了状況と受講時期

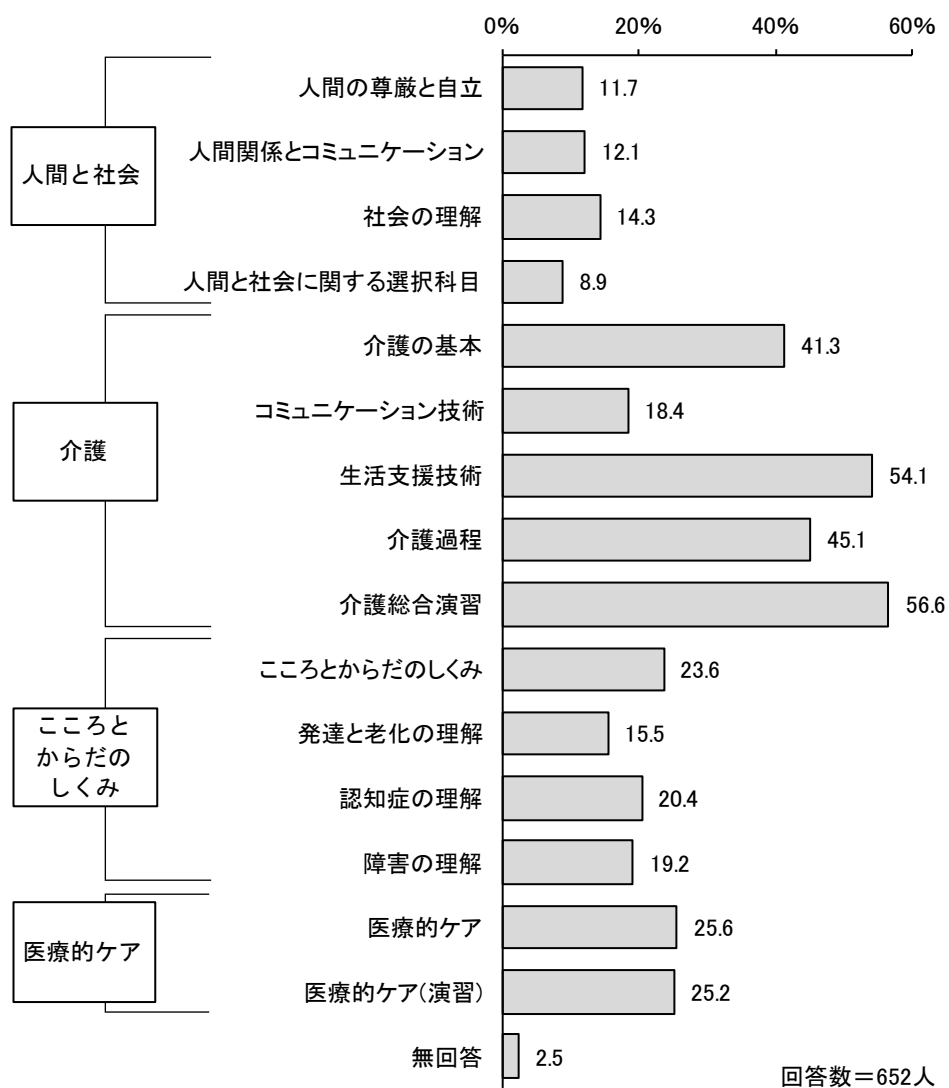


※『受講した』 = 「すべての科目を受講した」 + 「一部の科目を受講した」

(2) 担当している介護福祉士養成課程の科目

教員	質問2. 本年度、ご自身がご担当している介護福祉士養成課程の科目をお教えてください。ご担当の科目すべてに○をしてください。他校でご担当されている科目についても○をしてください。
----	--

図表50 担当している介護福祉士養成課程の科目

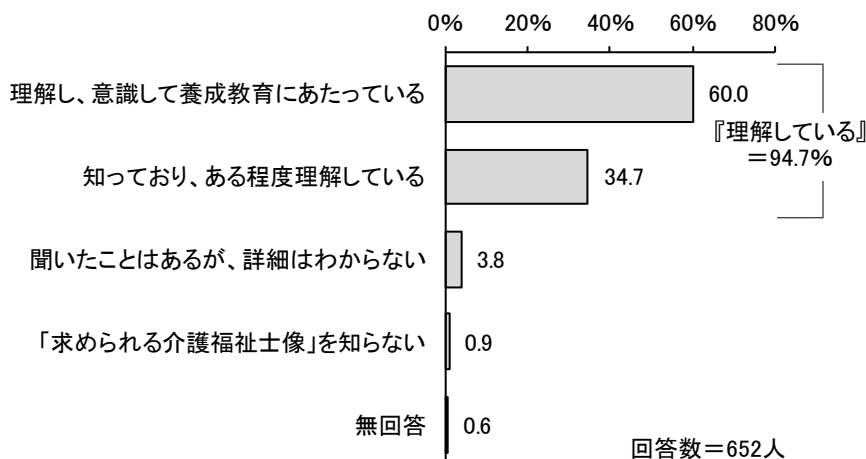


2 介護福祉士養成校における教育について〔教員票〕

(1) 求められる介護福祉士像の理解度

教員	質問3. 2019年度より順次導入されている「介護福祉士養成課程の新カリキュラム」を作成するにあたり、その前提として「求められる介護福祉士像」が明示されています。以下、あてはまるもの1つに○をしてください。
----	---

図表5-1 求められる介護福祉士像の理解度



※『理解している』=「理解し、意識して養成教育にあたっている」+「知っており、ある程度理解している」

図表5-2 求められる介護福祉士像の理解度

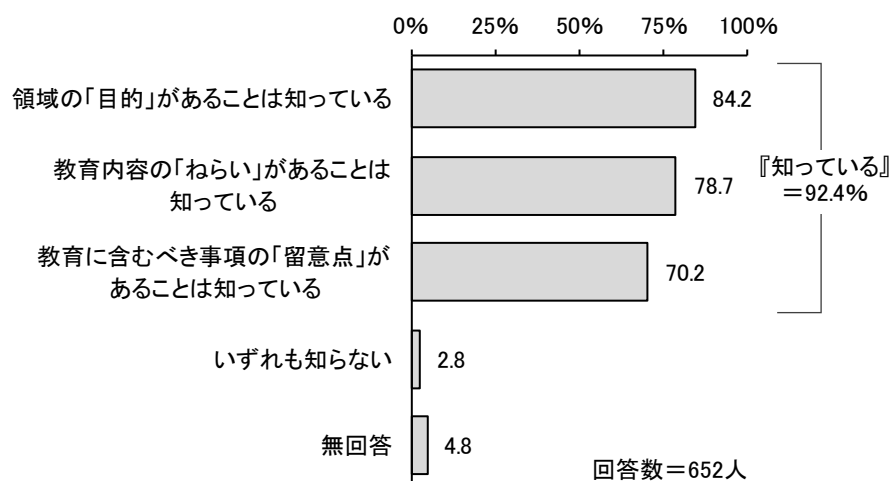
		合計 (人)	理解し、意識して養成教育にあたる	知っており、ある程度理解している	聞いたことはあるが、詳細はわからない	「求められる介護福祉士像」を知らない	無回答	『理解している』
全体		652	60.0	34.7	3.8	0.9	0.6	94.7
所属先別	専門学校	423	59.1	35.9	3.5	0.7	0.7	95.0
	短期大学	113	61.9	34.5	3.5	0.0	0.0	96.4
	四年制大学	107	62.6	29.0	5.6	2.8	0.0	91.6
	その他	6	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	100.0
職位別	教授	47	66.0	27.7	4.3	2.1	0.0	93.7
	准教授	56	64.3	33.9	1.8	0.0	0.0	98.2
	助教	33	60.6	36.4	3.0	0.0	0.0	97.0
	専任講師	433	61.0	36.0	1.8	0.5	0.7	97.0
	非常勤講師	44	36.4	31.8	25.0	6.8	0.0	68.2
	助手	6	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	その他	26	69.2	23.1	7.7	0.0	0.0	92.3
経験年数別	2年未満	47	38.3	42.6	12.8	2.1	4.3	80.9
	2年以上5年未満	100	56.0	36.0	7.0	1.0	0.0	92.0
	5年以上10年未満	160	56.3	40.6	2.5	0.6	0.0	96.9
	10年以上15年未満	115	57.4	35.7	5.2	1.7	0.0	93.1
	15年以上	221	70.6	28.1	0.5	0.5	0.5	98.7

※網掛けは「全体」を上回る値、ただし合計が一桁の場合は網掛けをしていない、単位は%。

(2) 領域の目的、教育内容のねらい、教育に含むべき事項の留意点の認知度

教員	<p>質問4. 2019年度より順次導入されている「介護福祉士養成課程の新カリキュラム」には、領域の「目的」、教育内容の「ねらい」、教育に含むべき事項の「留意点」が示されています。これらがあることは知っていますか。あてはまるものに○をしてください。</p>
----	--

図表 5 3 領域の目的、教育内容のねらい、教育に含むべき事項の留意点の認知度



※『知っている』=100-「いずれも知らない」-「無回答」

図表 5 4 領域の目的、教育内容のねらい、教育に含むべき事項の留意点の認知度

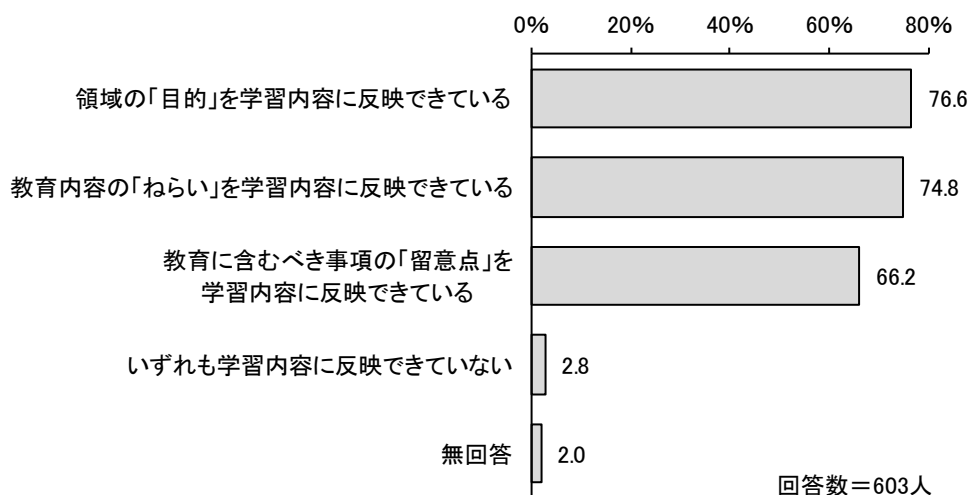
		合計 (人)	領域の「目的」があることは知っている (%)	教育内容の「ねらい」があることは知っている (%)	教育に含むべき事項の「留意点」があることは知っている (%)	いずれも知らない (%)	無回答 (%)	『知っている』 (%)
全体		652	84.2	78.7	70.2	2.8	4.8	92.4
所属先別	専門学校	423	83.9	76.1	66.2	2.6	5.7	91.7
	短期大学	113	81.4	82.3	77.9	2.7	2.7	94.6
	四年制大学	107	88.8	85.0	78.5	3.7	2.8	93.5
	その他	6	100.0	83.3	83.3	0.0	0.0	100.0
職位別	教授	47	89.4	89.4	80.9	4.3	2.1	93.6
	准教授	56	89.3	87.5	85.7	1.8	3.6	94.6
	助教	33	87.9	69.7	69.7	3.0	0.0	97.0
	専任講師	433	86.8	79.0	70.4	0.9	5.3	93.8
	非常勤講師	44	59.1	70.5	50.0	18.2	2.3	79.5
	助手	6	50.0	50.0	83.3	0.0	16.7	83.3
	その他	26	76.9	69.2	53.8	7.7	3.8	88.5
経験年数別	2年未満	47	68.1	70.2	66.0	10.6	4.3	85.1
	2年以上5年未満	100	86.0	75.0	63.0	3.0	2.0	95.0
	5年以上10年未満	160	84.4	82.5	74.4	2.5	2.5	95.0
	10年以上15年未満	115	82.6	78.3	67.0	3.5	5.2	91.3
	15年以上	221	87.3	80.1	73.8	0.9	7.2	91.9

※網掛けは「全体」を上回る値、ただし合計が一桁の場合は網掛けをしていない、単位は%。

(3) 領域の目的、教育内容のねらい、教育に含むべき事項の留意点の授業への反映

教員	(1) 領域の「目的」、教育内容の「ねらい」、教育に含むべき事項の「留意点」について、あてはまるものに○をしてください。
----	--

図表 5 5 領域の目的、教育内容のねらい、教育に含むべき事項の留意点の授業への反映



図表 5 6 領域の目的、教育内容のねらい、教育に含むべき事項の留意点の授業への反映

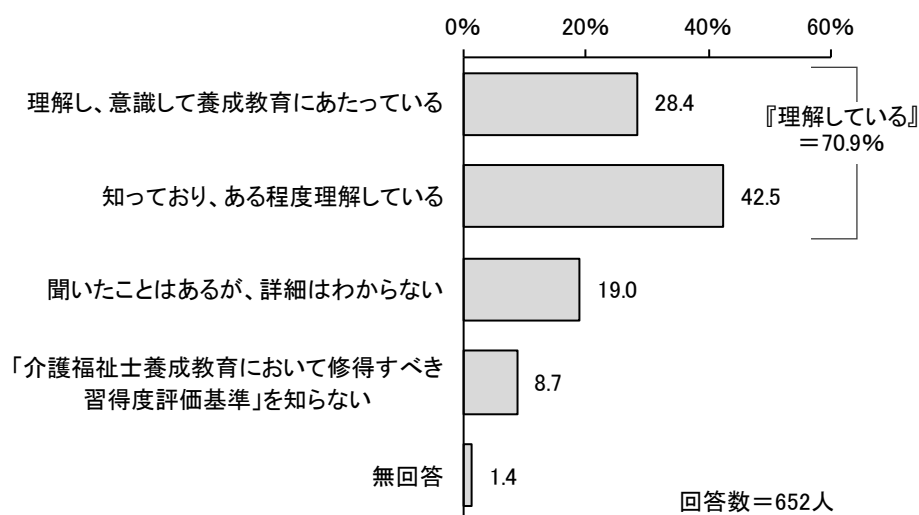
		合計 (人)	領域の「目的」を 学習内容に反映 できている	教育内容の「ねら い」を学習内容に 反映できている	教育に含むべき事 項の「留意点」を学 習内容に反映でき ている	い ない いずれも学習内 容に反映できて いない	無 回 答
全体		603	76.6	74.8	66.2	2.8	2.0
所属 先別	専門学校	388	73.7	70.4	62.9	3.9	2.1
	短期大学	107	77.6	79.4	68.2	1.9	1.9
	四年制大学	100	88.0	88.0	76.0	0.0	2.0
	その他	6	83.3	66.7	66.7	0.0	0.0
職位 別	教授	44	88.6	88.6	77.3	0.0	2.3
	准教授	53	86.8	90.6	77.4	0.0	1.9
	助教	32	75.0	65.6	56.3	0.0	3.1
	専任講師	406	77.1	73.6	66.5	3.2	1.5
	非常勤講師	35	62.9	71.4	60.0	0.0	2.9
	助手	5	40.0	20.0	20.0	40.0	20.0
	その他	23	60.9	60.9	52.2	8.7	0.0
経験 年数 別	2年未満	40	50.0	52.5	50.0	15.0	7.5
	2年以上5年未満	95	67.4	63.2	52.6	6.3	3.2
	5年以上10年未満	152	78.9	71.7	67.1	2.6	0.7
	10年以上15年未満	105	78.1	81.9	68.6	0.0	1.0
	15年以上	203	84.2	82.8	73.9	0.5	2.0

※網掛けは「全体」を上回る値、ただし合計が一桁の場合は網掛けをしていない、単位は%。

(4) 介護福祉士養成課程における習得度評価基準の理解度

教員	<p>質問5. 介護福祉士養成教育における領域の「目的」や教育内容の「ねらい」、教育に含むべき事項の「留意点」に示された修得すべき能力や内容をもとに、「介護福祉士養成教育において修得すべき習得度評価基準」が明示されています。以下、あてはまるもの1つに○をしてください。</p>
----	--

図表57 介護福祉士養成課程における習得度評価基準の理解度



※『理解している』 = 「理解し、意識して養成教育にあたっている」 + 「知っており、ある程度理解している」

図表58 介護福祉士養成課程における習得度評価基準の理解度

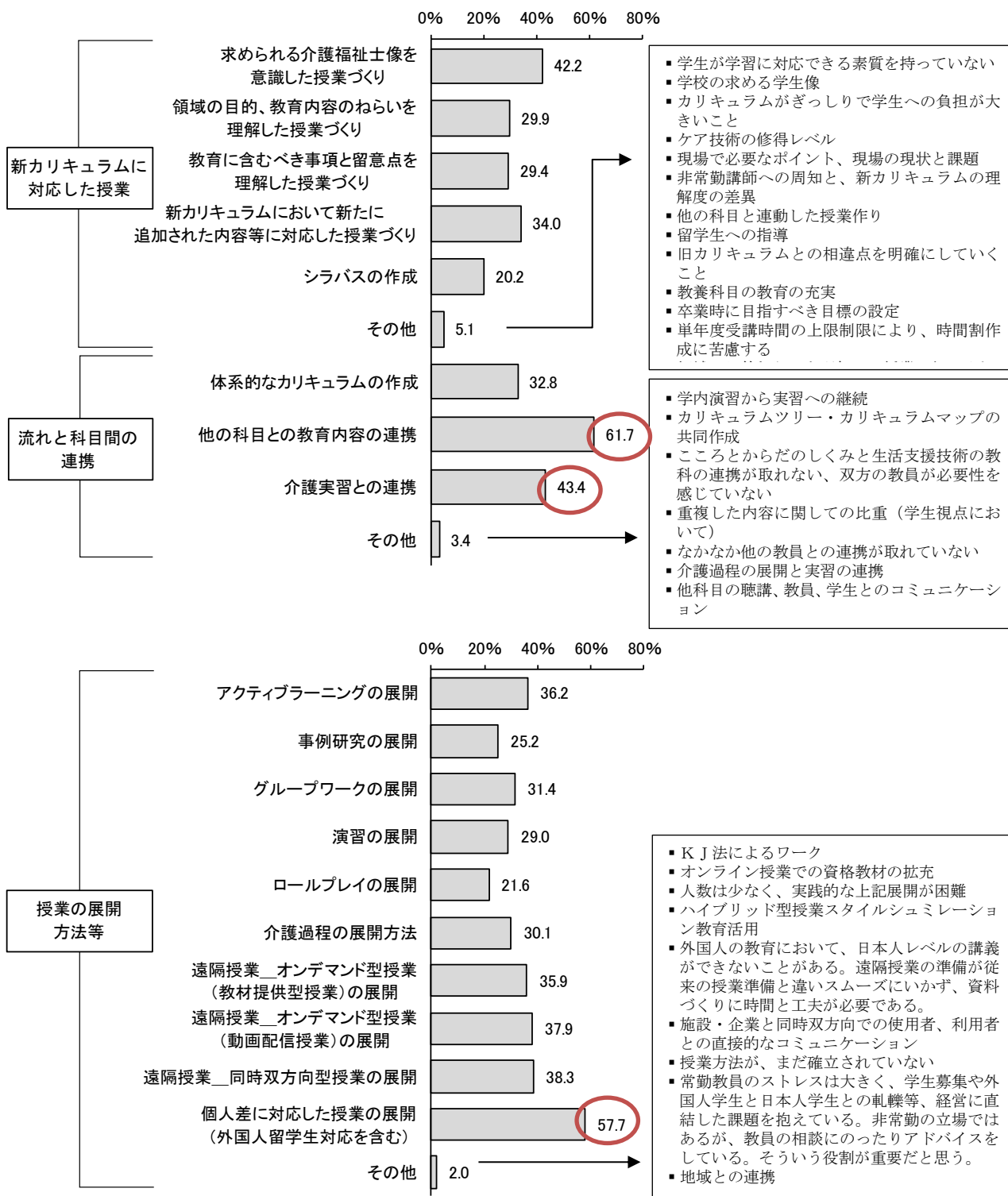
		合計 (人)	理解し、意識して養成教育にあたっている	知っており、ある程度理解している	聞いたことはあるが、詳細はわからない	「介護福祉士養成教育において修得すべき習得度評価基準」を知らない	無回答	『理解している』
全体		652	28.4	42.5	19.0	8.7	1.4	70.9
所属先別	専門学校	423	26.7	42.1	20.6	8.7	1.9	68.8
	短期大学	113	27.4	50.4	15.0	7.1	0.0	77.8
	四年制大学	107	35.5	35.5	17.8	11.2	0.0	71.0
	その他	6	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	100.0
職位別	教授	47	42.6	36.2	10.6	10.6	0.0	78.8
	准教授	56	30.4	48.2	16.1	5.4	0.0	78.6
	助教	33	33.3	39.4	18.2	9.1	0.0	72.7
	専任講師	433	27.9	43.4	20.1	6.7	1.8	71.3
	非常勤講師	44	13.6	40.9	22.7	22.7	0.0	54.5
	助手	6	16.7	16.7	16.7	50.0	0.0	33.3
	その他	26	26.9	34.6	23.1	15.4	0.0	61.5
経歴年数別	2年未満	47	10.6	38.3	29.8	17.0	4.3	48.9
	2年以上5年未満	100	27.0	42.0	16.0	15.0	0.0	69.0
	5年以上10年未満	160	25.0	38.1	25.6	10.6	0.6	63.1
	10年以上15年未満	115	30.4	48.7	15.7	3.5	1.7	79.1
	15年以上	221	34.4	43.9	14.5	5.9	1.4	78.3

※網掛けは「全体」を上回る値、ただし合計が一桁の場合は網掛けをしていない、単位は%。

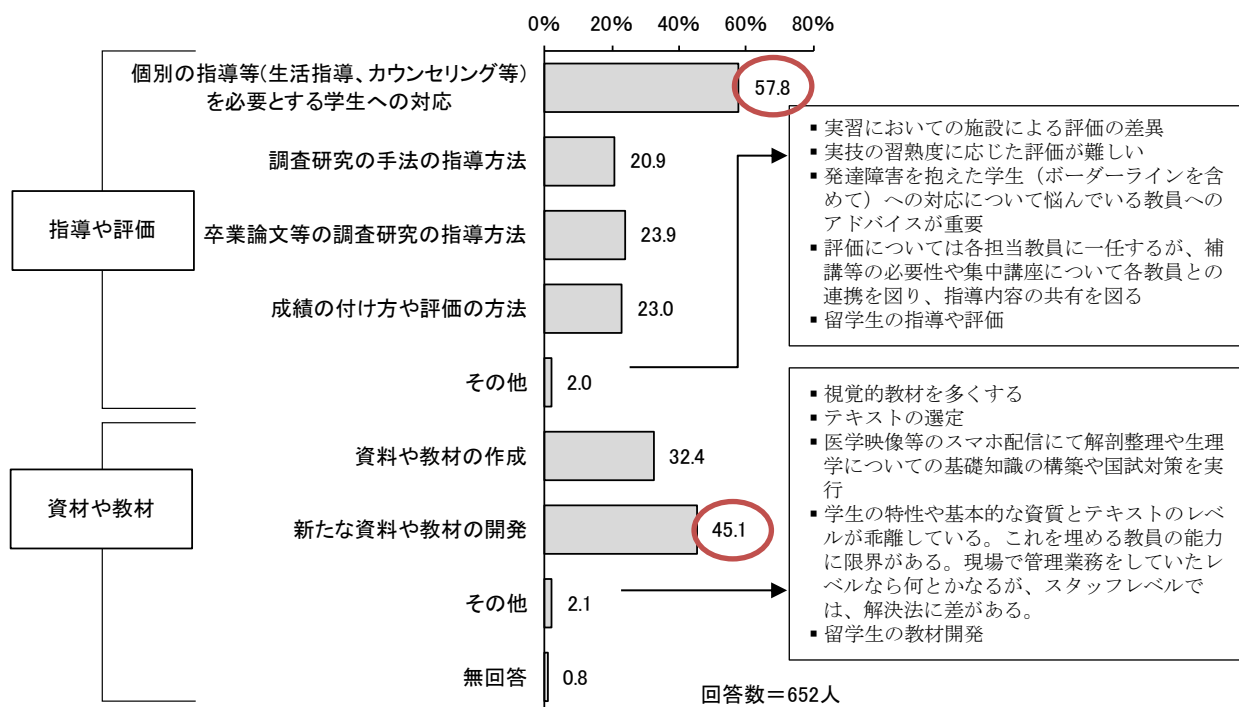
(5) 介護福祉士養成校で教育をしていく上での課題

教員	質問6. 介護福祉士養成校において、あなたが教育をしていく上で課題と感じていること、困難に感じていることはありますか。（あてはまるものすべてに○）
-----------	--

図表59 介護福祉士養成校で教育をしていく上での課題



※自由記載は、原則として記載されている原文のとおり抜粋掲載している。



※自由記載は、原則として記載されている原文のとおり抜粋掲載している。

図表60 介護福祉士養成校で教育をしていく上での課題

	合計(人)	新カリキュラムに対応した授業						流れと科目間の連携				
		求められる介護福祉士像を意識した授業づくり	領域の目的、教育内容のねらいを理解した授業づくり	教育に含むべき事項と留意点を理解した授業づくり	新カリキュラムにおいて新たに追加された内容等に対応した授業づくり	シラバスの作成	その他	体系的なカリキュラムの作成	他の科目との教育内容の連携	介護実習との連携	その他	
全体	652	42.2	29.9	29.4	34.0	20.2	5.1	32.8	61.7	43.4	3.4	
所属先別	専門学校	47.3	33.3	30.3	36.2	21.0	3.1	30.5	59.6	44.4	2.6	
	短期大学	35.4	30.1	33.6	42.5	20.4	8.0	40.7	63.7	43.4	5.3	
	四年制大学	29.9	17.8	22.4	15.9	17.8	9.3	32.7	69.2	40.2	3.7	
	その他	50.0	0.0	16.7	33.3	0.0	16.7	66.7	33.3	33.3	16.7	
職位別	教授	38.3	25.5	21.3	27.7	21.3	6.4	40.4	66.0	23.4	6.4	
	准教授	30.4	28.6	35.7	41.1	26.8	19.6	50.0	75.0	51.8	8.9	
	助教	27.3	21.2	24.2	18.2	15.2	6.1	27.3	63.6	42.4	0.0	
	専任講師	45.7	32.1	30.7	35.6	19.4	3.0	32.6	60.3	44.8	3.0	
	非常勤講師	31.8	18.2	18.2	31.8	13.6	2.3	18.2	61.4	31.8	0.0	
	助手	33.3	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	16.7	50.0	66.7	0.0	
	その他	61.5	50.0	50.0	42.3	23.1	11.5	26.9	61.5	61.5	3.8	
経験年数別	2年未満	51.1	38.3	40.4	27.7	21.3	8.5	31.9	55.3	44.7	4.3	
	2年以上5年未満	55.0	41.0	36.0	33.0	22.0	3.0	30.0	64.0	45.0	1.0	
	5年以上10年未満	40.0	28.1	24.4	35.6	17.5	3.8	33.1	61.9	44.4	3.1	
	10年以上15年未満	37.4	22.6	26.1	35.7	20.9	6.1	33.0	51.3	40.9	3.5	
	15年以上	39.4	28.5	29.9	33.9	20.8	5.4	34.4	67.9	43.0	4.1	

※網掛けは「全体」を上回る値、ただし合計が一桁の場合は網掛けをしていない、単位は%。

図表6-1 介護福祉士養成校で教育をしていく上での課題

	合計(人)	授業の展開方法等											
		アクティブラーニングの展開	事例研究の展開	グループワークの展開	演習の展開	ロールプレイの展開	介護過程の展開方法	遠隔授業「オンデマンド型授業(教材提供型授業)の展開	遠隔授業「オンデマンド型授業(動画配信授業)の展開	遠隔授業「同時双方向型授業の展開	個人差に対応した授業の展開(外国人留学生対応を含む)	その他	
全体	652	36.2	25.2	31.4	29.0	21.6	30.1	35.9	37.9	38.3	57.7	2.0	
所属先別	専門学校	423	35.0	26.2	↑34.8	30.0	↑23.6	↑31.9	33.6	34.3	35.7	↑61.5	1.2
	短期大学	113	41.6	29.2	29.2	29.2	20.4	27.4	46.0	49.6	46.9	57.5	3.5
	四年制大学	107	38.3	17.8	23.4	27.1	16.8	26.2	33.6	40.2	40.2	43.9	3.7
	その他	6	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0	16.7	33.3	33.3	33.3	50.0	0.0
職位別	教授	47	36.2	21.3	19.1	17.0	14.9	21.3	40.4	46.8	48.9	51.1	2.1
	准教授	56	41.1	33.9	37.5	32.1	25.0	35.7	50.0	50.0	51.8	53.6	10.7
	助教	33	36.4	18.2	6.1	21.2	6.1	21.2	30.3	45.5	30.3	39.4	3.0
	専任講師	433	37.9	25.6	33.5	29.3	22.9	32.6	34.4	35.6	37.2	61.7	0.9
	非常勤講師	44	9.1	13.6	31.8	29.5	11.4	11.4	20.5	22.7	25.0	50.0	0.0
	助手	6	16.7	16.7	50.0	50.0	50.0	33.3	66.7	50.0	50.0	83.3	0.0
	その他	26	53.8	42.3	38.5	38.5	34.6	38.5	42.3	42.3	34.6	42.3	3.8
経験年数別	2年未満	47	27.7	17.0	38.3	34.0	21.3	27.7	38.3	34.0	27.7	61.7	4.3
	2年以上5年未満	100	47.0	23.0	33.0	31.0	22.0	27.0	21.0	24.0	26.0	60.0	1.0
	5年以上10年未満	160	38.1	23.8	28.8	27.5	20.0	31.9	38.1	41.3	36.9	56.9	1.9
	10年以上15年未満	115	31.3	24.3	27.8	26.1	20.9	27.0	37.4	40.9	45.2	60.0	2.6
	15年以上	221	33.0	↓29.0	33.0	29.4	23.1	32.6	40.3	42.1	43.9	55.7	1.8

※網掛けは「全体」を上回る値、ただし合計が一桁の場合は網掛けをしていない、単位は%。

図表 6 2 介護福祉士養成校で教育をしていく上での課題

	合計(人)	指導や評価					資料や教材			無回答	
		個別の指導等(生活指導、カウンセリング等)を必要とする学生への対応	調査研究の手法の指導方法	卒業論文等の調査研究の指導方法	成績の付け方や評価の方法	その他	資料や教材の作成	新たな資料や教材の開発	その他		
全体	652	57.8	20.9	23.9	23.0	2.0	32.4	45.1	2.1	0.8	
所属先別	専門学校	423	60.0	18.7	23.6	23.2	1.2	36.4	42.8	1.9	0.7
	短期大学	113	61.1	29.2	27.4	22.1	4.4	28.3	54.0	3.5	0.9
	四年制大学	107	48.6	21.5	22.4	23.4	2.8	21.5	43.9	1.9	0.0
	その他	6	16.7	16.7	16.7	33.3	0.0	33.3	66.7	0.0	0.0
職位別	教授	47	61.7	21.3	21.3	17.0	0.0	19.1	51.1	0.0	0.0
	准教授	56	57.1	32.1	35.7	32.1	10.7	39.3	57.1	8.9	0.0
	助教	33	51.5	24.2	21.2	15.2	0.0	18.2	42.4	0.0	3.0
	専任講師	433	61.7	21.2	24.9	22.6	1.4	34.6	45.7	1.8	0.7
	非常勤講師	44	25.0	9.1	4.5	27.3	2.3	25.0	29.5	2.3	0.0
	助手	6	33.3	0.0	16.7	50.0	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0
	その他	26	65.4	15.4	26.9	23.1	0.0	50.0	42.3	0.0	0.0
経験年数別	2年未満	47	44.7	12.8	23.4	36.2	6.4	38.3	51.1	4.3	0.0
	2年以上5年未満	100	62.0	19.0	20.0	26.0	1.0	41.0	40.0	1.0	1.0
	5年以上10年未満	160	51.9	23.8	23.8	23.1	1.3	28.1	42.5	2.5	0.6
	10年以上15年未満	115	56.5	20.9	23.5	20.0	2.6	30.4	44.3	2.6	0.0
	15年以上	221	64.3	21.7	26.2	20.4	1.8	31.7	48.4	1.4	0.9

※網掛けは「全体」を上回る値、ただし合計が一桁の場合は網掛けをしていない、単位は%。

図表 6 3 その他課題や困難を感じていること（全体）

分類	件数
1. 留学生への対応	40 件
2. 多様化する学生への対応	26 件
3. 授業展開や教材等について	20 件
4. 学力・意欲に課題がある学生への対応	18 件
5. 教員に課題がある	10 件
6. オンライン授業について	5 件
7. 介護現場と教育内容の乖離	5 件
8. 時間の余裕がない	5 件
9. 養成校に課題がある	4 件
10. アクティブラーニングについて	3 件
11. 1 年課程であること	3 件
12. その他	4 件
合 計	143 件

図表 6 4 その他課題や困難を感じていること

分類	件数	具体的な記載内容（抜粋、原文のとおり記載）
1. 留学生への対応	40	<ul style="list-style-type: none"> ● 外国人の生徒への教育。国が違うと文化が違い生活文化を教えることが難しい。専門のことを理解できていない。その国での福祉の現状が不明なことが多い（専門学校 2 年課程・その他） ● 外国人留学生の日本語の理解、介護福祉士の資格を取得するまでの学習、理解ができていない留学生の卒業判定の基準があいまいであること（専門学校 2 年課程・専任講師） ● 日本人と外国人の違いがあり資料の内容が低くなりがち、従来の介護福祉士養成教育が外国人の理解度に合わせがちになり、伝えたいことが十分に伝えることができていない。外国人に教育が導入されたことは良いが、外国人には外国人の教育で一貫性をもってした方が良い（専門学校 2 年課程・専任講師） ● 留学生に対して介護福祉士像を理解させることはとても難しい（専門学校 2 年課程・専任講師） ● 留学生の介護に対する職業理解や意識を持たせること（四年制大学・教授） ● 留学生の日本語能力の向上、授業を含めた生活指導（専門学校 2 年課程・専任講師） ● 留学生の勉学に対するモチベーションが低いこと。労働で疲れている（専門学校 2 年課程・専任講師） ● 留学生への授業展開と国試対策（専門学校 1 年課程・専任講師）
2. 多様化する学生への対応	26	<ul style="list-style-type: none"> ● 外国人留学生、社会人、一般の学生に同時に授業展開しなければならず、全ての学生に理解してもらうことは困難だと感じる（専門学校 2 年課程・専任講師） ● 学習障害や発達障害のある学生や留学生の語学力など個々対応が多く教員のマンパワーを懸念している（短期大学・准教授） ● 学生の生活面、精神面のサポートが必要となっている。勉強以前の、家庭でのしつけに関することが指導の一部となっている（専門学校 2 年課程・専任講師）

分類	件数	具体的な記載内容（抜粋、原文のとおり記載）
		<ul style="list-style-type: none"> ● 基礎学力が低い学生、非常に少ないが高い学生、診断はついていないが障害を抱えているのではないかと考えられる学生を同時に少しでも成長させる授業展開についていつも悩んでいます（専門学校2年課程・専任講師） ● 現役生と委託訓練生（社会人）の介護に対する関心や思いのギャップ（専門学校2年課程・専任講師） ● 能力差がありすぎる学生のどこに焦点をあてて授業するか（専門学校2年課程・専任講師） ● 発達に課題のある学生への適切な教育のあり方（資格取得のハードルの高さ）（専門学校2年課程・専任講師）
3. 授業展開や教材等について	20	<ul style="list-style-type: none"> ● コマ数内でポイントを絞った授業展開を行うこと（専門学校2年課程・専任講師） ● コロナなどの影響で実習ができない場合にどのように対応するか（短期大学・助教） ● 医療的ケアのテキスト内容は他の科目と重複する部分が多いため、新たな資料を作らないといけない（四年制大学・助教） ● 介護実習に「地域における生活支援の実践」が組み込まれたことで、実習指導者とともに実習方法・内容の検討を続けているが、他校の取り組みや実践など情報共有したい（四年制大学・准教授） ● 学生に興味、関心を持ってもらう授業コンテンツ（短期大学・准教授） ● 学生の理解度に合わせた指導法・授業内容の作成（専門学校2年課程・専任講師） ● 漢字の音読み、訓読み、同じ意味でありながら言葉が違う、言葉（日本語、医学用語、介護用語）を分かりやすく説明することが難しい（専門学校2年課程・非常勤講師） ● 自分の受け持つ科目の授業内容や進め方について不安がある。他の学校の先生たちからの情報を得たい（専門学校2年課程・専任講師） ● 自立支援のとらえ方が統一されていない現状において、学生に具体的に伝えられているのか、と考える（専門学校2年課程・その他） ● 重複した授業内容が多いため、他科目との連携（分担）が難しいと考える（専門学校2年課程・専任講師） ● 将来学生たちが現場に出て悩まないようにと多くのことを教えたいが、国家試験に合格するとの目標もあるため、バランスを取るのが困難と感じている（専門学校2年課程・その他） ● 令和2年度より教員となったため、通常の授業の流れが理解、実践できていない中において、授業を組み立てることに困難があった（専門学校2年課程・専任講師）
4. 学力・意欲に課題がある学生への対応	18	<ul style="list-style-type: none"> ● 学習に対する意欲の差が2年間で開くことが多い（専門学校2年課程・専任講師） ● 学生の社会（生活）経験の少なさ、想像力の欠如（専門学校2年課程・専任講師） ● 学生数の減少に伴い、学生間の基礎学力の差が大きくなっており、かつ目立ってしまっているため授業の構成に悩んでいる。また、例にあげると中央法規のテキストでは、外国人の対応のためか「ルビ」が増えたことはありがたいが、漢字で説明すべき文章をひらがなで表記していることに困惑している（短期大学・准教授） ● 考える力、応用力のつけ方（特に日本人）（専門学校2年課程・専任講師） ● 日本人の教育において国語力が低く、説明に困難を感じている。また、価値観のギャップを言葉で説明しても伝わりにくい（専門学校2年課程・専任講師） ● 年々、基礎学力低下傾向にあるため進級・卒業の難しさを感じている（四年制大学・非常勤講師）

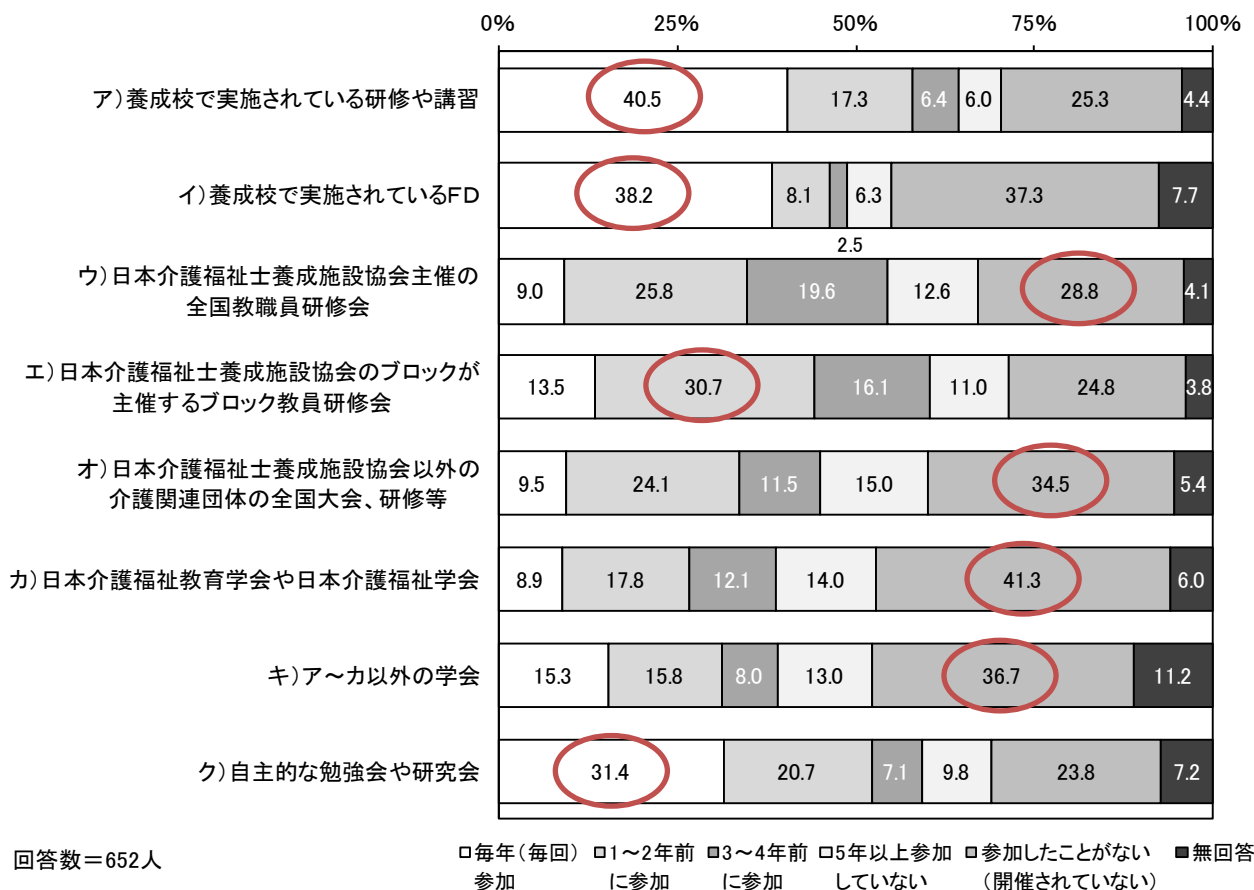
分類	件数	具体的な記載内容（抜粋、原文のとおり記載）
5. 教員に課題がある	10	<ul style="list-style-type: none"> ● 外部講師の質と能力が一定ではないこと（専門学校2年課程・専任講師） ● 学外での介護実習において、現場で実際に指導する方が勉強不足である。共通する専門用語の理解すらない。また、学生に対して「感情」をもって指導することに違和感を感じる（専門学校2年課程・専任講師） ● 教員間の教育に対する温度差（四年制大学・教授） ● 教員間の新カリキュラムを踏まえた学習内容を検討する上での温度差（専門学校2年課程・専任講師） ● 自分自身のスキルアップ（専門学校2年課程・専任講師）
6. オンライン授業について	5	<ul style="list-style-type: none"> ● オンラインになったこともあり、改めて授業内容について検討を重ねることとなり、良い機会となった。しかし、急ごしらえで対応せざるを得なくなり、満足な状態にない。しなければならないことも増え、厳しいなと感じている（四年制大学・専任講師） ● 遠隔授業での実技指導（短期大学・准教授） ● 対面授業をずっと行っていたこと、また自分自身が高齢なこともあり、パソコンは苦手、困難だと強く感じている（専門学校2年課程・非常勤講師）
7. 介護現場と教育内容の乖離	5	<ul style="list-style-type: none"> ● 教育内容と現場での実践方法の乖離を埋めなければと思う（専門学校2年課程・専任講師） ● 現在のテキストで、本当に良いのか。現場と即していない部分がある（専門学校2年課程・専任講師） ● 国が掲げる目標と実際の現場の乖離（専門学校2年課程・専任講師）
8. 時間の余裕がない	5	<ul style="list-style-type: none"> ● 授業以外にやらなくてはならない業務量が多すぎる（四年制大学・専任講師） ● 授業時間以外での国家試験対策（留学生指導含む）（短期大学・助教） ● 担当科目についてじっくりと研究し、学生が理解しやすいような内容とする時間の余裕がない（専門学校2年課程・専任講師）
9. 養成校に課題がある	4	<ul style="list-style-type: none"> ● 学生が集まらない。少ない人数で一人ひとりの理解度に合わせた指導が行える良さはあるが、多様性を活かし、他者の考えを積極的に取り入れるチャンスを与えられない（専門学校2年課程・専任講師） ● 教務も少ない人数でOJTもなく、まったくもって何をしたらいいか日々追われている。学生が少ない（収入が少ない）ことで授業にお金をかけることができない環境にある（専門学校2年課程・その他） ● 養成校によって、教育の質に差が生じている可能性がある（専門学校2年課程・専任講師）
10. アクティブラーニングについて	3	<ul style="list-style-type: none"> ● アクティブラーニングの実践（四年制大学・専任講師） ● コロナ禍でグループワーク演習の取り入れが難しくなった（四年制大学・専任講師）
11. 1年課程であること	3	<ul style="list-style-type: none"> ● 1年課程であるため、介護についてじっくりと授業が展開できない。どうしても国試を念頭に置いて、知識づけになる傾向がある（短期大学・その他） ● 2年間（保育士養成課程）での基礎的知識の差があるため、個々に合わせた授業展開の必要性を感じるが、1年課程であるため時間を費やすことができない（四年制大学・教授）
12. その他	4	<ul style="list-style-type: none"> ● 介護現場へのカリキュラム改正（求められる介護福祉士像）の周知方法（専門学校2年課程・専任講師） ● 個別に対応した評価基準の設定、評価。実習先との個別な課題の共有（専門学校2年課程・専任講師） ● 実習先の確保（短期大学・准教授） ● 理念変更にまで及ぶ制度の変化が、大きすぎ・激しすぎで、教え切れない（短期大学・専任講師）
合計	143	

3 研修や講習等への参加及び希望について〔教員票〕

(1) 研修や講習への受講・参加の状況

教員	質問7. あなたご自身は、以下について受講・参加したことがありますか。 (ア～クそれぞれ1つに○)
-----------	--

図表 6 5 研修や講習への受講・参加の状況



図表 6 6 研修や講習への受講・参加の状況

		ア) 養成校で実施されている研修や講習						
		合計 (人)	毎年 (毎回) 参加	1~2年前 に参加	3~4年前 に参加	5年以上 参加して いない	参加した ことがない (開催され ていない)	無回答
全 体		652	40.5	17.3	6.4	6.0	25.3	4.4
所属 先別	専門学校	423	31.4	18.4	8.3	6.4	30.5	5.0
	短期大学	113	55.8	15.9	2.7	4.4	17.7	3.5
	四年制大学	107	60.7	14.0	2.8	4.7	15.0	2.8
	その他	6	50.0	16.7	16.7	16.7	0.0	0.0
職位 別	教授	47	57.4	14.9	0.0	4.3	17.0	6.4
	准教授	56	69.6	10.7	7.1	1.8	8.9	1.8
	助教	33	51.5	15.2	0.0	3.0	21.2	9.1
	専任講師	433	38.3	19.2	6.7	5.8	25.9	4.2
	非常勤講師	44	15.9	13.6	6.8	15.9	45.5	2.3
	助手	6	16.7	0.0	16.7	0.0	50.0	16.7
	その他	26	23.1	19.2	11.5	3.8	38.5	3.8
経験 年数 別	2年未満	47	25.5	4.3	2.1	0.0	68.1	0.0
	2年以上5年未満	100	41.0	15.0	6.0	1.0	33.0	4.0
	5年以上10年未満	160	32.5	23.1	5.0	5.6	28.1	5.6
	10年以上15年未満	115	47.8	16.5	7.8	6.1	18.3	3.5
	15年以上	221	45.2	17.6	8.1	9.5	14.5	5.0

※網掛けは「全体」を上回る値、ただし合計が一桁の場合は網掛けをしていない、単位は%。

		イ) 養成校で実施されているFD						
		合計 (人)	毎年 (毎回) 参加	1~2年前 に参加	3~4年前 に参加	5年以上 参加して いない	参加した ことがない (開催され ていない)	無回答
全 体		652	38.2	8.1	2.5	6.3	37.3	7.7
所属 先別	専門学校	423	18.9	9.5	3.1	7.6	50.8	10.2
	短期大学	113	71.7	6.2	1.8	4.4	12.4	3.5
	四年制大学	107	78.5	5.6	0.9	0.9	12.1	1.9
	その他	6	50.0	0.0	0.0	33.3	16.7	0.0
職位 別	教授	47	74.5	2.1	2.1	2.1	17.0	2.1
	准教授	56	85.7	3.6	1.8	1.8	3.6	3.6
	助教	33	75.8	9.1	0.0	0.0	12.1	3.0
	専任講師	433	28.6	9.2	3.0	6.9	43.2	9.0
	非常勤講師	44	20.5	9.1	2.3	13.6	50.0	4.5
	助手	6	33.3	0.0	0.0	0.0	50.0	16.7
	その他	26	19.2	3.8	0.0	3.8	61.5	11.5
経験 年数 別	2年未満	47	17.0	2.1	0.0	0.0	76.6	4.3
	2年以上5年未満	100	42.0	7.0	0.0	0.0	44.0	7.0
	5年以上10年未満	160	33.1	9.4	1.9	3.8	43.8	8.1
	10年以上15年未満	115	37.4	10.4	3.5	11.3	30.4	7.0
	15年以上	221	44.3	8.1	4.1	9.5	25.3	8.6

※網掛けは「全体」を上回る値、ただし合計が一桁の場合は網掛けをしていない、単位は%。

		ウ) 日本介護福祉士養成施設協会主催の全国教職員研修会						
		合計 (人)	毎年 (毎回) 参加	1~2年前 に参加	3~4年前 に参加	5年以上 参加して いない	参加した ことがない (開催され ていない)	無回答
全 体		652	9.0	25.8	19.6	12.6	28.8	4.1
所属先別	専門学校	423	8.3	22.0	19.4	13.2	31.7	5.4
	短期大学	113	9.7	31.0	23.0	11.5	23.0	1.8
	四年制大学	107	12.1	36.4	17.8	8.4	24.3	0.9
	その他	6	0.0	16.7	16.7	50.0	16.7	0.0
職位別	教授	47	12.8	36.2	23.4	6.4	17.0	4.3
	准教授	56	16.1	30.4	30.4	12.5	8.9	1.8
	助教	33	0.0	42.4	12.1	6.1	39.4	0.0
	専任講師	433	9.0	24.7	20.8	13.4	27.3	4.8
	非常勤講師	44	2.3	4.5	0.0	18.2	72.7	2.3
	助手	6	0.0	33.3	0.0	0.0	66.7	0.0
	その他	26	11.5	26.9	19.2	7.7	30.8	3.8
経歴年数別	2年未満	47	6.4	6.4	0.0	2.1	83.0	2.1
	2年以上5年未満	100	5.0	24.0	8.0	3.0	54.0	6.0
	5年以上10年未満	160	10.0	25.6	19.4	8.1	33.1	3.8
	10年以上15年未満	115	9.6	29.6	20.9	17.4	20.9	1.7
	15年以上	221	10.9	29.4	28.1	19.5	7.2	5.0

※網掛けは「全体」を上回る値、ただし合計が一桁の場合は網掛けをしていない、単位は%。

		エ) 日本介護福祉士養成施設協会のブロックが主催するブロック教職員研修会						
		合計 (人)	毎年 (毎回) 参加	1~2年前 に参加	3~4年前 に参加	5年以上 参加して いない	参加した ことがない (開催され ていない)	無回答
全 体		652	13.5	30.7	16.1	11.0	24.8	3.8
所属先別	専門学校	423	13.2	27.7	15.6	10.9	27.9	4.7
	短期大学	113	13.3	39.8	13.3	11.5	18.6	3.5
	四年制大学	107	15.9	35.5	21.5	7.5	19.6	0.0
	その他	6	0.0	0.0	16.7	66.7	16.7	0.0
職位別	教授	47	19.1	36.2	23.4	6.4	12.8	2.1
	准教授	56	25.0	39.3	16.1	10.7	7.1	1.8
	助教	33	3.0	36.4	18.2	3.0	36.4	3.0
	専任講師	433	13.6	31.6	16.4	11.5	22.6	4.2
	非常勤講師	44	2.3	4.5	4.5	18.2	65.9	4.5
	助手	6	0.0	33.3	0.0	16.7	50.0	0.0
	その他	26	11.5	26.9	7.7	11.5	38.5	3.8
経歴年数別	2年未満	47	6.4	6.4	0.0	2.1	80.9	4.3
	2年以上5年未満	100	5.0	23.0	4.0	2.0	59.0	7.0
	5年以上10年未満	160	13.1	36.9	15.6	8.8	23.1	2.5
	10年以上15年未満	115	16.5	33.0	20.9	20.0	8.7	0.9
	15年以上	221	17.6	33.9	23.1	13.6	7.2	4.5

※網掛けは「全体」を上回る値、ただし合計が一桁の場合は網掛けをしていない、単位は%。

		才) 日本介護福祉士養成施設協会以外の介護関連団体の全国大会、研修等						
		合計 (人)	毎年 (毎回) 参加	1~2年前 に参加	3~4年前 に参加	5年以上 参加して いない	参加した ことがない (開催され ていない)	無回答
全 体		652	9.5	24.1	11.5	15.0	34.5	5.4
所属先別	専門学校	423	7.8	20.6	9.5	15.6	40.4	6.1
	短期大学	113	12.4	27.4	17.7	14.2	23.9	4.4
	四年制大学	107	14.0	36.4	12.1	12.1	22.4	2.8
	その他	6	0.0	0.0	33.3	50.0	16.7	0.0
職位別	教授	47	10.6	40.4	12.8	14.9	14.9	6.4
	准教授	56	17.9	32.1	14.3	14.3	16.1	5.4
	助教	33	12.1	27.3	9.1	15.2	30.3	6.1
	専任講師	433	8.3	23.8	11.1	15.5	36.5	4.8
	非常勤講師	44	4.5	4.5	9.1	13.6	65.9	2.3
	助手	6	16.7	0.0	0.0	0.0	66.7	16.7
	その他	26	11.5	23.1	15.4	11.5	30.8	7.7
経歴年数別	2年未満	47	4.3	8.5	6.4	4.3	74.5	2.1
	2年以上5年未満	100	6.0	18.0	6.0	2.0	59.0	9.0
	5年以上10年未満	160	10.6	28.8	10.6	7.5	37.5	5.0
	10年以上15年未満	115	8.7	27.8	13.0	20.0	29.6	0.9
	15年以上	221	11.8	25.8	14.5	25.3	15.8	6.8

※網掛けは「全体」を上回る値、ただし合計が一桁の場合は網掛けをしていない、単位は%。

		力) 日本介護福祉教育学会や日本介護福祉学会						
		合計 (人)	毎年 (毎回) 参加	1~2年前 に参加	3~4年前 に参加	5年以上 参加して いない	参加した ことがない (開催され ていない)	無回答
全 体		652	8.9	17.8	12.1	14.0	41.3	6.0
所属先別	専門学校	423	3.8	12.3	9.7	16.1	50.1	8.0
	短期大学	113	13.3	26.5	21.2	8.0	28.3	2.7
	四年制大学	107	25.2	31.8	11.2	9.3	21.5	0.9
	その他	6	0.0	0.0	33.3	50.0	16.7	0.0
職位別	教授	47	31.9	25.5	12.8	8.5	19.1	2.1
	准教授	56	21.4	23.2	30.4	10.7	12.5	1.8
	助教	33	21.2	36.4	6.1	3.0	30.3	3.0
	専任講師	433	4.6	17.3	11.3	15.5	44.3	6.9
	非常勤講師	44	2.3	4.5	4.5	13.6	70.5	4.5
	助手	6	16.7	0.0	0.0	0.0	66.7	16.7
	その他	26	3.8	7.7	7.7	15.4	57.7	7.7
経歴年数別	2年未満	47	6.4	4.3	2.1	2.1	83.0	2.1
	2年以上5年未満	100	4.0	13.0	3.0	5.0	64.0	11.0
	5年以上10年未満	160	8.8	18.1	13.1	7.5	46.9	5.6
	10年以上15年未満	115	4.3	20.0	16.5	15.7	40.0	3.5
	15年以上	221	14.5	21.7	15.4	23.5	19.5	5.4

※網掛けは「全体」を上回る値、ただし合計が一桁の場合は網掛けをしていない、単位は%。

		キ) ア～カ以外の学会						
		合計 (人)	毎年 (毎回) 参加	1～2年前 に参加	3～4年前 に参加	5年以上 参加して いない	参加した ことがない (開催され ていない)	無回答
全 体		652	15.3	15.8	8.0	13.0	36.7	11.2
所属先別	専門学校	423	8.3	9.9	6.4	13.2	49.6	12.5
	短期大学	113	17.7	26.5	10.6	15.0	21.2	8.8
	四年制大学	107	42.1	26.2	11.2	8.4	3.7	8.4
	その他	6	0.0	50.0	16.7	33.3	0.0	0.0
職位別	教授	47	38.3	23.4	6.4	17.0	6.4	8.5
	准教授	56	26.8	33.9	5.4	8.9	5.4	19.6
	助教	33	27.3	24.2	15.2	6.1	18.2	9.1
	専任講師	433	10.6	13.9	6.9	12.5	45.3	10.9
	非常勤講師	44	13.6	6.8	11.4	27.3	34.1	6.8
	助手	6	16.7	0.0	0.0	0.0	66.7	16.7
	その他	26	11.5	7.7	23.1	7.7	42.3	7.7
経験年数別	2年未満	47	10.6	8.5	0.0	4.3	72.3	4.3
	2年以上5年未満	100	7.0	8.0	4.0	8.0	61.0	12.0
	5年以上10年未満	160	13.1	20.6	12.5	10.6	34.4	8.8
	10年以上15年未満	115	16.5	20.0	8.7	15.7	28.7	10.4
	15年以上	221	21.3	15.4	7.7	17.2	24.4	14.0

※網掛けは「全体」を上回る値、ただし合計が一桁の場合は網掛けをしていない、単位は%。

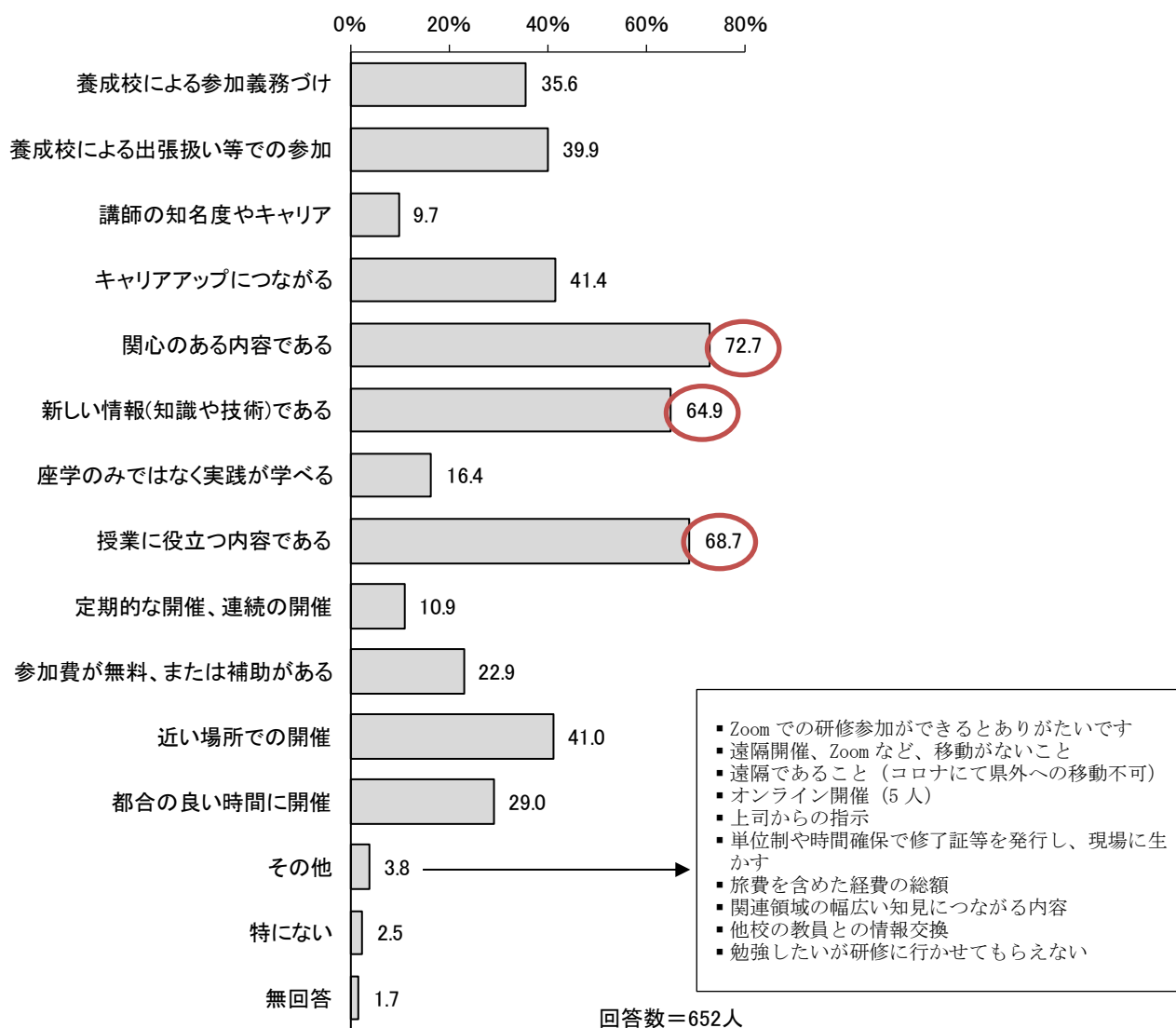
		ク) 自主的な勉強会や研究会						
		合計 (人)	毎年 (毎回) 参加	1～2年前 に参加	3～4年前 に参加	5年以上 参加して いない	参加した ことがない (開催され ていない)	無回答
全 体		652	31.4	20.7	7.1	9.8	23.8	7.2
所属先別	専門学校	423	25.8	19.4	7.6	9.7	28.6	9.0
	短期大学	113	36.3	23.9	3.5	10.6	21.2	4.4
	四年制大学	107	50.5	22.4	8.4	6.5	9.3	2.8
	その他	6	16.7	33.3	0.0	50.0	0.0	0.0
職位別	教授	47	44.7	27.7	4.3	10.6	8.5	4.3
	准教授	56	41.1	25.0	7.1	8.9	10.7	7.1
	助教	33	42.4	15.2	9.1	0.0	30.3	3.0
	専任講師	433	27.3	20.8	6.7	11.5	25.9	7.9
	非常勤講師	44	36.4	20.5	11.4	4.5	20.5	6.8
	助手	6	0.0	0.0	0.0	0.0	83.3	16.7
	その他	26	34.6	11.5	11.5	3.8	34.6	3.8
経験年数別	2年未満	47	23.4	8.5	0.0	2.1	63.8	2.1
	2年以上5年未満	100	27.0	23.0	5.0	4.0	34.0	7.0
	5年以上10年未満	160	31.3	23.1	5.6	10.0	22.5	7.5
	10年以上15年未満	115	36.5	18.3	12.2	13.0	15.7	4.3
	15年以上	221	33.5	21.7	7.7	12.2	15.8	9.0

※網掛けは「全体」を上回る値、ただし合計が一桁の場合は網掛けをしていない、単位は%。

(2) 研修や講習、F D、学会、勉強会や研究会に参加を決める要因

教員	質問8. 研修や講習、F D、学会、勉強会や研究会に参加を決める要因として、何があげられますか。(あてはまるものすべてに○)
-----------	--

図表67 研修や講習、F D、学会、勉強会や研究会に参加を決める要因



※自由記載は、原則として記載されている原文のとおり抜粋掲載している。

図表68 研修や講習、FD、学会、勉強会や研究会に参加を決める要因

		合計(人)	養成校による参加義務づけ	養成校による出張扱い等での参加	講師の知名度やキヤリア	キャリアアップにつながる	関心のある内容である	新しい情報(知識や技術)である	座学のみではなく実践が学べる	授業に役立つ内容である
全体		652	35.6	39.9	9.7	41.4	72.7	64.9	16.4	68.7
所属先別	専門学校	423	34.8	40.9	7.3	41.6	70.0	59.6	17.0	67.8
	短期大学	113	38.9	42.5	10.6	50.4	73.5	69.9	19.5	66.4
	四年制大学	107	34.6	32.7	16.8	30.8	82.2	82.2	10.3	75.7
	その他	6	50.0	66.7	33.3	33.3	100.0	50.0	16.7	66.7
職位別	教授	47	44.7	46.8	19.1	36.2	74.5	78.7	6.4	66.0
	准教授	56	46.4	35.7	25.0	35.7	82.1	76.8	14.3	82.1
	助教	33	33.3	42.4	15.2	33.3	66.7	63.6	12.1	57.6
	専任講師	433	35.8	41.8	7.6	44.6	72.7	63.3	18.2	67.9
	非常勤講師	44	15.9	25.0	0.0	38.6	70.5	63.6	18.2	75.0
	助手	6	33.3	50.0	0.0	66.7	100.0	100.0	33.3	100.0
	その他	26	38.5	34.6	7.7	30.8	53.8	46.2	7.7	57.7
経験年数別	2年未満	47	21.3	40.4	12.8	63.8	72.3	63.8	31.9	76.6
	2年以上5年未満	100	33.0	38.0	5.0	38.0	61.0	54.0	20.0	57.0
	5年以上10年未満	160	41.3	45.0	10.0	44.4	75.6	60.0	13.8	69.4
	10年以上15年未満	115	34.8	34.8	12.2	40.9	72.2	67.0	13.0	69.6
	15年以上	221	36.2	40.3	9.5	36.2	76.5	71.9	14.9	71.9

		合計(人)	定期的な開催、連続の開催	参加費が無料、または補助がある	近い場所での開催	都合の良い時間に開催	その他	特にない	無回答
全体		652	10.9	22.9	41.0	29.0	3.8	2.5	1.7
所属先別	専門学校	423	10.2	25.8	43.5	24.6	3.1	2.6	1.9
	短期大学	113	16.8	19.5	39.8	36.3	3.5	1.8	1.8
	四年制大学	107	6.5	14.0	32.7	37.4	7.5	2.8	0.0
	その他	6	33.3	50.0	16.7	66.7	0.0	0.0	0.0
職位別	教授	47	10.6	8.5	27.7	36.2	6.4	4.3	0.0
	准教授	56	7.1	10.7	35.7	28.6	3.6	0.0	1.8
	助教	33	6.1	30.3	36.4	39.4	6.1	3.0	3.0
	専任講師	433	12.5	25.6	43.4	28.4	3.5	2.5	0.9
	非常勤講師	44	9.1	22.7	47.7	27.3	4.5	4.5	4.5
	助手	6	0.0	50.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0
	その他	26	7.7	15.4	26.9	19.2	3.8	0.0	7.7
経験年数別	2年未満	47	12.8	31.9	44.7	34.0	8.5	4.3	2.1
	2年以上5年未満	100	10.0	29.0	47.0	30.0	3.0	4.0	1.0
	5年以上10年未満	160	13.8	27.5	43.1	28.8	3.1	1.9	0.0
	10年以上15年未満	115	7.8	20.9	40.9	27.0	1.7	4.3	1.7
	15年以上	221	10.4	15.4	35.3	28.1	4.1	0.9	2.7

※網掛けは「全体」を上回る値、ただし合計が一桁の場合は網掛けをしていない、単位は%。

(3) 他に受講を勧めたい内容、参考になった内容等

教員	(1) 研修や講習、FD、学会、勉強会や研究会などに参加して、教育力の向上に役立った内容、他の人に受講を勧めたい内容、参考になった内容等があれば、具体的にお教えてください。
----	--

図表 69 他に受講を勧めたい内容、参考になった内容等 (全体)

分類	件数
1. 教員研修	15 件
2. 留学生への対応	11 件
3. 教育方法やコミュニケーションに関すること	9 件
4. アクティブラーニング	8 件
5. 認知症、障害者、権利擁護などに関すること	8 件
6. 介護過程	7 件
7. 多様化する学生への対応	7 件
8. 事例検討や意見交換	7 件
9. オンライン授業について	5 件
10. その他の具体的な講義名	8 件
11. その他の役立った内容	14 件
12. その他意見・要望	2 件
合 計	101 件

図表 70 他に受講を勧めたい内容、参考になった内容等

分類	件数	具体的な記載内容 (抜粋、原文のとおり記載)
1. 教員研修	15	<ul style="list-style-type: none"> ● 2017 年度東海北陸ブロック教員研修会「教師と学生を繋ぎ結ぶ介護教育」金沢大学の先生 (四年制大学・准教授) ● 2019 年度「日本介護福祉士養成施設協会主催 教員研修 スライドングボードを用いた移乗の介護」東洋大学 (四年制大学・准教授) ● 介護教員講習会 (東京東陽町会場)、日本社会事業大学の先生の介護実習教育 (専門学校 2 年課程・専任講師) ● 介護教員講習会「介護教育方法」 シラバスと授業内容の組み立て方、ロールプレイでの授業 (専門学校 2 年課程・専任講師) ● 群馬県主催の、喀痰吸引等研修の指導者養成のための研修会。指導教員のレベルの統一化になるため (四年制大学・教授) ● 公益社団法人大阪介護福祉士会が主催した介護教員講習会の介護福祉学科目 (専門学校 2 年課程・専任講師) ● 平成 18 年 8 月 3 日 仙台会場介護教員講習会 介護福祉学 仙台白百合女子大学 総合福祉学科 教授 (当時) 介護概論と介護福祉学の違いについて分かり易い説明をして下さった。介護福祉学の視点の大事さを教えていくことが、質の高い介護福祉士を育てることにつながると学び得た (短期大学・助教) ● 平成 30 年度全国大会 (in 宮崎) 基調講演「心やさしき名もない英雄を育てたい」 (専門学校 1 年課程・専任講師)

分類	件数	具体的な記載内容（抜粋、原文のとおり記載）
2. 留学生への対応	11	<ul style="list-style-type: none"> ● 外国人留学生の現状。平成 31 年東北ブロック大会：多様化する学生への教育の在り方：事務局参事（短期大学・准教授） ● 第 26 回日本介護福祉教育学会で行われた研究発表で、外国人留学生の介護実習におけるとらえ方がとても勉強になった（専門学校 2 年課程・専任講師）
3. 教育方法やコミュニケーションに関する事	9	<ul style="list-style-type: none"> ● 2019 年度日本介護福祉士全国大会の基調講演「やる気をつくるリーダーシップ」講師のお話が学生の指導にも教員同士の教育にも必要な視点だと勉強になった（専門学校 2 年課程・専任講師） ● アンガーマネジメントとアサーション 本校教員研修 令和 2 年 12 月実施（専門学校 2 年課程・専任講師） ● エンパワーメントコミュニケーションセミナー（短期大学・非常勤講師） ● 平成 28 年「教職員のための指導力向上講座」キャリアサポートオフィス A O K I 代表（専門学校 2 年課程・専任講師）
4. アクティブラーニング	8	<ul style="list-style-type: none"> ● アクティブラーニングに係る教育方法（四年制大学・准教授） ● ディープラーニングに誘うアクティブラーニングの手法（短期大学・助教）
5. 認知症、障害者、権利擁護などに関する事	8	<ul style="list-style-type: none"> ● 2020 年度第 15 回障害者就業啓発事業「はたらく・くらすフォーラム～地域の就労支援について知ろう～」Zoom による開催、12/2、13:00～16:00 就労移行支援の実践を各事業所が報告。2019 年度、校内特別講義、特定非営利活動法人あるる、自立生活センターあるる理事長による人権学習、せき損の先生の体験を通して障害とは理解から広く人権を考える（専門学校 2 年課程・専任講師） ● 2020 年度日本社会事業大学専門職大学院福祉実践フォーラム、成年後見制度は「利用者がメリットを実感できる」ようになったか？－障害者権利条約への対応も見据えて－（専門学校 2 年課程・専任講師） ● 介護現場主催の事例検討会・職能団体が主催する研修。（四年制大学・助教） ● 平成 28 年度 看護協会の研修会「認知症の人との関わり」（専門学校 2 年課程・専任講師） ● 最近は特にないが、2 年前の「こんな夜更けにバナナかよ」の著者の講演は大変良かった（専門学校 1 年課程・准教授） ● 厚労省の次官が来てくれて、法制度、現状の問題点を教えてくださいと助かります（専門学校 2 年課程・専任講師）
6. 介護過程	7	<ul style="list-style-type: none"> ● 令和元年度 介護過程展開の実践力向上のための調査研究事業「介護過程の展開に関する研修会～教授方法と学生指導～」主催
7. 多様化する学生への対応	7	<ul style="list-style-type: none"> ● 2019 年度関東信越ブロック教員研修会、第 3 分科会、施設における職員教育。カリキュラムの高度化に対し、学生が多様化しているなかでの教育について。学校で学ぶ基本をどう介護の職場で活かすのか、講義や実習指導等で役立つ内容だった（専門学校 2 年課程・専任講師） ● 学生指導（カウンセリング）の研修が大変勉強になりました。それぞれの学生に合わせた指導方法、対応方法が難しく悩んでいたため。その学生を理解し、家族・教員で情報共有し協力して学生を導いていく方法を学ぶことができました（四年制大学・准教授）
8. 事例検討や意見交換	7	<ul style="list-style-type: none"> ● 日本介護福祉協会の研究発表、事例検討（専門学校 2 年課程・専任講師） ● 養成校内で実施された授業研究（お互いの授業を講評し、参考とする）は良い刺激となった。自分以外の先生の授業は大変参考になった。他の学校の先生の授業もぜひ見学してみたい（一・一） ● カフェスタイルディスカッション（専門学校 2 年課程・専任講師）
9. オンライン授業について	5	<ul style="list-style-type: none"> ● 遠隔授業の手法に関する情報、実践講座（短期大学・教授）

分類	件数	具体的な記載内容（抜粋、原文のとおり記載）
10. その他の具体的な講義名	8	<ul style="list-style-type: none"> ● 2007年「関東福祉専門学校創立10周年記念講演会」、共に生きる～これからの地域福祉活動～ボランティア精神をどう学生に伝えるか（専門学校2年課程・専任講師） ● 2011年のM-G-T-A研究会の講義（四年制大学・准教授） ● 2019年日本介護福祉学会（静岡県立大学開催）は興味深く、内容を授業や施設の研修に役立てることができる（四年制大学・専任講師） ● 介護に役立つ心理学。（四年制大学・専任講師） ● 観察の研修。（専門学校2年課程・専任講師） ● 日本自立支援介護学会、学会に関係する研修会、その他、学会の研究者の皆さま（専門学校2年課程・その他） ● 毎年行われている“医療・介護従事者のための死生学”セミナー 東京大学大学院人文社会科学研究科（死生学・応用倫理センター）。人生の最終段階に関わる介護福祉士の養成において、知っておかなければならないこと、考えなければならぬことが学べる（四年制大学・准教授）
11. その他の役立った内容	14	<ul style="list-style-type: none"> ● 2019年度（2020年）1月末大阪で行われた新カリキュラムに関する研修（専門学校2年課程・専任講師） ● 医療的ケア（短期大学・准教授） ● 医療福祉介護領域以外の専門家による内容は役立つことがある（四年制大学・准教授） ● 教員のための自立支援介護セミナー（四年制大学・助手） ● 多職種連携を通してのケースを孤立しないようにという研修。そこでの介護福祉士の視点、生活支援で見逃さないようなポイントを、研修でお話があれば、授業にすぐ取り入れるようにしています（専門学校2年課程・専任講師） ● レクリエーションは大変参考になりました（専門学校2年課程・専任講師）
12. その他意見・要望	2	<ul style="list-style-type: none"> ● 介護だけでなく福祉領域全般が、「心理」に傾いていることが気になります。と言うより社会全体が、社会問題を「心理」に還元して理解しようとしている風潮が高まっているように感じられ、危惧します。心理主義でない方向の研修を望みます（短期大学・専任講師） ● 自分の専門性を高めるために何が必要かを知るためには、まず読書力が必要ではないかと思う。後は指導者に巡り会えるかどうかではないかと思う（四年制大学・准教授）
合計	101	

(4) 希望する、関心のある研修等の内容

教員	<p>質問9. あなたが感じている教育上の課題の解決に向けて、また、教育力の向上に向けて、どのような研修等の開催を希望しますか。</p> <p>(1) 希望する内容、関心のある内容について、質問7や質問8などを参考にしつつ自由にご記入ください。</p>
----	--

図表7-1 希望する、関心のある研修等の内容（全体）

分類	件数
1. 留学生への対応	49件
2. 授業展開について	33件
3. 多様化する学生への対応	33件
4. 遠隔授業、オンデマンド授業	23件
5. 介護過程	21件
6. 実習	14件
7. アクティブラーニング	11件
8. 学生の学力格差への対応	10件
9. 研修に関する希望	9件
10. 国家試験対策	8件
11. ICTの活用	7件
12. チームマネジメント	6件
13. 生活支援技術	6件
14. 介護現場の現状について	6件
15. 新しい教材の作成や活用など	5件
16. 介護現場との連携や現場職員の指導力について	5件
17. 演習の方法	4件
18. 介護技術の応用	4件
19. 求められる介護福祉士像	3件
20. 介護保険制度について	3件
21. ころとからだ	2件
22. 人間の尊厳と自立	2件
23. 評価の方法	2件
24. 教員間での連携	2件
25. その他の教育に関する研修内容	30件
26. その他	18件
合 計	316件

図表 7 2 希望する、関心のある研修等の内容

分類	件数	具体的な記載内容（抜粋、原文のとおり記載）
1. 留学生への対応	49	<ul style="list-style-type: none"> ● 留学生が多くなり、個別の対応が難しいと感じる。生活に関連するその国の文化や習慣、日本とのずれを学べる機会があれば、生活指導や実技指導、演習の中に活かせると思う（専門学校 2 年課程・非常勤講師） ● 留学生の生活支援（指導）学業支援に関すること（アルバイトとの関連を含め）。留学生の実習方法（介護過程の展開を含む）（専門学校 1 年課程・専任講師） ● 留学生への専門的知識を理解していく方法。N3 レベルでも介護福祉士の国家試験に受かるようなカリキュラムの進め方（組み立て方）（専門学校 2 年課程・専任講師） ● 留学生への対応（授業等、学内指導や日常生活全般に渡る困りごとの解決策）について他校の様子を知ることができる内容（専門学校 2 年課程・専任講師） ● 外国人留学生の日本語レベルと国家試験との乖離（四年制大学・准教授）
2. 授業展開について	33	<ul style="list-style-type: none"> ● 学習内容というより授業内容（展開）について関心がある。学生にどのようにしたら興味を持ってもらえるか。学級運営についても学びたい。学習の差はどのように対応したらいいか（専門学校 2 年課程・専任講師） ● 学生に対する指導力向上に関する研修（カウンセリングやクラス運営について）（専門学校 2 年課程・専任講師） ● 学生の「わからない」をわかってもらう姿勢に導く工夫（専門学校 2 年課程・専任講師） ● 学生の学業へのモチベーションの上げ方（専門学校 2 年課程・専任講師） ● 受け身な学生ばかりでの授業展開（専門学校 2 年課程・専任講師） ● 授業の教授方法を幅広く身につけたい、模擬授業やグループワーク等で授業のやり方を研究してみたい（専門学校 2 年課程・専任講師） ● 新しい情報の教育の仕方（専門学校 2 年課程・専任講師） ● 注意点や構造化された教材や授業のあり方等（専門学校 2 年課程・専任講師）
3. 多様化する学生への対応	33	<ul style="list-style-type: none"> ● 外国人留学生と日本人の同一授業の展開方法（短期大学・教授） ● 学生の多様性に応じた講義展開（模擬授業や展開の工夫、ポイント）等（専門学校 1 年課程・専任講師） ● 社会人経験者への資質をふまえた指導（専門学校 2 年課程・専任講師） ● 多様（留学生、日本人学生の学力不足、発達障害）な学生への対応事例についての学び（専門学校 2 年課程・専任講師） ● 発達障害者又は発達障害傾向の学生への指導、評価について（専門学校 1 年課程・専任講師）
4. 遠隔授業、オンデマンド授業	23	<ul style="list-style-type: none"> ● オンデマンド型授業の効果を確実に上げる方法（パワーポイント等の資料制作等も含め）（専門学校 2 年課程・非常勤講師） ● オンラインでの授業に苦慮しています。Zoom を使いながら、支援技術をどのように教授されているのか、授業準備の工夫等、情報提供いただきたい（四年制大学・専任講師） ● オンライン授業と対面授業とで、どのように教授方法を変えるべきか、効果的なオンライン授業にするために注意すべきことは何か（専門学校 2 年課程・専任講師） ● コロナ禍で実習ができない場合、オンラインで実施する学内での代替授業のプログラムやマニュアル（短期大学・非常勤講師） ● 授業用動画の作成や効果的な遠隔授業法について（短期大学・教授）
5. 介護過程	21	<ul style="list-style-type: none"> ● 「介護過程」については、他校様の講義内容が参考になります（専門学校 2 年課程・専任講師） ● 介護過程の進め方について、学生に分かりやすい方法についての研修（専門学校 2 年課程・専任講師） ● 介護過程の展開（留学生にどのように、どこまで理解させる必要があるか。より分かりやすく指導する方法等）（専門学校 2 年課程・専任講師） ● 介護過程の展開指導テキスト（ワークブックなど）作成チームがあると良い（専門学校 2 年課程・専任講師）

分類	件数	具体的な記載内容（抜粋、原文のとおり記載）
		<ul style="list-style-type: none"> ● 各科目についての教授方法等、年に数回研修があれば参加したい。特に介護過程等、力をいれて教育することに関しては、定期的に研修会を行い実践力を上げていく必要があると思います（専門学校2年課程・専任講師）
6. 実習	14	<ul style="list-style-type: none"> ● コロナ禍で校内実習のみで国試を受験する学生もあり、校内実習の取り組みを教えてほしい（専門学校2年課程・専任講師） ● コロナ禍の中での実技演習の工夫等を他校と参考にしたいですし、教員間で共有できるような研修を希望します（オンライン研修になると思いますが）（専門学校2年課程・専任講師） ● 介護実習がスムーズに実施されるように養成校教員、学生、実習指導者との連携のあり方について。連携方法（専門学校2年課程・専任講師） ● 実習で用いる介護過程展開のシートの共通化（どこの養成校でも同じシートを用いて、現場の指導者にも理解してもらい、介護福祉士としての到達点を明確にした方が良いのではないかと）（専門学校2年課程・専任講師） ● 実習及び実習関連授業の組み立てについて（四年制大学・助教）
7. アクティブラーニング	11	<ul style="list-style-type: none"> ● アクティブラーニングに関する実践例とその効果（四年制大学・准教授） ● 実際例もまじえて、グループワークの展開の仕方（専門学校2年課程・その他） ● 知識詰め込み型ではなく、アクティブラーニングを通して発見型の授業を行う方法（四年制大学・准教授）
8. 学生の学力格差への対応	10	<ul style="list-style-type: none"> ● 同学年において学力差・能力差がある学生に対しての教育方法。低学力・理解力が低い生徒には、どのような教育をしていけばいいか。学力はあるが、人間関係の形成に困難を感じている学生への対応。高学力の学生に対し、意欲的な取り組みができるような教育方法について。介護を必要としている人の心に寄り添うケアを行うために、学生が心豊かになるための教育について（専門学校2年課程・専任講師） ● 理解力の違う学生個々への指導方法について、他校ではどのような取り組みをしているのか具体例をあげて学びたい（専門学校2年課程・専任講師）
9. 研修に関する希望	9	<ul style="list-style-type: none"> ● 各領域を意識した研修内容を考えて頂けると参加するか否かを考えられる。誰が参加すべきか考える上で助かります（四年制大学・准教授） ● 現実的な対応策が知りたいので、気兼ねなく情報交換ができる場がほしい（専門学校2年課程・専任講師） ● 非常勤講師への案内があれば参加をしていきたい（短期大学・教授） ● 分野ごとや養成年数ごとの研修会に参加してみたい（短期大学・准教授）
10. 国家試験対策	8	<ul style="list-style-type: none"> ● 介護福祉士国家試験の内容についての問題策定委員との意見交換会（四年制大学・教授） ● 国家試験合格率向上のための教授法研修（専門学校2年課程・専任講師） ● 留学生への国家試験対策（専門学校2年課程・専任講師）
11. ICTの活用	7	<ul style="list-style-type: none"> ● VRなど今の学生が取り組みやすい装置や映像を用いたもの（専門学校2年課程・その他） ● 教員のICTスキル向上のための研修（短期大学・助教） ● 効果的なICT学習（専門学校2年課程・専任講師）
12. チームマネジメント	6	<ul style="list-style-type: none"> ● コミュニケーションが苦手だと感じている学生も多い。自分自身もあまり得意ではないという思いもあるため、コミュニケーションをどのように教えるのが良いか対応に困る時もある。コミュニケーション能力がアップできるような勉強会に参加してみたい（専門学校2年課程・専任講師） ● 現場で介護福祉士として力をつけている人たちの実践状況について、人間関係とコミュニケーションで追加になったチームマネジメントの人材育成と管理といった教育内容を結び付けたもの（専門学校2年課程・専任講師）

分類	件数	具体的な記載内容（抜粋、原文のとおり記載）
13. 生活支援技術	6	<ul style="list-style-type: none"> ● 感染予防をしながら生活支援技術の演習を行うことに悩んでいる。マスク、フェイスシールドを着用しながら実践したが、移乗介助など、かなり困難な単元内容があった（専門学校2年課程・専任講師） ● 新カリキュラムでの具体的な指導方法（生活支援技術）（専門学校2年課程・専任講師） ● 養成教育における介護ロボットの利用について（その他・准教授）
14. 介護現場の現状について	6	<ul style="list-style-type: none"> ● オンライン化の介護現場の状況（専門学校2年課程・専任講師） ● 介護現場の実情や課題・今後の展開（専門学校2年課程・専任講師） ● 施設での認知症への対応、施設の実情（専門学校2年課程・専任講師）
15. 新しい教材の作成や活用など	5	<ul style="list-style-type: none"> ● ワークシートなどの教材の種類を増やしたいので、実際のワークシートの作り方や種類、工夫の仕方などの研修もお願いしたい。板書の仕方なども独学では限界があります（専門学校2年課程・専任講師） ● 教材を作成する考え方、方法論を学びたい（四年制大学・非常勤講師） ● 担当科目に必要な参考図書、文献、視覚教材等（専門学校2年課程・その他）
16. 介護現場との連携や現場職員の指導力について	5	<ul style="list-style-type: none"> ● 実習施設との連携について、施設の実習指導者とともに（専門学校2年課程・専任講師） ● 実習施設の実習教育における実力の差が大きいため、施設間の連携と養成教育機関の連携により共同の学びの場があると良い。また、実習施設から出された意見として、記録類の様式の統一をしてほしいとのことでした（専門学校2年課程・専任講師） ● 実習先の職員の資質向上に向けて考える必要がある（短期大学・非常勤講師）
17. 演習の方法	4	<ul style="list-style-type: none"> ● 介護総合演習の具体的な展開方法（専門学校2年課程・専任講師） ● 実習に代わる学内演習の実施内容や方法について（専門学校2年課程・専任講師） ● 社会経験がある方への介護技術等の演習指導方法（専門学校2年課程・専任講師）
18. 介護技術の応用	4	<ul style="list-style-type: none"> ● 介護技術の実践研修（専門学校2年課程・専任講師） ● 介護技術を教えているが、介護者、利用者互いに負担の少ない介助方法を多くの学生に学ばせたいので、基本から学ぶ研修を希望します（専門学校2年課程・専任講師）
19. 求められる介護福祉士像	3	<ul style="list-style-type: none"> ● 求められる介護福祉士像と、入学する学生のレベルの乖離（専門学校2年課程・専任講師） ● 目指すべき“介護福祉士像”といったものを各科目にどうリンクさせていったらいいのか、具体的な内容を聞いてみたい（専門学校2年課程・専任講師）
20. 介護保険制度について	3	<ul style="list-style-type: none"> ● 介護保険制度の動向にそった研修（専門学校2年課程・その他） ● 実践のベースにある制度サービスのしくみ、毎年変更があるため、具体的な運営などが分かると学生にも説明しやすい（四年制大学・教授）
21. ところとからだ	2	<ul style="list-style-type: none"> ● 「発達障害とその関わり方」の授業の方法について（四年制大学・准教授） ● 認知症の事例検討の展開方法（専門学校2年課程・専任講師）
22. 人間の尊厳と自立	2	<ul style="list-style-type: none"> ● 施設等におけるQOLの向上のための展開技術についても具体的に研修をしていただきたい（専門学校2年課程・専任講師） ● 人間の尊厳と自立の教育方法（短期大学・教授）
23. 評価の方法	2	<ul style="list-style-type: none"> ● オンラインがずっと続いた時の評価。学生の全員登校が難しく、登校ができない学生が出た場合の対応（専門学校2年課程・非常勤講師）
24. 教員間での連携	2	<ul style="list-style-type: none"> ● カリキュラムに対しての研修もそうですが、チーム一丸となって学ぶ環境を整備するには、という教員間のコミュニケーションの図り方の工夫の研修を参考にしていきたいです（専門学校2年課程・専任講師）

分類	件数	具体的な記載内容（抜粋、原文のとおり記載）
		<ul style="list-style-type: none"> ● 関連する多職種との協働を具体的に学生たちに伝えるために、また、実際の養成教育の内容を知るためにも他分野の教員との意見交換ができればと考えます（専門学校2年課程・専任講師）
25. その他の教育に関する研修内容	30	<ul style="list-style-type: none"> ● どんな介護福祉士を育てたいのか、教育者に必要な倫理（専門学校2年課程・専任講師） ● 介護領域以外の他領域についての学び（専門学校3年課程・専任講師） ● 海外の福祉の現状が知りたい。今後どうなっていくかなど（専門学校2年課程・その他） ● 学生教育をする上で、自分のキャリアアップにつながる研修（専門学校2年課程・専任講師） ● 教育効果が認められた教育実践に関する研修（四年制大学・准教授） ● 教員の研究方法と指導方法（専門学校2年課程・専任講師） ● 研修のテーマを教育とし、留学生への教育方法や新人に限らず教育者としての教育論、教育方法を再度研修に盛り込み、自己研鑽に充てても良いと考える（専門学校2年課程・専任講師） ● 現在の介護福祉の現状を踏まえて改めて介護福祉論について研修（講演）等に参加したい（専門学校2年課程・専任講師） ● 新しい情報や技術を提供してくれる場が数多くあると良いと思う（専門学校2年課程・専任講師） ● 他の先生方の講義をデモンストレーションで見れるようにしたい（自身も実践でフィードバックしたい）。実技に関する勉強会（専門学校2年課程・専任講師）
26. その他	18	<ul style="list-style-type: none"> ● パワハラをはじめとする、職場改善の取り組み例等々（専門学校2年課程・専任講師） ● 介護業務のやりがいなどを社会に発信するための内容（四年制大学・准教授） ● 学生募集（短期大学・教授）
合計	316	

(5) 希望する開催方法

教員

(2) 具体的開催の方法・希望する講師等

図表 7 3 希望する開催方法 (全体)

分類	件数
1. オンラインやオンデマンド型の研修	109 件
2. 開催時期、曜日、時間帯、場所など	33 件
3. 施設の実習指導者等と共同参加	14 件
4. 希望する講師	13 件
5. 対面研修を希望	5 件
6. その他の研修形式	5 件
7. 他と共同で実施	3 件
8. その他	3 件
合計	185 件

図表 7 4 希望する開催方法

分類	件数	具体的な記載内容 (抜粋、原文のとおり記載)
1. オンラインやオンデマンド型の研修	109	<ul style="list-style-type: none"> ● オンラインなど、時間、費用の制約が少ないことを希望する (四年制大学・准教授) ● オンライン研修。会議の途中又は個人のタイミングで早々にアドバイスをもらえると来年度に活かせます (専門学校 2 年課程・非常勤講師) ● オンライン研修や、e-ラーニングを取り入れてほしい (地方の場合、コロナ禍というだけでなく、天候、自然災害発生で会場入りできないことあり) (専門学校 2 年課程・専任講師) ● オンライン授業の体験、受講者はあらかじめ授業案を準備してプレゼンテーションを行い、講師に助言を得るなどの形式を取る (四年制大学・専任講師) ● 土日のオンライン研修なら無理なく参加可能です。また、オンライン研修は 1 年間程度自由にアクセスし、繰り返し学べる工夫ができるのではと思います (専門学校 2 年課程・専任講師) ● 夜間にオンラインでの参加などを希望している (短期大学・専任講師) ● オンライン研修で良いので 18:00～開催などを望みます。会議や実習巡回などで、リアルタイムで参加できない可能性がありますので、YouTube などにアップロードして頂けると助かります (四年制大学・准教授)
2. 開催時期、曜日、時間帯、場所など	33	<ul style="list-style-type: none"> ● 2、3 月の 1～2 日 (短期大学・専任講師) ● 3～4 月は忙しいため避けてほしい (専門学校 2 年課程・非常勤講師) ● 5 月ごろ (四年制大学・准教授) ● コロナがおさまってからいつでも (専門学校 2 年課程・専任講師) ● 夏季、冬季休みなど授業がない時期 (四年制大学・准教授) ● 学生の長期休暇中に 3 日間程度 (専門学校 2 年課程・専任講師) ● 近場、暖かい時期 (移動しやすい) (専門学校 2 年課程・専任講師) ● 国試前の 1 月は避けてほしいです (専門学校 2 年課程・専任講師) ● 日中は授業があるため、土曜日の日中か、平日は午後 5 時以降 (短期大学・助教)

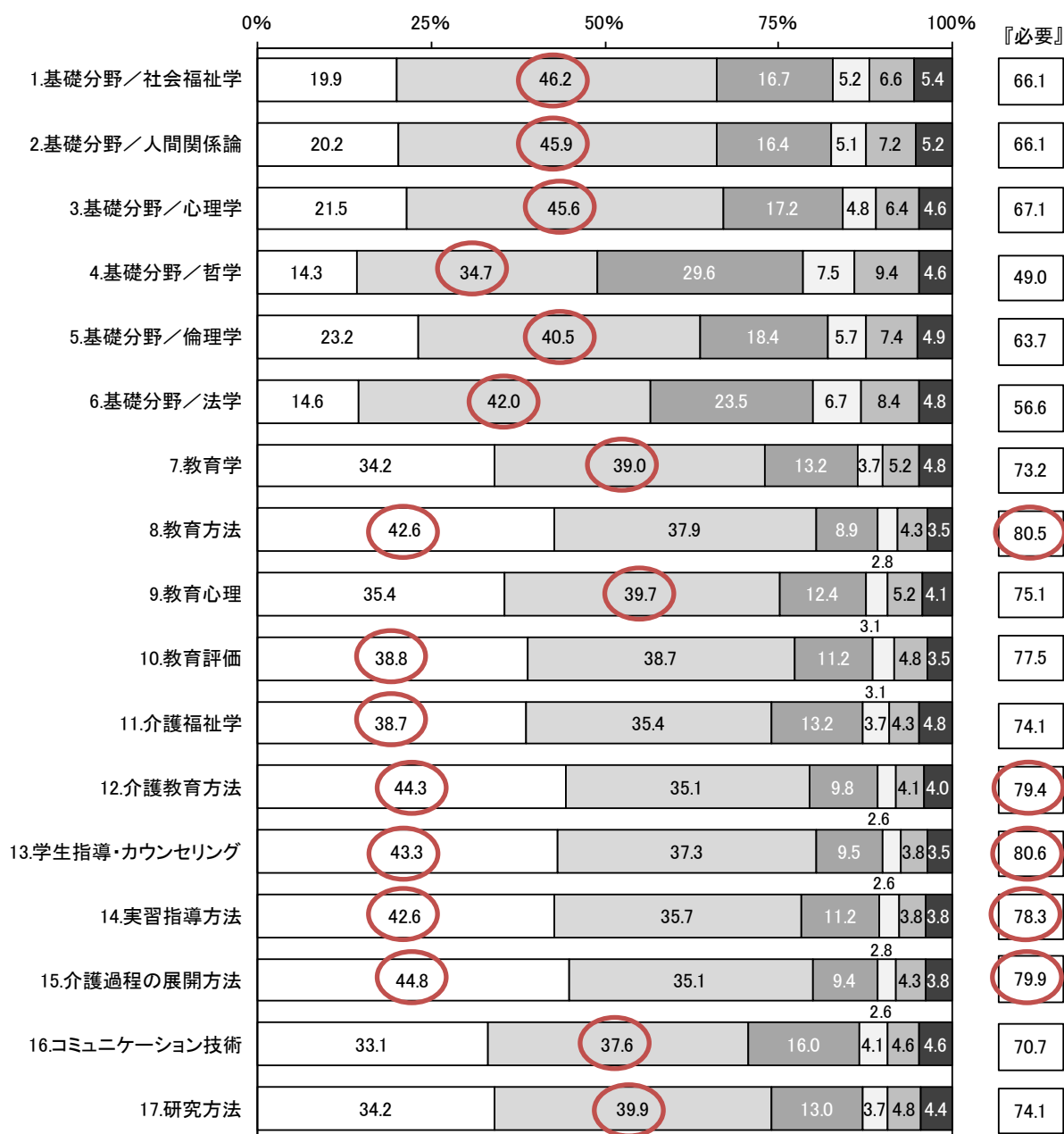
分類	件数	具体的な記載内容（抜粋、原文のとおり記載）
3. 施設の実習指導者等と共同参加	14	<ul style="list-style-type: none"> ● ハイブリッド対応の研修で、ロボット利用の施設実習指導者と共同参加（その他・准教授） ● 施設指導者の登壇、施設指導者は無料で参加が可能だと尚良い（短期大学・助教） ● 実習指導者は高校で介護福祉養成をされている先生、介護関連企業の方などと共同研修（四年制大学・非常勤講師） ● 利用者とのコミュニケーションの時間が長い実習施設の指導者との共同参加（短期大学・専任講師）
4. 希望する講師	13	<ul style="list-style-type: none"> ● 学生指導経験が豊富な講師（専門学校2年課程・専任講師） ● 希望する講師は法律の専門家、尊厳・人権を考える（四年制大学・非常勤講師） ● 教育関係者（小学校や中学校の先生など）（専門学校2年課程・専任講師） ● 国家試験問題策定委員の方々（四年制大学・教授） ● 日本語教師。留学受け入れ先のエージェントの話（専門学校2年課程・専任講師）
5. 対面研修を希望	5	<ul style="list-style-type: none"> ● オンラインでも可能ですが対面が良いです（専門学校2年課程・専任講師） ● オンラインで介護力、人間力が学べるとは思いません。コロナが落ち着いたら分散でも対話できる形を望みます（専門学校1年課程・准教授） ● 広い場所にブースなどをわけて自由参加できると良い。以前国際センターで看護研究発表会を行ったが、そのように自分の興味のある所に参加できる方法を希望（専門学校2年課程・非常勤講師）
6. その他の研修形式	5	<ul style="list-style-type: none"> ● オンラインでは授業や雑用に追われてしまい、受講するのはかえって困難（専門学校2年課程・その他） ● 県単位でブロックを作り、持ち回りで当番ブロックを決めてテーマを決め、開催する（専門学校2年課程・専任講師） ● ディスカッション形式、留学生を指導している学校との交流（四年制大学・専任講師） ● ワークショップ（専門学校2年課程・専任講師）
7. 他と共同で実施	3	<ul style="list-style-type: none"> ● 研修計画の段階で他分野の業種の人と計画するのはいかがでしょうか（短期大学・助教） ● 様々な職種の人達と合同で行う（専門学校2年課程・専任講師）
8. その他	3	<ul style="list-style-type: none"> ● コロナ感染症の中、他校の状況の情報を交換する機会が、協会の中で全くないために戸惑っている（四年制大学・助教） ● 現地研修とオンライン研修の同時実施（四年制大学・准教授） ● 対面でもオンラインでも可（専門学校1年課程・専任講師）
合計	185	

4 介護教員講習会について〔教員票〕

(1) 学び直しや受講の必要性

教員	質問10.「介護教員講習会」の以下1～17の科目について、
	<ul style="list-style-type: none"> ● 受講の経験がある方：改めて学び直しの必要性を感じるか、お教えてください。 ● 受講の経験がない方：介護福祉士養成課程の教員として受講の必要があると思うか、お教えてください。

図表75 学び直しや受講の必要性



回答数=652人

とても必要
必要
あまり必要ではない
必要ではない
わからない
無回答

※『必要』=「とても必要」+「必要」

図表 7 6 学び直しや受講の必要性<所属先別>

	専門学校			短期大学			四年制大学		
	とても必要	必要	『必要』	とても必要	必要	『必要』	とても必要	必要	『必要』
1. 基礎分野／社会福祉学	18.2	45.2	63.4	24.8	51.3	76.1	21.5	44.9	66.4
2. 基礎分野／人間関係論	18.7	48.0	66.7	23.9	47.8	71.7	23.4	35.5	58.9
3. 基礎分野／心理学	18.7	48.2	66.9	31.0	39.8	70.8	22.4	42.1	64.5
4. 基礎分野／哲学	12.1	33.8	45.9	17.7	38.9	56.6	17.8	33.6	51.4
5. 基礎分野／倫理学	20.1	41.1	61.2	24.8	44.2	69.0	32.7	34.6	67.3
6. 基礎分野／法学	13.7	42.1	55.8	16.8	46.0	62.8	15.0	38.3	53.3
7. 教育学	34.3	38.3	72.6	37.2	39.8	77.0	31.8	40.2	72.0
8. 教育方法	43.0	37.8	80.8	50.4	33.6	84.0	35.5	41.1	76.6
9. 教育心理	35.9	39.2	75.1	42.5	37.2	79.7	26.2	44.9	71.1
10. 教育評価	38.5	38.3	76.8	45.1	38.1	83.2	33.6	41.1	74.7
11. 介護福祉学	37.4	37.4	74.8	43.4	36.3	79.7	39.3	29.0	68.3
12. 介護教育方法	44.4	36.2	80.6	46.9	34.5	81.4	43.0	31.8	74.8
13. 学生指導・カウンセリング	45.4	36.9	82.3	44.2	37.2	81.4	33.6	40.2	73.8
14. 実習指導方法	44.2	35.0	79.2	44.2	35.4	79.6	35.5	38.3	73.8
15. 介護過程の展開方法	44.9	37.6	82.5	48.7	32.7	81.4	40.2	29.0	69.2
16. コミュニケーション技術	33.3	38.3	71.6	33.6	42.5	76.1	31.8	30.8	62.6
17. 研究方法	32.6	40.2	72.8	42.5	42.5	85.0	32.7	37.4	70.1

※網掛けは1～17の上位3位。

図表77 学び直しや受講の必要性<職位別>

	教授			准教授			助教		
	とても必要	必要	『必要』	とても必要	必要	『必要』	とても必要	必要	『必要』
1. 基礎分野／社会福祉学	23.4	44.7	68.1	17.9	42.9	60.8	12.1	66.7	78.8
2. 基礎分野／人間関係論	27.7	42.6	70.3	12.5	37.5	50.0	15.2	51.5	66.7
3. 基礎分野／心理学	31.9	31.9	63.8	12.5	46.4	58.9	18.2	45.5	63.7
4. 基礎分野／哲学	19.1	38.3	57.4	12.5	25.0	37.5	12.1	48.5	60.6
5. 基礎分野／倫理学	29.8	44.7	74.5	17.9	39.3	57.2	24.2	42.4	66.6
6. 基礎分野／法学	14.9	42.6	57.5	12.5	33.9	46.4	9.1	45.5	54.6
7. 教育学	27.7	36.2	63.9	37.5	32.1	69.6	33.3	51.5	84.8
8. 教育方法	36.2	31.9	68.1	44.6	32.1	76.7	30.3	57.6	87.9
9. 教育心理	29.8	36.2	66.0	32.1	39.3	71.4	27.3	57.6	84.9
10. 教育評価	36.2	31.9	68.1	33.9	42.9	76.8	36.4	51.5	87.9
11. 介護福祉学	31.9	27.7	59.6	37.5	33.9	71.4	39.4	33.3	72.7
12. 介護教育方法	38.3	25.5	63.8	46.4	26.8	73.2	30.3	57.6	87.9
13. 学生指導・カウンセリング	25.5	40.4	65.9	35.7	41.1	76.8	36.4	45.5	81.9
14. 実習指導方法	27.7	31.9	59.6	35.7	44.6	80.3	33.3	51.5	84.8
15. 介護過程の展開方法	40.4	27.7	68.1	39.3	30.4	69.7	39.4	39.4	78.8
16. コミュニケーション技術	27.7	36.2	63.9	25.0	37.5	62.5	30.3	39.4	69.7
17. 研究方法	29.8	34.0	63.8	39.3	41.1	80.4	39.4	42.4	81.8

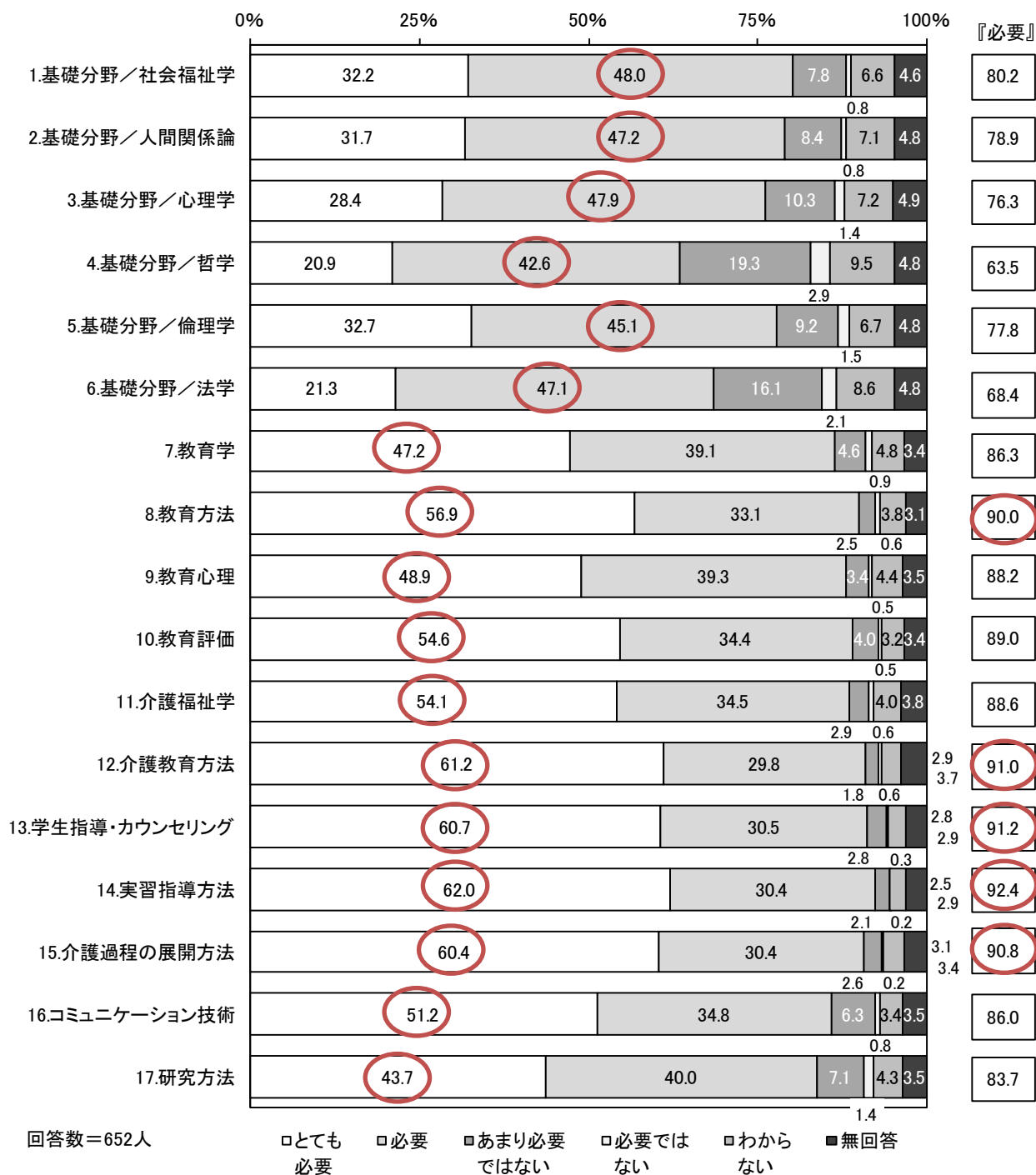
	専任講師			非常勤講師		
	とても必要	必要	『必要』	とても必要	必要	『必要』
1. 基礎分野／社会福祉学	18.5	46.9	65.4	29.5	36.4	65.9
2. 基礎分野／人間関係論	19.2	48.0	67.2	25.0	40.9	65.9
3. 基礎分野／心理学	19.6	48.0	67.6	29.5	43.2	72.7
4. 基礎分野／哲学	11.8	35.1	46.9	22.7	34.1	56.8
5. 基礎分野／倫理学	21.2	41.3	62.6	29.5	36.4	65.9
6. 基礎分野／法学	14.1	43.6	57.7	15.9	43.2	59.1
7. 教育学	34.6	40.0	74.6	29.5	38.6	68.1
8. 教育方法	44.6	38.3	82.9	31.8	38.6	70.4
9. 教育心理	37.2	39.3	76.5	27.3	43.2	70.5
10. 教育評価	39.7	39.5	79.2	29.5	34.1	63.6
11. 介護福祉学	39.0	37.4	76.4	43.2	34.1	77.3
12. 介護教育方法	45.3	36.3	81.6	45.5	31.8	77.3
13. 学生指導・カウンセリング	45.7	37.2	82.9	40.9	31.8	72.7
14. 実習指導方法	45.5	34.9	80.4	40.9	29.5	70.4
15. 介護過程の展開方法	46.0	36.7	82.7	40.9	31.8	72.7
16. コミュニケーション技術	33.9	38.3	72.2	38.6	34.1	72.7
17. 研究方法	33.5	41.1	74.6	27.3	38.6	65.9

※網掛けは1～17の上位3位。

(2) 新任者が修得しておく必要があると考える介護教員講習会の科目

教員	<p>質問11. 新任者が介護福祉士養成校の教員として教授を始めるにあたり、以下1～17について、修得しておく必要性があると思う内容についてお聞かせください。これまでの経験や新任の教員に求めたいこと等を振り返り、ご回答ください。</p>
----	--

図表 7 8 新任者が修得しておく必要があると考える介護教員講習会の科目



図表 7 9 新任者が修得しておく必要があると考える介護教員講習会の科目 <所属先別>

	専門学校			短期大学			四年制大学		
	とても必要	必要	『必要』	とても必要	必要	『必要』	とても必要	必要	『必要』
1. 基礎分野／社会福祉学	27.2	49.9	77.1	39.8	45.1	84.9	45.8	43.9	89.7
2. 基礎分野／人間関係論	28.4	48.0	76.4	39.8	45.1	84.9	38.3	46.7	85.1
3. 基礎分野／心理学	25.8	48.7	74.5	33.6	46.0	79.6	34.6	46.7	81.3
4. 基礎分野／哲学	18.0	42.6	60.6	22.1	45.1	67.2	30.8	42.1	72.9
5. 基礎分野／倫理学	28.8	45.9	74.7	36.3	47.8	84.1	45.8	40.2	86.0
6. 基礎分野／法学	19.1	47.0	66.1	24.8	47.8	72.6	28.0	46.7	74.7
7. 教育学	47.3	38.8	86.1	48.7	39.8	88.5	47.7	40.2	87.9
8. 教育方法	56.3	33.6	89.9	62.8	31.9	94.7	57.0	31.8	88.8
9. 教育心理	49.9	38.1	88.0	51.3	41.6	92.9	43.9	43.0	86.9
10. 教育評価	53.2	35.2	88.4	60.2	31.0	91.2	56.1	35.5	91.6
11. 介護福祉学	51.8	36.6	88.4	58.4	32.7	91.1	61.7	27.1	88.8
12. 介護教育方法	59.6	31.4	91.0	66.4	25.7	92.1	64.5	27.1	91.6
13. 学生指導・カウンセリング	60.5	32.2	92.7	69.0	19.5	88.5	54.2	36.4	90.6
14. 実習指導方法	60.8	31.4	92.2	64.6	28.3	92.9	63.6	29.9	93.5
15. 介護過程の展開方法	59.8	31.4	91.2	62.8	28.3	91.1	60.7	29.9	90.6
16. コミュニケーション技術	50.8	35.0	85.8	56.6	31.9	88.5	49.5	37.4	86.9
17. 研究方法	40.0	42.1	82.1	56.6	33.6	90.2	45.8	40.2	86.0

※網掛けは1～17の上位3位。

図表 8 0 新任者が修得しておく必要があると考える介護教員講習会の科目 <職位別>

	教授			准教授			助教		
	とても必要	必要	『必要』	とても必要	必要	『必要』	とても必要	必要	『必要』
1. 基礎分野／社会福祉学	44.7	40.4	85.1	42.9	39.3	82.2	36.4	54.5	90.9
2. 基礎分野／人間関係論	44.7	38.3	83.0	33.9	46.4	80.3	33.3	45.5	78.8
3. 基礎分野／心理学	36.2	42.6	78.8	30.4	44.6	75.0	24.2	51.5	75.7
4. 基礎分野／哲学	25.5	42.6	68.1	25.0	39.3	64.3	21.2	48.5	69.7
5. 基礎分野／倫理学	46.8	38.3	85.1	37.5	44.6	82.1	33.3	54.5	87.8
6. 基礎分野／法学	25.5	40.4	65.9	25.0	42.9	67.9	18.2	57.6	75.8
7. 教育学	46.8	38.3	85.1	55.4	35.7	91.1	48.5	45.5	94.0
8. 教育方法	66.0	19.1	85.1	62.5	32.1	94.6	60.6	36.4	97.0
9. 教育心理	44.7	40.4	85.1	46.4	48.2	94.6	51.5	42.4	93.9
10. 教育評価	59.6	31.9	91.5	55.4	37.5	92.9	66.7	27.3	94.0
11. 介護福祉学	59.6	27.7	87.3	71.4	21.4	92.8	60.6	27.3	87.9
12. 介護教育方法	70.2	19.1	89.3	67.9	28.6	96.5	66.7	24.2	90.9
13. 学生指導・カウンセリング	57.4	27.7	85.1	64.3	32.1	96.4	60.6	27.3	87.9
14. 実習指導方法	63.8	25.5	89.3	69.6	28.6	98.2	69.7	24.2	93.9
15. 介護過程の展開方法	59.6	27.7	87.3	64.3	30.4	94.7	66.7	24.2	90.9
16. コミュニケーション技術	53.2	23.4	76.6	46.4	46.4	92.8	51.5	36.4	87.9
17. 研究方法	53.2	31.9	85.1	51.8	41.1	92.9	42.4	45.5	87.9

	専任講師			非常勤講師		
	とても必要	必要	『必要』	とても必要	必要	『必要』
1. 基礎分野／社会福祉学	29.6	49.9	79.5	29.5	47.7	77.2
2. 基礎分野／人間関係論	30.3	48.7	79.0	27.3	50.0	77.3
3. 基礎分野／心理学	27.3	49.9	77.2	29.5	45.5	75.0
4. 基礎分野／哲学	19.2	44.1	63.3	25.0	34.1	59.1
5. 基礎分野／倫理学	30.7	46.7	77.4	29.5	38.6	68.1
6. 基礎分野／法学	21.0	48.3	69.3	18.2	47.7	65.9
7. 教育学	47.8	39.7	87.5	36.4	34.1	70.5
8. 教育方法	56.8	34.4	91.2	40.9	34.1	75.0
9. 教育心理	50.8	38.8	89.6	36.4	34.1	70.5
10. 教育評価	54.7	35.3	90.0	43.2	31.8	75.0
11. 介護福祉学	53.8	36.7	90.5	40.9	38.6	79.5
12. 介護教育方法	61.7	30.3	92.0	45.5	36.4	81.9
13. 学生指導・カウンセリング	62.6	30.3	92.9	45.5	40.9	86.4
14. 実習指導方法	62.4	30.7	93.1	45.5	38.6	84.1
15. 介護過程の展開方法	61.2	30.5	91.7	43.2	38.6	81.8
16. コミュニケーション技術	52.7	35.1	87.8	47.7	34.1	81.8
17. 研究方法	42.0	42.5	84.5	38.6	31.8	70.4

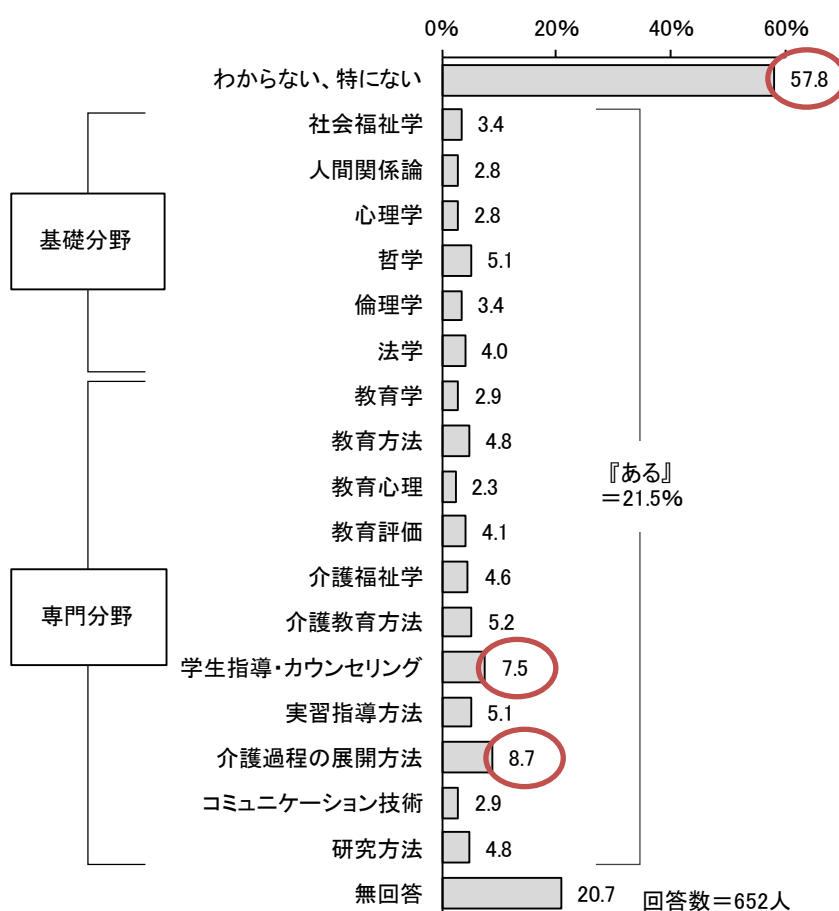
※網掛けは1～17の上位3位。

(3) 介護教員講習会の内容の見直し・追加してほしい内容

教員	<p>質問12. 介護教員講習会についてご回答ください。</p> <p>① 見直しが必要と考える科目について、あてはまるものすべてに○をしてください。具体的な見直しの内容や方向性についてもご記入をお願いします。</p> <p>② 教育力の向上に向けて、介護教員講習会に新たに追加してほしい内容やテーマはありますか。</p>
-----------	---

①. 見直しが必要と考える介護教員講習会の科目

図表 8 1 見直しが必要と考える介護教員講習会の科目



※『ある』=100-「わからない、特にない」-「無回答」
 ※自由記載は、原則として原文のとおり全てを掲載している。

【基礎分野／社会福祉学】

- 介護を実践する上で求められるソーシャルワーク的視点。
- 社会福祉の現状課題に即した内容へのブラッシュアップ。
- 介護にまつわる制度についての話を聞きたかった。
- 介護士ではなく介護福祉士であることを理論的にも構築していくこと。
- 活用したいので具体的に教材となる参考書（資料集など）の販売。
- 法制度の変更や、関係する法律、介護福祉サービスについて整理して教えてほしい。
- 他の近接学問との明確な違いや共通点、独自性、歴史等をもっと丁寧に教授する必要がある。「学」というからには、学問としての講義内容が求められる。

【基礎分野／人間関係論】

- 人との関わりが乏しい学生が多いため、事例を多く取り入れる。

【基礎分野／心理学】

- 講師の先生によって内容に大きく差があるイメージ。
- 一般的な基礎的内容ではなく、介護の養成校の学生・教育レベルにふさわしい内容での実施。
- 不要と考える。教員は大学卒が主であり、教養科目は修めているし、基礎的な知識も持ち合わせている。
- 介護教員の講習の内容から省いても良いのではないかと考えている。その分他の科目を充実させたほうがよいと考えている。
- 心理学の内容については、教育心理に統合できないか。

【基礎分野／哲学】

- 必要性が分からない。
- 不要と考える。教員は大学卒が主であり、教養科目は修めているし、基礎的な知識も持ち合わせている。
- どれも必要な科目だと思うが全部受講するには日程、費用の面での負担が大きい。省けるものは省いて欲しいと思う。
- どのように学生に教授すればよいか未だに理解できない。進められない。
- 介護福祉教育にどのように活かすことができるのか具体的な目的（ねらい）が不十分である。
- 介護福祉士としての哲学に重きを置いた内容が必要だと思います。
- 基礎分野の哲学、倫理学、法学は統一した方が良いと思います。
- 知識として大切だが教育に直結しづらい。
- 哲学と介護をつなぐ具体的な内容。
- 介護教員講習会の科目から省いても良いのではないかと考えている。
- 哲学については、内容次第だが、倫理学に統合できないか。

【基礎分野／倫理学】

- 不要と考える。教員は大学卒が主であり、教養科目は修めているし、基礎的な知識も持ち合わせている。
- 基礎分野の哲学、倫理学、法学は統一した方が良いと思います。
- 日本人全体の倫理観が多様になってきている。また、介護現場における外国人の参入もあり、「倫理学」は必要でしょうか？
- 倫理観については、現在の現場の介護福祉士の有り様から教授願いたい。
- 介護倫理は、現場に出ると必ず介護者として以前に人としての視点を求められるので、介護福祉の専門性をもって指導できる教員が必要である。

【基礎分野／法学】

- 介護福祉士として必要な法的な知識。
- 介護保険や人権、尊厳にかかわる内容等、もっと内容が伝えやすい方法を模索している。
- 基礎分野の哲学、倫理学、法学は統一した方が良いと思います。
- 知識として大切だが教育に直結しづらい。
- 福祉の中で必要な法学（事例）等の対応。
- 法学と介護をつなぐ具体的な内容。
- 総論的には理解できるが介護教員講習会の科目からは省いたほうが良いと考える。
- 法学については、内容次第だが、社会福祉学に統合できないか。

【教育学】

- 教授方法について。
- 学生を実際に指導する中で実践的なものが欲しかった。身近なケースや体験談などを先生方から聞きたかった。
- 教育ということを読んでいないので、教員として学生を教育するということを具体的に教えていただきたい。歴史だけで終わらせてほしくない。
- 養成校での「教育」は講習レベルではないので、そもそもの教育論を押さえること。
- 介護の教員は指導法についてほとんど学びません。現場の経験だけでは限界があるので教育技法について丁寧な指導が求められると思います。

【教育方法】

- オンライン授業の活用と効果。ICT知識等。
- 一般的な基礎的内容ではなく、介護の養成校の学生・教育レベルにふさわしい内容での実施。
- 学生を実際に指導する中で実践的なものが欲しかった。身近なケースや体験談などを先生方から聞きたかった。
- 教育ということを学んでいないので、教員として学生を教育するということを具体的に教えていただきたい。歴史だけで終わらせてほしくない。
- 効果的な教育方法。
- 新型コロナの影響でオンライン、オンデマンドになったことから、実技の教授方法の限界を感じている。現地の学生が興味、関心を示す内容や取り組みを探究すべき。
- 様々な課題を抱えた学生も増えていることから、学生の特性に合わせた教育方法、学生指導、カウンセリングなどの内容や時数を増やしても良いと考えている。
- 個人的経験則によるものでなく、科学的評価と連動した教育の構築に資する内容にする。例えば、介護技術について動画で実践場면을投稿し、複数教員が同一の評価指標で評価し、良い点悪い点の指摘、修正方法などのフィードバックを行う、学生はそれをポートフォリオに蓄積し、随時見直し成長度合いが確認できるようにする、などの具体的教育方法が学べるものとする。
- 今の学生にあった効果的な教育方法を身につける（自己流にならない）。
- 指導法や科目の教授法、授業方法など教育方法として整理する必要がある。

【教育心理】

- 留学生が多いため事例を多く取り入れてわかりやすくする。
- 一般的な基礎的内容ではなく、介護の養成校の学生・教育レベルにふさわしい内容での実施。
- 学生を実際に指導する中で実践的なものが欲しかった。身近なケースや体験談などを先生方から聞きたかった。

【教育評価】

- 自分自身が受講した際の内容が全く分からなかった。伝わる、わかる授業を行ってほしい。
- 教育の目的、方法、実施に基づく評価について、その方法について、学びたい。
- 教育評価：外国人学生が増加する中でも一定の水準を守るべきであること。
- 統計の話が難しかった記憶があります。もう少し初めての人に分かりやすく説明してもらいたいです。
- 評価と教育内容は不可分なので、最新の知見を踏まえた教育と評価の方法を提示すべき。評価指標の作成や学生への提示方法など。
- 内容が難しく、受講しても理解できなかつた。必要性を感じる内容にしてほしい。

【介護福祉学】

- 介護士ではなく介護福祉士であることを理論的にも構築していくこと。
- 介護福祉学では、著名な先生の貴重なお話も伺うことができるため、その都度、教員のカンフル剤としても必要と考える。
- 理念プラス介護福祉士に求められる実学としての専門性。
- 求められる介護福祉士像への寄せ方。
- 全般的な内容について。
- ただ講師の経験を聞くだけの講習であり、無意味だと思った。教員として学ぶ必要のあるものをリストアップして、そのリストに従い講習すべきだと思う。
- 過去の歴史だけではなく、他産業等と比較して、「介護福祉」が生き残る要素。必要性について、未来の介護。
- 自立とQOLを目指す。
- 新カリキュラムに沿った実践的な内容を取り入れてほしい。
- 母国に「介護」のない学生への理解。
- 目的を透明にする。
- 内容の精査、各講習会で統一した方法を設定した方が良い。
- 介護福祉学とは何か、介護福祉士に求められる役割が拡大されている中、明確にしておきたい。
- 教員自身が「介護福祉」について、しっかりと理解しておくこと。
- 介護福祉養成施設教員として、介護福祉学の視点は必要不可欠と考えるため。現状では、自発的に学習していかなければならないため、積極的に講習会などに参加したいと考える。
- 教授する方によって、内容の相違が大きい。様々な分野の知見に基づく内容相違であれば良いが「経験に左右」されるようでは、まだまだ学問とはいえない。従って必要ないと考える。もっと科学的であるべき。
- 介護教員講習会は国の方で受講が義務づけられているが、同じクラスの受講生の中には博士課程を出ている人も数人いた。介護福祉学が学問として認められていないからだと思うが、看護師養成課程においても以前は義務づけられていたが、大学教育では今は違う。地方にいる場合、受講料を含め100万円は最低必要となる、物理的にもハードとなる。義務とするのであれば、地方の人にも受講しやすい環境を整える必要があると思う。少なくとも教育の

地域格差がある。新しい教員を募集しようと思っても、この項目が必要となると良い人材の確保が地域では難しくなる。この講習の評価（受講した人としていない人で教育の質に差があるのかどうか検証）が必要と考える。

- 介護福祉学が確立していない。

【介護教育方法】

- 教育課程の演習が必要。
- 外国人留学生向け。
- ただ講師の経験を聞くだけの講習であり、無意味だと思った。教員として学ぶ必要のあるものをリストアップして、そのリストに従い講習すべきだと思う。
- 具体性や根拠の整理。
- 現場上がりの教員は「教育」なのか「育成」なのか「養成」なのかで戸惑いもある様子。教育実習や学びのない教員は特に教育方法でも良いが必要。シラバスを知らない等。
- 授業案の作成について、全く時間がなかった。経験者と未経験者の差が大きすぎる。
- 新カリキュラムに沿った実践的な内容を取り入れてほしい。
- 個人的経験則によるものでなく、科学的評価と連動した教育の構築に資する内容にする。加えて、全国の具体的教育実践が共有できるしくみの構築。
- 介護教育方法：外国人学生にわかりやすく、実践力が身につくような教育方法。
- 教授する方によって、内容の相違が大きい。様々な分野の知見に基づく内容相違であれば良いが「経験に左右」されるようでは、まだまだ学問とはいえない。従って必要ないと考える。もっと科学的であるべき。

【学生指導・カウンセリング】

- 様々な課題を抱えた学生も増えていることから、学生の特性に合わせた教育方法、学生指導、カウンセリングなどの内容や時数を増やしても良いと考えている。
- 外国人留学生向け。
- 留学生への指導方法を加えたものを取り入れる。
- 多様な学生への対応。
- オンライン、遠隔など今までなかった状況により学生指導方法を試行錯誤しながら行っています。このような状況での学生指導について改めて学びたいです。
- 演習等の時間を増やし、より実践的な内容を希望します。
- 学生本人の持つ課題が、家庭環境か国の違いかなどの背景によるものが多いと感じる。困難なケースへの対応に免疫をつけておく必要があると感じている。特に新任の教育者は学生対応できず困っていることが多い。
- 現代の学生のニーズを取り入れた内容。職業訓練生の対応の方法。
- 現代の学生気質や文化、家族背景が複雑化している面、少子高齢化、経験浅い学生への指導は悩んでいる。
- 多様な学生が存在する。教員もともにカウンセリングが必要な状態にならないよう身を守るために。
- 様々な学生が入学してくるようになり、まずは教育を受ける姿勢から身につけてもらう。意識づけの必要な学生もいるようになっている。
- 留学生が増えていることを踏まえて、どのようにしたらよいか具体的に教えてほしい。
- 留学生についての理解。
- 留学生に対しての学生指導とカウンセリングについて。
- 留学生の指導。
- 留学生への指導方法。
- 留学生や、学力に問題のある学生等への個々の対応について具体的に学べるように。
- 時間数を増やす。
- 留学生を想定した内容（時代、ニーズとのマッチング）。
- 学生の個別性、メンタル面に関する他の専門職との連携・協力のあり方。
- モンスターペアレントの対応方法（不安定な学生への対応）。
- 自分の考えに固執せず、学生の気持ちに寄り添った指導方法を身につけたいと考えるため。良く耳にする「いまだきの若者は～」という見方をしないで教育にあたりたい。

【実習指導方法】

- 最新の实習指導について、その都度学習が必要と考える。時代に合わせるべき。
- 介護の現場で勤務している方が理解し、教授できていない。まずはそこからしっかり教育がなされると学生にとっても有意義な実習になると思う。
- 記録。
- 研修時間がもっと欲しい。実習についての具体的な計画などについてもっと学びたい。
- 実習施設での指導領域を含めて。
- 実習施設担当者の意見を取り入れた内容。

- 内容がたくさんあるが、グループワークでディスカッションし、まとめる時間が少なかった。可能であれば半日～1日多いと良いと思う。
- 留学生への指導方法。
- できれば全国統一の方向性で行ってほしい。
- 留学生を想定した内容（時代、ニーズとのマッチング）。
- 新カリキュラムの指導（施設指導者）。
- 実習施設指導者講習会の内容も同時に習いたい。

【介護過程の展開方法】

- 介護過程の具体的展開方法。事例を使用して。
- 介護過程の展開そのものを学習する必要性が不明。その科目をどう教授するか講習は必要。その他の養成科目も含め、教員として採用された後に、その科目を担当した教員がスキルアップで科目別の講習会を受講できるような仕組みがあると良い。
- 介護過程の展開は現任教員でも理解できていない方も多。その都度学び直しの機会や、外部の情報が必要と考える。
- 生活支援に求められる課題と援助内容の関係性について。
- 何が正解かわからないところがある。また現場の介護過程と書式や実践方法が異なっているため、より実践的な取り組みが必要であると考え。
- 介護過程展開の具体的な理論がない。理論に基づいた展開方法があれば良い。
- 時代のニーズに合った事例に刷新。
- 「介護過程の展開方法」、この思考が浸透していないと感じる。
- 1つの限定した内容であったが、そうではなく、全ての現存の展開方法の利点と課題を教えてほしかった。
- ICFの理解からの介護計画の立案。
- ケアマネジメント見直し、介護教育課程が現場で必須につながる。
- より実践的な授業展開。
- 介護の現場で勤務している方が理解し、教授できていない。まずはそこからしっかり教育がなされると学生にとっても有意義な実習になると思う。
- 介護過程の指導方法。
- 介護過程の展開方法について、その思考課程を知識や技術をふまえて体現する内容にすると良い。
- 介護過程を行うため、学生にどのように進めていかなどの方法について知りたいと思います。
- 学生が分かりやすい教授方法を多様に知りたかったです。黒板には、オンラインのスペースにどう見せていくかということ。
- 学生が理解できない実習で困っている。そのため、もっと時間をかけてしっかりと学ぶべき。
- 活用したいので具体的に教材となる参考書（事例からのワークなど）の販売。
- 教育現場で実践的なものに。
- 自立とQOLを重視する介護過程。
- 実践的な介護過程。
- 受講生が介護過程を学ぶのも重要だが、学生に対し、どのように授業を展開していくのかを学びたい。
- 新カリキュラムの中核であるはずだが、15年前の講習は理論のみであった。教員講習であれば介護過程とは？ではなく、どのように学生を指導するかなどの学生の指導方法であるべきだと思う。今そのようになっていけば申し訳ありません。
- 発想力がなく、考えることを苦手とする学生が多い。考えを引き出す方法などを詳しく教えてもらえるとありがたい。
- 様々なやり方があると思うので具体的に教えやすくする方法を行う。
- 留学生への指導方法。
- 留学生を想定した内容（時代、ニーズとのマッチング）。
- できれば全国統一の方向性で行ってほしい。
- 自分たちが受講したときの介護過程の展開は、グループワークからの発表だったが、一人の受講生の負担が多く（意見を出さない、役割を担わない等の受講生のグループだったため）得るものはなかった。
- 介護過程の展開は介護福祉士の集大成の学問である。そこをきちんと教育できる人材がいる。
- 学習が苦手な学生へのわかりやすい展開方法。
- 複数人の教員が介護実習に携わるが、介護過程の展開の指導方法が独自の研究のもので共有しづらい。使用テキストに沿った指導方法を、他校と情報共有しながら介護過程記録用紙を養成校同士統一するなどして、介護現場の指導者を困らせないようにしたいと強く思う。
- 介護過程の展開は学校によって差がありすぎる。もう少し統一した教育内容が必要である。
- 必要なのは介護過程の展開方法をどう教授するかであり、介護過程の展開方法を習う授業ではない。
- 介護過程の展開が教員により統一されていない。

【コミュニケーション技術】

- コミュニケーション技術そのものを学習する必要性が不明。その科目をどう教授するかは講習は必要。その他の養成科目も含め、教員として採用された後に、その科目を担当した教員がスキルアップで科目別の講習会を受講できるような仕組みがあると良い。
- すでにある程度の実務経験を経ている受講生にそもそも必要なか疑問。
- コミュニケーションは、他の専門職とは違う介護福祉士ならではの専門性をきちんと能書きからも伝え、社会福祉演習と重ねることが必要である。

【研究方法】

- 講師の先生によって内容に大きく差があるイメージ。
- エビデンスの積み上げに向けた研究方法。
- 講習会参加者間で、研究の理解度が違いすぎる。大卒以下の学歴では研究に全く触れたことがないので、数日の講習で研究を理解して体験できるレベルにするのは無理ではないか。
- 内容が短期的な講習にはそぐわない。
- 研究方法については、大学院を卒業した人には不要である。
- 先行研究の検索、文献検索、論文検索なども含めて、研究の方法と研究のまとめ方に関する研修内容にしても良いと考える。
- 大学と専門学校での研究方法の内容、認識の違い、学生の学力等があり実践的な内容をもっと含んでほしい。
- 大学院卒の受講生には免除してもよいのではないか。
- 研究方法を学ぶにあたり、時間が短いと思います。
- 研修時間にできることは基礎的なことであり、すでに研究者として存在されている人には必要ないと思う。
- 実践の現場が、研究が活発に行えるように、基礎教育で教える側のレベルアップが必要。
- 大学院を修了されている方は免除でも良いと思います。
- 土台固めをしっかりと（基礎）。自身が過去に参加した講習会はあまり参考にならなかったの。
- 認知症介護の研究計画を立てる。
- これも短期間で習得、学生に指導できるレベルまでは、修士など出てないと難しい内容だと思いました。
- 教員が受講しても難しかった。これを学生への指導に活かすためにどうしたら良いか分かるように指導してほしい。

【その他】

- 教員の基礎資格や有資格の状況によって違いがあるので（免除もあるが）、一律ではなくそれらに対応できるような方法が検討されると良いと考える。例えば、介護経験や介護現場での関わりがない教員は専門分野の介護過程の展開方法の時間数を増やす、小中高教諭の資格を有している者で専門分野（介護）の経験があるものは社会福祉学の時間を増やすなど。地域包括ケアや共生社会の内容など、今後の方向性に触れる研修があっても良い。統計資料の読み方、解釈のしかたなどに関する研修（統計学）。ICTやAIに関する研修。今後、現場での導入や活用が期待される。情報処理に関する研修。外国人留学生も増えていることから、異文化交流や日本語教育。
- ICTをもっとわかりやすくした生活支援のアセスメント。
- クリティカル・シンキングなどの導入。
- 介護過程の標準が必要。
- 学習者の主体的学習を促進するため、問題解決型シナリオ学習などの導入は必要に思います。
- 活用したいのでロールプレイ集（留学生でも参加できる明確なもの）の販売。
- 感染症に関する講義と具体的な予防医学や看護学を体系的に（こころとからだのしくみは曖昧）。
- 教員講習会の講師陣が古いまま。教えることまで古いままでは困ります。
- 教科書や教材を統一する。
- 現場の人も多かったので制度、政策的なことと、体の仕組みに関する部分の基礎を押さえていく必要があると思う。在宅看取りが増える中、医療的ケアが何なのか分からない。介護ロボットをはじめ、AI、ICTの活用。
- 講座の講師の限定。
- 講師選定。
- 受講生の評価をよく聞いて、不適切な講師は早めに変更した方が良い。
- 指示された教材を読むだけならば講習会として参加する意味がなく感じる。講師の知識が深いのは理解できたが、それを理解させようとしている感はなく、ただ聞いているだけの科目だった。
- 新入生の時より、学年が上がる毎、人や周囲との関わりの中での成長を可視化した学習効果が得られるような仕掛けが必要だと思います。
- 人間関係とコミュニケーションとコミュニケーション技術の統合化。
- 全体的に教育内容を統一したほうが良い。開催されている講座での内容はバラバラである。
- 受講費用。
- 開催場所。

②. 介護教員講習会に新たに追加してほしい内容やテーマ

図表 8 2 介護教員講習会に新たに追加してほしい内容やテーマ（全体）

分類	件数
1. 留学生への対応	28 件
2. 不足している知識・技術を充足する内容	23 件
3. 授業計画や授業展開	19 件
4. 遠隔授業、オンデマンド授業	14 件
5. 多様化する学生への対応	13 件
6. 授業や介護現場での ICT の活用	9 件
7. 経験に応じた内容	7 件
8. 介護現場の現状を理解する内容・実習	7 件
9. 基礎分野の内容	7 件
10. アクティブラーニング	6 件
11. 感染症や災害への対応	4 件
12. 学校運営に関すること	3 件
13. 人材育成	3 件
14. 新カリキュラムについて	2 件
15. その他各科目に関する内容	10 件
16. その他	10 件
合 計	165 件

図表 8 3 介護教員講習会に新たに追加してほしい内容やテーマ

分類	件数	具体的な記載内容（抜粋、原文のとおり記載）
1. 留学生への対応	28	<ul style="list-style-type: none"> ● 外国人相手の授業ですので、日本語の概念を英語で説明することがよくあります。英語力はとても役立ちます。しかし、英語の理解が難しい外国人への対応は逆に難しい（専門学校 2 年課程・非常勤講師） ● 外国人留学生への指導、受け入れについて（短期大学・専任講師） ● 留学生への対応、日本語力が弱い留学生に向けての授業の進め方等（専門学校 2 年課程・専任講師） ● 留学生指導と日本人学生を交えた指導方法（専門学校 2 年課程・専任講師）
2. 不足している知識・技術を充足する内容	23	<ul style="list-style-type: none"> ● 介護教員講習会受講、看護教員講習会を受講しました。看護教員の方は授業の実習があります。また、小中高の教員でも教育実習があります。実習があると良いと思います（専門学校 2 年課程・専任講師） ● 各科目実践的な内容、もしくは演習のような内容を組み込んだほうが良いのではないかと思います（短期大学・助教） ● 現在の学生に対応できる心理学、教員になる心構え（どういう気持ちで教員を行っていけばいいかなど、教員になってからのモチベーションの持ち方など）（専門学校 2 年課程・専任講師） ● 国外の介護事情（四年制大学・准教授） ● 最新の制度や技術（短期大学・助教） ● 実際に研究を行う所までを必修にしてもよいのではと思いました（専門学校 2 年課程・専任講師）

分類	件数	具体的な記載内容（抜粋、原文のとおり記載）
		<ul style="list-style-type: none"> ● 社会情勢と現状の課題に関するもの（老老介護、認認介護、ヤングケアラー、ダブルケア）（短期大学・助教） ● 新たなテクニックや機械などについて学ぶことがあると良い（専門学校2年課程・その他） ● 統計分析（その他・准教授）
3. 授業計画や授業展開	19	<ul style="list-style-type: none"> ● シラバスの作成方法。授業案（90分）の作成方法（専門学校2年課程・専任講師） ● プレゼンテーション（理解につながるパワーポイントの作り方）（専門学校2年課程・専任講師） ● 演習の方法や、コメントの仕方（専門学校2年課程・専任講師） ● 授業展開（板書方法含む）（短期大学・専任講師）
4. 遠隔授業、オンデマンド授業	14	<ul style="list-style-type: none"> ● e-ラーニングなどオンラインの講義について、効果的な教材づくり、教授法など（専門学校2年課程・専任講師） ● オンライン授業に関する授業展開の方法（専門学校2年課程・専任講師） ● 教育方法について、新型コロナの影響でオンライン、オンデマンドになったことから、実技の教授方法の限界を感じている。現地の学生が興味、関心を示す内容や取り組みを探究すべき（四年制大学・助教）
5. 多様化する学生への対応	13	<ul style="list-style-type: none"> ● コーチング、合理的配慮など（専門学校2年課程・専任講師） ● 発達障害の理解と効果的な教育方法について（専門学校2年課程・専任講師） ● 発達心理学、コミュニケーションスキルについて内容を厚く、カウンセリング技法等について学生対応を深く学べる内容に（専門学校2年課程・専任講師）
6. 授業や介護現場でのICTの活用	9	<ul style="list-style-type: none"> ● メディアやPC機能を使いこなした授業方法について（専門学校2年課程・専任講師） ● 介護業界の効率化を図るためのICT活用とその考え方（専門学校2年課程・専任講師） ● 介護現場におけるICT・AIの活用に関する研修、情報処理に関する研修（四年制大学・准教授）
7. 経験に応じた内容	7	<ul style="list-style-type: none"> ● 3年目、5年目、10年目など経験年数に応じて、その節目の年で抱える問題や、教員をマネジメントする能力、経験年数が増えることでどのような視点をもって教育に携わることが必要なのか等といった研修があれば参加したい（専門学校2年課程・専任講師） ● マネジメント及びリーダーシップ関連（専門学校2年課程・専任講師） ● 定期的なフォローアップ（専門学校2年課程・専任講師）
8. 介護現場の現状を理解する内容・実習	7	<ul style="list-style-type: none"> ● 5年経過したものについては再研修を実施すべき。現場に1年戻って現状を理解するとか（1か月でも良いが夜勤まで体験する）。教員の中には利用者の看取り、死について経験のないものもいるため（専門学校2年課程・専任講師） ● 介護に役立てられる、見習うべき論文。看護、医師、PT、OTなどの分野で。介護技術演習の仕方。特に、実務経験で介護福祉士になった先生（四年制大学・准教授） ● 現場のリアルがよくわかるテーマや内容。教員間とのギャップを埋めるもの（短期大学・准教授） ● 外国人介護福祉職の現状と課題（短期大学・助教）
9. 基礎分野の内容	7	<ul style="list-style-type: none"> ● 関係法規について（専門学校2年課程・専任講師） ● 死生学（四年制大学・准教授） ● 自己分析（専門学校2年課程・専任講師） ● 人間関係論（専門学校2年課程・専任講師） ● 哲学、倫理学、研究方法は、もっと時間を費やして、専門家から教授すべきと考えます（専門学校2年課程・専任講師）

分類	件数	具体的な記載内容（抜粋、原文のとおり記載）
10. アクティブラーニング	6	<ul style="list-style-type: none"> ● アクティブラーニング、質の良いグループワークの方法（専門学校2年課程・専任講師）
11. 感染症や災害への対応	4	<ul style="list-style-type: none"> ● 感染症の取り扱い方、災害時の対応（専門学校3年課程・専任講師） ● 感染症対策、リスクマネジメント（四年制大学・准教授）
12. 学校運営に関すること	3	<ul style="list-style-type: none"> ● 学校運営に関する内容（専門学校2年課程・専任講師） ● 学生募集方法（短期大学・教授） ● 教員間のモラハラ・パワハラは特に大きな問題だと思う。一度調査してみたいかでしょうか。働き方改革や多様性、上位職の人間こそ学ぶ必要があると思う（専門学校2年課程・専任講師）
13. 人材育成	3	<ul style="list-style-type: none"> ● 人間力のアップ（専門学校2年課程・専任講師） ● 人間論・歴史・文化等の一般教養、一般企業における接遇や人材育成・マネジメント（四年制大学・准教授） ● 人材育成の視点（専門学校2年課程・専任講師）
14. 新カリキュラムについて	2	<ul style="list-style-type: none"> ● カリキュラム改正について（専門学校2年課程・専任講師） ● 新カリ科目、チームマネジメント論、ケアマネジメント論（四年制大学・教授）
15. その他各科目に関する内容	10	<ul style="list-style-type: none"> ● コロナ禍における学内実習のあり方（専門学校2年課程・専任講師） ● チーム連携等を図るための講義（専門学校2年課程・専任講師） ● 医療の面、リハビリも含めて（四年制大学・教授） ● 介護技術に特化した講習（専門学校1年課程・専任講師） ● 急変対応（短期大学・准教授） ● 自分が担当する科目の指導ポイントのような研修。例えば生活支援技術の担当教員が、“生活支援技術”の授業の指導ポイントがわかるような研修（専門学校2年課程・専任講師） ● 実践力（生活支援技術や介護過程）を学ぶ機会は必要と思いますが（専門学校2年課程・専任講師） ● 生活支援技術（福祉用具・介護ロボット）（四年制大学・専任講師） ● 認知症の理解に関連した科目（短期大学・准教授） ● 理想と現実の狭間で求められる介護福祉観の教授方法（四年制大学・非常勤講師）
16. その他	10	<ul style="list-style-type: none"> ● 介護福祉士の養成そのものについて、歴史的背景や変遷。養成校の教員としての職務（単に科目を教えることだけではないという部分）（専門学校2年課程・専任講師） ● 新しい時代の新しい研修、教育のあり方を望みます。介護福祉士養成課程の教員に必要なことは何か（短期大学・教授） ● 内容として、参加する方同士の交流会があってもよいと考える（座学が多いため）。現場に入ると他の学校との交流ほとんどなくなる（専門学校2年課程・専任講師）
合計	165	

図表 8 4 見直しが必要と考える介護教員講習会の科目 <上位 6 位>

所属先別					
専門学校		短期大学		四年制大学	
わからない、特にな	60.3	わからない、特にな	52.2	わからない、特にな	54.2
専/介護過程の展開方法	8.3	専/介護過程の展開方法	9.7	専/介護福祉学	10.3
専/学生指導・カウンセリング	8.0	専/研究方法	8.0	専/介護過程の展開方法	10.3
専/介護教育方法	4.7	基/社会福祉学	7.1	専/研究方法	9.3
専/実習指導方法	4.7	基/哲学	7.1	専/教育方法	8.4
専/教育方法	4.0	基/法学	5.3	専/介護教育方法	8.4
		専/教育評価	5.3	専/学生指導・カウンセリング	8.4
				専/実習指導方法	8.4

職位別					
教授		准教授		助教	
わからない、特にな	44.7	わからない、特にな	55.4	わからない、特にな	48.5
基/社会福祉学	12.8	基/哲学	12.5	専/学生指導・カウンセリング	12.1
専/介護過程の展開方法	12.8	基/法学	12.5	基/人間関係論	9.1
基/哲学	10.6	専/介護過程の展開方法	12.5	専/教育方法	9.1
基/倫理学	10.6	基/心理学	8.9	専/介護過程の展開方法	9.1
専/介護福祉学	10.6	専/学生指導・カウンセリング	8.9	専/コミュニケーション技術	9.1
専/研究方法	10.6				

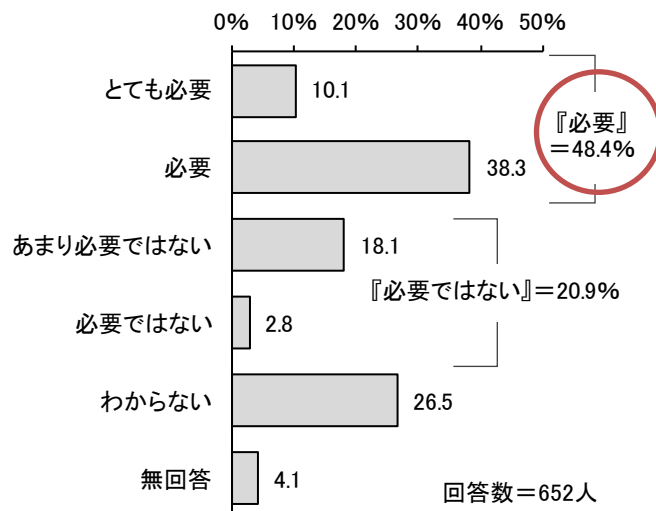
専任講師		非常勤講師		助手	
わからない、特にな	58.9	わからない、特にな	75.0	わからない、特にな	83.3
専/介護過程の展開方法	8.5	専/介護教育方法	2.3	基/哲学	16.7
専/学生指導・カウンセリング	7.2	専/学生指導・カウンセリング	2.3	基/倫理学	16.7
専/介護教育方法	5.1	専/介護過程の展開方法	2.3	基/法学	16.7
専/実習指導方法	5.1	専/研究方法	2.3	専/コミュニケーション技術	16.7
専/教育方法	4.6	基/社会福祉学	0.0	専/研究方法	16.7
基/哲学	4.4	基/人間関係論	0.0	基/社会福祉学	0.0
専/介護福祉学	4.4	基/心理学	0.0	基/人間関係論	0.0

(4) 介護教員講習会の見直しの必要性

教員

③ 介護教員講習会の内容の見直しは、必要だと思いますか。(1つに○)

図表 8 5 介護教員講習会の見直しの必要性



※『必要』=「とても必要」+「必要」

※『必要ではない』=「あまり必要ではない」+「必要ではない」

図表 8 6 介護教員講習会の見直しの必要性

		合計 (人)	とても 必要	必要	あまり 必要 ではない	必要 では ない	わか らな い	無 回 答	『必 要』	『必 要 で は な い』
全 体		652	10.1	38.3	18.1	2.8	26.5	4.1	48.4	20.9
所 属 先 別	専門学校	423	9.0	39.0	19.1	3.3	26.5	3.1	48.0	22.4
	短期大学	113	8.0	38.1	21.2	1.8	23.9	7.1	46.1	23.0
	四年制大学	107	16.8	36.4	11.2	0.9	29.9	4.7	53.2	12.1
	その他	6	16.7	33.3	16.7	16.7	16.7	0.0	50.0	33.4
職 位 別	教授	47	12.8	29.8	19.1	2.1	29.8	6.4	42.6	21.2
	准教授	56	7.1	48.2	10.7	0.0	28.6	5.4	55.3	10.7
	助教	33	12.1	33.3	24.2	0.0	24.2	6.1	45.4	24.2
	専任講師	433	9.9	40.2	19.2	3.5	24.0	3.2	50.1	22.7
	非常勤講師	44	6.8	27.3	4.5	0.0	52.3	9.1	34.1	4.5
	助手	6	16.7	16.7	66.7	0.0	0.0	0.0	33.4	66.7
	その他	26	15.4	38.5	11.5	3.8	30.8	0.0	53.9	15.3
経 験 年 数 別	2年未満	47	12.8	25.5	17.0	0.0	40.4	4.3	38.3	17.0
	2年以上5年未満	100	14.0	34.0	18.0	2.0	26.0	6.0	48.0	20.0
	5年以上10年未満	160	8.8	42.5	15.6	3.1	27.5	2.5	51.3	18.7
	10年以上15年未満	115	6.1	37.4	23.5	2.6	24.3	6.1	43.5	26.1
	15年以上	221	10.9	41.6	17.2	3.6	23.5	3.2	52.5	20.8

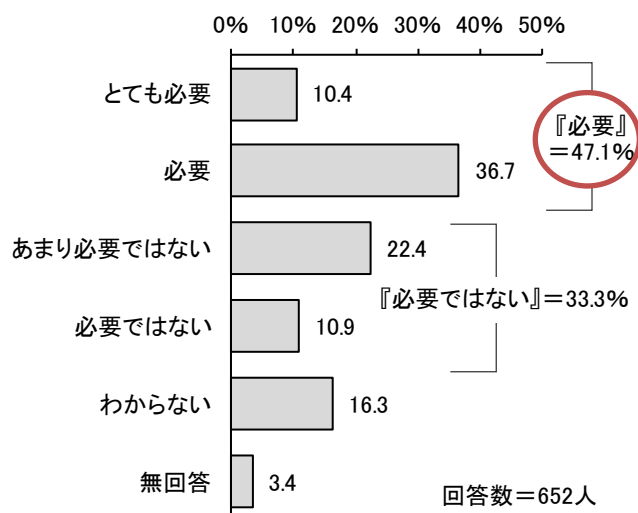
※網掛けは「全体」を上回る値、ただし合計が一桁の場合は網掛けをしていない、単位は%。

(5) 専任教員以外への義務づけについての考え

教員

④ 専任教員以外にも介護教員講習会の修了や一部の科目受講を義務づけることが必要であると思いますか。(1つに○)

図表 8 7 専任教員以外への義務づけについての考え



※『必要』=「とても必要」+「必要」

※『必要ではない』=「あまり必要ではない」+「必要ではない」

図表 8 8 専任教員以外への義務づけについての考え

		合計 (人)	とても 必要	必要	あ ま り 必 要 で は な い	い 必 要 で は な い	わ か ら な い	無 回 答	『 必 要 』	『 必 要 で は な い 』
全 体		652	10.4	36.7	22.4	10.9	16.3	3.4	47.1	33.3
所属 先別	専門学校	423	9.7	36.4	21.3	12.8	17.3	2.6	46.1	34.1
	短期大学	113	12.4	40.7	19.5	8.0	14.2	5.3	53.1	27.5
	四年制大学	107	12.1	32.7	29.9	6.5	15.0	3.7	44.8	36.4
	その他	6	0.0	50.0	16.7	16.7	16.7	0.0	50.0	33.4
職位 別	教授	47	4.3	25.5	31.9	17.0	17.0	4.3	29.8	48.9
	准教授	56	7.1	39.3	28.6	3.6	16.1	5.4	46.4	32.2
	助教	33	12.1	39.4	18.2	6.1	15.2	9.1	51.5	24.3
	専任講師	433	11.1	37.9	21.2	12.0	15.2	2.5	49.0	33.2
	非常勤講師	44	2.3	34.1	20.5	11.4	27.3	4.5	36.4	31.9
	助手	6	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0
	その他	26	30.8	26.9	15.4	3.8	23.1	0.0	57.7	19.2
経 験 年 数 別	2年未満	47	10.6	31.9	23.4	6.4	23.4	4.3	42.5	29.8
	2年以上5年未満	100	11.0	37.0	18.0	8.0	20.0	6.0	48.0	26.0
	5年以上10年未満	160	8.8	37.5	24.4	7.5	20.6	1.3	46.3	31.9
	10年以上15年未満	115	13.0	37.4	23.5	13.0	9.6	3.5	50.4	36.5
	15年以上	221	10.0	37.1	22.6	14.5	12.7	3.2	47.1	37.1

※網掛けは「全体」を上回る値、ただし合計が一桁の場合は網掛けをしていない、単位は%。

(6) 介護教員講習会に対する意見

教員

質問13. 介護教員講習会に対するご意見がありましたらお教えてください。

図表89 介護教員講習会に対する意見（全体）

分類	件数
1. 講習会の内容について	33件
2. 講師や会場により講習内容に差がある	19件
3. 継続的な研修や更新制の導入について	18件
4. 受講料、日程、場所、など	17件
5. オンラインでの講習会について	16件
6. 講習内容の更新が必要	11件
7. 専任教員以外への講習会について	10件
8. 講習受講・資格取得の条件について	10件
9. 経験に応じた講習の内容を希望	6件
10. 講習を受けてからかなり年数が経っている	5件
11. 教員の質の低下	4件
12. 開催回数が少ない	4件
13. その他	12件
合計	165件

図表90 介護教員講習会に対する意見

分類	件数	具体的な記載内容（抜粋、原文のとおり記載）
1. 講習会の内容について	33	<ul style="list-style-type: none"> ● 介護の魅力と科学と夢をたくさん学べる講習会であってほしいと思います。各養成校を出たことに卒業生自身が満足して、生き生きと介護福祉士として働けるように、そのために教員は何を大切にすべきか伝えてくれると嬉しいです（短期大学・助教） ● 求められる介護福祉士像を意識した上で、より具体的で実践的な講習会が行われることを期待します（専門学校2年課程・専任講師） ● 講習会において、講義の組み立ては行ったのですが、演習や実技においても、もう少し深く学びたいと思った（専門学校2年課程・専任講師） ● 受講科目が個人によって違うため、全てを受講されない方は全体の把握が困難。どの科目を最初に受講しても全体が分かる、オリエンテーション的な講習は必須だと思う（専門学校2年課程・専任講師） ● 授業作りはグループではなく個人単位で学びたい（専門学校2年課程・准教授） ● 人間と社会、介護、こころとからだのしくみ、それぞれの領域ごとに学習されてもよろしいのではないかと（四年制大学・専任講師） ● 内容の理解度が測れると良いと感じる。そのためのレポート提出は必要、評価がほしい（専門学校3年課程・専任講師）
2. 講師や会場により講習内容に差がある	19	<ul style="list-style-type: none"> ● 介養協主催の介護教員講習会を受講しましたが、それ以外の団体でも介護教員講習会を開催していますが、講師や内容の質が保たれているのか疑問に感じます（専門学校2年課程・専任講師）

分類	件数	具体的な記載内容（抜粋、原文のとおり記載）
		<ul style="list-style-type: none"> ● 講師によって内容の差が大きい。オンラインで誰もが受けやすい方法を検討して欲しい。学び直しができる嬉しい（短期大学・准教授） ● 講習会の受講地によって同じ科目でも講師や学びの場の雰囲気が違うので、全国で統一（テキスト等）すると教員のレベルが揃えられて良いような気がする（専門学校2年課程・専任講師）
3. 継続的な研修や更新制の導入について	18	<ul style="list-style-type: none"> ● 介護教員講習会、受講して終わりになっているのが残念（四年制大学・助教） ● 学び直しができるようフォローアップ研修を実施する。教員の質を担保するために更新研修を義務づける（四年制大学・助教） ● 時代とともに求められる内容や実践に応じ、学び直す機会は必要だと思います。新たなものの獲得以外に、“振り返る”、“見直す”ことで、教育力が上がるのではないかと思います（専門学校2年課程・専任講師） ● 授業計画の作成方法や展開の方法など、講習会終了後でも研修会があるとよいと思います。教育方法、教育心理は時間数が多くても良いと思います（専門学校2年課程・非常勤講師） ● 単にブラッシュアップを図るためにも、定期的な研修や評価体制等が必要かと思われます。更新制の導入も検討すべきだと思います（専門学校2年課程・専任講師）
4. 受講料、日程、場所、など	17	<ul style="list-style-type: none"> ● 開催場所が少なく、受講料金が高額なため、個人で受講するには負担が大きい（専門学校2年課程・非常勤講師） ● 学び直しとして過去の受講生が安価で受講できる機会を設けていただけるとありがたい（専門学校2年課程・専任講師） ● 専任教員に必須とするならば、受講料はもっと抑えていただきたい。科目数と時間が多すぎて、遠方からの受講生にとっては旅費だけでも相当な金額である（短期大学・教授） ● 内容を厳選して講習時間を短縮し、希望者が受講しやすくなるとありがたいです（短期大学・-）
5. オンラインでの講習会について	16	<ul style="list-style-type: none"> ● e-ラーニング等を活用した、時間的拘束、業務との兼ね合いを考慮した実施方法を検討すべき（- - -） ● オンライン受講は子育て中で出張に出られない教員として大変ありがたいです（専門学校2年課程・専任講師） ● ブロックや全国の教員と交流できるという良い面もありますが、オンデマンドなどを有効活用して、繰り返し学習できるようにすることも考えてみてはいかがでしょうか。オンデマンドであれば、終了した教員も再度学習できると思います。また、地方から講習を受けに行くにはあまりにも負担が大きすぎます。遠隔でできる工夫が必要かと思います（短期大学・助教）
6. 講習内容の更新が必要	11	<ul style="list-style-type: none"> ● 5年ぐらいのスパンで見直しを繰り返す。社会情勢によっても必要な内容が異なると思うので、受講済み教員も見直された科目について受講を必須とするか「学びなおし科目」を作る（四年制大学・非常勤講師） ● カリキュラム変更がある場合は、それ以前に介護教員講習会に反映できると良いのではないかと（短期大学・教授） ● 時代の変化が激しいので人の価値観や考え方などの変化があると感じます。具体的には分かりませんが、教員は変える必要があると思います（専門学校2年課程・その他）
7. 専任教員以外への講習会について	10	<ul style="list-style-type: none"> ● 10年以上、非常勤講師の身分で働いてきました。専任教員時代は講習会への参加の機会もありましたが、非常勤になってからはその機会もなく「何も知らずに」教育について当たっていたと痛感させられます。非常勤講師にもカリキュラム変更のねらいや、全体像がつかめる機会を与えていただきたいと思います。今年度は専任教員の身分でしたが、講習会の知らせはありませんでした（開催されなかった？）（専門学校2年課程・専任講師） ● 専任教員以外の講習会も必要かと思うが、義務にすると非常勤の確保が現実的に難しいように感じる（専門学校2年課程・専任講師）

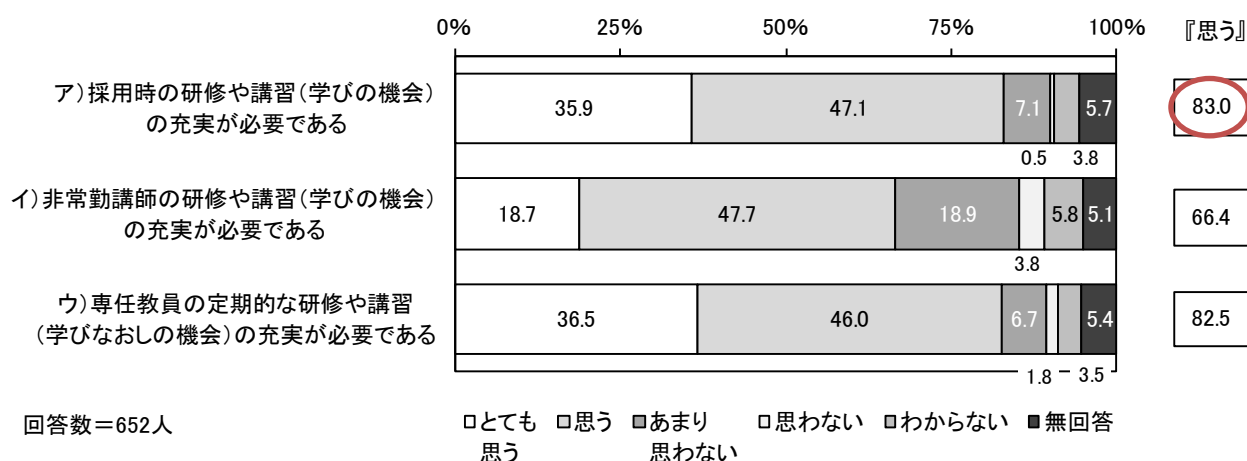
分類	件数	具体的な記載内容（抜粋、原文のとおり記載）
		<ul style="list-style-type: none"> ● 非常勤講師も受講できるとより良い教育につながるのではないかと思います（四年制大学・准教授）
8. 講習受講・資格取得の条件について	10	<ul style="list-style-type: none"> ● 科目の見直しではなく、受講する側を受講するにあたり多少精査する必要があるのではないかと（専門学校2年課程・非常勤講師） ● 受講したら終了という形骸的なものではなく、単位認定試験を課すことも付加していく（専門学校2年課程・専任講師） ● 出席以外で修了の判断をするべきだと思う（四年制大学・教授） ● 担当科目によっては、受講していない教員もいるため、科目受講だけでも義務づける必要があると思う（短期大学・専任講師）
9. 経験に応じた講習の内容を希望	6	<ul style="list-style-type: none"> ● 介護教員講習会に新人用、2～3年用、中堅用などランクがあれば、新人で受ける以外にも、他の学校の先生方と再会する機会を得られればいいなと思っています（専門学校2年課程・専任講師） ● 介護教員講習会の参加者について、教員未経験者と教員経験者とは分けて行う方がいいと思う（特に教育方法や教育評価）（専門学校2年課程・専任講師） ● 看護師である場合、免除項目などあるといいかと思います（専門学校2年課程・非常勤講師）
10. 講習を受けてからかなり年数が経っている	5	<ul style="list-style-type: none"> ● 講習会開始当初に参加したため、最近の傾向は第三者から伝え聞く程度なのでよくわかりません。科目のねらいと内容、講師のマッチングは必要。介護福祉士教育を担当するにあたっては必要と考えるが、現実には難しい場面もあると思う。できれば担当する科目だけは受講していただく、又は、担当する科目と関連分野の科目など（短期大学・教授）
11. 教員の質の低下	4	<ul style="list-style-type: none"> ● 14年度から開催されているが、教員も方向性も示唆するものがなく、担当の教員に任されている。また基礎科目は放送大学であったが、現在は講座で行われているところも多く、教員の要件は専門領域の教師でなくてもよいとなっている。レベルが落ちてきている。今のままではあまり意味がない（専門学校2年課程・専任講師） ● 介護教員講習会の義務づけよりも、学術的に大学院卒等の研究業績を基準に教員の質の向上を図るべきではないかと考えます（短期大学・専任講師）
12. 開催回数が少ない	4	<ul style="list-style-type: none"> ● 開催が少ない。本年度の介護教員講習会に申し込みを行った教員がいるが定員が少なく、先着順ということで大変困っていた。介護教員講習会が専任教員は必須であるので開催場所、定員の数をまず確保してほしい（専門学校2年課程・専任講師）
13. その他	12	<ul style="list-style-type: none"> ● 一部の講座の受講しかしていないため、わからないことも多いです。本年度中に全て受講したいと考えます（専門学校2年課程・専任講師） ● 必要な科目と時間が多く、受講するのが大変である。まだ数科目しか受講していないが、仕事と家庭との両立の負担が大きい。科目数や受講時間、受講方法を見直していただきたい（短期大学・専任講師） ● 介護福祉士資格を創った当時の先生方に学んだ者としては、熱い想いの先生方が少なくなっているような気がする（四年制大学・准教授） ● 機会があれば再受講したいと思います（時間、費用の制約がありますが）。介護教員として立つ上で自分の基盤となっている講習会でした（専門学校2年課程・専任講師）
合計	165	

5 介護福祉士養成課程の教員及び教育を取り巻く状況について〔教員票〕

(1) 学びの機会・学び直しの機会の必要性

教員	質問14. 介護福祉士養成課程の教員の研修や講習（新たな学び、学び直し）に関し、ア～ウそれぞれについて、あてはまる番号に○をしてください。
-----------	---

図表9-1 学びの機会・学び直しの機会の必要性



図表9-2 学びの機会・学び直しの機会の必要性

		ア) 採用時の研修や講習（学びの機会）の充実が必要である							
		合計(人)	とても思う	思う	あまり思わない	思わない	わからない	無回答	『思う』
全体		652	35.9	47.1	7.1	0.5	3.8	5.7	83.0
所属先別	専門学校	423	36.9	45.6	6.6	0.7	4.3	5.9	82.5
	短期大学	113	38.1	47.8	7.1	0.0	1.8	5.3	85.9
	四年制大学	107	30.8	52.3	8.4	0.0	3.7	4.7	83.1
	その他	6	16.7	50.0	16.7	0.0	16.7	0.0	66.7
職位別	教授	47	34.0	51.1	4.3	0.0	0.0	10.6	85.1
	准教授	56	28.6	51.8	8.9	0.0	5.4	5.4	80.4
	助教	33	33.3	45.5	9.1	0.0	6.1	6.1	78.8
	専任講師	433	39.7	45.7	7.2	0.7	2.8	3.9	85.4
	非常勤講師	44	20.5	52.3	6.8	0.0	9.1	11.4	72.8
	助手	6	16.7	83.3	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	その他	26	30.8	42.3	3.8	0.0	15.4	7.7	73.1
経歴年数別	2年未満	47	36.2	53.2	4.3	0.0	6.4	0.0	89.4
	2年以上5年未満	100	35.0	45.0	9.0	1.0	2.0	8.0	80.0
	5年以上10年未満	160	37.5	46.9	6.3	0.0	6.3	3.1	84.4
	10年以上15年未満	115	31.3	53.0	7.0	0.0	5.2	3.5	84.3
	15年以上	221	38.0	44.3	7.2	0.5	1.4	8.6	82.3

※網掛けは「全体」を上回る値、ただし合計が一桁の場合は網掛けをしていない、単位は%。

		イ) 非常勤講師の研修や講習（学びの機会）の充実が必要である							
		合計 (人)	とても 思う	思う	あまり 思わない	思わない	わから ない	無回答	『思う』
全 体		652	18.7	47.7	18.9	3.8	5.8	5.1	66.4
所属 先別	専門学校	423	16.8	48.0	19.9	4.7	5.4	5.2	64.8
	短期大学	113	27.4	46.0	14.2	2.7	5.3	4.4	73.4
	四年制大学	107	16.8	50.5	20.6	0.9	6.5	4.7	67.3
	その他	6	16.7	16.7	16.7	16.7	33.3	0.0	33.4
職位 別	教授	47	10.6	55.3	17.0	4.3	2.1	10.6	65.9
	准教授	56	21.4	48.2	14.3	0.0	10.7	5.4	69.6
	助教	33	21.2	45.5	18.2	3.0	6.1	6.1	66.7
	専任講師	433	17.6	48.3	20.3	4.6	5.3	3.9	65.9
	非常勤講師	44	31.8	45.5	13.6	4.5	2.3	2.3	77.3
	助手	6	16.7	50.0	0.0	0.0	33.3	0.0	66.7
	その他	26	23.1	34.6	23.1	0.0	11.5	7.7	57.7
経験 年数 別	2年未満	47	21.3	51.1	17.0	0.0	10.6	0.0	72.4
	2年以上5年未満	100	20.0	50.0	15.0	5.0	3.0	7.0	70.0
	5年以上10年未満	160	15.0	51.3	21.9	3.1	6.3	2.5	66.3
	10年以上15年未満	115	21.7	49.6	13.9	3.5	7.8	3.5	71.3
	15年以上	221	19.0	43.0	21.7	4.5	4.1	7.7	62.0

※網掛けは「全体」を上回る値、ただし合計が一桁の場合は網掛けをしていない、単位は%。

		ウ) 専任教員の定期的な研修や講習（学びなおしの機会）の充実が必要である							
		合計 (人)	とても 思う	思う	あまり 思わない	思わない	わから ない	無回答	『思う』
全 体		652	36.5	46.0	6.7	1.8	3.5	5.4	82.5
所属 先別	専門学校	423	34.5	47.3	6.9	1.9	4.0	5.4	81.8
	短期大学	113	45.1	41.6	5.3	0.9	1.8	5.3	86.7
	四年制大学	107	35.5	46.7	7.5	1.9	3.7	4.7	82.2
	その他	6	33.3	33.3	16.7	16.7	0.0	0.0	66.6
職位 別	教授	47	38.3	36.2	10.6	4.3	0.0	10.6	74.5
	准教授	56	35.7	51.8	3.6	0.0	3.6	5.4	87.5
	助教	33	42.4	45.5	0.0	0.0	6.1	6.1	87.9
	専任講師	433	36.7	47.3	6.9	2.3	2.8	3.9	84.0
	非常勤講師	44	29.5	43.2	9.1	0.0	11.4	6.8	72.7
	助手	6	33.3	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	その他	26	42.3	34.6	7.7	0.0	7.7	7.7	76.9
経験 年数 別	2年未満	47	42.6	48.9	4.3	0.0	4.3	0.0	91.5
	2年以上5年未満	100	40.0	41.0	7.0	2.0	2.0	8.0	81.0
	5年以上10年未満	160	37.5	48.8	5.0	0.0	6.3	2.5	86.3
	10年以上15年未満	115	36.5	52.2	3.5	0.9	3.5	3.5	88.7
	15年以上	221	33.5	43.0	9.5	3.6	2.3	8.1	76.5

※網掛けは「全体」を上回る値、ただし合計が一桁の場合は網掛けをしていない、単位は%。

(2) 本調査に関連する事項について意見や要望

教員	質問15. 本調査に関連する事項について、ご意見や要望がございましたらご記入ください。
----	---

図表93 本調査に関連する事項について意見や要望（全体）

分類	件数
1. アンケート調査について	10件
2. 継続的な学びの必要性	7件
3. 調査結果を活かしてほしい	6件
4. 研修内容について	6件
5. 教育機関としての役割	5件
6. 介養協への要望	5件
7. 教員の教育力の向上について	4件
8. その他	3件
合 計	46件

図表94 本調査に関連する事項について意見や要望

分類	件数	具体的な記載内容（抜粋、原文のとおり記載）
1. アンケート調査について	10	<ul style="list-style-type: none"> ● 少し内容が難しい？と言いますか、もう少し具体的だったら良かったなと思いました（専門学校2年課程・専任講師） ● 調査の実施時期について、年末や、年度末などの時期は避けてほしいです。他の業務などでゆとりをもって回答できなくなります（四年制大学・准教授） ● 必ず書くところを作っているが、それに対する養成協会の返事もしくは方針を必ずリターンして下さい。そうしないと意味がないと思います（専門学校2年課程・専任講師）
2. 継続的な学びの必要性	7	<ul style="list-style-type: none"> ● 介護の在り方や学生の変化に対応して、専任非常勤共に学びなおしの必要を痛感しますが、現状ではそのための時間がとりにくいです。いつでも見られるオンライン授業にして、レポートや講師への質問などで対応いただけましたら、参加しやすいかと思います（四年制大学・准教授） ● 介護も日進月歩しているので、時間の許す限り研修や講習に参加できる環境が必要だと思います。YouTube等で情報を得ていますが、色々な施設の方達とお話したいです（専門学校3年課程・専任講師） ● 介護福祉士養成課程終了後、継続教育が必要と思います。現場での教育を実践してみて、原点を押さえた教育が必要と思い頑張っています。その中で学生の多様化により理解が難しく、高いレベルでの教育ができていないのが現実です。継続教育の機会や、新人の先生を対象にした教育機会があればと思います（専門学校2年課程・専任講師）
3. 調査結果を活かしてほしい	6	<ul style="list-style-type: none"> ● 具体的な改善策につなげて欲しい（短期大学・専任講師） ● 結果に基づくカリキュラムの改訂を期待しています。今のままでは、時代とニーズに対応しきれていないと思います。留学関連のものがないのは理解に苦しみます（専門学校1年課程・専任講師）
4. 研修内容について	6	<ul style="list-style-type: none"> ● 教育の本来あるべき理想と、現状の困っている事とは乖離していると思う。研修会や講習会を設定する際、その2つを明確に分けてテーマの設定

分類	件数	具体的な記載内容（抜粋、原文のとおり記載）
		<p>ができると良いのではないだろうか？困っていることに関するテーマに参加して一般論、理想論の話だと興ざめしてしまう（専門学校2年課程・専任講師）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●私は看護師として長年実務をやってきましたが、教育学部系の研修や教育分野の経験はなかなかなり戸惑いました。その分、教員講習会での講義や他受講生との交流がとてもプラスになりました。オンラインですと他受講生とのコミュニケーションは困難かと思いますが、これからも有意義な講習を実施していただきたいと感じます（専門学校2年課程・専任講師）
5. 教育機関としての役割	5	<ul style="list-style-type: none"> ●介護福祉士の資格を取ることが目的の学校になってはいけないと思います。幅広い知識を身に付けることが重要だと思います（専門学校2年課程・非常勤講師） ●養成校の拡充と介護福祉士の待遇改善、経験値と大学、大学院との関係拡充は強く関連していると思います。この業界だけで取り組むのではなく、政府を巻き込むだけの社会連帯的な広がりが必要だと思います（専門学校2年課程・専任講師） ●養成校の消滅の危機を痛感。介護の実践現場にこそ教育は必要（四年制大学・助教）
6. 介養協への要望	5	<ul style="list-style-type: none"> ●コロナでまったく研修会が開催されていないので、今年新規校として加入した私どもの学校では全く必要な情報が入らず、加入している意味が見えませんでした。介護教育の質の向上は必須かと思われませんが、オンラインでない方法で模索して頂きたいと思います（専門学校2年課程・その他） ●学生募集や学生の多様化に伴う学生指導に時間が多く必要です。教員の研修や自己研鑽ができやすくなるような支援があれば・・・と思います（四年制大学・准教授） ●現状は教育の質の見直しよりも、学生確保が最優先。志願者が減ることで学生全体の基礎学力が低下し、授業そのものの成立だけで手いっぱいになりつつある。外国人に頼るのではなく、介護の仕事をするには教育が必要だという国民に向けたアピールを介養協としてぜひ力を入れてほしい。教員の質向上の取り組みはその後で良い（専門学校2年課程・専任講師）
7. 教員の教育力の向上について	4	<ul style="list-style-type: none"> ●教員の質に課題があるなら、研究活動に関する調査が必要でしょうし、そもそもカリキュラムに関する評価・調査も同時に必要だと思います。介護福祉士の質の向上も必要ですが、学生確保が難しくなっている状況から考えても、もっと新しい介護福祉学の構築についても検討の必要性があるように感じます。いずれにしても大変な課題ですが、各教員の努力が必要なのは間違いないのかなとは思いますが。私見を述べさせていただきます（短期大学・専任講師） ●教員間の情報交換の場がない。本校の専任教師は自分の科目と他の科目とのつながりがなく、指導内容にもバラつきがある。テスト内容も国試の過去問のみで行っている教員がいる。テキストを使用せずに演習のみで終わらせる。視覚障害の対応について、正しい介助方法の指導をせず、白杖を使わせているだけだったりする。YouTubeを流すだけなど。教員の質の向上を意識されている先生方にお会いしてお話を伺いたいです（専門学校2年課程・専任講師）
8. その他	3	<ul style="list-style-type: none"> ●新型コロナの影響で、介護現場も教育現場もますます酷い状況になっている。今までの価値観が通用しない状況になっているので、皆で考えていかなければならないと思う。年末から年始へかけてのアンケートだったので、時間的には余裕があると思ったが、結構忙しく今日になってしまいました。申し訳ありません（四年制大学・准教授） ●特にありません。ただ、留学生の増加にともない、介護福祉士の質（知識）に不安があります。私の知る限りでは留学生は利用者さんに受け入れられ、評判が良いです（専門学校2年課程・専任講師）
合計	46	

**III 教育内容の充実及び教育力の向上
を図るためのモデル研修及び効果検証の実施**

〔 モデル研修及び効果検証の実施のポイント 〕

新カリキュラム等に対応するために、各養成校によって多様な取り組みが行われているものの、各養成校の形態の違い(専門学校、短期大学、四年制大学)、そこに所属する教員の属性(専任・非常勤/経験年数/担当科目等々)ごとにより、課題も多様化している。

養成校は、介護ニーズの多様化・高度化の進展に対応できる介護福祉士を養成する使命を有するという認識のもと、「介護福祉士養成校における教育上の課題と求められる研修プログラムに関する調査(以下、「本調査研究」とする。)」では、養成校の介護教育内容の充実及び教育力向上を図ることを目的に、「介護教育内容の充実及び教育力向上を図るための取り組みの実態及び課題の把握」を行うとともに、実際に「モデル研修プログラム及び教材の作成」を行い、「試行的モデル研修」を行った。

(1) 本調査研究結果

本調査研究の調査項目の、「新規採用者に対する研修や講習の必要性」や「非常勤教員に対する研修や講習の必要性」から「モデル研修プログラム」に必要な研修内容が示された。

①「新規採用者に対する研修や講習の必要性」

【23 頁～】「新たに採用した教員に対する研修や講習の必要性を感じますか(質問 3)」の問いでは、『必要』が 81.0%に達している。

【24 頁～】その理由の内容は、「採用した教員で現場経験 5 年のみの教員や、介護教員講習会に参加していない教員は授業案、シラバスの作り方も理解していない」、「授業、教材研究の仕方もレベルもまちまちであるため、教育の質をあげるためには必要不可欠であると考えられる」、「現場職員(介護職)から教育の世界に入るために、“教員をする”ということがどのような事であるかを理解してもらふ必要がある」、「年齢や国籍など、様々な学生がいるので、今まで

以上に学生との関わり方や授業の進め方、黒板やプリントの作り方についての説明や指導が必要だから」、「介護教育について理解してもらいたい」などがあげられている。

②「非常勤教員に対する研修や講習の必要性」I

【31 頁～】「非常勤教員に介護教員講習会が必要と考える理由、その内容」に関する問では、「教育の質の充実(向上)、統一のため」と「介護福祉教育の目的の理解や共有のため」を合わせて 54 件で、その理由として、「“求められる介護福祉士像”を理解し、指導を統一した理念で行うため」や「本学科の非常勤講師は、各々専門分野での授業の受け持ちであるが、「介護」がなんであるのかの基本を知って教授してもらいたい」などがあげられている。

③「非常勤教員に対する研修や講習の必要性」II

【33 頁～】「非常勤教員に必要な介護教員講習会の内容」では、「授業方法、授業展開、シラバス、評価方法の統一」と「各種科目について」を合わせて 32 件で、その理由では、「教育とは、指導方法、シラバスの構築、教員(指導者)の責務」、「領域の目的、ねらい、教育に含む事項の留意点の各科目のすり合わせ」、「担当科目で教えるべき必須事項、指導技法」、「アセスメントの根拠」、「新カリキュラムにおいて新たに加わった内容、強化される内容について」、「担当科目の位置づけ」、「学生の特徴にあわせた指導方法・留意点」などが、あげられている。

(2) 「モデル研修プログラム」

上記に上げたような状況を踏まえて、「I 新カリキュラムに関すること」、「II 介護教員講習会の基礎分野に関すること」、「III 介護教員講習会の専門分野に関すること」、「IV 教育方

法に関すること」に分けて「モデル研修プログラム及び教材の作成」に取り組んだ。

(3) 「モデル研修プログラム」の実施

この「モデル研修プログラム及び教材の作成」に基づき、介護福祉士養成課程の「教育内容の充実及び教員の教育力向上を図るためのモデル研修」を公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会の会員養成施設の教員を対象に、オンデマンドで実施し、このモデル研修に参加登録をした教員は209名に達し、一定数の興味・関心をもっていただいたのではないかと推察される。

1 モデル研修の目的

介護福祉士養成校における教育内容の充実及び教育力の向上を目的に、介護福祉士養成課程の教員に対するモデル研修プログラムを作成し、研修を実施した。

作成したモデル研修プログラム及び研修教材は、介護福祉士を養成する教育機関やその関係者が今後、研修やOJT、自主的な学びの機会等において、広く活用できるものとなることを目的としつつも、本調査研究事業においては試行的・限定的な内容にとどめている。

2 モデル研修の概要

対 象	・ 弊会会員の介護福祉士養成校に所属する教員（非常勤を含む）	
周 知	<ul style="list-style-type: none"> ・ 弊会会員校にメールにて案内 ・ 弊会ウェブサイトに掲載 ・ 参加登録期間は令和3年2月22日～2月28日 	
参 加 登 録 者 数	・ 209人（参加登録期間中に登録をした教員）	
	内 訳①（所属先別）	内 訳②（職位別）
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 専門学校 123人 ・ 短期大学 40人 ・ 四年制大学 46人 ・ その他 0人 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教授 19人 ・ 准教授 31人 ・ 助教 7人 ・ 専任講師 111人 ・ 非常勤講師 25人 ・ 助手 4人 ・ その他 12人
参加方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 参加登録者に視聴できるIDとパスワードを付与 ・ 参加登録者は公開期間中に各自で視聴 ・ 希望する全ての研修科目を視聴したのち、研修アンケートに回答 	
公開期間	・ 令和3年3月3日～12日（3月22日まで延長）	

介護福祉士養成施設の教員の教育方向上に関する調査研究事業 **参加無料**

**介護福祉士養成課程の教育内容の充実及び
教員の教育方向上に向けたモデル研修**

介護福祉士養成課程で教授をする教員を対象に
“新たな学び”や“学び直し”の機会を！

対象 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会の会員養成施設の教員(専任・非常勤の教員)を対象とします

期間 令和3年3月3日(水)～3月12日(金)

受講方法 オンライン(オンデマンド)研修のため、期間内であればいつでも受講(視聴)できます

申込から参加までの流れ

- ①以下、QRコード(URL)からお申込み
※申込みをすれば、すべての科目が受講(視聴)可能
- ②3月1日(月)に、実施期間中にログインできるIDとパスワードを登録したメールアドレスに送信
- ③各自でログインして受講(視聴)、アンケートに回答

留意事項 研修を視聴後、受講に関するアンケート調査にご回答いただきます。ご協力をお願いします。

2月28日(日)までに、QRコード(URL)からお申込みください

主催/問合せ先 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会 <http://t.me/gle/6r0d380WVasfME8>
〒113-0033 東京都文京区本郷3-3-10
福利センター館新館/水2階
TEL:03-3830-0471 FAX:03-3830-0472
担当:渡辺 waitanabe@kaiyokyo.net

<http://kaiyokyo.net/member/2021/000785/>
各科目の詳細は、別紙をご参照ください

<研修科目>

分野	科目名と担当(敬称略)	主な対象
I 新カリキュラムに関する こと	1. 求められる介護福祉士像と新カリキュラム ・ 辻原 昌子 / 白鳥人学 人間福祉学科	非常勤 新任
	2. 介護福祉士養成課程における修得度評価基準 ・ 川川 大助子 / 駒込研究大学 社会福祉学部 社会福祉学科 ・ 木村 誠幸 / 北里大学 保健スポーツ学部 健康福祉学科	専任
	3. カリキュラム作り作成 ～学びの流れと科目関連～ ・ 津田 理恵子 / 神戸女子大学 健康福祉学部 社会福祉学科	全教員
II 介護職員講習会 の基礎分野 に関する こと	4. 基礎:新たな視点 地域における介護実践/チームケアを推進するためのマネジメント ・ 村上 雅之 / 信州大学 工学部 工学系 介護福祉学科 ・ 熱川 香英 / 金沢大学 社会福祉学部 社会福祉学科	全教員
	5. 専門基礎:教育方法の基礎、授業計画及びシラバスの立案 ・ 白井 三久 / 群馬県福祉大学 福祉学部	非常勤 新任
	6. 専門基礎:授業の評価方法、授業評価の基礎 ・ 白井 三久 / 群馬県福祉大学 福祉学部	非常勤 新任
III 介護職員講習会 の専門分野 に関する こと	7. 介護過程の展開方法A ・ 二田 剛 / 北里大学 看護学部 看護学科 介護福祉専攻	非常勤 新任
	8. 介護過程の展開方法B ・ 平野 智介 / 福井大学 経済学部 生活学系 生活福祉専攻	専任
	9. 介護のためのケーススタディ ・ 野田 由佳里 / 豊後県立大学 社会福祉学部	新任
IV 教育方法に 関する こと	10. 学生指導 ・ 渡辺 悠子 / 弘前大学 国際福祉学部 介護福祉学科	専任
	11. 実習指導方法 ・ 丸山 尚弘 / 日本福祉保健専門学校 介護福祉専攻	非常勤 新任
	12. アクティブラーニングを活用した授業展開 ・ 橋本 裕一 / 国造大学 人間福祉学部 社会福祉学部 福祉学科	全教員
	13. 個人差に対応した授業展開①: 外国人留学生 ・ 藤田 直実 / 札幌YMCA 福祉福祉専門学校 介護福祉学科	全教員
	14. 個人差に対応した授業展開②: 学習に困難を抱える学生 ・ 木村 誠幸 / 北里大学 保健スポーツ学部 健康福祉学科	全教員
	15. ICTを用いた新たな授業方法 ・ 高野 敬祐 / トリニティ大学 看護学部 看護学科 介護福祉学科 ・ 中山 真由子 / 札幌学院大学 福祉学部 福祉学科	全教員
	16. 「地域」を学ぶ授業のつくり方 ・ 高野 敬祐 / トリニティ大学 看護学部 看護学科 介護福祉学科	全教員

- ・ 申込者は期間中は全ての科目をいつでも受講できます。
- ・ 受講する科目の選択は自由です。すべてを受講する必要はありません。
- ・ 上表にある「対象」は「主な対象」を意味するものであり、該当しない教員であっても受講できます。
- ・ 研修科目、内容、担当者は、変更のある場合があります。

3 モデル研修に関するプログラム作成と研修の実施

モデル研修プログラムは、「介護福祉士養成校における教育上の課題と求められる研修プログラムに関する調査」の結果や作業部会における議論によりあげられた教育上の課題等を参考に、作業部会において検討を重ね作成した。

大別して、「I 新カリキュラムに関すること」「II 介護職員講習会の基礎分野に関すること」「III 介護職員講習会の専門分野に関すること」「IV 教育方法に関すること」の4分野で組み立てをした。調査において教員が教育上の課題として考えている内容、あるいは学び直しの要望が高かった内容である“新カリキュラムにある新しい視点への対応”“学生指導”“個人差に対応した授業展開”“介護過程”などを盛り込み、同時に新型コロナウイルス感染症拡大によりリモート等による授業展開ニーズがたかまっていることからICTを活用した授業方法などの科目の実施を決定した。

研修の実施方法はオンデマンドによる研修とし、各科目 60 分以内と設定した。また、視聴者が視聴選択の参考とできるように主な対象者を明示し、研修内容もそれに応じた内容として授業を展開した。

モデル研修のプログラム

分野	科目名及び担当者（敬称略）	主な対象
I 新カリキュラムに関する こと	1. 求められる介護福祉士像と新カリキュラム 荏原順子／目白大学 人間学部 人間福祉学科	新任、非常勤
	2. 介護福祉士養成課程における修得度評価基準 川井太加子／桃山学院大学 社会学部 社会福祉学科 本間美幸／北翔大学 生涯スポーツ学部 健康福祉学科	専任
	3. カリキュラムツリー作成 ～学びの流れと科目間連携～ 津田理恵子／神戸女子大学 健康福祉学部 社会福祉学科	全教員
II 介護教員講習会の基礎 分野に関する こと	4. 基礎：新たな視点 ①地域における介護実践 井上善行／日本赤十字秋田短期大学 介護福祉学科 ②チームケアを推進するためのマネジメント 新口春美／金城大学 社会福祉学部	全教員
	5. 専門基礎：教育方法の基礎_シラバスの意義及び授業計画 白井幸久／群馬医療福祉大学短期大学部	新任、非常勤
	6. 専門基礎：授業の評価方法_授業評価の基礎 白井幸久／群馬医療福祉大学短期大学部	新任、非常勤
III 介護教員講習会の専門 分野に関する こと	7. 介護過程の展開方法A 上田剛／河原医療福祉専門学校 介護福祉科	新任、非常勤
	8. 介護過程の展開方法B 平野啓介／旭川大学短期大学部 生活学科生活福祉専攻	専任
	9. 介護のためのケーススタディ 野田由佳里／聖隷クリストファー大学 社会福祉学科 介護福祉コース	新任
	10. 学生指導 溝部佳子／別府溝部学園短期大学 介護福祉学科	専任
	11. 実習指導方法 石岡周平／町田福祉保育専門学校 介護福祉学科	新任、非常勤
IV 教育方法に 関すること	12. アクティブラーニングを活用した授業展開 藤村裕一／国立大学法人鳴門教育大学 学校教育研究科	全教員
	13. 個人差に対応した授業展開【外国人留学生】 嶋田直美／和歌山YMCA国際福祉専門学校 介護福祉士科	全教員

分野	科目名及び担当者（敬称略）	主な対象
	14. 個人差に対応した授業展開【学習に課題を抱える学生】 木村あい／神戸女子大学 健康福祉学部社会福祉学科	全教員
	15. ICTを用いた新たな授業方法 ①生活支援技術を遠隔授業として行った成果と課題 吉岡俊昭／トリニティカレッジ広島医療福祉専門学校介護福祉学科 ②ICTを活用した、双方向性の授業展開 中山見知子／群馬県立伊勢崎興陽高等学校 福祉系列長	全教員
	16. 「地域」を学ぶ授業のつくり方 吉岡俊昭／トリニティカレッジ広島医療福祉専門学校介護福祉学科	全教員

後述の「4 モデル研修プログラム内容」においては、以下の参考文献（テキスト）は共通資料とし、書名のみを記載している。

モデル研修における共通資料一覧

<ul style="list-style-type: none"> ・共通1) 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会（平成31/2019年3月）「介護福祉士の教育内容の見直しを踏まえた教授方法等に関する調査研究事業報告書 ～介護福祉士養成課程のカリキュラム改正に対応した介護教員講習会の教育内容等について～」 ・共通2) 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会（平成31/2019年3月）「介護福祉士養成課程新カリキュラム教育方法の手引き」 ・共通3) 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会（平成31/2019年3月）「介護福祉士養成課程における修得度評価基準の策定等に関する調査研究事業報告書」 ・共通4) 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会（令和2/2020年3月）「介護過程展開の実践力向上のための調査研究事業報告書」

視聴者（研修参加者）数

分野	科目名	視聴者数 (研修参加者)
I 新カリキュラムに関する こと	科目1 求められる介護福祉士像と新カリキュラム	66人
	科目2 介護福祉士養成課程における修得度評価基準	53人
	科目3 カリキュラムツリー作成～学びの流れと科目間連携～	63人
II 介護教員講習会の基礎 分野に関する こと	科目4 基礎：新たな視点 ①地域における介護実践 ②チームケアを推進するためのマネジメント	55人
	科目5 専門基礎：教育方法の基礎_シラバスの意義及び授業計画	35人
	科目6 専門基礎：授業の評価方法_授業評価の基礎	46人
III 介護教員講習会の専門 分野に関する こと	科目7 介護過程の展開方法A	53人
	科目8 介護過程の展開方法B	70人
	科目9 介護のためのケーススタディ	45人
	科目10 学生指導	43人
	科目11 実習指導方法	38人
IV 教育方法に 関すること	科目12 アクティブラーニングを活用した授業展開	61人
	科目13 個人差に対応した授業展開【外国人留学生】	46人
	科目14 個人差に対応した授業展開【学習に課題を抱える学生】	54人
	科目15 ICTを用いた新たな授業方法 ①生活支援技術を遠隔授業として行った成果と課題 ②ICTを活用した、双方向性の授業展開	52人
	科目16 「地域」を学ぶ授業の作り方	56人

4 モデル研修プログラム内容

I 新カリキュラムに関すること

◆科目1 求められる介護福祉士像と新カリキュラム（主な対象：新任、非常勤）

目的・ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・介護福祉士養成教育の全体像を把握することができる ・介護福祉士の教育の指針となる「求められる介護福祉士像」を理解できる ・カリキュラムの3領域と医療的ケアの展開内容を理解できる 		
講師	・荏原 順子／目白大学 人間学部 人間福祉学科		
研修概要	<table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> (1) 目標とカリキュラムの展開の観点 (2) 3領域と医療的ケア </td> <td style="vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> ・求められる介護福祉士像に即した教育内容 ・チームマネジメント能力を養うための教育内容、対象者の生活を地域で支えるための実践力の向上等 ・養成カリキュラム3領域と医療的ケア </td> </tr> </table>	(1) 目標とカリキュラムの展開の観点 (2) 3領域と医療的ケア	<ul style="list-style-type: none"> ・求められる介護福祉士像に即した教育内容 ・チームマネジメント能力を養うための教育内容、対象者の生活を地域で支えるための実践力の向上等 ・養成カリキュラム3領域と医療的ケア
(1) 目標とカリキュラムの展開の観点 (2) 3領域と医療的ケア	<ul style="list-style-type: none"> ・求められる介護福祉士像に即した教育内容 ・チームマネジメント能力を養うための教育内容、対象者の生活を地域で支えるための実践力の向上等 ・養成カリキュラム3領域と医療的ケア 		
時間数	(1) 30分／(2) 30分 計60分		
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・共通2)「介護福祉士養成課程新カリキュラム教育方法の手引き」 ・介護福祉士養成課程における教育内容の見直しについて：厚生労働省 第13回社会保障審議会福祉部会 福祉人材確保専門委員会 資料 平成30年2月15日 		

■展開内容

この科目は介護福祉士養成教育の内容についての全体像を理解する科目である。まず、介護福祉士の教育の指針となる「求められる介護福祉士像」の内容を理解する。それに基づきカリキュラムの中に展開されている内容を理解する（3領域と医療的ケア）。以上により、介護福祉士養成教育の全体像を把握することができるという構成である。

「求められる介護福祉士像」は、平成29年に出された「介護人材に求められる機能の明確化とキャリアパスの実現に向けて」をもとに旧カリキュラムを見直し、新カリキュラムの柱となっているものである。介護福祉士が、チームの中で中核的な役割を果たし、リーダーの役割を担っていくためにどのようなカリキュラムの見直しをするのかということで検討された。その姿を具体的に実現するために新カリキュラムに展開される5つの観点は、①チームマネジメント能力を養うための教育内容、②対象者の生活を地域で支えるための実践力の向上、③介護過程の実践力の向上、④認知症ケアの実践力の向上、⑤介護と医療の連携を踏まえた実践力の向上が、必要な教育内容のポイントとしてあげられている。「求められる介護福祉士像」では、目指していくべき姿として「専門職として自立的に介護過程が展開できる」ということがあげられている。介護福祉士として領域「こころとからだのしくみ」や「人間と社会」で、人権・人の尊厳を理解し制度を把握し地域や環境のことを学び、「介護」で、介護の技術を学び、全てを集約して展開されるのが「介護過程」であり、介護の実践の過程である「介護過程」をしっかりと展開していける介護福祉士が求められている。

また、「関連領域の基本的なことを理解し、多職種協働によるチームケアが実践できる」ということについては、チームケアが単にできるということではなく、他の職種がどんな役割を担っている

のか、他の職種の専門性をしっかりと理解し、その上で介護福祉士の役割を理解してチームケアが実践できること。そして「制度を理解し、地域や社会のニーズに対応できる」ということでは、より介護の実践が地域包括ケアの理念のもと、介護が必要な人が地域で生活していく、そのため、施設で生活しても施設が地域の中に働きかけていくということを実践できるように介護福祉士が学んでいくことなどがあげられている。全体構成では、介護福祉士の養成は総時間数 1,850 時間で、①領域「人間と社会」、②領域「介護」、③領域「こころとからだのしくみ」、④「医療的ケア」に分けられ、この3領域と医療的ケアの関連性が重要であり、3つの領域が「連動」「統合」によって関連づけられている。

【研修で使用したパワーポイントスライド（抜粋）】

求められる介護福祉士像は介護福祉教育の指針

求められる介護福祉士像

1. 尊厳と自立を支えるケアを実践する
2. 専門職として自律的に介護過程の展開ができる
3. 身体的な支援だけでなく、心理的・社会的支援も展開できる
4. 介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援ができる
5. QOL(生活の質)の維持・向上の視点を持って、介護予防からリハビリテーション、看取りまで、対象者の状態の変化に対応できる
6. 地域の中で、施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることができる
7. 関連領域の基本的なことを理解し、多職種協働によるチームケアを実践する
8. 本人や家族、チームに対するコミュニケーションや、的確な記録・記述ができる
9. 制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる
10. 介護職の中で中核的な役割を担う

高い倫理性の保持 → 養成校ごとの独自性

カリキュラムの中に展開されている五つの観点

- ① チームマネジメント能力を養うための教育内容
 - ・ 介護職のグループの中での中核的な役割やリーダーの下で専門職としての役割を果敢することが求められている。→ リーダーシップや「ローシップ」を含めた、チームマネジメントに関する教育内容の拡充を図る。
- ② 対象者の生活を地域で支えるための実践力の向上
 - ・ 対象者の生活を地域で支えるために、多様なサービスに対応する力が求められている。→ 各領域の特性に合わせて地域に関連する教育内容の充実を図る。
- ③ 介護過程の実践力の向上
 - ・ 介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応する。→ 各領域で学んだ知識と技術を領域「介護」で統合し、アセスメント能力を高め実践力の向上を図る。

カリキュラムの中に展開されている五つの観点

- ④ 認知症ケアの実践力の向上
 - ・ 医学的・心理的側面から、認知症の原因となる疾患及び段階に応じた心身の変化や心理症状を理解し、生活支援を行うための根拠となる知識を理解する内容
 - ・ 認知症の人の生活及び家族や社会との関わりへの影響を理解し、その人の特性を踏まえたアセスメントを行い、本人主体の理念に基づいた認知症ケアの基礎的な知識を理解する内容
- ⑤ 介護と医療の連携を踏まえた実践力の向上
 - ・ 施設・在宅に関わらず、地域の中で本人が望む生活を送るための支援を実践するために、介護と医療の連携を踏まえ、人体の構造・機能の基礎的な知識や、ライフサイクル各期の特徴等に関する教育内容の充実を図る。

介護福祉士養成課程カリキュラム 科目のねらい 領域：人間と社会

人間の尊厳と自立
人間の尊厳を基礎として、尊厳の保持と自立について理解し、介護福祉の倫理的課題への対応能力の基礎を養う学習とする。

人間関係とコミュニケーション
(1) 対人援助に必要な人間の関係性を理解し、関係形成に必要なコミュニケーションの基礎的な知識を習得する学習とする。
(2) 介護の質を高めるために必要な、チームマネジメントの基礎的な知識を理解し、チームで働くための能力を養う学習とする。

社会の理解
(1) 個人や集団、社会の単位で人間を理解する視点を養い、生活と社会の関係性を体系的に捉える学習とする。
(2) 対象者の生活の場としての地域という観点から、地域共生社会や地域包括ケアの基礎的な知識を習得する学習とする。
(3) 日本の社会保険の基本的な考え方、しくみについて理解する学習とする。
(4) 高齢者福祉、障害者福祉及び権利擁護等の制度・施策について、介護実践に必要な観点から、基礎的な知識を習得する学習とする。

介護福祉士養成課程カリキュラム 科目のねらい 領域：介護

介護の基本
介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支えるためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う学習とする。

コミュニケーション技術
対象者との支援関係の構築やチームケアを実践するためのコミュニケーションの意義や技法を学び、介護実践に必要なコミュニケーション能力を養う学習とする。

生活支援技術
尊厳の保持や自立支援、生活の質などの観点から、本人主体の生活が継続できるように、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。

介護過程
本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得する学習とする。

介護福祉士養成課程カリキュラム 科目のねらい 領域：こころとからだのしくみ

こころとからだのしくみ
介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人間の心理、人体の構造や機能を理解する学習とする。

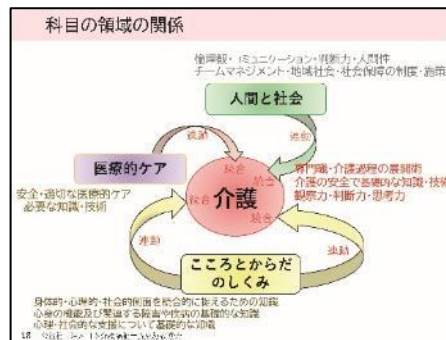
発達と老化の理解
人間の成長と発達の過程における、身体的・心理的・社会的変化及び老化が生活に及ぼす影響を理解し、ライフサイクルの時期に応じた生活支援するために必要な基礎的な知識を習得する学習とする。

認知症の理解
認知症の人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、認知症の人を中心に据え、本人や家族、地域の力を活かした認知症ケアについて理解するための基礎的な知識を習得する学習とする。

障害の理解
障害のある人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、障害のある人の地域での生活を理解し、本人のみならず家族や地域を含めた周囲の環境への支援を推進するための基礎的な知識を習得する学習とする。

介護福祉士養成課程 カリキュラム 領域と時間数 総時間数 1850時間

領域	科目	時間数	合計
領域：人間と社会	人間の尊厳と自立	30時間以上	合計240時間
	人間関係とコミュニケーション	60時間以上	
	社会の理解	60時間以上	
	人間と社会に関する選択科目	—	
領域：介護	介護の基本	180時間	合計1260時間
	コミュニケーション技術	60時間	
	生活支援技術	330時間	
	介護過程	150時間	
	介護総合演習	120時間	
	介護実習	450時間	
領域：こころとからだのしくみ	こころとからだのしくみ	120時間	合計300時間
	発達と老化の理解	60時間	
	認知症の理解	60時間	
	障害の理解	60時間	
領域：医療的ケア	医療的ケア	50時間以上	合計50時間以上
	医療的ケア	50時間以上	



◆科目2 介護福祉士養成課程における修得度評価基準（主な対象：専任）

目的・ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・介護福祉士養成課程における修得度評価基準の目的、期待される効果について理解する ・修得度評価基準の活用方法について理解する
講師	<ul style="list-style-type: none"> ・川井 太加子／桃山学院大学 社会学部 社会福祉学科 ・本間 美幸／北翔大学 生涯スポーツ学部 健康福祉学科
研修概要	<ul style="list-style-type: none"> ・介護福祉士養成課程における修得度評価基準作成の背景・目的について ・修得度評価基準の枠組みとなる7つのコンピテンシーと24の具体的能力について ・修得度評価基準の見方と活用方法について ・「介護過程」を例にあげて
時間数	40分
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・共通2)「介護福祉士養成課程新カリキュラム教育方法の手引き」 ・共通3)「介護福祉士養成課程における修得度評価基準の策定等に関する調査研究事業報告書」

■展開内容

はじめに介護福祉士養成課程における修得度評価基準作成の背景そして目的を説明しその上で、どのような流れで修得度評価基準項目が作成されたかについて解説している。また、評価基準作成の視点や作成過程においてでた意見等も紹介している。

次に流れに沿って、コアコンピテンシー7項目、その下位項目として作成した24の能力、そして24の具体的能力を柱に導き出した120の修得度評価基準項目を紹介している。

次に、修得度評価基準の見方と活用方法について「介護過程」を例にあげて説明している。

■工夫点

「介護福祉士養成課程における修得度評価基準」の活用方法として、授業科目「介護過程」を例にとり説明した。具体的には『介護福祉士養成課程 新カリキュラム 教育方法の手引き』と見比べながら、120の評価基準も一つひとつがこの『教育方法の手引き』における「想定される教育内容の例」と関連づけられていることを説明した。

■留意点

本研修は、分野Iの新カリキュラムに関するこの科目2である。新カリキュラムが目指す介護福祉士養成のねらいを理解して、各養成校が独自にカリキュラム作成の工夫をすることを期待する。そのためには、科目1の「求められる介護福祉士像と新カリキュラム」と本科目を受講したうえで、科目3「カリキュラムツリー作成～学びの流れと科目間連携～」を受講することで、分野Iの総体的な理解が深まると考える。

【研修で使用したパワーポイントスライド（抜粋）】

修得度評価基準作成の目的

見直しを行った教育内容がその「目的」や「ねらい」にそって体系的、効果的に教授されるために、修得すべき知識や技術の評価指標を作成する。

6 公益社団法人日本介護福祉士養成協議会

修得度評価基準作成の視点

- 修業年限等に関係なく、1,850 時間をベースとした介護福祉士養成課程に共通するものとする。
- 新たな「求められる介護福祉士像」及び平成29（2017）年度に見直された新カリキュラムと結びついた内容とする。
- 介護福祉士養成課程を卒業するまでに修得すべき基準とする。
- 段階別等の細かい評価基準を作成するのではなく、一定の方向性をあらかず基準を示し、その活用方法は各養成校の方針・判断にゆだねる。

9 公益社団法人日本介護福祉士養成協議会

修得度評価基準作成

(1) コアコンピテンシーの作成

- ① 他資格における先行研究を参考に、「介護福祉士養成課程における修得度評価基準としてのコアコンピテンシー」の枠組み【たたき台】を作成。
- ② これと「求められる介護福祉士像」にある項目との関係を整理し、介護に特有な、あるいは重要な7つのコアコンピテンシーについて整理した。

* コアコンピテンシーとは：中核となる能力・実践能力

10 公益社団法人日本介護福祉士養成協議会

(2) コアコンピテンシーと具体的能力

- ① コアコンピテンシーの能力をより具体化し、下位項目として24の具体的能力を示した。
- ② 24の具体的能力は、コアコンピテンシーがどのような能力から構成されているかについて示すものであり、新カリキュラムの「教育に含むべき事項」「留意点」「想定される教育内容の例」を基に作成している。

参考とした資料

- ・ 「看護士課程教育におけるコアコンピテンシーと卒業時到達目標」（平成30年6月、一般社団法人日本看護系大学協議会）
- ・ 「相談援助実習・実習指導ガイドラインおよび評価表」（平成25年11月、一般社団法人日本社会福祉士養成協議会実習教育委員会）
- ・ 「福祉系大学における人材養成機能向上に関する調査研究報告書」（平成24年9月、社団法人日本社会福祉教育学校連盟）

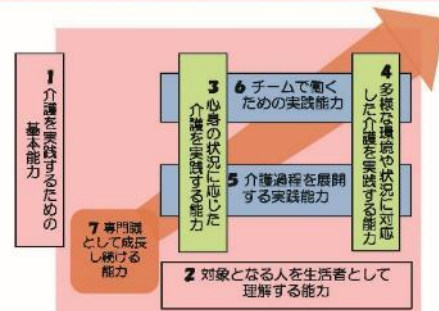
11 公益社団法人日本介護福祉士養成協議会

修得度評価基準項目

① 7つのコアコンピテンシーとその下位項目である24の具体的能力を柱に、それらに結びついている新カリキュラムの「留意点」や「想定される教育内容の例」から「介護福祉士養成課程における修得度評価基準」120を作成した。

13 公益社団法人日本介護福祉士養成協議会

介護福祉士養成課程における修得度評価基準としてのコアコンピテンシーとその構造



コアコンピテンシー（core competency）とは、中核となる能力・実践能力

16 公益社団法人日本介護福祉士養成協議会

評価基準作成により得られる効果

修得度評価基準の作成により、

- ① 当該科目で評価すべき項目や内容、評価方法の明確化が図られ、科目間で評価内容や評価項目の重複がなくなる
- ② 仮に重複したとしても、当該科目に相応しい評価方法が選択できる
- ③ 科目間での評価の構造化を図ることにより、より体系的な評価が可能となる

19 公益社団法人日本介護福祉士養成協議会

修得度評価基準の活用方法 まとめ

『教育方法の手引き』と併せて活用する

- ① 自校のカリキュラムの組み立てに活用する
- ② 科目ごとの教授内容の見直しに活用する



28 公益社団法人日本介護福祉士養成協議会

◆科目3 カリキュラムツリー作成 ～学びの流れと科目間連携～（対象：全教員）

目的・ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・科目間連携、統合が理解できる ・カリキュラムツリーとその活用が理解できる 				
講師	・津田 理恵子／神戸女子大学 健康福祉学部 社会福祉学科				
研修概要	<table border="0"> <tr> <td>(1) 科目間連携・統合</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・介護福祉士養成新カリキュラムにおける学びの流れと科目間連携 ・科目間連携・統合と例 </td> </tr> <tr> <td>(2) カリキュラムツリーとその活用</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムツリーと例 ・カリキュラムツリー活用により期待される効果 ・カリキュラムツリー活用の場合 </td> </tr> </table>	(1) 科目間連携・統合	<ul style="list-style-type: none"> ・介護福祉士養成新カリキュラムにおける学びの流れと科目間連携 ・科目間連携・統合と例 	(2) カリキュラムツリーとその活用	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムツリーと例 ・カリキュラムツリー活用により期待される効果 ・カリキュラムツリー活用の場合
(1) 科目間連携・統合	<ul style="list-style-type: none"> ・介護福祉士養成新カリキュラムにおける学びの流れと科目間連携 ・科目間連携・統合と例 				
(2) カリキュラムツリーとその活用	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムツリーと例 ・カリキュラムツリー活用により期待される効果 ・カリキュラムツリー活用の場合 				
時間数	(1) 30分／(2) 30分 計 60分				
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・共通2) 「介護福祉士養成課程新カリキュラム教育方法の手引き」 ・共通3) 介護福祉士養成課程における修得度評価基準の策定等に関する調査研究事業報告書」 				

■展開内容

前半は、介護福祉士養成新カリキュラムにおける領域ごとの科目において習得する知識や技術は、科目間連携やその先にある統合を意識して教授することが重要であることから、科目間連携と統合の意味と、1,850時間の科目間連携と統合について説明している。

後半は、学びの流れを具体的に示すカリキュラムツリーについて説明し、介護福祉士養成課程新カリキュラムにおける専門科目のみのカリキュラムツリーの作成例を示している。その上で、カリキュラムツリーの活用により期待できる効果と活用の場合について説明している。

■工夫点

科目間連携、統合とカリキュラムツリーの具体的な内容については例題を用いて説明している。受講者が、介護福祉士養成課程におけるカリキュラムにおける領域ごとの科目のつながりを、カリキュラムツリーを通して客観的にみることで、一つひとつの科目の位置づけや目的などを捉えなおし、介護福祉士養成施設ごとのカリキュラムツリーを再考する動機づけになるよう、例題を示している。さらに、この科目内においては、領域ごとに介護が赤、こころとからだのしくみが黄、人間と社会が緑、医療的ケアが紫と、一貫した色分けによって図示している。

■留意点

本研修は、分野Iの新カリキュラムに関することの3番目の科目である。そのため、科目1、2の目指すべき介護福祉士像、コアコンピテンシーを受講したうえで、本研修を受講することで本研修の理解が深まると考えるため、本研修受講前に目指すべき介護福祉士像とコアコンピテンシーの受講を勧める。

【研修で使用したパワーポイントスライド（抜粋）】

科目間連携・統合

介護福祉士養成カリキュラムにおける学びの流れと科目間連携

①連携と統合の意味

連携 互いに連絡を取り協力すること

連携 連携

統合 2つ以上のものを合わせて一つにすること

科目間連携・・・一つひとつの科目が互いにつながる

連携 + 連携 + 連携 + 連携 + 連携 = 統合

科目の統合・・・一つひとつの複数科目が一定の方式に沿って相互につながり、まとまりをもった全体を形成すること

1 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

科目間連携・統合の例

1回生前期 授業を通しての例 (食事介護)

誤嚥を防ぐために前かがみの姿勢に気を付けて・・・

同日授業にすることで 祝日などで講義と演習がずれない 根拠を学んですぐに演習ができる

領域:介護
生活支援技術Ⅰ
(食事介護の演習)

同日授業

根拠 介護を支える
領域:こころからのしくみ
こころからのしくみⅠ
(食べるしくみの講義)

根拠を理解したうえで食事介護の実践

実技の根拠を学ぶ

2 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

科目間連携と統合 (根拠の紐づけ)

大切な思考過程

介護実践において得た**情報** = 根拠を紐づける過程 = **アセスメント**

紐づけた根拠を統合 ▣ 生活ニーズ抽出 ▣ 介護計画立案・実践・評価

実践において得られた**情報** = 根拠を紐づけし**再アセスメント**・介護計画修正・再実践

介護過程の展開

思考過程を習得 繰り返し積み重ねていく 専門職としての生活支援へ

介護の醍醐味
専門職だからこそ味わえる楽しみ・喜び・働きがい・・・

介護福祉士教育の目標【求められる介護福祉士像】達成へと

3 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

カリキュラムマップとカリキュラムツリー

カリキュラムマップ

授業科目と教育目標の関係を示した表

履修系統図であるカリキュラムツリーを発展させたもの

- ①学位授与の方針(ディプロマポリシー)
- ②教育課程編成・実施の方針(カリキュラムポリシー)
- ③各授業科目(群)

①～③の対応を明示し、卒業までに身につけるべき能力を養うためにそれぞれの**授業科目(群)**が果たす**役割**を示したもの

4 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

カリキュラムツリー

教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ

各授業科目のつながりを示したもの
関連する科目を線で結んだり学修の順序を示し
授業科目間の系統性を図示したもの

5 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

介護福祉士養成課程新カリキュラム 専門科目のカリキュラムツリーの例

	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期
統合				介護過程Ⅰ(事例研究)
実習	介護総合演習Ⅰ	介護福祉実習Ⅰ	介護総合演習Ⅲ	介護総合演習Ⅴ
実習		介護総合演習Ⅱ	介護福祉実習Ⅱ	介護福祉実習Ⅲ
実習	介護の基本Ⅰ 介護過程Ⅰ	介護の基本Ⅱ 介護過程Ⅱ	介護の基本Ⅲ 介護過程Ⅲ	介護の基本Ⅳ 介護過程Ⅳ
実習		介護過程Ⅲ		介護過程Ⅴ
演習	生活支援技術Ⅰ コミュニケーション技術	生活支援技術Ⅱ	生活支援技術Ⅲ	生活支援技術Ⅴ
演習		生活支援技術Ⅳ(家政)		
講義	こころからのしくみⅠ	こころからのしくみⅡ	こころからのしくみⅢ	こころからのしくみⅣ
講義	認知症の理解Ⅰ	認知症の理解Ⅱ	医療的ケアⅠ	医療的ケアⅡ
講義	人間の尊厳と自立	障害者の理解Ⅰ	障害者の理解Ⅱ	人間と社会に関する選択科目
講義	人間の理解Ⅰ	発達と老化の理解Ⅰ	発達と老化の理解Ⅱ	
講義	社会の理解Ⅰ	社会の理解Ⅱ	人間の理解Ⅱ	

領域:介護(赤) 領域:こころからのしくみ(青) 領域:人間と社会の理解(緑) 医療的ケア(紫)
※同日授業実施

6 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

カリキュラムツリー活用により期待される効果

カリキュラムツリーは、介護福祉教育の目標、コアコンピテンシーを視野に入れて、介護福祉士養成施設ごとの独自性を取り入れたカリキュラムをビジュアル化して示すもの。

ビジュアル化:視覚化・見える化・イラスト化

どういった学生を育成したいのか・・・

例えば ICTに強い・・・情報などの科目を設定 **見える化**

国際力に強い・・・海外研修などの科目を設定

介護福祉士養成課程の専門科目+独自性としての一般科目

ビジュアル化されることで科目間連携や統合が一目瞭然になる。キャップ制の中で優先するべき科目や、科目のバランスが一目瞭然になる。

7 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

カリキュラムツリー活用の場合

オリエンテーション

(教員:新任教員・非常勤、学生:入学時・各科目、国家試験対策)

各科目のまとめ、履修登録、各科目のシラバス(授業の到達目標)作成

介護福祉実習の手引き(学生・実習先施設の実習指導担当者)・・・など

カリキュラムツリー作成過程～

科目間連携・統合、科目の位置づけを捉えなおすことができる客観的な授業の振り返りが自然にでき自己研鑽にもつながるカリキュラムツリーを作成することは、**楽しく、やりがい**につながる!!

8 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

Ⅱ 介護教員講習会の基礎分野に関すること

◆科目4 基礎：新たな視点（対象：全教員）

①地域における介護実践 ②チームケアを推進するためのマネジメント

目的・ねらい	(1) 求められる介護福祉士像を志向して介護福祉教育を展開するために、新カリキュラムにおいて教授が求められる地域における介護実践について理解する (2) 求められる介護福祉士像を志向して介護福祉教育を展開するために、新カリキュラムにおいて教授が求められるチームケアを推進するためのマネジメント方法について理解する
講師	(1) 井上 善行／日本赤十字秋田短期大学 介護福祉学科 (2) 新口 春美／金城大学 社会福祉学部
研修概要	(1) ・新カリキュラムにおける「対象者の生活を地域で支えるための実践力の向上」の観点の教育上の展開 ・地域共生社会の実現に資する介護福祉実践の理解 (2) OJT、OFF-JT、ティーチング、コーチング、スーパービジョンなど人材育成の方法を概説する
時間数	(1) 40分／(2) 20分 計60分
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・共通1)「介護福祉士の教育内容の見直しを踏まえた教授方法等に関する調査研究事業報告書 ～介護福祉士養成課程のカリキュラム改正に対応した介護教員講習会の教育内容等について～」 ・共通2)「介護福祉士養成課程新カリキュラム教育方法の手引き」 ・共通3)「介護福祉士養成課程における修得度評価基準の策定等に関する調査研究事業報告書」 ・「地域共生社会に向けた包括的支援と多様な参加・協働の推進に関する検討会」最終とりまとめ（令和元年12月26日 地域共生社会推進検討会） ・その他

本科目では、介護福祉士の教育内容の見直しにおいて提示された5つの観点のうち、①「対象者の生活を地域で支えるための実践力の向上」および②「チームマネジメント能力を養うための教育内容の拡充」の2点の理解を深めることを目的として授業を展開した。

(1)については、「地域における介護実践」というテーマで、利用者に対する介護実践そのものが地域で展開されていることの利用者にとっての意義の理解を図った。まず、コミュニティにおけるつながりがソーシャルサポートの重要な位置づけを担っていることについて説明した。次に、そうしたコミュニティにおける他者とのつながりが意味するところとして、利用者自身が「役割をもっている」と実感し、他者のために活動する機会をもつという、質の高い生活の一部として欠くことのできないものであることを説明した。そのうえで、教育の意図として、施設内・家庭内だけで完結しない対象者の役割づくりを検討すること、利用者が地域においてどのような役割を担っているかを発見することについて、授業で展開する必要性を示した。

(2)については、「チームケアを推進するためのマネジメント」というテーマで、チームマネジメントが介護福祉士のカリキュラムにおいて必要とされた意図および全体像の理解を図った。この点

については、旧カリキュラムでも「コミュニケーションを基盤としたチームケア」が重要視されていたところ、そのチームケアを実践するためのマネジメントの視点を導入したのが今回のカリキュラムの改正におけるチームマネジメントの主旨であることを説明した。チームマネジメントにおいて欠かせない要素として「チームの目標の明確化と共有」「目標達成に向けたケアの展開」というチームの目標達成の重要性、それを左右する介護職のモチベーションを向上させるために必要なものが「リーダーシップとフォロワーシップ」であることを説明した。また、チームマネジメントにおけるもう一つの柱であるキャリア開発の支援としての人材育成と自己研鑽の必要性についても説明した。今回のカリキュラム改正では、介護福祉士が介護チームにおいて中核的な役割を果たすことができるよう養成する必要があると見直しがされた。その役割を発揮していくためにリーダーシップやフォロワーシップ、またチーム内の介護職に対する指導、介護サービスの質の向上や人材の定着が図られるように人材育成についての学習内容が新カリキュラムでは充実された。そこで(2)では、すでに承知のことであると思うが再度言葉の意味の確認を目的とし、人材育成方法に関する用語の説明の内容とした。

【研修で使用したパワーポイントスライド（抜粋）】

<p>介護福祉士養成課程教育内容の見直しにおける「地域」の視点</p> <p>②対象者の生活を地域で支えるための実践力の向上</p> <p>対象者の生活を地域で支えるために、多様なサービスに対応する力が求められていることから、各領域の特性に合わせて地域に関連する教育内容の充実を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「社会の理解」の教育を含むべき事項に、地域共生社会を追加 ⇒ 地域共生社会の考え方や地域包括ケアシステムのしくみを理解し、その実現のための対応や施策を学ぶ内容 ○「介護実習」の教育を含むべき事項に、地域における生活支援の実践を追加 ⇒ 対象者の生活と地域との関わりや、地域での生活を支える施設・機関の役割を理解し、地域における生活支援を実践的に学ぶ内容 <p><small>（出典）「介護福祉士養成課程における教育内容の見直し」について 6 全国介護人材育成協議会（養成協議会）</small></p>	<p>生活の構造</p> <ul style="list-style-type: none"> 生理的活動（自分の心身のメンテナンス） ADL/IADL、休養、睡眠など 社会的活動（他者のために行ふ） 学業、家事、就業、ボランティアなど 役割をもつ 余暇活動（自由・無心になれる） 遊び、レクリエーション、娯楽、趣味など <p><small>10 全国介護人材育成協議会（養成協議会）</small></p>
<p>ソーシャルサポートの授受とQOLの関係</p> <p><small>11 全国介護人材育成協議会（養成協議会）</small></p>	<p>対象者の生活と地域の関わり</p> <p>施設内・家庭内だけで 完結しない 対象者の役割づくり</p> <p><small>13 全国介護人材育成協議会（養成協議会）</small></p>
<p>介護福祉士養成課程教育内容の見直しにおける「チーム」の視点</p> <p>① チームマネジメント能力を養うための教育内容の拡充</p> <p>介護職のグループの中での中核的な役割やリーダーの下で専門職としての役割を発揮することが求められていることから、リーダーシップやフォロワーシップを含めた、チームマネジメントに関する教育内容の拡充を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「人間関係とコミュニケーション」の教育を含むべき事項に、チームマネジメントを追加（30時間→60時間） ⇒ 介護実践をマネジメントするために必要な組織の運営管理、人材の育成や活用などの人材管理、それらに必要なリーダーシップ・フォロワーシップなど、チーム運営の基本を理解する内容 <small>（※コミュニケーションに関する学習の内容を、各領域の目標に沿って編成）</small> ○「人間関係とコミュニケーション（領域：人間と社会）」：人間関係の形成やチームで働くための能力の基盤となるコミュニケーション ○「コミュニケーション技術（領域：介護）」：介護の対象者との交流環境の構築や地域の共有化等、介護実践に必要なコミュニケーション <p><small>16 全国介護人材育成協議会（養成協議会）</small></p>	<p>チームマネジメントの全体像</p> <p>チームの目標の明確化と共有</p> <p>目標達成に向けたケアの展開 <small>指導の共有や共有、情報の共有など</small></p> <p>メンバーシップ リーダーシップ フォロワーシップ</p> <p>キャリア開発の支援（人材育成・自己研鑽）</p> <p>コミュニケーションを基盤としたチームケア</p> <p><small>17 全国介護人材育成協議会（養成協議会）</small></p>

◆科目5 専門基礎：教育方法の基礎_シラバスの意義及び授業計画（主な対象：新任、非常勤）

目的・ねらい	<ul style="list-style-type: none"> よい授業をつくるためには、授業の技術や方法を工夫するだけでは十分とはいえません。授業を展開するためには、その授業のシラバスや授業案を十分に行うことが、より良い授業をつくるために必要不可欠なものになります。その「シラバス」や「授業案」の意義や作成手順を学びます。
講師	<ul style="list-style-type: none"> 白井 幸久／群馬医療福祉大学短期大学部
研修概要	<p>(1) シラバスの意義</p> <ul style="list-style-type: none"> シラバスの記述内容と方法 学生の学習状況を理解すること、担当する科目の位置づけを把握すること、授業の目的や到達目標を設定すること、シラバスの記述内容と方法など <p>(2) 授業案の意義</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業案の作成方法 授業案「(導入)・(展開)・(まとめ)」など
時間数	(1)30分／(2)30分 計60分
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> 共通 1)「介護福祉士の教育内容の見直しを踏まえた教授方法等に関する調査研究事業報告書 ～介護福祉士養成課程のカリキュラム改正に対応した介護教員講習会の教育内容等について～」 「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説（福祉編）」文部科学省

教育方法の基礎では、新任の教員などが赴任した介護福祉士養成施設の大学・短期大学・専門学校で、教育や研究を始めて、キャリアを積み重ねていく一つとして、ここでは、より良い授業をつくるための方法として、「シラバスの意義及び授業計画」について学びます。

具体的には「シラバスの意義と作成方法」と「授業案の意義と作成方法」の2つに分けて学習を進めます。

「シラバスの意義と作成方法」では、第1に「シラバスの意義」、第2に、シラバスなどを組み立てるために必要なこととして、「学生の学習状況を把握すること」と「担当する科目の位置づけを把握すること」、第3に「シラバスの作成方法」で構成されています。

第1に「シラバスの意義」では、カリキュラムを構成する介護福祉士を養成するための各教科・科目などについて、目標や教材、学習指導計画、評価の概要等を記載した計画書について理解を深めます。

第2に、「学生の学習状況を把握すること」と「担当する科目の位置づけを把握すること」の2つは、より良い授業を組み立てるための第一歩といえます。具体的には、研修で使用したパワーポイントを参照してください。

第3に、「シラバスの作成方法」では、シラバスを、介護福祉士の養成校で行われる授業の年間の学習案内であって、これから何を、何のために、いつ、どのように学ぶのかを知らせるものと位置づけて、具体的な作成方法を学びます。

「授業案の意義と作成方法」では、授業案とは授業の設計図や航海図と呼ばれているものといえます。具体的には、「授業づくりと授業案」と「授業案の作成方法」の2つに分けて学習を進めます。

「授業づくりと授業案」では、授業の成り立ちとして、学習活動における教員の一連の行為としての指示や発問などについて理解を深めます。

次に「授業案の作成方法」では、研修で使用したパワーポイントで示したようになっていますが、特に演習や実習など学生自身が主体的に取り組む活動が中心となる授業があっても、説明は授業を進めるために必要不可欠なもので、授業では重要な部分です。

この説明部分では、「鍵の概念」と「構造と目的」が大切となっています。この鍵の概念では、学生に理解してもらうことが必要となる『鍵』となる内容があります。このことが明確になっていれば、理解しやすくなります。また、構造と目的では、授業の中で学生に示される鍵の概念は、バラバラに示されるのではなく、お互いに関連を持って、学生に『順番』をきちんと整理し、説明できるようにするとともに、何のために説明するのか、説明の『目的』をはっきりさせておくことが大切です。

【研修で使用したパワーポイントスライド（抜粋）】

<p style="text-align: center;">7. シラバスの構成事項</p> <p style="text-align: center; color: red;">養成校で配られたシラバスがあれば 手元に用意してください。</p> <p>シラバスの構成事項</p> <p>① 授業のタイトル（科目名） ② 授業の種類（講義、演習、実習など） ③ 授業の回数（時間数、単位数） （授業期間、配当学年、授業人数（定員）） ④ 授業の目的及びねらい</p> <p><small>11 公益社団法人日本介護福祉士養成協議会</small></p>	<p style="text-align: center;">4. 担当する科目の位置づけを把握する</p> <p>A) どのような学生が受講していて、どのような力を身につけさせるか。 ・この視点から授業を組み立てることを考えましょう。</p> <p style="text-align: center;">⇓⇓⇓</p> <p>B) 担当する授業科目がカリキュラム体系の中で、どのように位置づけられているのかを把握する。 ・基本的な科目情報を把握する。 例えば、必修科目・選択科目など、それぞれの科目との関連性、学生の履修状況を把握する。</p> <p><small>7 公益社団法人日本介護福祉士養成協議会</small></p>
<p style="text-align: center;">7. シラバスの構成事項</p> <p>⑤ 授業終了時の到達課題（到達目標） ⑥ 授業全体の内容の概要 ⑦ 単位認定の方法及び基準 （試験やレポートの評価基準など） ⑧ 使用テキスト・参考書 ⑨ 授業の日程と各回のテーマ（講義主題）、内容、授業方法など</p> <p>※ 事前・事後の自宅学習も含めて考えましょう。</p> <p><small>12 公益社団法人日本介護福祉士養成協議会</small></p>	<p style="text-align: center;">5. 授業案の作成方法</p> <p>5) 授業の展開方法（教育項目）①</p> <p>教育項目 導入 → 展開 → まとめ</p> <p>授業時間 大学・短期大学・専門学校では 授業時間は90分間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 導入部分 10分～15分 ・ 展開部分 60分程度 ・ まとめの部分 10分～15分 <p><small>37 公益社団法人日本介護福祉士養成協議会</small></p>
<p style="text-align: center;">3. 学生の学習状況を把握する</p> <p>A) 授業前に学生が、どの程度の知識を習得しているのかを把握する。</p> <p>B) 授業の期間内に学生がどの程度の能力を習得するのか。 ⇓⇓⇓</p> <p>C) 学生が、どの程度の知識や技能を習得しているかを理解することが必要なのか。 ⇓⇓⇓ 授業を展開する方法を考える</p> <p>D) 学生が、どの程度の知識や技能、態度を身につけなければならないでしょうか。</p> <p><small>6 公益社団法人日本介護福祉士養成協議会</small></p>	<p style="text-align: center;">5. 授業案の作成方法</p> <p>5) 授業の展開方法③ ⇨ 「鍵の概念」と「構造と目的」です。</p> <p>「鍵の概念」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業には、学生に理解してもらいたい「鍵」となる内容があります。このことが明確になっていないと、授業は平なるおしゃべりになってしまいます。 <p>「構造と目的」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業の中で学生に提示される鍵の概念は、バラバラに存在するのではなく、お互いに関連をもちています。学生がより視認内容を理解できるように話す「順番」を整理します。 ・ また、何のために説明するのか、説明の「目的」をはっきりさせておく必要があります。 <p><small>33 公益社団法人日本介護福祉士養成協議会</small></p>

◆科目6 専門基礎：授業の評価方法_授業評価の基礎（主な対象：新任、非常勤）

目的・ねらい	・授業の実施が終了すれば、その教育効果を検証するために「成績評価」を行い、学生の理解度を把握することで、次年度の講義の改善等を図るために行います。その成績評価の基礎を学びます。
講師	・白井 幸久／群馬医療福祉大学短期大学部
研修概要	(1) 成績評価の目的と機能 ・成績評価の目的 ・教育・学習評価の種類(講義、演習、実技など) ・教育評価機能など (2) 成績評価の方法と特徴
時間数	(1)30分／(2)30分 計60分
参考文献	・共通1)「介護福祉士の教育内容の見直しを踏まえた教授方法等に関する調査研究事業報告書 ～介護福祉士養成課程のカリキュラム改正に対応した介護教員講習会の教育内容等について～」 ・「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説（福祉編）」文部科学省

授業の評価方法では、各介護福祉士の養成校の学習活動の特質、評価の観点や評価の基準、評価の場面や学生の発達の段階に応じて、学生との対話、観察すること、ノート、学習カード、レポート、演習、実技、ペーパーテスト、質問紙など様々な評価方法の中から、それぞれの学習場面において、学生の学習状況などを評価ができる方法を考えていきます。

具体的には、授業評価の基礎として「成績評価の目的と機能」と「成績評価の方法と特徴」の2つに分けて学習を進めます。

「成績評価の目的と機能」では、第1に「基準による評価」、第2に「実施段階による評価」、第3に「評価する場合の注意点」、第4に「授業の到達目標と評価基準」で構成されています。

この「成績評価の目的と機能」では特に「基準による評価」と「実施段階による評価」の2点について説明します。

第1に「基準による評価」では、「評価の必要性」と「評価方法の種類」の2つからなっています。「評価の必要性」では、介護福祉士養成の各科目の学習指導評価については、学習指導の段階に応じて、学生の学習状況を適切に把握することを学びます。

第2に「実施段階による評価」では、評価を大きく分けると、「基準による評価」と「実施の段階による評価」の2種類に分けられています。

- ① 「基準による評価」には、「相対評価（他人と比べる）」、「絶対評価・到達度評価（教育目標と比べる・他人と比べない）」、「個人内評価（学生自身と比べる）」の3つからなっています。
- ② 「実施段階による評価」には、「診断的評価（一人ひとりの学生に適した指導を行うために、指導前に学生の状況を把握する方法）」、「形成的評価（学習指導の過程で学習の到達度を評価する方法）」、「総括的評価（指導後のまとめとして行う方法）」の3つからなっています。

「成績評価の方法と特徴」では、授業の場面や学習内容に応じて、以下のいくつかの方法を用いています。例えば、授業の中で学生の発言や行動に対して評価の言葉を繰り返すことや、机の間を回って指導を行う場合、学生のノートやプリント(ワークシート)の記入状況を見て、支援を行うとともにチェックなどを入れて評価を行うことができます。また、授業の終了後に、ノートやプリント(ワークシート)を集めて、コメントを付けて、評価を学生に伝えることができます。このように、いくつかの方法を用いて多面的に評価することが大切なことといえます。いくつかの評価方法を以下のように示します。

「観察法(学生の活動状況や態度などを観察します)」、「自己評価(学生自身が、自分の学習を振り返ります)」、「相互評価(学生同士がお互いを評価し合います)」、「パフォーマンス評価(習得した知識や技術を使いこなす能力を評価します)」、「ポートフォリオ評価(教員が、学生の学習活動の過程や成果などを計画的に集めたもの)」、「ペーパーテスト(教員が学生の学習状態を捉えて作成したテストです)」などの6つがあります。

【研修で使用したパワーポイントスライド(抜粋)】

<h3>1. 評価の必要性</h3> <ul style="list-style-type: none"> 介護福祉士養成各科目の学習指導の評価は、学習指導後の学生の状況を記録するために行うものとして捉えています。 では、評価がなぜ必要なのでしょうか。 <p style="border: 1px solid orange; padding: 5px; text-align: center;">学習指導の段階に応じて、学生の学習状況を選択的に把握することで何ができるのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 教員が自分自身の授業の進め方の見直しができます。 ◆ 個に志じた指導の充実が図れます。 ◆ 学生自身が自分の学習を見つめ直し、その後の学習に役立てることができます。 ◆ 教員は学習評価に関する妥当性や信頼性を高めるとともに、説明責任を果たすことが大切です。 	<h3>1. 評価の具体的な方法</h3> <p>授業評価は、学習場面や学習内容に応じて、いくつかの評価方法を用いて行うことが必要になります。</p> <p>具体的には(授業中では)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 学生の発言や行動に対する、教員の評価を繰り返しています。 ● 机間の指導では、学生のノートやワークシート(レジュメ)の記入状況を見て行います。 ● 授業の終了後に、ノートやワークシート(レジュメ)を回収し、コメントを付けて学生に戻すことで、評価を伝えることができます。
<h3>2. 評価方法の種類</h3> <ul style="list-style-type: none"> ● 評価は大きく分けると、「基準による評価」と「実施の段階による評価」の二種類に分けられています。 ● 何のために評価を行うのか、その目的を明らかにすることから始めましょう。 ● まず最初に「基準による評価」から考えてみます。 <p style="border: 1px solid orange; padding: 5px;"> 1. 評価方法①～基準による評価～ ここでは、相対評価(他人と比べる)、絶対評価・到達度評価(教育目標と比べる・他人と比べない)、個人内評価(学生自身と比べる) 2. 評価方法②～実施段階による評価～ ここでは、診断的評価、形成的評価、総括的評価 3. 指導と評価の一体化 </p>	<h3>1. 評価の具体的な方法</h3> <ul style="list-style-type: none"> ● 評価を適切に行うためには、できるだけ多様な評価を行うとともに、多くの情報をえることが大切です。 ● 多様な評価を行うことだけに追われてしまえば、十分に学習指導ができなくなるおそれがあります。 ● 学生の学習状況を適切に評価を行い、その評価を指導に生かすことが重要になります。
<h3>7. 授業の到達目標と評価基準</h3> <p>授業の到達目標とは、授業を通じて、教員が到達したい理想を示すものではなく、学生が到達すべき水準を明確に示すことが重要となります。</p> <p>☞ そのために必要なことは、 学生を主語にして、学習内容を具体的に、 わかりやすく書くことだといえます。</p> <p style="text-align: center;">○○○</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 授業の到達目標や評価基準を明確にすることで、学生の学習意欲を高めることにつながると考えます。 ◆ 教員が学生に示すことで、「評価の公平性を担保」することになります。 	<h3>1. 評価の具体的な方法</h3> <ul style="list-style-type: none"> ● 後から説明しますが、ペーパーテストは、評価の1つの方法としては有効ですが、このペーパーテストで得られる結果が、学習状況の全てを表すものではありません。 <p style="text-align: center;">○○○</p> <ul style="list-style-type: none"> ● そこで、例えば、ワークシートなどへの記述内容は、「知識・理解」の評価だけでなく、「関心・意欲・態度」、「思考・判断・表現」、「技能」の評価にも活用することが可能であり、学生の資質や能力を多面的に把握できるように工夫し、活用することが考えられます。

Ⅲ 介護教員講習会の専門分野に関すること

◆科目7 介護過程の展開方法A（主な対象：新任、非常勤）

目的・ねらい	<ul style="list-style-type: none">・介護福祉士養成教育における介護過程の位置づけを理解する。・介護過程の展開を軸とした介護実習や、介護実践の際に不可欠な支援方法であることを理解する。・「Ⅲ-8. 介護過程の展開方法B」研修を受講するためのレディネス形成ができる。
講師	・上田 剛／河原医療福祉専門学校 介護福祉科
研修概要	(1)概論：「介護過程とは」意義・目的及び、求められる介護福祉士像（専門職として自律的に介護過程の展開ができる）を示す。 (2)小事例からの理解：小事例を使い介護過程の展開場面を紹介することにより、介護過程の展開を身近なものにする。（容易に想像できる事例を使用）
時間数	30分
参考文献	<ul style="list-style-type: none">・共通1)「介護福祉士の教育内容の見直しを踏まえた教授方法等に関する調査研究事業報告書 ～介護福祉士養成課程のカリキュラム改正に対応した介護教員講習会の教育内容等について～」・共通2)「介護福祉士養成課程新カリキュラム教育方法の手引き」・共通3)「介護福祉士養成課程における修得度評価基準の策定等に関する調査研究事業報告書」・共通4)「介護過程展開の実践力向上のための調査研究事業報告書」

介護過程について聞いたことはあるがよく分からない、説明できない等「新任教員・非常勤教員」向けに作成したものであり、詳しい説明については「科目の目的」にもある「介護過程の展開方法B」へつなげるための内容としました。そのため専任教員にとっては当たり前の内容であるため、本科目の対象者が「新任教員・非常勤教員」であることをご理解頂きたいです。「介護過程の展開方法B」への接続を考慮して進めております。まず、前半の内容は、介護福祉士養成教育における介護過程の位置づけについて説明しております。後半は、「介護過程の展開」を、「旅行計画」という馴染のある計画をする過程から、介護過程の展開について身近なものとする内容です。

本科目の工夫した箇所は繰り返しになりますが、「新任教員・非常勤教員」の理解が深まり、それぞれ担当する科目と「介護過程」の関係の理解度の向上、難しいと勘違いされている「介護過程」について、特別な事ではなく普段から考えられている事であり、身近な行為として理解できるようにしております。小事例は「介護過程展開の実践力向上のための調査研究事業報告書～介護過程の思考過程の理解を深める～旅行計画の作成」から引用しており、広く配布されている事から使用が容易であることから、本研修においても使用いたしました。

研修を行う上で配慮すべき事は、初めから高い達成度は求めず、客観的な情報を基に自由な発想を促し、具体的に考察することの楽しさを教員自ら実感し「介護過程」の理解が深まるような配慮が必要と考えますが、本研修を受ける方のレディネスの把握は必要です。

【研修で使用したパワーポイントスライド（抜粋）】

介護福祉士養成教育における 介護過程の位置づけ

「介護過程」は他の関連科目で学んだ専門知識や技術を、実際の利用者支援に向けてどのように生かしていくのかを考える科目である。

4 公益社団法人日本介護福祉士養成協議会

介護過程の意義

介護過程の展開によって、利用者の心身の状況に応じた質の高い個別ケアを提供でき、利用者のQOLの向上につながる。

10 公益社団法人日本介護福祉士養成協議会

介護過程の目的

介護過程の目的は、利用者が望む生活を実現する上で生じている生活課題を解決することにある。

11 公益社団法人日本介護福祉士養成協議会

事例5：介護過程の思考過程の 理解を深める

配付資料5	旅行計画の作成（河原医療福祉専門学校）
講義・演習の特徴	介護過程の課題解決的思考法を理解する
教育のねらい・効果	<ul style="list-style-type: none"> ● 旅行という学生にとっても身近な問題について考える →介護過程の思考過程を理解する ● 「旅行計画を作りましょう」で演習の流れを提示 →問題点を予想→解釈・関連付け・統合化→計画立案 ● 登場人物の情報（体の問題、本人の希望 等）を項目番号にする →考察時間を十分にとりつつ演習時間を短縮する

16 公益社団法人日本介護福祉士養成協議会

このように
要望をアセスメントして

具体的な計画を
立て実行することは、

普段からされていること！

22 公益社団法人日本介護福祉士養成協議会

おわりに

- ・「介護過程」は苦手ではなく、楽しい
- ・利用者の方を幸せにする計画書
- ・教員も楽しんでほしい
- ・ネガティブな考えは利用者を不幸にする
- ・そんなはずはないのだが・・・
- ・科学的で根拠ある介護実践ができる介護福祉士の養成
- ・更に学びを進めたい方は「介護過程の展開方法B」へお進みください。

27 公益社団法人日本介護福祉士養成協議会

◆科目8 介護過程の展開方法B（主な対象：専任）

目的・ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・介護過程の展開について、養成校として教授する部分および視点を共有する ・介護過程の教授や指導の実践事例の素材を紹介しつつ、各養成校で活用している教材のブラッシュアップにつなげることができる
講師	<ul style="list-style-type: none"> ・平野 啓介／旭川大学短期大学部 生活学科生活福祉専攻
研修概要	<p>(1) 概論：介護過程およびその展開：介護過程の教育内容のねらい、教育に含むべき事項を示す。次に、ケアプランと個別介護計画の関係性、介護過程の意義と目的、展開過程（アセスメント、計画、実施、評価）について、養成校として教授する部分および視点を共有する</p> <p>(2) 実践事例の素材紹介：介養協発行「報告書（下記文献）」に掲載されている実践事例を紹介し、教材のブラッシュアップへつなげていく</p>
時間数	(1) 40分／(2) 20分 計 60分
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・共通 2) 「介護福祉士養成課程新カリキュラム教育方法の手引き」 ・共通 3) 「介護福祉士養成課程における修得度評価基準の策定等に関する調査研究事業報告書」 ・共通 4) 「介護過程展開の実践力向上のための調査研究事業報告書」

「介護過程の展開方法B」は、専任教員の皆様を対象としたモデル研修でした。

介護過程は、利用者本人の望む生活の実現に向け、アセスメント、計画立案、実施、評価のサイクルに基づき、かつ介護の実践根拠を利用者、家族、同職種、他職種へ示す重要なものであり、介護福祉士養成の中核科目ともいえます。

それゆえ養成校の諸先生方から、多様な生活経験のある学生にどう理解してもらうか、介護過程の教授や指導方法、教材開発の確立に日々ご苦労されていることを耳に致します。介護過程の理解は、介護実習の成果にも直結することから、実習施設（指導者）との連携も網羅しながら展開していく必要があります。

本モデル研修では、公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会の調査・研究報告書を参考にし、研修目的を2つにしました。第一に概論として「介護過程の展開について、養成校として教授する部分および視点を共有する」、第二に事例紹介として「介護過程の教授や指導の実践事例の素材を紹介しつつ、各養成校で活用している教材のブラッシュアップにつなげる」としました。

概論は約40分間で、介護過程の教育内容のねらい、教育に含むべき事項、ケアプランと個別介護計画の関係性、介護過程の意義と目的、展開過程（アセスメント、計画、実施、評価）において教授する部分および視点に触れました。事例紹介は約20分で、「介護過程展開の実践力向上のための調査研究事業報告書（2020）」にある全国の養成校教員が実践している取り組み事例を紹介させていただき、本モデル研修担当の指導経験も加えました。

介護過程は、介護福祉士養成教育の「介護」領域に含まれますが、サービス利用者の最善の利益を担保するため「人間と社会」「こころとからだのしくみ」「医療的ケア」の領域で得た知識、技術を総合的に活用していく必要があります。そのためには、指導教員間で「介護福祉士養成課程にお

ける修得度評価基準」と「教育に含むべき事項と留意点」を事前に共有化しておくことが極めて重要であると考えます。

介護過程の目的・意義・構成要素等を教授する際には、誰のための介護過程なのかということ。アセスメントでは、国際生活機能分類（ICF）の構成要素に代表されるように様々な視点から俯瞰する力と生活課題（ニーズ）導き出す力が求められます。計画立案では、利用者、家族はもちろん、同職種で標準化した介護ができ、さらに多職種連携を推進させるための文章化・言語化が求められます。実施では生活支援技術で学修する介護の原則と実施記録が必要です。評価は、計画立案の通り実施できたか、アセスメントも含めた成否を確認する力が求められます。列挙した内容はほんの一部ではありますが、介護過程を単に循環させるだけではなく、専門職としての倫理観、介護観、利用者との関係性を醸成させつつ、サービス利用者の人生に関わっていくという点も教授する必要があります。

本研修は介護過程の展開方法について教授する共通部分を示すに留まりました。介護過程を研究領域とする諸先生方のご意見等々あると存じますが、今後も中核科目である介護過程のより良い教授方法を検討できれば幸いです。

【研修で使用したパワーポイントスライド（抜粋）】

介護過程の展開・指導の現状

◆介護福祉士養成課程におけるカリキュラムの見直し

介護福祉の専門職として、介護職チームの中核的な役割を果たし、認知症高齢者や様々な障がいを抱えた方等の増加に伴う介護ニーズの複雑化、多様化、高度化等に対応できる介護福祉士を養成する必要がある。

↓

具体的実現のために「介護過程」が重要

↓

◆授業展開・指導の現状（課題）

- (1) 介護過程の教授、指導方法、教材開発の確立
- (2) 多様な生活経験のある学生指導
- (3) 養成校で用いるテキスト、介護過程の書式の差異
- (4) 養成校（教員）と実習施設（指導者）の連携
- (5) 実習指導者の介護過程の指導経験・人材確保・キャリア 等

8 公益社団法人日本介護福祉士養成協議会

介護過程の構成要素^(注)

【特徴】一方通行（直線的）なものではなく、終結に至るまで何段階でも循環

①アセスメント

②介護計画の立案

③実施

④評価

○「倫理観」
○「介護観」
○「健全性」

【注】介護過程の構成要素の概念、アセスメントに目的要素の考え方は一つではないが、ここでは上記図に基づき説明する。

20 公益社団法人日本介護福祉士養成協議会

5 学生に教授する部分および視点

「介護過程を展開する実践能力」の具体的な4つの能力

展開する実践能力

- (1) 対象となる人をアセスメントする能力
- (2) アセスメントに基づき介護計画を作成する能力
- (3) 根拠に基づき生活支援技術を適切に実践する能力
- (4) 実践を評価し、改善する能力

21 公益社団法人日本介護福祉士養成協議会

実践事例の紹介にあたり（まとめ）

（例）
・教授方法
・教材開発
・教員間の情報共有
・実習指導の連携

（例）
・学生の生活歴・背景
・学力、理解度
・実習場面での緊張感
・外国人留学生

（例）
・養成校の様式の差異
→実習スーパーバイションに影響
・養成校との連携
・制度上の差（高齢・障害領域の個別介護計画の実施）

教員 学生 実習指導者

養成校 実習施設・事業所

【実践事例】教材のブラッシュアップへの参考として紹介

- ・科目「介護過程」教材開発だけにとどまらない
- ・介護福祉士養成全体に波及することに気付かされる（特異性も併せて示す）

46 公益社団法人日本介護福祉士養成協議会

◆科目9 介護のためのケーススタディ（主な対象：新任）

目的・ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・介護福祉現場に関わる事象からの気づきを、課題解決する研究方法について理解できる ・事例研究（ケーススタディ）からエビデンスを導き出す方法を選択できる ・介護福祉関連学会への参加ができる ・興味関心を深める研究活動に参画できる
講師	<ul style="list-style-type: none"> ・野田 由佳里／聖隷クリストファー大学 社会福祉学科 介護福祉コース
研修概要	<p>(1) 概論：研究方法の入門から、実践報告及び事例検討、事例研究（ケーススタディ）の特徴について概説する</p> <p>(2) 方法論：ケーススタディの紹介を行う。事例を調べ、分析、検討する一連のプロセスを体験する。背後にある原理や法則を導き出すために、質的な調査方法を用いる。また帰納法についての理解を促す機会とする。一部ツール利用による量的分析を試みる</p>
時間数	(1) 30分 / (2) 30分 計60分
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・共通1)「介護福祉士の教育内容の見直しを踏まえた教授方法等に関する調査研究事業報告書 ～介護福祉士養成課程のカリキュラム改正に対応した介護教員講習会の教育内容等について～」 ・共通2)「介護福祉士養成課程新カリキュラム教育方法の手引き」

■科目の展開内容

当該科目は、初学者を対象とした科目です。介護の現場では、より質の高いケアを行うためにケースカンファレンスや事例研究が行われています。介護福祉士養成過程においても、介護福祉士の学びを通して、介護実習で介護過程を実際に展開し、その事実をもとにケーススタディを行っています。当該科目では、そのケーススタディを養成校がどのような指定科目で取り入れ、またどのような目的をもって取り組んでいるかを理解して頂くことを主軸に展開をしています。

特に【介護のためのケーススタディ】という科目名にした理由として、より質の高いケアを提供できる介護福祉士の輩出は、介護現場のサービスを保証し、介護の専門性の向上や、社会的評価を上げたいとの願いもこめ、介護福祉士の独自性である生活の場で行う研究としての位置づけ、介護福祉実践を研究的視点で再検討する意義を考えたネーミングです。

■科目における工夫やねらい、今後に向けて

当該科目は、介護教員講習会の専門分野【研究方法】に位置づけられた科目の一部です。今回のモデル事業では、本調査研究事業の質問紙調査の回答から、従来の介護教員講習会の内容が、「短期的な研修にそぐわない」「現場の乖離が大きい」「実践現場経験を研究方法とする基礎的な内容が必要」との意見もあり、大学教育における卒業研究や、大学院等で学ぶ専門性の高い研究方法とは一線を画し、介護福祉実践からの学びを促すものとする事としました。研究方法は数多くありますが、介護福祉士養成で最も多く用いられているケーススタディについて理解をすることで、他科目との関連や、実習経験をどう学びに活かし、資格取得後の介護実践に必要な個別ケアや、チームア

アプローチなどをどう伝えるかなど具体的な教授方法を中心に構成しています。介護福祉士養成で学ぶ学生にとっての楽しみであり、新任として介護教員になられる方にとって、学生からの信頼を得るきっかけは『みずみずしい・リアルな介護実践』＝経験談ではないでしょうか？ 新任の先生方の直近の経験談は、学生にとっても興味関心が高く、テキスト内のペーパーシミュレーションにはない現場感覚を味わえ、実際の授業でも、介護福祉実践現場での支援内容を講義内容に組み入れる場面も多くなるのではないのでしょうか？ 経験談は、ある意味、ミニケーススタディになっている側面もあると思います。介護教員の資格要件であるこの現場経験5年以上の意味は、介護福祉実践を客観視できる点にあると思います。

改めて介護学生にとって介護実習の様々な経験（成功体験・失敗体験を含む）から、介護福祉士養成課程でケーススタディを行う意義を整理します。

・ケーススタディを行う意義

- ①介護実習の振り返り:実習目標・実習経験・気づき・自己課題の発見・問題意識
- ②分析的思考と学習経験:事例の客観化・実習で行った介護福祉実践の客観化
- ③研究的視点の習得:ケーススタディのプロセス・介護福祉実践への意識づけ
- ④学習意欲の向上

ケーススタディを通して、介護学生が自己覚知し、スキルアップを促す有効性の高い研究方法と考えています。

【研修で使用したパワーポイントスライド（抜粋）】

15. ケーススタディとは何か①

➤ケーススタディ（事例研究）

個別的な事例を題材として、そこから**一般化できる事象**、また、他の利用者・家族にも適用することのできる**援助や理論を導き出すこと**を目指していく手法

介護のためのケーススタディ（1）【概要】

19 公益社団法人日本介護福祉士養成協議会

16. ケーススタディとは何か②

➤ケーススタディ（事例研究）

ある事例でのケア内容や利用者・患者との関わりを整理・分析して、ケアの側面、または利用者・家族との相互関係を追及していく研究方法

介護のためのケーススタディ（1）【概要】

20 公益社団法人日本介護福祉士養成協議会

17. ケーススタディとは何か②

➤ケーススタディ（事例研究）

介護福祉士養成教育では

- ・**介護総合演習**・**介護過程**の一環として
- ・事例研究・実習報告・ケースレポート

として多くの養成校で取り組まれている手法です。

また

ケーススタディ、卒業研究、介護研究方法など指定科目外の独自科目として設定している養成校もあります。

介護のためのケーススタディ（1）【概要】

21 公益社団法人日本介護福祉士養成協議会

1. ケーススタディとは何か①

➤研究をする上で・・・

問題の所在（リサーチクエスチョン）
着想：何か気になる

➤キーワード：
認知症、BPSD、介護拒否

介護のためのケーススタディ（2）【方法編】

24 公益社団法人日本介護福祉士養成協議会

◆科目10 学生指導（主な対象：専任）

目的・ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・介護福祉士養成教育における学生指導の意義を理解する ・介護福祉教育の視点から学生理解を深め、今後の学生指導につなげることができる ・学生自身の力を引きだし、課題解決のための行動を学生自身が自ら考え、自ら実践する能力を導き出す
講師	・溝部 佳子／別府溝部学園短期大学 介護福祉学科
研修概要	<p>(1) 概論：学生指導の意義と視点、その基盤となる学生理解や望ましい人間関係づくりと集団指導・個別指導を示す。さらに、学校全体で進める学生指導等を紹介する</p> <p>(2) 「介護福祉士養成校における教育上の課題と求められる研修プログラムに関する調査」から課題を抽出し、現在の学生傾向に合わせた学生指導や教員の職業的アイデンティティ（教職アイデンティティ）を学ぶ機会とする</p>
時間数	(1) 20分／(2) 40分 計60分
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・共通1) 「介護福祉士の教育内容の見直しを踏まえた教授方法等に関する調査研究事業報告書 ～介護福祉士養成課程のカリキュラム改正に対応した介護教員講習会の教育内容等について～」 ・共通2) 「介護福祉士養成課程新カリキュラム教育方法の手引き」 ・共通3) 介護福祉士養成課程における修得度評価基準の策定等に関する調査研究事業報告書 ・「生徒指導提要」文部科学省

私は、これまで人の生活を支えることに興味をもって学びを続け、現在は短期大学副学長と介護福祉学科学科長を務め、組織的な教育の営みについて考えている。今回は、何か困難を抱えている学生ではなく、一般の学生をどのように指導していけばいいのかについて論じる。

ここ数年、中学校・高校への訪問講座に携わり、介護人材育成のための活動をする中で特に感じたことは、中学校での先生方の生徒指導がバラバラであったことに驚き不思議でもあった。

概論では、私自身、今回、学生指導を担当するにあたって、学生指導に関する基本書を探したが見当たらなかった。しかし、中学校での生徒指導の違いを感じてきた私が、生徒指導に関する基本書に出会った。養成校の先生方が出会う学生が今まで受けてきた文部科学省の「生徒指導提要」を紹介し、「生徒指導」を「学生指導」と置き換え、重要なポイントを提示した。**福祉と教育の違いが顕著であった。つまり、福祉はありのままの自分、教育は更なる成長をめざす（教育は、ありのままの自分ではなく、更なる自分を高めることが目標）。**また、学生指導の対象は個人だけでなく集団・学校全体でもあり、学生指導の3つの視点①学生理解、②集団指導・個別指導、③学校全体で進める学生指導の中の③について、今回は論じる。

皆様からいただいた、『介護福祉士養成校における教育上の課題と求められる研修プログラムに関する調査報告』結果では、学生指導に関連するものが多く抽出され、学生指導について知識を持つことが重要であることや、現在の学生傾向からも、学生は具体的な指導を求めていることから、学生への自己指導能力の育成との兼ね合いや道筋を集団で組織的に具体的に考えていく必要があることが示された。

提案【1】 学生指導では、組織的な教育方針の共有・教員集団をつくることが重要である。つまり、「学校全体で進める学生指導」が今の時代に大切で、学校は教育方針に基づいて、今こそ、授業時間外に組織的・計画的に学生指導が必要な時代だと考える。

提案【2】 教員の職業的アイデンティティを学ぶ機会を設ける。《教員個人としての学生指導から組織人としての学生指導へ～介護福祉職を担う人材から介護福祉職を養成する教員への転換～》教員集団でどのような学生を育てたいのか、どのような教員が求められているのか自問自答しながら、教員集団としてまとめ、公平な役割分担等を行うことが大切である。

結論としては、教員は基本理念・集団のまとめをもって教職アイデンティティを意識し発達させる。それによって、教員は組織的・計画的に学生指導に自信をもって取り組むことができ、そういう教員に出会った学生は健全な成長と自己指導能力の育成をめざすことができると確信する。

【研修で使ったパワーポイントスライド（抜粋）】

<p>はじめに</p> <p>①別府市内8中学校への訪問講座（別府市委託事業） 毎年約750人の中学生にクラス単位で、約6年間 延べ4,500人の中学生に「福祉ってなあに？」を実施</p> <p>②県下の高校への訪問講座 毎年約400人、8～10クラス、4～5高校にて、約5年間 延べ2,000人の高校生に実施</p> <p>【気づき】義務教育機関でも対応がバラバラ 生徒指導が行き届いているクラスもあれば、雑然としたクラス もあり、学校・担任のカラーが顕著 （例）クラス担任の在り方・関わり方の違い等</p> <p>4 公益社団法人日本介護福祉士養成協議会</p>	<p>学生指導の3つの視点</p> <p>①学生指導の基盤となる学生理解</p> <p>②望ましい人間関係づくりと集団指導・個別指導</p> <p>③学校全体で進める学生指導</p> <p>11 公益社団法人日本介護福祉士養成協議会</p>
<p>新たに採用した教員に対する研修や講習の必要性 （1）どのような内容が必要か</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生指導とは（7か所） ・学生に対する指導（14か所） ・教育理念を共有し学科としての方向性、運用方法について連携することが必要 ・教員としての心構え（2か所） <p>22 公益社団法人日本介護福祉士養成協議会</p>	<p>新たに採用した教員に対する研修や講習の必要性 （2）そのように考える理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護老人福祉施設等で勤務していたものが（ご利用者と接していた）急に学生に対して「教える」「伝える」「指導」は難しい ・教員経験がない場合、教育について指導するだけでないことを意識してほしい ・学校・学科の理念を共有し、統一した指導 ・学校の歴史や教育方針の理解度の違いによって、学生指導のあり方に差異 ・標準化された対応 <p>23 公益社団法人日本介護福祉士養成協議会</p>
<p>“教員の揺らぎ”が“学生の揺らぎ”へ</p> <p>①教員同士で自己存在感を与え合うこと ②教員集団に共感的な人間関係を育成すること ③教員一人一人に自己決定の場を与え、自己の可能性の開発を援助すること</p> <p>↓</p> <p>「学生指導」につながる</p> <p>44 公益社団法人日本介護福祉士養成協議会</p>	<p>48 公益社団法人日本介護福祉士養成協議会</p>

◆科目 1 1 実習指導方法（主な対象：新任、非常勤）

目的・ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・介護実習の位置づけ（カリキュラムや区分など）を理解する ・介護実習「前、中、後」におけるそれぞれの知識・技術などの指導方法を理解する ・介護実習における多様な学生に対しての効果的な指導を修得する ・巡回指導を非常勤講師に委ねている場合も多くみられ、養成校での指導内容を理解する
講師	・石岡 周平／町田福祉保育専門学校 介護福祉学科
研修概要	<p>(1) 実習前－実習前準備についての指導（実習の意義・目的、実習施設等の理解、記録の意義・目的・記入方法、実習先との連携、多職種協働、ルールなど）</p> <p>(2) 実習中－実習中の指導について（健康管理、コミュニケーション方法、個人情報、巡回指導〔方法・学生の悩み事例〕、反省会など）</p> <p>実習後－実習後の指導などについて（お礼状、実習報告会（振り返り）や反省、評価（自己評価と他者評価）、就職など）</p>
時間数	(1)30分／(2)30分 計60分
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・共通 1) 「介護福祉士の教育内容の見直しを踏まえた教授方法等に関する調査研究事業報告書 ～介護福祉士養成課程のカリキュラム改正に対応した介護教員講習会の教育内容等について～」 ・共通 2) 「介護福祉士養成課程新カリキュラム教育方法の手引き」 ・「介護実習指導のためのガイドライン」日本介護福祉士会(2019年3月) ・「介護福祉士養成カリキュラム改正を見据えた介護実習科目の実習指導体制のあり方に関する調査研究事業報告書」日本介護福祉士会(2019年3月)

【授業内容】

■実習前：介護実習の指導をするためには、まず介護福祉士の養成カリキュラムについて理解する必要があります。総時間数 1,850 時間のうち、介護実習は 450 時間です。介護実習には、「実習区分Ⅰ」「実習区分Ⅱ」があり、それぞれに目的や規定などがあります。各養成校は、450 時間の中で様々な期間や日程において介護実習を行なっています。以前からの様々な介護現場における学びだけでなく、新カリキュラムでは「介護過程の実践的展開」「多職種協働の実践」「地域における生活支援の実践」が重視された教育内容となっています。介護福祉士養成に関わる全ての科目が介護実習の準備につながる科目ですが、その中でも「介護総合演習」は、直接的な指導をする科目となり、実習前や実習後の指導はこの科目を通じて行われます。また、介護実習は資格取得時の「求められる介護福祉士像」達成に向けて、介護現場において実践や体験をする場ともいえます。

実習前の指導としては、まず介護実習の「意義と目的」をしっかりと学生に理解させるところからはじめます。そうすることで学生の介護実習に向けての意識が高まり、授業効率も高まることにつながります。介護実習においては、様々な介護現場を経験させることも必要となります。そのため、介護実習で経験する施設や事業所について、様々な種別や特徴などを理解させます。介護実習に向けて事前に「実習目標」を設定し、何を学びたいのか、どんな実習にするのかイメージさせ、実習中はそれを目標に行動していくこととなります。介護実習において、最大の難所となるのが「実習記録」で、毎日の実習中に疲れもある中で様々な指導を踏まえて書いていくことは限界がありま

す。できる限り「実習前」に養成校で記録に関する指導をしっかりとっておきたいものです。学生が実習に行く前に、養成校側と実習施設側の規定や実習内容など様々なことを実習施設と連携して打ち合わせておくといよいでしょう。

■実習中：実習中は健康管理をしっかりとしていく必要があります。近年は感染症のリスクもあり、より体調維持が重要となっています。新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、「健康確認表」などを記入し、健康チェックを行なって実習に臨む必要がでてきています。学生が、介護実習で躓くポイントに「コミュニケーション」「個人情報の管理」などがあげられます。健康管理も含め、この辺りは実習中だけでなく、実習前から指導をしておくといよいでしょう。巡回指導における規定を理解し、巡回指導に臨みます。巡回指導時に学生が悩む事例などを紹介しています。実習終了時には「反省会」が行なわれ、巡回指導教員が出席する場合があります。

■実習後：実習終了後には、お世話になった施設、利用者、指導者などに宛てた「お礼状」を書きます。実習はカリキュラムに位置づけられている科目の一つであるため、実習施設が「評価」をつけます。その施設がつける評価だけでなく、自己評価や実習報告会の発表の場などで客観的な反省ができると次の実習や就職後につながります。

※学生の実習が良い学びとなり、充実した実習となるには、実習指導をしっかりと行わなければなりません。各養成校において、細かな規定や実習の位置づけ、日程、指導法などは違いがあります。そのため、非常勤の巡回指導教員や各教員間で連携して、介護総合演習や実習に関連する学生への指導内容なども確認しておく必要があります。

【研修で使用したパワーポイントスライド（抜粋）】

①カリキュラム [介護実習の位置づけⅠ]

介護実習の総時間数＝450時間

【実習区分Ⅰ】
 利用者の生活の場である多様な介護現場において、**利用者の理解を中心とし、これに併せて利用者・家族との関わりを通じたコミュニケーションの実践、多職種協働の実践、介護技術の確認等を行うことに重点を置いた実習。**
 「実習施設・事業等(Ⅰ)」

(区分Ⅱ) 介護実習の総時間数の1/3以上実施すること

【実習区分Ⅱ】
 一つの施設・事業等において一定期間以上継続して実習を行う中で、**利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった一連の介護過程のすべてを継続的に実践することに重点を置いた実習。**
 「実習施設・事業等(Ⅱ)」

6 公益社団法人日本介護福祉士会 介護福祉士養成施設における実習のありかた(2017)より

⑤実習記録の意義・目的・書き方Ⅰ

実習記録の意義・目的

- ・介護実践の証明としての記録となる
- ・サービスの質の維持、向上につながる
- ・情報共有ができ、チームアプローチにつながる
- ・利用者、家族との信頼関係構築につながる

実習記録の書き方

『5W1H』

『専門用語』

【5W1H】
 ・When 「いつ」(時間)
 ・Where 「どこで」(場所)
 ・Who 「誰が」(主体)
 ・What 「何を」(目的となる人や物)
 ・Why 「なぜ」(理由)
 ・How 「どのように」(手段)

17 公益社団法人日本介護福祉士会 介護福祉士

①実習中の健康管理Ⅰ

(1)規則正しい生活
 →実習に集中する
 →日誌を熱心に書くようとする学生は「寝不足」に
 →体力の低下は「感染症」のリスクが

実習へのモチベーションを維持したい

(2)体調の優れないときは「体む」勇気を
 →体調不良での介護は、利用者のケガ等のリスク
 →感染症の場合、利用者に生命の危機も…
 →真面目な実習生ほど、無理をする傾向

介護は、利用者の命を守る仕事!!

27 公益社団法人日本介護福祉士会 介護福祉士養成施設

④巡回指導の方法Ⅰ

【巡回指導とは】
 厚生労働省 社会・福祉政策課 連発(平成20年3月28日)
 「社会福祉士養成施設及び介護福祉士養成施設の設置及び運営に係る指針について」

9 実習に関する事項
 (2) 介護福祉士養成施設において**介護実習を担当する教員が、実習期間中に各介護実習施設等を週1回以上巡回して、**各々の生徒について実習の進捗を確認し、当該介護実習施設等における**実習目標の達成状況を踏まえ、目標達成のための具体的な方法について指導を行うこと。**ただし、これにより難しい場合、あるいは、介護実習指導等との十分な連携の下、実習期間中に生徒が介護福祉士養成施設において学習する日を設け、指導を行うこととしても差し支えないこと。(→**補校日**)

【巡回指導教員】
 実習は「領域」に該当する教育内容であるため、**介護教員講習会を修了した専任教員によって巡回指導を行うことが望ましい**と考えられます。それにより難しい場合には、専任教員以外の教員が巡回指導を行うことも可能です。

34 公益社団法人日本介護福祉士会 介護福祉士養成施設

IV 教育方法に関すること

◆科目 1 2 アクティブラーニングを活用した授業展開（対象：全教員）

目的・ねらい	・介護福祉士養成に必要なアクティブラーニングの理念と理論を理解する ・自分の授業の現状と課題を把握し、改善方策を見いだす
講師	・藤村 裕一／国立大学法人鳴門教育大学 学校教育研究科
研修概要	(1) アクティブラーニングが必要な背景 （介護福祉士に求められる資質・能力と、学生に求められる学力） (2) 具体的な授業設計論 ・介護実習指導の改善策 ・問題発見・解決学習の授業設計 （アクティブラーニングに必須な個別最適な学びと協働的な学びの両立）
時間数	(1) 30分／(2) 30分 計 60分

介護福祉士には、利用者の個別性に着目し、自立支援に向けて、利用者・利用者の家族等の関係者・介護者みんなの Well-being を目指して、創造的に思考・行動していなければならない。そのようなことを可能にする中核的な能力は、問題発見・解決能力である。この力は、従来の教員主導の知識注入型一斉授業で指示待ち人間を量産するような授業では、育成することが不可能である。

そこで、アクティブラーニング^{注1)}への授業改善が、介護福祉士養成のためには必要になる。もちろん、安全指導やコンプライアンス指導などのように、基礎・基本として教師主導で確実に教えるべきこともあり、基礎・基本 2 割、アクティブラーニング 8 割程度が妥当であると言われている。

次に、このような授業改善を実現するための各種理論と具体例を紹介した。まず、「学力向上に対する 4 つの授業タイプごとの役割」を説明した。基礎・基本を育成する「教師主導の講義・実習・習熟型授業」を 2 割程度に絞り込み、次に「教師主導の課題解決学習」（学習課題^{注2)}を教師が与え、追求方法も教師が指定する学習）で学び方を鍛え、練習として「学生主体の課題解決学習」（学習課題は教師が与えるが、追求方法は学生が自由に決める学習）で練習をするようにする。そして、最終形である探求型の学習「問題解決学習」（現在は「問題発見・解決学習」と呼ぶこともある）で、介護福祉士に必要な、問題発見・解決能力を育成していく。

さらに、「問題解決学習における思考モデル」を紹介し、具体的な授業デザインのポイントを説明し、それぞれの場面で活用できるようにする思考が異なることを説明した。

^{注1)} 現在は、単に活動させればよいとの誤解があるため、要件によってネーミングした「主体的・対話的で深い学び」という語が用いられている

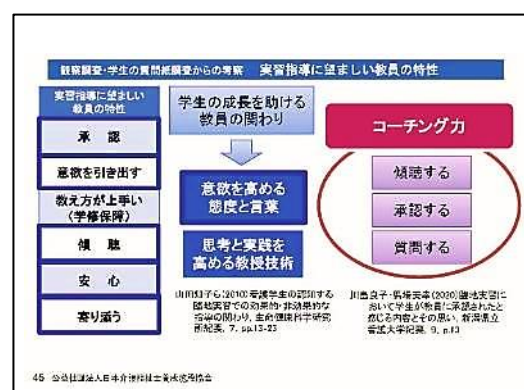
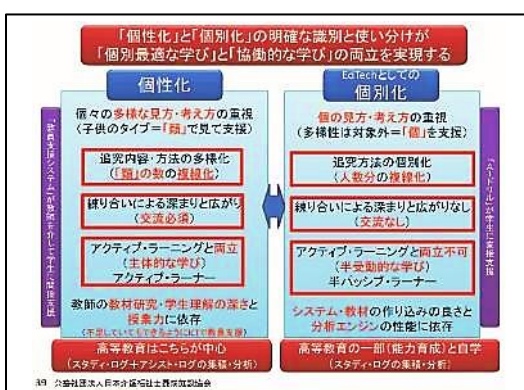
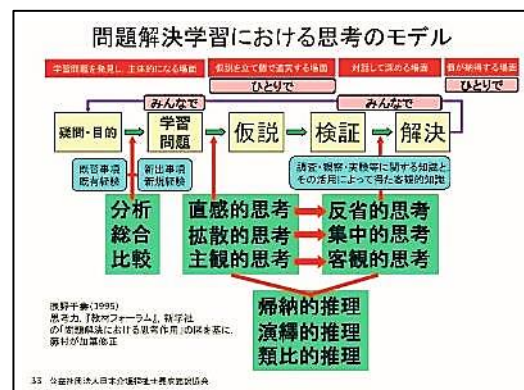
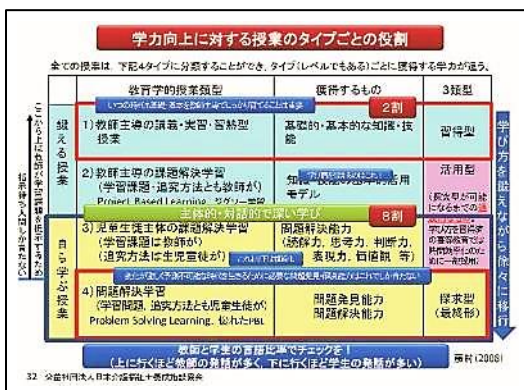
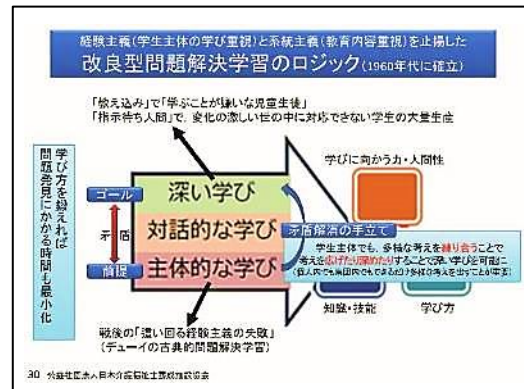
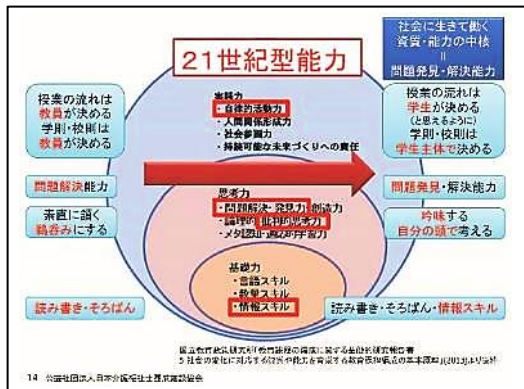
^{注2)} 教育工学では教師が与える問いを「学習課題」と呼び、学生が発見したものを「学習問題」と呼ぶ

次に、学生一人ひとりの特性の違いをいかし、主体的に問題発見・解決ができるようになるための「個別最適な学び」の背景にあるATI（適正処遇相互作用）の理論と、それを実現する「EdTechによる個別化」（AIドリル等の活用）と、教材研究と学生の反応予測から、学生をタイプ別に複線化して学生を支援する「個性化」の理念と手法について説明した。

また、介護福祉士養成で非常に重要な役割を担う実習指導の、アクティブラーニングの視点からの改善についても説明した。実習指導に優れた教員のコンピテンシー研究を基に、学生の「意欲の引き出し」、学生の悩みや考えに耳を傾ける「傾聴」、学生の前向きな取り組みを評価する「承認」、学生を安心させる「寄り添い」、より深い学びを主体的に引き出せるようにする「質問」などが、求められることについて解説した。

最後に、上記のようなアクティブラーニングへの授業改善を進めるために、授業や実習指導の様子を教員・学生の手承を得た上で記録したビデオを視聴しながら、改善の具体的方策について検討する省察の場の提供が有効であることについて説明した。

【研修で使用したパワーポイントスライド（抜粋）】



◆科目 1 3 個人差に対応した授業展開【外国人留学生】（対象：全教員）

目的・ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人留学生の困りごとを理解できる ・困りごとに対応した指導方法を導き出すことができる ・外国人留学生の学びの環境を整えることができる
講師	・嶋田 直美／和歌山YMC A国際福祉専門学校 介護福祉士科
研修概要	(1) 概論：外国人留学生の現状を説明する (2) 方法論：外国人留学生の困りごとやそれに対する指導方法について、事例を用いて説明する
時間数	(1)10分／(2)20分 計30分
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・国際交流基金・日本国際教育支援協会ホームページ (https://www.jlpt.jp/about/levelsummary.html) ・一般社団法人職業教育・キャリア教育財団「介護福祉分野専門学校における留学生受け入れ事例集」（2016年） ・日本介護福祉士養成施設協会「外国人留学生受け入れに関するガイドライン」（2017年）

近年、介護福祉士資格を目指す外国人留学生が増加してきている状況において、介養協は2017年に「外国人留学生受け入れに関するガイドライン」を示した。その中では介護福祉士養成校への入学要件として日本語能力N2相当の日本語能力が必要と示している。しかし介護福祉士養成校に入学している外国人留学生をみると、実際にはN2相当の日本語能力に達していない留学生が多く入学していることも否めない。その結果、国家試験の合格率の低さなども介護福祉士養成校の課題としてあげられている。そこで本科目では、彼等が学習面でどのような困りごとを感じているのかを明らかにすること、またそれらに対してどのような指導方法が必要となるか、介護福祉士国家試験の事例問題等を用いて、日本語能力認定試験（以下、JLPT）のN2レベルとN4レベルの比較を通して紹介した。

JLPTでは日本語能力N2の認定目安について「日常的な場面で使われる日本語の理解に加え、より幅広い場面で使われる日本語をある程度理解することができる」とし、N3では「日常的な場面で使われる日本語をある程度理解することができる」、また、N4では「基本的な日本語を理解することができる」と定めている。

まずN2とN4の日本語教育内容の比較をみると、習う語彙のバリエーションや漢字語の量が圧倒的に違う。また文章解釈では、N4では見てわかる状況や習慣的な事柄など具体的な事柄を扱うことが多くなる。しかしN2では心情・仮定・推測など抽象的な事柄を扱うことが増える。その結果、介護福祉士国家試験科目の一つである「総合問題」の事例文では、利用者の心情や仮定など抽象的な事柄を扱う問題が多くみられているため、N4レベルの留学生では事例文の内容理解ができない可能性がある。また、事例文では「訴える」や「拒否した」などN2～N3レベルで習う語彙や、「～に伴って」や「～したところ」など、N4ではまだ習っていない文法が多く用いられている。さらに日本語の特徴として主述関係が省略されている文章も多く、「誰が」「誰に」「何がどうな

ったか」といった内容の理解が困難となる留学生もある。特に日本語能力の低い留学生では語彙の読み方がわかっているにもかかわらず、その意味や内容が理解できているわけではないということを教員は理解しておく必要がある。したがって学習指導で留意すべきことは、語彙の読み方を覚えさせるよりも、言葉の意味を理解させるといった指導が必要となる。また、国家試験の過去問題や模擬問題を繰り返し実施することも日本語の文章に慣れるといった学習効果が期待できる。こういった指導を繰り返していくことで事例文の内容把握や、国家試験の解答時間が短縮できることにもつながり、結果的に試験問題の見直し時間が持てるようになる。

以上、介護福祉を学ぶ外国人留学生に対する日本語指導に必要なことは、①N4レベルの学生の場合、専門教育に先立って日常的な事柄を聴いて反応できるようにする、②漢字やカタカナの言葉への抵抗感をなくすこと、③専門用語については、その意味を説明する日本語が理解できる、といった指導を日頃から繰り返し触れさせ、習ったことを具体化する練習が必要となる。

【研修で使用したパワーポイントスライド（抜粋）】

外国人留学生に対する日本語指導

① N4レベルの学生の場合、専門教育に先立って日常的な事柄を聞いて反応できるようにする必要がある

(例)

- ～までに・・・ください。
- ～について・・・ください。
- ～てはいけません。～ないでください。
- ～しておいてください。
- ～の場合は・・・

24 公益社団法人日本介護福祉士養成協議会

② 漢字やカタカナの言葉への抵抗感をなくす

- 単漢字の意味を理解させる
- 漢字の構成(つくりやへんなど)を理解させる
- 漢字の読み方を教え、音読させ、書かせる
- 複数の例文を示して、文脈の中での使われ方を教える

25 公益社団法人日本介護福祉士養成協議会

③ 専門用語を覚えて理解するために、専門用語を説明する日本語が理解できる

- よく使う表現を繰り返し触れさせる
- 習ったことを具体化する練習

(日本語指導の目標)

① 講義がわかる

- 専門用語＋よく使う表現＋論理的に考える力
- 聴解力

② 教科書がわかる

26 公益社団法人日本介護福祉士養成協議会

(最後に・・・)

語彙の読み方を覚えさせるよりも、言葉の意味を理解させるといった指導が必要。
読み方がわかっているにもかかわらず、理解できていない!

国家試験合格に向けての指導では、問題を速く読み、内容が理解できるよう、繰り返しの指導が功を奏する。

N2レベルの留学生では、ルビを煩わしく思い、「読みにくい」と感じる留学生が多い。

27 公益社団法人日本介護福祉士養成協議会

◆科目 1 4 個人差に対応した授業展開【学習に課題を抱える学生】（対象：全教員）

目的・ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・学生の特性を理解できる ・学生の学ぶ意欲や発想力、創造力を十分に発揮できるよう、学びの環境を整えることができる ・教員の「気づき」を具体的な学習支援につなげる
講師	・木村 あい／神戸女子大学 健康福祉学部社会福祉学科
研修概要	(1) 概論：学習に課題を抱える学生の現状を説明する (2) 方法論：教員の気づきを具体的な学習支援につなげ、学びの環境を整える方法について事例を用いて考える
時間数	(1)10分／(2)30分 計40分

この研修は、学生の特性を理解できる。学生の学ぶ意欲や発想力、創造力を十分に発揮できるよう、学びの環境を整えることができる。教員の「気づき」を具体的な学習支援につなげる。ということを目的としている。

本科目の流れは、(1)で学習に課題を抱える学生の現状を説明し、(2)では教員の気づきを具体的な学習支援につなげ、学びの環境を整える方法について事例を用いて考えていった。

様々な学生がいる中で、教員の「あれ？おかしいなあ・・・何でだろう」という気づきを大切に、授業展開を考えていくことが重要である。まず、教員が気になる学生は、ほとんどの場合、本人はととても一生懸命にやっている。今回は、「本人は一生懸命やっているのに、なぜ？」と感じる事例について考えていった。

このような学生は、周囲の人と自分を比べてしまって、劣等感を抱いている場合も少なくない。また、どうして自分はできないのだろう、なんで人とうまく関われないのだろう、また失敗して注意を受けるのではないかなど、一日中緊張していたり、失敗を恐れて積極的になれなかったりする。

まず、学生の困りごとやニーズを把握するための学生対応の基本に触れていきたい。まず、カウンセリングマインドをもって接し、秘密を守り、合理的配慮をする。さらに、個々に合わせた関わり方が必要である。

次に学生の「できない」を「できる」に変換していくために事例を用いて説明していった。

教員の気づきを具体的な学習支援につなげ、学びの環境を整える方法について考えていった。教員が気になっている学生は、本人も「なんで自分はできないのだろう」と悩んでいる場合がある。そのため、成功体験を増やして、自信をつけていくことが必要となる。少しの工夫で学生の「できない」を「できる」に変換していける場合がある。

ここでは、5つの事例を用いて、教員が気づいた一つの行動や状況から、その原因は何か、解決に向けてヒントとなることや支援方法を考えていった。

事例1：入学式や授業で落ち着きがないケース

事例2：課題が提出できないケース

事例3：一斉の指示で行動ができないケース

事例4：履修登録を間違えるケース

事例5：実習でのトラブルについて

学習に課題のある学生と一言と言っても、様々なケースがある。私たち教員が、学生に何を教授するのかということも大切であるが、その土台になる環境を整備することが重要といえる。学習に課題のある学生それぞれに共通して言えることは、構造化することである。

構造化とは時間や手順をみえる形にすることである。構造化するメリットとして、課題の原因に対して適切な対処ができるようになる、課題解決の優先順位がつけやすくなる、情報共有やコミュニケーションがしやすくなるということがあげられる。それにより、学生が、理解しやすく、不必要な混乱をしなくてすんだり、効率的に学習するのを支援できたり、安心して自信を持って学習、生活できたり、必要な情報に注意を集中しやすしたり、できるだけ自立して生活し、自分の行動をマネジメントすることができるようになる。

【研修で使ったパワーポイントスライド（抜粋）】

本人は一生懸命やっている

どうして自分
はできないの
だろう

ミスや注意され
るのを恐れて、
一日中緊張して
いる

なぜ、人とう
まく関われない
のだろう

同級生はできて
いるのに・・・
劣等感

5 公益社団法人日本介護福祉士養成協議会

事例1
入学式や授業で落ち着きがない

なぜ？

- 初めての場所や場面が苦手
- 先の見通しが持てず、不安を感じる

ヒント

- 本人・保護者から情報を得る
- 教員間で対応方法を話し合う

対応

- 人や場に慣れるようにする
- 先の見通しが持てるようにする

9 公益社団法人日本介護福祉士養成協議会

事例2
課題が提出できない

なぜ？

- その時は理解したのに時間が経つとわからなくなる

ヒント

- 本人・保護者から情報を得る
- 教員間で対応方法を話し合う

対応

- その都度確認する
- 本人がメモを取る（ルール化していく）

10 公益社団法人日本介護福祉士養成協議会

構造化する

- ・時間の構造化
- ・空間の構造化
- ・手順の構造化

+

視覚化

- ・何を教授するのも大切であるが、その土台になる環境を整備することが重要である

14 公益社団法人日本介護福祉士養成協議会

◆科目15 ICTを用いた新たな授業方法（対象：全教員）

①生活支援技術を遠隔授業として行った成果と課題

②ICTを活用した、双方向性の授業展開－福祉系高等学校におけるICTの活用を例に－

目的・ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・遠隔授業を柔軟に取り入れることで、教授方法を増やすことができる ・遠隔授業の手法を取り入れ、他の授業を観ることにより教員間で科目の連携を図ることができる、学生同士・教員間でピアレビューすることができる ・ICT初心者でも使用できるGoogle社のG Suiteを活用した福祉教育について知る ・アプリケーションツールを活用し、遠隔授業でも対面授業でも双方向の授業ができる可能性について考える
講師	①吉岡 俊昭／トリニティカレッジ広島医療福祉専門学校 介護福祉学科 ②中山 見知子／群馬県立伊勢崎興陽高等学校 福祉系列長
研修概要	①実践報告：生活支援技術を遠隔授業として行った成果と課題 ②実践報告：ICT（Google社のG Suite）を活用した、双方向性の授業展開－福祉系高等学校におけるICTの活用を例に－
時間数	①30分／②30分 計60分

①実践報告：生活支援技術を遠隔授業として行った成果と課題

生活支援技術の授業にICTを活用したことで学生の学びが深まった実践を報告した。WEBでの授業を行った数か月は、教員が学校で撮影した実技動画をMicrosoft Teamsを活用して学生に動画を配信した。学生は送られた動画を自宅で見ながら、基本的な動きの練習を家族などと一緒に何度も練習することで、対面授業を再開した際に体の使い方や動きが理解できており、効率よく授業を進めることができた。また、対面授業が始まってからも自分の実技をスマートフォンを使って学生同士で撮影、ピアレビューし自分の実技を見ることで、動きの確認等が効果的にできるようになった。実技試験でも学生一人ひとりの試験風景を動画撮影した。そして学生は試験後すぐに撮影した動画を見ながら、行った支援についてのプレゼンテーションを実施した。学生にとってはICTの活用によって、自分の技術を客観的に見ることで、自分の癖やできていない部分、できている部分を具体的に知ることができるといった効果があった。また教員間では科目間で連携していくために、撮影した実技試験を学科会議で見ながら、学生一人ひとりの習得度を確認した。これにより座学で教えたことが実技の中でどのように活用できているかを教員間でもピアレビューを行ったことで連携が取りやすくなった。このようにコロナ禍で授業が思うように実施できない中でも、学生の学びを止めないよう教員が今できることを積極的に取り入れ、連携していくことが今後必要になってくると考えられる。

②実践報告：ICT（Google社のG Suite）を活用した、双方向性の授業展開


ICTを活用し、リモートで実施した高校生福祉研究発表会について報告した。初めての試みであり、接続が上手くいかないなどのトラブルもあったが一定の教育効果を得ることができた。リモートによる発表会であるにも関わらず、資料の共有表示だけではないアナログを活用した方法で発

表した学校も多くあることに注目したい。ICTとアナログの良さを融合して実践していくことの大切さを感じた。また、GIGAスクール構想で配布された Chromebook を活用して実践した授業報告も行った。Google 社の G Suite にあるアプリケーションを活用することで、対面でも遠隔でも双方向性の授業展開ができる。ICT機器を活用することで、グループ学習が効率的に進み、意見も出しやすくなることで主体的・対話的に学習が行え、深い学びに到達できる事が示唆された。今後、ICT機器は文房具と同じ扱いとなり ICT機器を使いこなす子ども達が高等教育にも入学してくる。教員が上手に使いこなせなくても「やってみる勇気」でICTを活用した講義に取り組んでいくことが必要と考えられる。

【研修で使用したパワーポイントスライド（抜粋）】

(1)実践報告：生活支援技術を遠隔授業として行った成果と課題

ICTを活用したピアレビュー（学生間）



接触の機会を減らすだけでなく、自分が行っている介助を客観的に見て分析できる機会となっている。

9 公益社団法人日本介護福祉士養成協議会

在宅で学生が授業配信を見て練習を実施



【学生からの意見】

- ・入学後、実技の授業ができないという不安があったが、授業が配信をされたことで、イメージが付きやすかった。
- ・何度も家で練習できるので、対面授業が始まってから、早くクラスメイトと練習したいという気持ちももてた。
- ・何度も説明や動きを見直すことができたので理解しやすかった。

5 公益社団法人日本介護福祉士養成協議会

(2)実践報告：ICT（Google社のG Suite）を活用した、双方向性の授業展開

高校生福祉研究発表会
学びを止めるな！！



4 公益社団法人日本介護福祉士養成協議会

Chromebook
(GoogleのChrome OSを搭載したPC)
を活用した授業実践報告



16 公益社団法人日本介護福祉士養成協議会

◆科目16 「地域」を学ぶ授業のつくり方（対象：全教員）

目的・ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・介護福祉士が地域を学ぶ必要性を理解できる ・介護福祉士養成において学生が地域と関わることの必要性を理解できる ・学生と地域資源のつながり方を学ぶことができる ・実践を通してチームをマネジメントする必要性を理解できる
講師	・吉岡 俊昭／トリニティカレッジ広島医療福祉専門学校 介護福祉学科
研修概要	<p>(1) 概論：介護福祉士が地域を学ぶ必要性について</p> <p>(2) 実践報告：対象者の生活を地域で支える実践力の向上を目指し、本校では新たに「社会貢献活動」という授業科目を設置した。この授業のねらい、実践して見えてきた成果と課題について報告する</p>
時間数	30分

■介護福祉士が地域を学ぶ必要性について：新カリキュラムでは、チームマネジメント能力を養うための教育内容の拡充、対象者の生活を地域で支えるための実践力の向上、介護過程の実践力の向上、認知症ケアの実践力の向上、介護と医療の連携を踏まえた実践力の向上が掲げられている。本校ではその中でチームマネジメント能力の向上と、対象者の生活を地域で支える実践力に着目し、『社会貢献活動』という授業を始めた。現在の介護福祉施設の現状として、対象者が施設に入所してしまうと地域とのつながりが希薄になってしまい、施設の中だけで対象者の生活が送られている現状が多い。要介護状態になってもいつまでも住み慣れた地域で生活をするということは、たとえ介護福祉施設に入所したとしても、介護福祉士が中心となって関係各所に働きかけを行い、地域とのつながりが継続できるようにしていく必要があるのではないかと考える。

■『社会貢献活動』のねらい、実践してみえてきた成果と課題：本校の『社会貢献活動』を通して、地域の対象者はどのような生活をしているのか、地域資源にはどのようなものがあるのか、対象者の生活を地域で支えていく仕組みづくりのために自分たちに何ができるのか等を、学生が主体的に考え実践していけるような活動にしていきたいと考えている。

活動内容としては、1、2年生を合わせて8グループに分けて活動する。毎週水曜日の午前中を活動の日として、地域の100歳体操に参加して一緒に体操を行うグループ、地域の花壇のお世話や公園の草取りなどを地域の方と一緒にを行うグループ、地域のペタンクサークルと一緒に活動を行うグループ、地域のデイサービスセンターにレクリエーションをしに行くグループや地域の方々が家でも使える体操DVDを作るグループなどがある。その他にも小学校での福祉の授業や公民館活動などにもグループごとに参加している。それぞれがグループリーダーを中心に活動予定を立て、その日の活動をスマートフォンで共有しながら、毎回活動している。イベントなどでかかった費用や交通費などは月ごとにリーダーがまとめ事務室に請求するようにし、お金の管理も自分たちで行うようにしている。活動終了後にはその日の担当学生が日誌を書き、グループ内で回し、見た学生は確認印を押すようにし、活動内容をグループ全員で共有できるようにしている。

学生は介護福祉士になるために学校に入学してきており、介護福祉士は介護を必要とする人たちに支援をしていくことが仕事だと思っている。そのような学生が多い中で、介護福祉士の新たな可能性と、これから求められる介護福祉士の役割についてしっかりと説明した上で、活動を行っている。1、2年生が一緒のグループになっていることで、2年生がリーダーとなり、1年生がフォロワーの役割を果たしながら、実践を通してチームマネジメントを学ぶことができている。また、自分たちのやりたいことを企画する企画力やイベントや行事を運営する実践力を養い、失敗することはあっても次につなげ楽しく学ぶことができている。

今年度はコロナの影響で活動が制限され、思うような活動ができていないグループもあったが、その中でも、学生たちがマスクを作って施設や地域に配布したり、今何ができるのかを考えて動く力が身についてきているように思う。今後の課題として、現在の活動は高齢者に関わることが多いが、最近では近隣の子どもたちも学校に集まるようになってきている。このことから高齢者や子どもたちといった近隣住民を、学校の活動を通してどのようにつなげていくかを学生と一緒に考えていきたいと思っている。そして、学校で学んだ地域に仕掛ける面白さと、『地域で生きる』を支えることの大切さを学生が就職した先で、今度は自分たちの施設を拠点に地域を巻き込みながら色々なことに挑戦してほしいと思っている。

【研修で使用したパワーポイントスライド（抜粋）】

介護福祉施設の地域における役割

6 介護福祉施設と地域の関係

各グループの活動内容

活動内容	関連機関等
1 トリニティ楽々体操（観町）	地区社協、民生委員 町内会、地域包括、老人会
2 地域清掃、公民館活動、小学校訪問	
3 地域のデイサービスでレクリエーション巡り	高齢者施設
4 地域のデイサービスでレクリエーション巡り	高齢者施設
5 100歳いきいき体操（南区スパー）	地域包括
6 地域の花壇や畑のお手伝い、買い物付き添い	地域包括、老人会
7 地域で行う体力づくり活動のお手伝い	地域包括、老人会
8 健康体操のDVDの作成	高齢者施設

毎週水曜日の午前中、担当グループで活動を実施

8 介護福祉施設と地域の関係

トリニティ楽々体操

毎週水曜日『いきいき100歳体操』の運営に関わらせてもらっています

9 介護福祉施設と地域の関係

地域の広場で体力づくり（ペタンク）

13 介護福祉施設と地域の関係

地域の小学校訪問授業

16 介護福祉施設と地域の関係

活動後は実施内容を報告書に記入

各グループに活動報告書とUSBを準備

グループ内で審査し、見た学生はサインをして担当教員が最後に確認する。

17 介護福祉施設と地域の関係

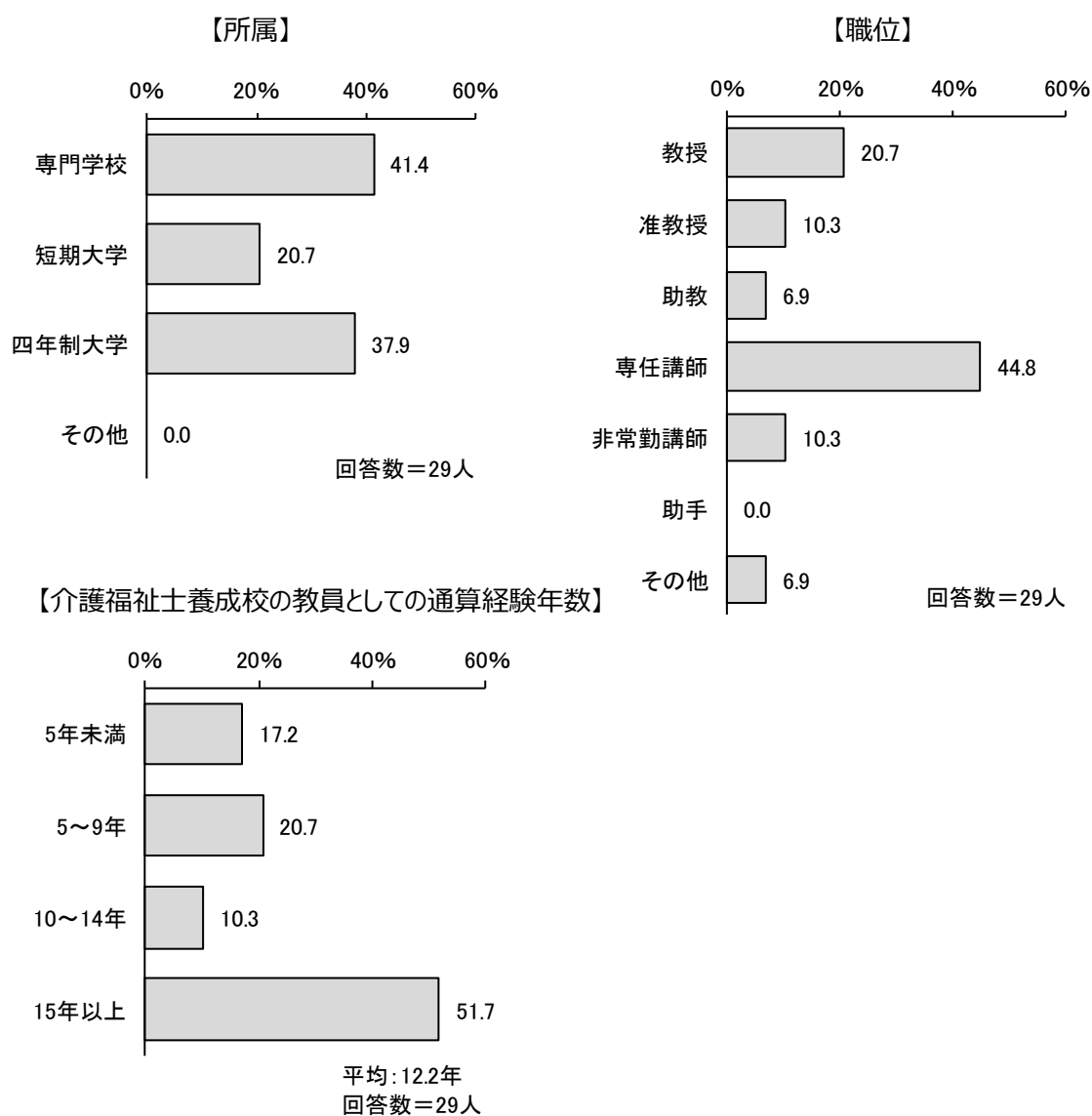
5 モデル研修受講者の意見（研修アンケート結果）

（1）研修アンケートの概要

対 象	・モデル研修受講者全員（受講希望登録者 246 人）
回 収 数	・29 人
調査方法	・受講者がウェブフォームにアクセスして回答 ・受講予定の科目を受講した後、1 度に限り回答

（2）受講者の所属・職位・介護福祉士養成校の教員としての通算経験年数

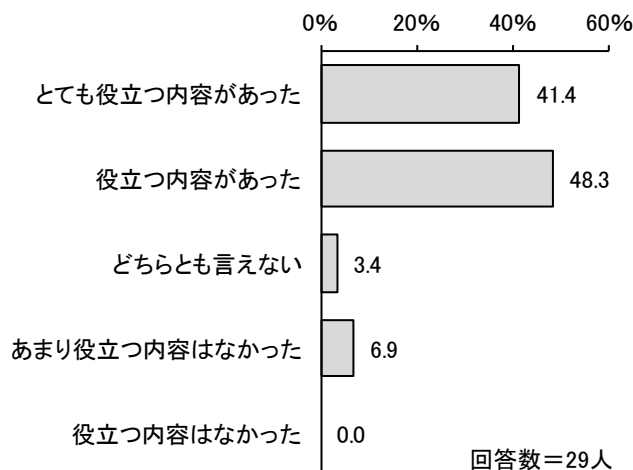
- 問 2 あなたの所属
問 3 あなたの職位
問 4 介護福祉士養成校の教員としての通算経験年数



(3) 受講した研修全体について

問5 受講した研修全体について

【受講した研修全体について】



(4) 受講した科目への意見

問6 受講した科目について、ご意見があればお聞かせください。科目別にご意見がある場合は、科目名を明記してご記入ください。

※自由記載は、原則として原文のとおり全てを掲載している。

【科目3. カリキュラムツリー作成 ～学びの流れと科目間連携～ について】

- カリキュラムツリー作成は学生の学習にとって非常に重要であると思います。

【科目12. アクティブラーニングを活用した授業展開 について】

- 藤村先生のアクティブラーニングに関する講義が勉強になった。
- アクティブラーニングを活用した授業展開について、私が教員講習会に参加した3年前からうたわれていたのですが、実施までは行けていない現状です。学生が楽しいと思える授業をやりたいと考えている中、よりイメージしやすい内容で大変参考になりました。
- アクティブラーニングに関する科目の映像と講師の音声のタイミングがずれていました。

【科目15. ICTを用いた新たな授業方法 について】

- 授業におけるICTの活用方法が具体的に理解できた。実際に受講者のパソコンを同時に操作して学べるようになると、さらに実用的でわかりやすくなると思う。
- ICT活用はこれからの活用としてレベルを上げていかなければならないと痛感しました。

【科目16. 「地域」を学ぶ授業の作り方 について】

- 「地域を学ぶ」というより「地域で学ぶ」といった印象を受けた。地域共生社会や地域福祉寄りの内容を想像していたので、学生のボランティア活動をととしての学びや、学校の地域貢献の様子を紹介している感じ。

【 その他 】

- 科目 1. 2. 3. 12 は個人的にとっても勉強になりました。教育学について、もっと学びたいと思いました。
- 外国人留学生や学習に課題を抱える学生について、当校でも日々苦慮し、課題としている内容だったため、とても興味深い内容でした。
- トリニティカレッジの吉岡先生のお話は面白く感じました。ICTやアクティブラーニングについては、学生の写真も多く、自分の学校でも取り入れやすく感じました。介護過程展開Bについても、自分の授業で悩んでいた部分を解決できるようなヒントが多く、具体的で分かりやすかったです。
- 自身の講義についての振り返りにつながるきっかけになった。
- 受講期間が短く、しっかりと聞くことができなかった。

(5) より詳しく知りたい内容や新たに加えてほしい内容等

問7 今後、より詳しく知りたい内容や新たに加えてほしい内容等があればお聞かせください。
科目ごとにご意見がある場合は、科目名を明記してご記入ください。

※自由記載は、原則として原文のとおり全てを掲載している。

【 ICTについて】

- ICT活用を初心者向けにお教えいただきたいです。
- ICTを活用した授業方法。
- 遠隔授業の取り組み方や工夫などを学びたい。

【 アクティブラーニングについて】

- アクティブラーニングの実践例（介護の科目毎に）。
- 藤村先生のアクティブラーニングに関する継続的なオンライン研修を希望します。
- アクティブラーニングの次に来る主体的、対話的、深い学び（指導）への具体的な取り組み方。

【 学生に関して 】

- 外国人留学生への実習日誌の書き方指導、外国人留学生への国家試験対策。
- 近年、学生間の個人差が大きく、注意や配慮の要る学生が増えている点や、遠隔授業が増えICTを活用した授業展開が必要となる点などから、これらに関連する科目の研修を今後も続けて頂きたいと思います。

【その他】

- 介護過程の展開方法については継続した情報提供をお願いしたいと思います。
- 制度の改正についてタイムリーな情報共有ができればと考える。
- アクティブラーニング、ICT、地域との関りについての授業について、もう少しお話を聞いてみたいです。
- 全てのコンテンツを最低でも1カ月の期間で観れるように準備して欲しい。

(6) その他の意見

問8 その他のご意見

※自由記載は、原則として原文のとおり全てを掲載している。

- 今後新しく担当される講師にも見てもらいたい内容でした。継続的に視聴できる予定はないのでしょうか。報告書も読ませてもらっていますが、今回のように講義形式で発表いただくとより実感できるものだと再確認できました。ご準備いただいた先生方に感謝いたします。
- 大変充実した内容の研修でした。何度も繰り返して視聴したいです。新年度が始まり授業案の作成時などに繰り返し見たいので、どうか受講期間を過ぎても視聴できる方法をご検討ください。
- 動画が30分区分切りだったので、昼休みなどでも研修を見ることができました。また、集中力なども保つことができました。普段であれば、会場に行き研修を受けたり、早送りができないため参加しにくいと感じていましたが、自宅で自由に見ることができたのはとてもよかったです。研修期間も1週間と長いので、全部の研修を見ることができました。非常に有意義な研修であり、時間的な余裕もあったため、普段の研修よりも素晴らしいと感じました。意見といたしましては、自分がどの研修を見終わったのかが分からなくなり困りました。視聴が終わったら、受講終了などのマークが出ると画面が見やすくなると思います。
- どの科目の先生方も熱心にご講義頂きありがとうございます。時間内に収めるため早口な感じもありましたが、熱量の現れと理解しております。ICTのおかげでスピード調整できたり、リピートできて助かりました。他の学科の教員にも視聴させたいものです。ありがとうございます。
- 今回の、動画の作成方法自体を学びたい。白井先生や野田先生の動画はわかりやすかったが、どのようなソフトを使用していたのかなど知りたい。
- 分かりやすい動画の作成に感謝申し上げます。できれば配信期間がもう少し長いとありがたいです。
- 卒業式など忙しい時期のたった1週間の視聴期間では、見たい講座も見ることができずに終わった。再度視聴できるようにしてほしい。

IV むすびにかえて ～本調査研究事業の総括と課題～

1 介護福祉士養成教育の概観から

(1) 介護教員の現状

介護福祉士養成校で介護福祉士の資格取得を目指す学生(以下、「介護学生」と表記する。)が、入学してから資格取得までに指定規則で規定されている1,850時間のうち、450時間が介護実習となっており、単位取得の上で大きなウェイトを示してはいるものの、介護学生が過ごす時間の殆どが、実は、授業の時間となっている。

私達、介護福祉士養成校に従事する教員(以下、「介護教員」と表記する。)は、「知識」や「技能」を習得することに加え、それらをどう使いこなすのか、どう取り組むのかなど、方法論から姿勢を指導することになる。また、社会から求められる内容にも変化があり、今回2回目のカリキュラム改正が実施された。

一方、介護教員の共通点は、基礎資格・実務経験・介護教員講習会修了者ではあるが、実は教育学を専門に学んできた者は少ない。つまり、介護教員は、介護学生が養成校で過ごす時間が最も多い授業を担当し、実践者であるという強みに対して、文部科学省が免許を付与する【教員免許】を取得していない弱みもある。だからこそ、介護学生の前に立つ時<教師>である自分を奮い立たせることが重要な課題である。

(2) 介護教員が介護学生にもたらすもの

先述したように介護学生にとって、授業は最も多く過ごす時間である。つまり、養成校卒業までに、介護教員(非常勤講師、新人教員、専任教員)が担い、科目ごとに規定されている含むべき教育内容に応じた授業の中身が重要になる。当然ながら、介護教員にとって、授業=科目指導として科目のねらい、内容の精査は重要なものであるが、私自身は、授業内容を通して、「知識」や「技能」に加え、学び方と《居心地の良さ》や、《チームを意識する視点》を重要視している。

介護福祉士は生活の場所で、利用者に寄り添い、利用者の望む暮らしをチームで作り上げる対人援助職として、スペシフィックなジェネラリストだと捉えている。つまり、過ごす時間が長い授業の中で、「知識」や「技能」と、学生を支える関係性の構築を別物とは考えず、両方の視点を持つことの意義を指摘したい。授業という臨場感の中で対応する介護教員の姿勢が、対人援助職としての専門性や、介護観の醸成に大きく関与している責務がある。

2 総括と課題

(1) 介護教員講習会を受けていない教員の増加

介護福祉士養成課程の授業を担当する教員の中には、介護教員講習会を受けていない教員が多く存在する。介護実践現場での介護の魅力を伝える専門職としての経験知は大いに参考になるが、更に介護福祉士養成カリキュラムを理解することや、＜教師＞として教育哲学を持つことの意味を理解することで、他科目との関連づけが、より効果的になる。

また、教育方法など日進月歩する中で、様々な教育技術や実践などに、目新しさはある程度必要なものの、重要視すべきは、介護学生の力を引き出し、高められる教員になることだと考える。利用者の生活意欲を引き出す介護福祉士になるには、学習意欲や介護福祉士資格取得の動機づけに影響を与える授業や、生活指導だと考える。利用者の生活支援ができる介護福祉士として、介護教員が言葉にこだわった指導をすることや、温かい物腰による学生対応が、利用者支援の基本姿勢に影響を与える。

本調査研究事業を有効活用することにより、非常勤として勤務される教員の方々や、今後介護教員として従事する教員の示唆や、更なる学びの動機づけの一助になり得るのではないかと。

(2) 専任教員として従事するも、介護教員講習会を受けてから更新がなされていない現状

①. 介護教員が変容していく必要性

介護過程の学びの中で、利用者のアセスメントをする上で、「過去」「現在」「未来」を見据える重要性や、個別性を意識する意味を唱えながら、フッと我に返る瞬間がある。

介護教員として、学生の個別性を意識しているのだろうか。多忙な日常の中で、学生の将来像に関わる責務を忘れず、介護福祉実践現場で介護を生業として、日々やりがいを持って就労する未来を想起できているのか。他にも自らの授業は介護教員として、現在の教育は過去の実践知と教育経験にあぐらをかいていないか、未来を担う介護学生に役立つ内容なのだろうか、ジレンマならぬトリレンマに陥る。

社会もサービスを利用する要介護者も、介護学生も変化している。それらの変化に対応するには、介護教員は根幹となる伝えるべき内容の微修正や、方法論の刷新に加え、教育に対する視点などを変容していかなければ、介護学生や介護現場との乖離が広がるばかりである。

②. 社会の要請に応じたアップデート

介護教員に求められるものとして、社会の変化と共に、「teaching」から「coaching」と役割も期待も変化している。インターネットの充実など情報社会の中で、＜教師＞に求められる資質・能力も変化している。

代表的なものとして、令和 2 年度においては、新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり、リモートによる授業形態も確立した。対面ではない授業方法に対して当初は拒否感が強かったが、今や日常となっている。この 1 年は、介護教員として、社会の変化に合わせたアップデートの重要性を再認識した。

③. 本事業がもたらした波及効果

「GIGAスクール構想」により、技能及び知識は、AIなどで「個別最適化」が可能とされている。つまり今後は「AI教材」を活用することにより、一人ひとりの実態に応じた効果的な学びが可能になることが想定される。

しかし、AIだけでは不可能なことも多い。介護学生にとって、学生が習得した「知識」や「技能」を活用して実習を乗り切るためには、介護教員や実習指導者の存在が重要となる。実習体験を通して出会った貴重な利用者との関わりから、「深い学び」を実現するための「学び方」を指導して、考えを広げ深める「対話的な学び」の実現や、主体的な取り組みは、介護福祉士のキャリア形成に役立つと考える。

教育歴を積みつつ、時代に即応した介護福祉士養成教育を作業部会の先生と議論したことは、それぞれの養成校教育に活かされるものとなった。

(3) 本調査研究事業を通して浮彫りとなった課題、介護教員の強み

①. 介護教員講習会のプログラム内容の再検討

介護教員講習会のプログラムそのものが、教育歴や実践経験など、受講生の多様性を想定していない面がある。つまり、カリキュラム改定や法制度改正などの情勢変化に対して、柔軟性や発展性を踏まえた内容にするための裁量は、担当講師に委ねられている側面がある。教育内容や履修プログラムを、丁寧に検討する必要があるにも関わらず、着手されていない。

また、本調査研究事業においても一番の課題は、完成品ではないモデル事業という点である。短期間の作業であり、尚かつ動画撮影という初体験のモデル事業は、あくまでも発展途上であると付け加えておきたい。

一方で、“難しくて担当できない” “忙しくてできない” “到達度が不明瞭で行動できない” と作業部会前半では、ネガティブな言動もあったが、多くの貴重な成果物を完成させることができた。作業部会のメンバーとして、未熟な内容に気恥しさも否めないし、できなかった面や未熟な面もある結果ではあるが、その作業のプロセスは非常に有意義なものであった。プロセス自体に非常に意味があると感じた。

②. 介護教員の強み

本事業の推進にあたり、作業部会の先生方には、短期間の中で大変な役割をお願いした。作業部会を通して、介護教員の先生方との協働において必要なことは【安心して学べる場】であった。グループに分かれて何度も話し合い、与えられた課題に共に取り組む機会の中で【つながり】の重要性を再認識した。

また、教材研究をすすめる中で作業部会の教員同士が、お互いの存在を認め合った上で、本事業で何を提供するのかという初期段階で、『私達自身が何を知りたいのか、何を学びたいのか』『私達が新しく迎える介護教員に何を伝えておきたいのか』と学びを深める話し合い、というプロセスを大切にすることは、アウトカムに大きな効果をもたらした。

教育力向上のためには、介護学生に教授する前に、介護教員自身はその科目に対して、テキストを開き、他教員がどう教授しているかを把握しようとする姿勢が大切だと感じる時間となった。他にも、新任教員、非常勤講師に何を伝えるかを考える前に、作業部会を担当した介護教員が介護学生の立場になって考えることや、新任になった時期を回想することで辿り着いた面も多かった。作業部会のメンバーが他メンバーの介護教員の矜持に触れることにこそ、モデル事業としての意義があったと考える。



V 資料



1 調査票 養成校票

介護福祉士養成校における教育上の課題と求められる研修プログラムに関する調査

養成校票

※本票は、教務主任、学科主任等の先生がご回答ください。
 ※本票は、**各養成校1票**の回答です。
 ※日本介護福祉士養成施設協会ウェブサイトの「会員のみさまへ」のページ (<http://kaiyokyo.net/member/index.html>) に、調査票(ワード)、ウェブ回答のURLが掲載されていますので活用ください。のQRコードを印刷してご回答ください。
 ※本紙面で回答の場合は、同封の返信用封筒をご利用いただき、ご返送をお願いいたします。
令和3年1月15日(金)までにご回答をお願いします。
 ※問合せ・返送先：公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会
 東京都文京区本郷 3-3-10 藤和シティコープ御茶ノ水2階
 TEL：03-3830-0471 / FAX：03-3830-0472
 担当：渡辺 watanabe@kaiyokyo.net

ここから回答をお願いします

質問 1 養成校の基本情報についてお聞かせください。

① 回答者のお名前	
② 養成校名	
③ 都道府県	
④ 学校種別	1. 専門学校1年課程 4. 短期大学 2. 専門学校2年課程 5. 四年制大学 3. 専門学校3年課程 6. その他 ()
⑤ 介護福祉士養成課程の教員数	専任 () 名 合計 () 名 非常勤 () 名

新規採用の教員に対する取組について伺います

質問 2 貴校では、新たに採用した教員に、新規採用者向けの研修や講習(※)を実施していますか。新規採用がない場合は、こうした仕組みがあるかどうかについて、回答してください。(あてはまるものすべてに○)
 ※「介護教員講習会」は含みません

1. 実施していない
2. 養成校で実施している
3. 養成校以外の機関等を利用して実施している (具体的に:)

→(1) 対象となる人はだれですか。対象者すべてに○をしてください。

1. 専任
2. 非常勤
3. その他 ()

→(2) どのような内容の研修や講習を実施していますか。

質問 3 新たに採用した教員に対する研修や講習の必要性を感じますか。(1つに○)

1. とても必要
2. 必要
3. あまり必要ではない
4. 必要ではない

→(1) そのように考える理由、どのような内容が必要かをお教えください。

そのように考える理由

どのような内容が必要か

*** 教員の教育力向上への取組について伺います ***

質問 6 貴校の教員は、以下に参加していますか。(ア～エそれぞれ1つに○)

	5 毎年 (毎回) 参加	4 1～2 年前に 参加	3 3～4 年前に 参加	2 5年以上 参加 していない	1 参加した ことがない/ わからない
ア) 日本介護福祉士養成施設協会主催の 全国教職員研修会	5	4	3	2	1
イ) 日本介護福祉士養成施設協会のブロックが 主催するブロック教職員研修会	5	4	3	2	1
ウ) 日本介護福祉士養成施設協会以外の 介護関連団体の全国大会、研修等	5	4	3	2	1
エ) 日本介護福祉士教育学会や日本介護福祉学会	5	4	3	2	1

(1) 参加している (いた) 場合、どなたが参加されていますか。
ア～エそれぞれについて、あてはまる番号すべてに○をしてください。

	4 教務主任、 学科主任等	3 専任 教員	2 非常勤 教員	1 その他 具体的に
ア) 日本介護福祉士養成施設協会主催の 全国教職員研修会	4	3	2	1
イ) 日本介護福祉士養成施設協会のブロック が主催するブロック教職員研修会	4	3	2	1
ウ) 日本介護福祉士養成施設協会以外の介護 関連団体の全国大会、研修等	4	3	2	1
エ) 日本介護福祉士教育学会や日本介護福祉学会	4	3	2	1

(2) 参加している (いた) 場合、業務として対応している (出張扱い等) ものに○をしてください。

1. 日本介護福祉士養成施設協会主催の全国教職員研修会
2. 日本介護福祉士養成施設協会のブロックが主催するブロック教職員研修会
3. 日本介護福祉士養成施設協会以外の介護関連団体の全国大会、研修等
4. 日本介護福祉士教育学会や日本介護福祉学会
5. 業務として対応している (出張扱い等) のものはない

*** 「介護教職員講習会」について伺います ***

質問 4 貴校の非常勤教員における「介護教職員講習会」修了 (一部の科目の受講) の扱いについてお教えてください。

(1) 非常勤教員にも「介護教職員講習会」の修了、一部の科目の受講を奨励していますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 非常勤教員にも「介護教職員講習会」の修了を奨励している
2. 非常勤教員にも「介護教職員講習会」の一部の科目の受講を奨励している
3. 非常勤教員には「介護教職員講習会」の修了や一部の科目の受講を奨励していない

(2) 貴校の非常勤教員における「介護教職員講習会」修了者の状況はいかがでしょうか。(あてはまるものすべてに○)

1. 「介護教職員講習会」を修了している非常勤教員がいる → 全員 ・ 一部
2. 「介護教職員講習会」の一部の科目を受講している非常勤教員がいる → 全員 ・ 一部
3. 「介護教職員講習会」を修了・一部の科目を受講している非常勤教員はいない
4. わからない

質問 5 非常勤教員にも介護教職員講習会の修了や一部の科目受講が必要だと思いますか。(1つに○)

1. 修了が必要
2. 一部の科目受講が必要
3. あまり必要ではない
4. 必要ではない

(1) そのように考える理由、どのような内容 (科目) が必要かを教えてください。

そのように考える理由

どのような内容が必要か

質問 7 貴校においては、過去3年間に於いて、介護福祉士養成課程の教員の教育力向上に関する研修や講習※1、FD※2が実施されましたか。
あてはまるものすべてに○をしてください。

※1 研修や講習：「学が機会」と捉えて回答してください。
 ※2 FD：教育内容・方法をはじめとする研究や研修を大学全体として組織的に行う。
 Faculty Development の略

1. 実施していない

2. 研修や講習が実施された

3. FDが実施された

4. その他

(1) 研修や講習の3年間の開催状況をお教えください。
 ★は総数回答可

①開催回数	→	合計開催回数 () 回
②対象者★	→	1.専任 2.非常勤 3.その他 ()
③講師★	→	1.貴校教員 2.外部講師 3.その他 ()
④参加状況	→	対象となる教員の平均的な参加状況は () %程度

(2) FDの3年間の開催状況をお教えください。
 ★は総数回答可

①開催回数	→	合計開催回数 () 回
②対象者★	→	1.専任 2.非常勤 3.その他 ()
③講師★	→	1.貴校教員 2.外部講師 3.その他 ()
④参加状況	→	対象となる教員の平均的な参加状況は () %程度

■開催された研修や講習、FDの具体的な内容等について、5つお教えください。

1	<p>内容：</p> <p>時間数：() 時間 ※複数回数の場合は合計時間</p> <p>講師：内部・外部 (外部講師名/所属)</p> <p>種類：研修や講習・FD・その他 ()</p> <p>対象教員：専任・非常勤・新任・その他 () ・特に決めていない</p>
2	<p>内容：</p> <p>時間数：() 時間 ※複数回数の場合は合計時間</p> <p>講師：内部・外部 (外部講師名/所属)</p> <p>種類：研修や講習・FD・その他 ()</p> <p>対象教員：専任・非常勤・新任・その他 () ・特に決めていない</p>
3	<p>内容：</p> <p>時間数：() 時間 ※複数回数の場合は合計時間</p> <p>講師：内部・外部 (外部講師名/所属)</p> <p>種類：研修や講習・FD・その他 ()</p> <p>対象教員：専任・非常勤・新任・その他 () ・特に決めていない</p>

4	<p>内 容： 時間数：() 時間 ※複数回数の場合は合計時間 講 師： 内部 ・ 外部 (外部講師名/所属) 種 類： 研修や講習 ・ F D ・ その他 () 対象教員：専任・非常勤・新任・その他 () ・ 特に決めていない</p>
5	<p>内 容： 時間数：() 時間 ※複数回数の場合は合計時間 講 師： 内部 ・ 外部 (外部講師名/所属) 種 類： 研修や講習 ・ F D ・ その他 () 対象教員：専任・非常勤・新任・その他 () ・ 特に決めていない</p>

質問 8 貴校における介護福祉士養成課程の教員に対する教育力向上のための取組に
し、ア～ウそれぞれについて、あてはまる番号に○をしてください。

	5 とても 思う	4 思 う	3 あ ま り 思 わ ない	2 思 わ ない	1 わ か ら ない
ア) 採用時の研修や講習(学びの機会)の充実が必要である	5	4	3	2	1
イ) 非常勤講師の研修や講習(学びの機会)の充実が必要である	5	4	3	2	1
ウ) 専任教員の定期的な研修(学びなおしの機会)の充実が必要である	5	4	3	2	1

質問 9 介護福祉士養成課程の教員に対する教育力向上のための取り組みとして、具体的に
にどのようなテーマ、内容とする研修や講習、FDが必要とお考えですか。

採用時の研修や講習、FD
非常勤講師への研修や講習、FD
専任教員の定期的な研修や講習、FD

質問 10 貴校における介護福祉士養成課程の教員に対する教育力向上のための取組(研
修や講習、FD)について、課題と感じていることをお聞かせください。

--

お忙しい中、ご協力をありがとうございました。

令和3年1月15日(金)までに、返送・ご回答をお願いします。

2 調査票 教員票

介護福祉士養成校における教育上の課題と求められる研修プログラムに関する調査

教員票

※本票は、介護福祉士養成課程の専任教員の全員に回答をお願いします。

※また、本調査研究では非常勤の教員等に対する研修プログラム等も検討していることから、可能な限り多くの非常勤教員にご回答をお願いしております。

※日本介護福祉士養成施設協会ウェブサイトの「会員のみなさまへ」のページ
(<http://kaiyokyo.net/member/index.html>) に、調査票（ワード）、
ウェブ回答のURLが掲載されていますのでご利用ください。

※また、学会より、メールにおいても本調査の依頼をお送りしております。
メールに記載されているウェブ回答及び調査票ダウンロードURLを各教員にお知らせして回答を依頼するなど、各種成校にてご対応をいただきたく、重ねてお願いいたします。

※紙面で回答の場合は、同封の返信用封筒をご利用いただき、ご返送をお願いします。
調査票が不足の場合は、コピーや上記ウェブフォーム・ダウンロードでご対応いただきますようお願いいたします。

※**令和3年1月15日(金)**までにご回答をお願いします。

※問合せ・返送先：公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会
東京都文京区本郷3-3-10 藤和シティコーポビル2階
TEL：03-3830-0471 / FAX：03-3830-0472
担当：渡辺 watanabe@kaiyokyo.net

ここから回答をお願いします

質問 1 回答者である、あなたの基本情報についてお聞かせください。

① 性別と年齢	1. 男性	2. 女性	() 歳
② 本調査の回答を依頼された所属先	1. 専門学校 1年課程	4. 短期大学	
	2. 専門学校 2年課程	5. 四年制大学	
	3. 専門学校 3年課程	6. その他 ()	
③ 本調査の回答を依頼された所属先での職位	1. 教授	4. 専任講師	7. その他 ()
	2. 准教授	5. 非常勤講師	()
	3. 助教	6. 助手	

1

④ 最終学歴	1. 高等学校	4. 四年制大学	
	2. 専門学校	5. 大学院	
	3. 短期大学	6. その他 ()	
⑤ 資格の有無 (複数回答可)	1. 介護福祉士	5. 医師	9. 理学療法士
	2. 社会福祉士	6. 看護師	10. その他 ()
	3. 介護支援専門員	7. 保健師	()
	4. 保育士	8. 作業療法士	11. これらの資格はない
⑥ ⑤の資格を活かした現場での経験はありますか	1. ある→①介護現場 ②医療現場 ③リハビリの現場 ④その他 ()	2. ない ()	
⑦ 介護福祉士養成校の教員としての経験年数	通算 () 年	※専任・非常勤を問わず、また他校での経験を含めた合計年数	
⑧ 介護教員講習会※修了の有無	1. すべての科目を受講した ()	2. 一部の科目を受講した ()	
	3. 受講していない		

※介護福祉士養成校の専任教員には、介護教員講習会を修了する必要があります

質問 2 本年度、ご自身が担当している介護福祉士養成課程の科目をお教えください。
ご担当の科目すべてに○をしてください。
他校でご担当されている科目についても○をしてください。

領域	ご担当している科目 (複数回答可)
人間と社会	1. 人間の尊厳と自立 3. 社会の理解 2. 人間関係とコミュニケーション 4. 人間と社会に関する選択科目
介護	5. 介護の基本 8. 介護過程 6. コミュニケーション技術 9. 介護総合演習 7. 生活支援技術
ここからからのしきみ	10. ことごとからたのしくみ 12. 認知症の理解 11. 発達と老化の理解 13. 障害の理解
医療的ケア	14. 医療的ケア 15. 医療的ケア(演習)

2

質問 6 介護福祉士養成課程において、あなたが教育をしていく上で課題と感じていること、困難を感じていることはありますか。(あてはまるものすべてに○)

新カリキュラムに対応した授業	1. 求められる介護福祉士像を意識した授業づくり 2. 領域の目的、教育内容のねらいを理解した授業づくり 3. 教育に含むべき事項と留意点を理解した授業づくり 4. 新カリキュラムにおいて新たに追加された内容等に対応した授業づくり 5. シラバスの作成 6. その他 ()
流れと科目間の連携	7. 体系的なカリキュラムの作成 8. 他の科目との教育内容の連携 9. 介護実習との連携 10. その他 ()
授業の展開方法等	11. アクティブラーニングの展開 12. 事例研究の展開 13. グループワークの展開 14. 演習の展開 15. ロールプレイングの展開 16. 介護過程の展開方法 17. 遠隔授業_オンデマンド型授業(教材提供型授業)の展開 18. 遠隔授業_オンデマンド型授業(動画配信授業)の展開 19. 遠隔授業_同時双方向型授業の展開 20. 個人差に対応した授業の展開(外国人留学生対応を含む) 21. その他 ()
指導や評価	22. 個別の指導等(生活指導、カウンセリング等)を必要とする学生への対応 23. 調査研究の手法の指導方法 24. 卒業論文等の調査研究の指導方法 25. 成績の付け方や評価の方法 26. その他 ()
資料や教材	27. 資料や教材の作成 28. 新たな資料や教材の開発 29. その他 ()
その他、課題と感じていること、困難を感じていることがあればご記入ください。	

*** 介護福祉士養成課程における教育について伺います ***

質問 3 2019年度より順次導入されている「介護福祉士養成課程の新カリキュラム」を作成するにあたり、その前提として「求められる介護福祉士像」が明示されています。以下、あてはまるもの1つに○をしてください。

「求められる介護福祉士像」について
 1. 理解し、意識して養成教育にあたっている 3. 聞いたことはあるが、詳細はわからない
 2. 知っており、ある程度理解している 4. 「求められる介護福祉士像」を知らない

質問 4 2019年度より順次導入されている「介護福祉士養成課程の新カリキュラム」には、領域の「目的」、教育内容の「ねらい」、教育に含むべき事項の「留意点」が示されています。これらがわかることは知っていますか。あてはまるものに○をしてください。

1. 領域の「目的」があることは知っている
 2. 教育内容の「ねらい」があることは知っている
 3. 教育に含むべき事項の「留意点」があることは知っている
 4. いずれも知らない

質問 5 「(1) 領域の「目的」、教育内容の「ねらい」、教育に含むべき事項の「留意点」について、あてはまるものに○をしてください。

1. 領域の「目的」を学習内容に反映できている
 2. 教育内容の「ねらい」を学習内容に反映できている
 3. 教育に含むべき事項の「留意点」を学習内容に反映できている
 4. いずれも学習内容に反映できていない

質問 5 介護福祉士養成課程における領域の「目的」や教育内容の「ねらい」、教育に含むべき事項の「留意点」に示された修得すべき能力や内容をもとに、「介護福祉士養成教育において修得すべき習得度評価基準※」が明示されています。以下、あてはまるもの1つに○をしてください。

「介護福祉士養成課程における習得度評価基準」について
 1. 理解し、意識して養成教育にあたっている
 2. 知っており、ある程度理解している
 3. 聞いたことはあるが、詳細はわからない
 4. 「介護福祉士養成教育において修得すべき習得度評価基準※」を知らない

※「介護福祉士養成課程における習得度評価基準の策定等に関する調査研究事業」2019年3月 (公社)日本介護福祉士養成協議会による評価基準

(1) 研修や講習、F.D、学会、勉強会や研究会などに参加して、教育力の向上に役立つ内容、他の人に受講を勧めたい内容、参考になった内容等があれば、具体的に教えてください。

【記載例】

○年度□□大会の△△分科会で行われた○○（講義名、講演者）
 ○○を使用したモデル講義（講師名等）

介護福祉士養成校における教育について伺います

【繰り返し出てくる「研修や講習」「FDJ」について】

研修や講習：研修や講習については、教育力向上につながる「学ぶ機会」と捉えて回答してください
 FD：教育内容・方法等をはじめとする研究や研修を大学全体として組織的に行う。Faculty Development の略

質問 7 あなたご自身は、以下について受講・参加したことがありますか。(ア～クそれぞれ1つに○)

	5	4	3	2	1
	毎年 (毎回) 参加	1～2 年間に 参加	3～4 年間に 参加	5年以 上参加 してい ない	参加したこ とがない (開催され ていない)
ア) 養成校で実施されている研修や講習	5	4	3	2	1
イ) 養成校で実施されているFD	5	4	3	2	1
ウ) 日本介護福祉士養成施設協会主催の全国教職員 研修会	5	4	3	2	1
エ) 日本介護福祉士養成施設協会のブロックが主催 するブロック教員研修会	5	4	3	2	1
オ) 日本介護福祉士養成施設協会以外の介護関連団 体の全国大会、研修等	5	4	3	2	1
カ) 日本介護福祉教育学会や日本介護福祉学会	5	4	3	2	1
キ) 上記以外の学会	5	4	3	2	1
ク) 自主的な勉強会や研究会	5	4	3	2	1

質問 8 研修や講習、F.D、学会、勉強会や研究会に参加を決める要因として、何があげられますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 養成校による参加義務づけ	9. 定期的な開催、連続の開催
2. 養成校による出張扱い等での参加	10. 参加費が無料、または補助がある
3. 講師の知名度やキャリア	11. 近い場所での開催
4. キャリアアップにつながる	12. 都合の良い時間に開催
5. 関心のある内容である	13. その他
6. 新しい情報(知識や技術)である	()
7. 進学のみではなく実践が学べる	
8. 授業に役立つ内容である	14. 特になし

質問 9 あなたが感じている教育上の課題の解決に向けて、また、教育力の向上に向けて、どのような研修等の開催を希望しますか。

(1) 希望する内容、関心のある内容について、質問7や質問8などを参考にしつつ自由に記入ください。

(2) 具体的開催の方法・希望する講師等

例：時期や期間、オンライン研修、施設の実習指導者と共同参加 など

*** 「介護教員講習会」について伺います***

質問 10 「介護教員講習会」の以下1～17の科目について、

- **受講の経験がある方**：改めて学び直しの必要性を感じるか、お教えください。
- **受講の経験がない方**：介護福祉士養成課程の教員として受講の必要があると考えるか、お教えください。

	5	4	3	2	1
	とても必要	必要	あまり必要ではない	必要ではない	わからない
1. 基礎分野/社会福祉学	5	4	3	2	1
2. 基礎分野/人間関係論	5	4	3	2	1
3. 基礎分野/心理学	5	4	3	2	1
4. 基礎分野/哲学	5	4	3	2	1
5. 基礎分野/倫理学	5	4	3	2	1
6. 基礎分野/法学	5	4	3	2	1
7. 教育学	5	4	3	2	1
8. 教育方法	5	4	3	2	1
9. 教育心理	5	4	3	2	1
10. 教育評価	5	4	3	2	1
11. 介護福祉学	5	4	3	2	1
12. 介護教育方法	5	4	3	2	1
13. 学生指導・カウンセリング	5	4	3	2	1
14. 実習指導方法	5	4	3	2	1
15. 介護過程の展開方法	5	4	3	2	1
16. コミュニケーション技術	5	4	3	2	1
17. 研究方法	5	4	3	2	1

質問 11 新任者が介護福祉士養成校の教員として教授を始めるにあたり、以下 1～17 について、修得しておく必要性があると思う内容についてお聞かせください。これまでの経緯や新任の教員に求めたいこと等を振り返り、ご回答ください。

	5 とても 必要	4 必要	3 あまり 必要で はない	2 必要で はない	1 わから ない
1. 基礎分野/社会福祉学	5	4	3	2	1
2. 基礎分野/人間関係論	5	4	3	2	1
3. 基礎分野/心理学	5	4	3	2	1
4. 基礎分野/哲学	5	4	3	2	1
5. 基礎分野/倫理学	5	4	3	2	1
6. 基礎分野/法学	5	4	3	2	1
7. 教育学	5	4	3	2	1
8. 教育方法	5	4	3	2	1
9. 教育心理	5	4	3	2	1
10. 教育評価	5	4	3	2	1
11. 介護福祉学	5	4	3	2	1
12. 介護教育方法	5	4	3	2	1
13. 学生指導・カウンセリング	5	4	3	2	1
14. 実習指導方法	5	4	3	2	1
15. 介護過程の展開方法	5	4	3	2	1
16. コミュニケーション技術	5	4	3	2	1
17. 研究方法	5	4	3	2	1

質問 12 介護教員講習会についてご回答ください。

① 見直しが必要と考える科目について、あてはまるものすべてに○をしてください。具体的な見直しの内容や方向性についてもご記入をお願いします。

<ol style="list-style-type: none"> 1. わからない、特になし 2. 分断/社会福祉学 3. 基礎分断/人間関係論 4. 基礎分断/心理学 5. 基礎分断/哲学 6. 基礎分断/倫理学 7. 基礎分断/法学 8. 教育学 9. 教育方法 10. 教育心理 11. 教育評価 12. 介護福祉学 13. 介護教育方法 14. 学生指導・カウンセリング 15. 実習指導方法 16. 介護過程の展開方法 17. コミュニケーション技術 18. 研究方法 	<p>具体的な見直しの内容や方向性をお教えください</p> <p>() 番の科目</p> <p>() 番の科目</p> <p>() 番の科目</p>
---	---

② 教育力の向上に向けて、介護教員講習会に新たに追加してほしい内容やテーマはありますか。

③介護教員講習会の内容の見直しは、必要であると思えますか。(1つに○)

1. とても必要 2. 必要 3. あまり必要ではない 4. 必要ではない 5. わからない

④専任教員以外にも介護教員講習会の修了や一部の科目受講講義を義務づけることが必要であると思えますか。(1つに○)

1. とても必要 2. 必要 3. あまり必要ではない 4. 必要ではない 5. わからない

質問 13 介護教員講習会に対するご意見がありましましたらお教えください。

**** 最後に、介護福祉士養成課程の教員及び教育を取り巻く状況について伺います****

質問 14 介護福祉士養成課程の教員の研修や講習（新たな学び、学び直し）に関し、ア～ウそれぞれについて、あてはまる番号に○をしてください。

	5 とても 思う	4 思う	3 あまり 思わ ない	2 思わ ない	1 わか らな い
ア) 採用時の研修や講習（学びの機会）の充実が必要である	5	4	3	2	1
イ) 非常勤講師の研修や講習（学びの機会）の充実が必要である	5	4	3	2	1
ウ) 専任教員の定期的な研修や講習（学びなおしの機会）の充実が必要である	5	4	3	2	1

質問 15 本調査に関連する事項について、ご意見や要望がございましたらご記入ください。

お忙しい中、ご協力をありがとうございました。

令和3年1月15日(金)までに、返送・ご回答をお願いいたします。

令和2年度社会福祉推進事業
介護福祉士養成施設の教員の教育力向上に関する調査研究事業 報告書

発行：令和3年3月
公益社団法人 日本介護福祉士養成施設協会
東京都文京区本郷3-3-10 藤和シティコープ御茶ノ水2階
TEL：03-3830-0471 / FAX：03-3830-0472